

# Radia を使用する HP OpenView Management Portal

## Radia Management Portal ガイド

バージョン: 4.0i

Windows オペレーティング システム用



製造パート番号: T3420-90025

2005 年 7 月

© Copyright 2004 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

## ご注意

1. 本書に記載した内容は、予告なしに変更することがあります。
2. 当社は、本書に関して特定目的の市場性と適合性に対する保証を含む一切の保証をいたしかねます。
3. 当社は、本書の記載事項の誤り、またはマテリアルの提供、性能、使用により発生した直接損害、間接損害、特別損害、付随的損害または結果損害については責任を負いかねますのでご了承ください。
4. 本製品パッケージとして提供した本書、CD-ROM などの媒体は本製品用だけにお使いください。プログラムをコピーする場合はバックアップ用だけにしてください。プログラムをそのままの形で、あるいは変更を加えて第三者に販売することは固く禁じられています。

本書には著作権によって保護される内容が含まれています。本書の内容の一部または全部を著作者の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは、著作権法下での許可事項を除き、禁止されています。

### 権利の制限

合衆国政府が使用、複製、または開示を行う場合、国防総省については DFARS 252.227-7013 の "Rights in Technical Data and Computer Software" の (c) (1) (ii) に記載されている制限が適用されます。

Hewlett-Packard Company  
United States of America

その他の機関については FAR 52.227-19 の (c) (1) および (c) (2) に記載されている制限が適用されます。

### 著作権

© Copyright 2004 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

### 商標

Linux は、Linus Torvalds の登録商標です。

OpenLDAP は、OpenLDAP Foundation の登録商標です。

### 謝辞

PREBOOT EXECUTION ENVIRONMENT (PXE) SERVER  
Copyright © 1996-1999 Intel Corporation.

TFTP SERVER  
Copyright © 1983, 1993  
The Regents of the University of California.

OpenLDAP

Copyright ©1999-2001 The OpenLDAP Foundation, Redwood City, California, USA.  
Portions Copyright © 1992-1996 Regents of the University of Michigan.

OpenSSL License

Copyright © 1998-2001 The OpenSSLProject.

Original SSLeay License

Copyright © 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com)

DHTML Calendar

Copyright © Mihai Bazon, 2002, 2003

## テクニカル サポート

<http://www.hp.com/managementsoftware/services> のサイトをご覧ください。

ここでは、HP OpenView の製品、サービス、サポートに関するお問い合わせ情報が掲載されています。

サポート専用サイトから、次の内容を参照することができます。

- ドキュメントのダウンロード
- 不具合修正情報
- パッチと更新情報
- 不具合のレポートイング
- トレーニングの情報
- サポート プログラムの情報

## このマニュアルについて

### 対象読者

この『Radia Management Portal ガイド』（バージョン 2.0 用）には、これまでになかった Radia Management Portal ゾーンに関する説明や、複数の Radia Management Portal サイトが必要な大規模企業に適した、ゾーン関連の機能に関する説明が記載されています。Radia Management Portal バージョン 2.0 では、Radia Configuration Server 上の Radia データベース、外部のポリシーストア、ネットワークなど、各企業における既存のディレクトリ構造にアクセスすることが可能です。

Radia 管理者が Radia Management Portal 2.0 を使用する利点は次のとおりです。

- 自己管理型のクロスリファレンスグループに基づいて、同じハードウェア、オペレーションシステムのレベル、管理対象サービス、または Radia インフラストラクチャを持つすべてのデバイスに対し、オペレーションをまとめて実行することができます。たとえば、すべての Windows XP サーバーに対し、更新の通知を一括して行うことが可能です。
- Radia Management Portal ゾーンにおけるジョブのスケジュールや管理を、マスターポータル 1 か所に集約することができます。
- Microsoft Active Directory など、企業内の非 Radia Management Portal ディレクトリや、Microsoft Windows Network などのネットワークディレクトリを作成し、それらに接続することができます。
- Radia Configuration Server 上の Radia データベースに接続したり、企業内の配布モデルに基づいてインスタンスレベルのタスクを実行したりすることが可能です。
- Active Directory など、Radia Policy Manager で使用される LDAP ディレクトリサービスに接続したり、Radia Management Portal の [ポリシー] タスクを使用して Radia サービスのポリシー管理を行ったりすることが可能です。

Radia データベース、RCS 管理、およびポリシー管理に関連する機能を使用するには、Radia Configuration Server、Radia データベースの管理、Policy Server、およびポリシーの割り当てに関する十分な知識が必要です。

## このマニュアルの内容

『Radia Management Portal ガイド』(バージョン 2.0 用)では、以下のトピックについて説明します。

- ゾーンに基づく新たなアーキテクチャおよび Radia Management Portal のディレクトリ構造。
- Radia Management Portal 2.0 (Windows) をインストールする方法。[**Management Portal のインストール**] タスクを使用して 2 つ目以降の Radia Management Portal ゾーンをリモートインストールする方法。
- ユーザー インターフェイスおよびナビゲーションの変更。
- このリリースで新たに追加された、以下のようなタスクおよびタスク グループ。
  - ヘルプ デスク通知
  - デバイス管理、グループ化、およびインポート
  - Radia Management Portal ゾーンの設定
  - RCS 管理
  - ソフトウェアおよびサービスの管理
  - ポリシーの管理
- ネットワーク内に存在する LDAP ディレクトリ サービスに接続してそれをブラウズする際に、ゾーン アクセス ポイントを作成および使用する方法。
- デバイスを RMP ゾーンに追加する方法、デバイスを RMP で管理する方法、およびデバイス グループを設定する方法。
- インフラストラクチャ内に存在するすべての Radia Management Portal ゾーンを対象にしたジョブのスケジュールやジョブ シーケンスの設定を行うためのさまざまなタスク。
- [**Radia Client のインストール**] タスクに対する複数のプロファイルを追加および使用する方法。
- 企業内であらかじめ設定されている Radia Proxy Server をインストールする際に、修正済み rps.cfg を追加および使用する方法。

# 変更内容の一覧

RMP 2.0 の機能およびマニュアルの内容は、1.x リリースから大幅に変更されています。

## 新規トピック

**2.0** 表 P.1 に、Radia Management Portal 2.0 の新規トピックを列挙します。

表 P.1 ~ RMP 2.0 の新規トピック	
章	ページとトピック名
1. はじめに	23 ページの「ゾーンとは何か」
	24 ページの「ゾーン ディレクトリ構造」
	24 ページの「ゾーン内のオブジェクト名について」
2. Radia Management Portal をインストールする	30 ページの「事前に必要な Radia 関連の作業」
	31 ページの「個々のゾーンのディレクトリ サイズ」
3. Radia Management Portal を使用する	69 ページの「2 つのナビゲーション モード (履歴モードとロケーションモード)」
	70 ページの「ナビゲーション セッションの例: ネットワーク オブジェクトを表示する」
	73 ページの「デスクトップにアクセスする/戻る」
	76 ページの「デスクトップからショートカットを削除する」
	78 ページの「Portal ディレクトリおよび Zone 内のコンテナ間を移動する」
	86 ページの「[インフラストラクチャ] タスク グループ」
	94 ページの「[ポリシー (詳細)] タスク グループ」
	95 ページの「[RCS 管理] タスク グループ」
	96 ページの「ツール バーのタスク」
	100 ページの「Radia ディレクトリおよび Radia ゾーンのオブジェクト」
	101 ページの「Zone のコンテナについて」
	106 ページの「[RCS 管理] タスクを使用する」
	117 ページの「RMP から LDAP ディレクトリを使ってポリシーを割り当てる」
4. 管理機能	140 ページの「ディレクトリ サービスを設定する」
	155 ページの「外部 LDAP 認証を設定する」
	160 ページの「カスタム LDAP ポリシー拡張プレフィックスを設定する」
	160 ページの「デバイスおよびデバイス グループを設定する」
	161 ページの「グループの変更の基本手順」
	177 ページの「単一デバイスを追加する」
	183 ページの「グループを追加する」
	186 ページの「新しいグループにデバイスを追加する」
	190 ページの「グループにデバイスを移動する」
	195 ページの「デバイスのグループを削除する」
197 ページの「デバイスをインポートする」	

---

5. オペレーション	278 ページの「Radia Management Portal ゾーンでコンピュータを管理する」 283 ページの「開始ゾーン ロケーションを選択する」 294 ページの「ヘルプ デスク通知」を使用する」 306 ページの「Radia 管理エージェントへのポート割り当ての方法 (ダイナミックまたはスタティック) を選択する」 317 ページの「複数のプロファイルを使用したリモート インストールのサポート」 317 ページの「インストール プロファイルの追加、修正、および削除を行う」 341 ページの「タスク テンプレートを追加する」 344 ページの「タスク テンプレートを削除する」 345 ページの「RMP ゾーン (下位ゾーン) を追加インストールする」 352 ページの「ゾーン オペレーションをスケジュールする」 360 ページの「下位ゾーンを開く」 362 ページの「ジョブ シーケンスを作成する (開発中の機能)」
6. トラブルシューティング	390 ページの「Portal ゾーン ディレクトリ (ZONE.MK) ファイルを管理する」

---

## 削除されたトピック

- 「*Novadigm Services*」の章は削除されました。

## タスクの変更

- 2.0
 84 ページの「**タスクバー**および**タスクの概要**」: このリリースで新たに追加されたタスク グループおよびタスクには、その左側に「**2.0**」(ビュレット) が付けられています。
  - 86 ページの「**[モデル管理] タスク グループ**」: **[コンテナの追加]**、**[組織の追加]**、**[デバイスのグループの追加]**、および **[デバイスの移動]** の各タスクが、**[モデル管理]** タスク グループから削除されました。
- また、旧バージョンの **[一覧の管理] タスク グループ** および **[Notify via Inventory]** タスクが削除されました。インベントリのレポートからデバイス グループへの通知を行う代替手段については、『**Radia Reporting Guide**』を参照してください。

## 手順に関連する変更

- 2.0
 すべての手順に対して、タスクを開始するロケーションおよび実行に必要なナビゲーションパスを明示するよう変更されました。
- 84 ページの「**タスクバー**および**タスクの概要**」: タスクの実行手順がすばやく表示できるよう、各タスクの説明個所にハイパーリンクが設置されました。



## 表記について

このマニュアルは、以下の表記に従って記述されています。

**表 P.1 ~ スタイル**

構成要素	スタイル	例
参照先	斜体	このマニュアルの「 <i>Publishing Applications and Content</i> 」の章を参照してください。
ダイアログ ボックス、ウィンドウ	太字	[ <b>Radia System Explorer のセキュリティ情報</b> ] ダイアログ ボックスが開きます。
コード	Andale Mono	radia_am.exe
選択する対象	太字	インストール CD-ROM の <b>%Admin</b> ディレクトリを開きます。

**表 P.2 ~ 用法**

構成要素	スタイル	例
ドライブ (システム ドライブ、マップされたドライブ、CD ドライブ)	斜体のブレースホルダ	<i>SystemDrive</i> :%Program Files%Novadigm は、使用しているコンピュータのシステム ドライブが C: であれば C:%Program Files%Novadigm を意味します。 <i>CDDrive</i> :%client%radia_am.exe は、使用しているコンピュータの CD ドライブが D: であれば D:%client%radia_am.exe を意味します。
ファイル (Radia データベース内)	すべて大文字	PRIMARY
ドメイン (Radia データベース内)	すべて大文字	PRIMARY.SOFTWARE。PRIMARY ファイル内の SOFTWARE ドメイン、と表現する場合があります。
クラス (Radia データベース内)	すべて大文字	PRIMARY.SOFTWARE.ZSERVICE。PRIMARY ファイル内の SOFTWARE ドメインの ZSERVICE クラス、と表現する場合があります。

次の表に、このマニュアル全体を通して同じ意味で使用される用語を示します。

**表 P.3 ~ 用語 \***

\* 文脈によっては、同義にならない場合もあります。

用語	別の呼称
アプリケーション	ソフトウェア、サービス
クライアント	Radia Application Manager、Radia Inventory Manager
コンピュータ	ワークステーション、サーバー
NOVADIGM ドメイン	PRDMAINT ドメイン <b>注意:</b> Radia データベースのリリース 4.0 からは、NOVADIGM ドメインから PRDMAINT ドメインに名称変更されています。そのため、それ以前のバージョンを使用している場合には、データベース内で NOVADIGM ドメインと表示されます。
Radia Configuration Server	マネージャ、アクティブ コンポーネント サーバー
Radia データベース	Radia Configuration Server データベース

# 目次

<b>まえがき .....</b>	<b>5</b>
このマニュアルについて .....	5
対象読者 .....	5
このマニュアルの内容 .....	6
変更内容の一覧 .....	7
新規トピック .....	7
削除されたトピック .....	8
タスクの変更 .....	8
手順に関連する変更 .....	8
表記について .....	9
<b>1 はじめに .....</b>	<b>19</b>
はじめに .....	20
主要機能について .....	21
この製品のアーキテクチャについて .....	22
Radia Management Portal ゾーンの概要 .....	23
ゾーンとは何か .....	23
ゾーン ディレクトリ構造 .....	24
ゾーン内のオブジェクト名について .....	24
新しい用語 .....	26
まとめ .....	28
<b>2 Radia Management Portal をインストールする .....</b>	<b>29</b>
インストールの準備をする .....	30
Radia Management Portal をインストールする .....	30
事前に必要な Radia 関連の作業 .....	30
システム要件 .....	31
個々のゾーンのディレクトリ サイズ .....	31

インストールの手順.....	31
タスクを更新する.....	48
リモートの Radia Management Portal の IP アドレスを指定する.....	50
ZTASKEND の内容を確認する.....	50
EDMPROF.DAT を設定する.....	52
Radia Management Portal にアクセスする.....	55
ログオンする.....	56
パスワードを変更する.....	58
まとめ.....	61
<b>3 Radia Management Portal を使用する.....</b>	<b>63</b>
Radia Management Portal でタスクを実行する.....	64
Radia Management Portal 2.x のインターフェイスについて.....	65
バナー.....	66
ナビゲーション支援を使用する.....	68
2つのナビゲーションモード(履歴モードとロケーションモード).....	69
ナビゲーションセッションの例: ネットワークオブジェクトを表示する.....	70
デスクトップにアクセスする/戻る.....	73
デスクトップにショートカットを追加する.....	73
デスクトップからショートカットを削除する.....	76
Portal ディレクトリおよび Zone 内のコンテナ間を移動する.....	78
タスクバーおよびタスクの概要.....	84
[ディレクトリ管理] タスクグループ.....	84
[インフラストラクチャ] タスクグループ.....	86
[モデル管理] タスクグループ.....	86
[オペレーション] タスクグループ.....	89
[ポリシー] タスクグループ.....	93
[ポリシー(詳細)] タスクグループ.....	94
[RCS 管理] タスクグループ.....	95
ツールバーのタスク.....	96
ツールバー.....	96
ナビゲーションアイコン.....	97
タスクアイコン.....	97
印刷アイコンとステータスアイコン.....	98
表示のアイコン.....	98
ページ移動およびフィルタのアイコン.....	98
ワークスペース.....	99

Radia ディレクトリおよび Radia ゾーンオブジェクト .....	100
Zone のコンテナについて.....	101
詳細ビューを使用して説明を表示する.....	105
[RCS 管理] タスクを使用する .....	106
前提条件.....	106
[RCS 管理] タスクについて.....	106
インスタンスを作成する.....	108
コンポーネントをインスタンスに追加する .....	110
インスタンスをコピーする.....	113
インスタンスを削除する.....	114
インスタンスを修正する.....	114
インスタンスからコンポーネントを削除する.....	116
RMP から LDAP ディレクトリを使ってポリシーを割り当てる .....	117
前提条件.....	117
[ポリシー] タスクについて .....	118
ポリシー オブジェクトを追加する .....	119
ポリシー オブジェクトを削除する .....	121
ポリシーを修正する.....	121
ターゲットを修正する .....	123
管理対象サービスのキャッシュをリフレッシュする.....	124
[ポリシー (詳細)] タスクについて.....	124
依存関係を修正する.....	125
フラグを修正する .....	127
デフォルト値を修正する.....	129
上書きを修正する .....	130
まとめ.....	132
<b>4 管理機能.....</b>	<b>133</b>
Radia Management Portal ゾーンを設定する .....	134
ネットワーク探索について理解する.....	135
ネットワーク探索を設定する .....	137
NETSCAN_INCLUDE を使用してネットワーク探索を制限する .....	139
例: .....	140
ディレクトリ サービスを設定する .....	140
ディレクトリ サービスを追加する .....	141
LDAP ディレクトリ サービスのプロパティを指定する.....	143
RCS ディレクトリ サービスのプロパティを指定する .....	146

DSML ディレクトリ サービスのプロパティを指定する .....	148
メタキット ディレクトリ サービスのプロパティを指定する .....	148
ディレクトリ サービスのプロパティを変更する .....	149
ディレクトリ サービスを削除する .....	151
ディレクトリ サービスを起動する .....	151
ディレクトリ サービスを停止する .....	154
外部 LDAP 認証を設定する .....	155
特定のユーザーの LDAP 認証を無効にする .....	157
カスタム LDAP ポリシー拡張プレフィックスを設定する .....	158
ゾーン アクセス ポイントを設定する .....	159
デバイスおよびデバイス グループを設定する .....	160
RMP ゾーンにデバイスを追加する .....	160
グループの変更の基本手順 .....	161
[ブラウザおよび変更] ウィンドウを使用する .....	162
グループ リスト領域を使用する .....	163
属性エディタを使用する .....	167
式エディタを使用する .....	171
ブラウザ領域を使用する .....	174
現在のナビゲーション ロケーション .....	175
ナビゲーションのアイコン .....	175
アクションのアイコン .....	175
表示のアイコン .....	176
ページ移動およびフィルタのアイコン .....	176
選択のアイコン .....	176
ゾーン インフラストラクチャを設定する .....	177
単一デバイスを追加する .....	177
デバイスに対して生成される共通名 .....	180
デバイスのプロパティを表示する .....	181
グループを追加する .....	183
新しいグループにデバイスを追加する .....	186
グループにデバイスを移動する .....	190
デバイスのグループを削除する .....	195
デバイスをインポートする .....	197
デバイスのグループに対するジョブのダイナミックなスケジューリング .....	200
サービスを追加する .....	200
オブジェクトを変更する .....	204
オブジェクトを削除する .....	205
タスク グループを設定する .....	206

タスク グループを追加する .....	207
タスク グループを変更する .....	211
タスク グループを削除する .....	213
代理管理を設定する .....	213
代理管理ルールを追加する .....	215
代理管理ルールを変更する .....	224
代理管理ルールを削除する .....	226
ユーザーの代理管理のクエリを行う .....	226
管理者およびオペレータを設定する .....	227
ユーザーを追加する .....	227
ユーザーを変更する .....	233
ユーザーを削除する .....	234
ユーザー グループを追加する .....	235
グループを修正する .....	238
グループを削除する .....	239
Portal ゾーン ディレクトリを管理する .....	239
Portal ゾーン ディレクトリのバックアップを作成する .....	240
バックアップ ディレクトリの命名、内容、およびメンテナンス .....	240
バックアップのサブディレクトリ名 .....	240
backup サブディレクトリの内容 .....	241
バックアップ ディレクトリのメンテナンス .....	242
Portal ディレクトリを復元する .....	245
Portal ディレクトリのクエリを行う .....	247
Portal ディレクトリからデータをエクスポートする .....	249
Portal ディレクトリにデータをインポートする .....	252
タスクを更新する .....	257
ジョブを管理する .....	261
ステータスを基準にジョブ グループまたはジョブをフィルタする .....	261
ジョブ グループを修正する .....	262
ジョブまたはジョブ グループのクエリを行う .....	264
ジョブ グループの失敗したジョブを再開する .....	267
ジョブ グループを停止する .....	267
ジョブまたはジョブ グループを無効にする .....	268
ジョブまたはジョブ グループを有効にする .....	269
ジョブまたはジョブ グループを削除する .....	270
ジョブ履歴を表示する .....	271
プロパティを表示する .....	272
まとめ .....	273

<b>5 オペレーション機能</b> .....	<b>275</b>
Radia Management Portal ゾーンでコンピュータを管理する .....	278
タスクのライフサイクルについて .....	281
[オペレーション] タスクを実行する基本手順 .....	283
開始ゾーン ロケーションを選択する .....	283
クエリを実行する .....	284
オーディエンスの選択 .....	286
ジョブをスケジュールする .....	287
主要タスク .....	290
通知タスクを使用する .....	290
オーディエンスの選択 .....	290
[ヘルプ デスク通知] を使用する .....	294
通知コマンドのデフォルト オプションを設定する .....	296
カスタム通知コマンドを作成する .....	301
Radia 管理インフラストラクチャ製品およびアプリケーション .....	304
リモート インストールの要件 .....	304
Radia 管理エージェントをインストールする .....	305
Radia 管理エージェントで検出されたデバイス情報を表示する .....	306
Radia 管理エージェントへのポート割り当ての方法 (ダイナミックまたはスタティック) を 選択する .....	306
Radia 管理エージェントの再インストール オプションを修正する .....	306
Radia 管理エージェントのインストール手順 .....	308
Radia 管理エージェントをリフレッシュする .....	312
Radia Client をインストールする .....	313
複数のプロファイルを使用したリモート インストールのサポート .....	317
インストール プロファイルの追加、修正、および削除を行う .....	317
クライアント インストール プロファイル - 送信元コードの格納ロケーション .....	318
Proxy Server を割り当てする .....	322
プロキシの割り当てを管理するための要件 .....	323
Radia サブスクライバ情報を検出する .....	324
Radia Proxy Server をインストールする .....	330
Radia Proxy Server のインストールに使用する設定 ファイルを準備して格納する .....	334
Radia Proxy Server を同期させる .....	336
Radia Proxy Server のダイナミック キャッシュをパージする .....	338
サービスを管理する .....	340
タスク テンプレートを追加する .....	341
タスク テンプレートを追加する .....	341
タスク テンプレートを削除する .....	344



RMP ゾーン (下位ゾーン) を追加インストールする .....	345
ゾーン オペレーションをスケジュールする .....	352
リモート ゾーン オペレーションによりスケジュールされたジョブの役割 .....	359
下位ゾーンを開く .....	360
ジョブ シーケンスを作成する (開発中の機能) .....	362
リモート制御 ( <i>Windows</i> クライアントのみ) .....	363
システム要件 .....	363
前提条件 .....	363
リモート制御サービスをユーザーに接続する .....	364
リモート制御を使用する ( <i>Windows</i> クライアントのみ) .....	367
[ビューアーの起動] タスクのプロパティをカスタマイズする .....	373
リモート制御を設定する .....	374
まとめ .....	380
<b>6 トラブルシューティング .....</b>	<b>381</b>
ログ ファイルについて .....	382
トレース レベルを設定する .....	382
共通のメッセージのタイプ .....	385
HP テクニカル サポートで必要な情報を収集する .....	386
バージョン情報のウィンドウを表示する .....	387
NVDKIT.EXE のバージョン情報を収集する .....	388
RADISH.EXE のバージョン情報を収集する .....	389
Portal ゾーン ディレクトリ (ZONE.MK) ファイルを管理する .....	390
<b>リスト .....</b>	<b>393</b>
図 .....	393
表 .....	403
手順 .....	404
<b>索引 .....</b>	<b>409</b>





# はじめに

この章は以下を目的としています。

- Radia Management Portal 2.0 の利点と主要な機能について理解する。
- Radia Management Portal ゾーンのアーキテクチャとディレクトリ構造について理解する。
- このリリースの新しい用語に理解する。
- Radia Management Portal ゾーンにデバイスを追加し、オペレーションを目的としてそれらをグループ化するプロセスについて理解する。RMP 2.0 のオペレーションは、そのほぼすべてがデバイス グループを対象に実行されます。

## はじめに

Radia Management Portal (RMP) は、Radia インフラストラクチャ全体の管理を目的とした、使いやすい Web ベースのインターフェイスで、大小さまざまな規模の環境で使用することができます。Radia を初めてお使いになる場合でも、Radia Management Portal を使用すれば、既存のインフラストラクチャが画面に表示して視覚的に管理できるほか、Radia インフラストラクチャの製品やアプリケーションをリモートでインストールすることが可能です。

Radia Management Portal を使用する利点は、以下のとおりです。

- **一貫性のある操作手順**  
一貫性のある簡単な手順に沿ってさまざまな操作が行えるため、管理者が操作方法を習得する際の負担が軽減されます。Radia Management Portal では、管理者はさまざまなタスクを選択しながらインフラストラクチャを管理しますが、各タスクは同一の共通手順に沿って実行することができます。そのため管理者にとっては、役割（ロール）が変わっても操作の基本的な手順は変わりません。
- **Web ベースの管理**  
ブラウザがあればどの場所からでも Radia インフラストラクチャの管理を行うことができます。
- **複雑な環境全体の視覚化**  
Radia インフラストラクチャ、アプリケーション、およびポリシーを単一の管理環境から視覚的に管理することができます。
- **ロールベースのエンタイトルメント**  
各管理者は、各自が担当するインフラストラクチャ内のオブジェクトに限り、画面に表示して操作することができます。
- **セキュリティ**  
Radia Management Portal ディレクトリでは、管理者に対する認証が行われます。
- **拡張性**  
Radia Management Portal のインターフェイスから、企業内の Radia Configuration Server、Radia データベース、Active Directory、およびその他の LDAP ディレクトリにアクセスすることができます。ポリシー、サービス、ユーザー、およびマシンは、Radia Management Portal の使いやすいインターフェイスから直接管理することができます。
- **企業規模のソリューション**  
必要に応じて複数の Radia Management Portal ゾーンを作成し、企業内のサイトごとにインフラストラクチャを管理することができます。どの Radia Management Portal からでも、企業内の任意のゾーンにアクセスすることが可能で、複数のゾーンに対してオペレーションを実行することもできます。

## 主要機能について

Radia Management Portal をインストールすれば、Radia インフラストラクチャを構成するさまざまな部分に対して、[管理] タスクや [オペレーション] タスクを実行することができます。Radia Management Portal の主要機能は次のとおりです。

- **ネットワーク探索**  
Radia Management Portal では、ネットワーク内のオブジェクトの探索が自動的に行われます。
- **認証**  
Radia Management Portal ディレクトリを使用して、管理者の認証を行うことができます。
- **代理管理**  
Radia Management Portal でロールを設定することにより、各管理者がアクセスできるタスクを、本人および設定されたロールと関連のあるものだけに制限することができます。
- **Radia インフラストラクチャのコンポーネントおよび RMP ゾーンのリモートインストール**  
Radia Management Portal では、HP-UX や Solaris のほか、Windows NT、Windows 2000、Windows XP、Windows Server 2003 が動作するリモート デバイスに、Radia インフラストラクチャ製品をインストールすることができます。また、企業内の別のサイトに Radia Management Portal ゾーンをリモートでインストールすることも可能です。各サイトのインフラストラクチャは、それぞれのゾーンで管理されますが、企業内の任意のゾーンに対するジョブについては、アクセス、表示、実行を 1 つの Radia Management Portal から行うことができます。
- **インフラストラクチャのリモート管理**  
Radia Management Portal を使用して Radia 管理インフラストラクチャ製品を管理することができます。たとえば、リモート デバイス上のサービスの開始や停止、クライアント ログのブラウズなどを、単一のロケーションから行うことができます。
- **Radia Configuration Server およびポリシーのリモート管理**  
Radia Management Portal を使用すると、企業内にある Radia Configuration Server 上の Radia データベースにアクセスできるほか、インスタンス レベルのタスクの実行や、アクティブ ディレクトリに基づいたポリシーの割り当ておよび管理が可能です。
- **クロス リファレンス デバイス グループ**  
Radia Management Portal を使用すると、デバイスのハードウェア、オペレーティング システム、Radia インフラストラクチャ、および管理対象サービスに関する詳細な情報を取得し、それを自己管理型のクロス リファレンス グループとして Radia Management Portal ディレクトリに格納することができます。これにより、特定の分類に基づいた全デバイスの通知を一回の操作で行うことが可能になります。
- **通知**  
通知タスクを使用して、選択したターゲット デバイスに対しアクションを実行することができます。企業内の 1 つまたはすべてのゾーンに含まれるデバイスのうち、特定のタイプを持ったものすべてが通知の対象となります。
- **スケジュール**  
スケジュール機能を使用して、タスクの実行や進捗状況の追跡を行うことができます。

## はじめに

- **クエリ**  
クエリ機能を使用すると、Radia Management Portal ディレクトリから情報を抽出することができます。
- **監査/ロギング**  
監査/ロギング機能を使用すると、管理者に関する情報および管理者が Radia Management Portal で実行した作業に関する情報を表示することができます。監査イベントはすべて、Radia Management Portal で生成されたログに格納されます。

## この製品のアーキテクチャについて

Radia Management Portal は Web ブラウザがあれば操作できますが、この製品の基盤をなすアーキテクチャの知識も場合によっては必要です。

Radia Management Portal は、以下のコンポーネントで構成されています。

- **Portal Run-time**。Radia インフラストラクチャのサービスを統合するランタイム テクノロジです。**Portal Run-time** は、Radia Integration Server (RIS) および RMP.TMD (Radia Integration Server の **¥modules** ディレクトリに格納) で構成されます。
- **Portal ゾーン ディレクトリ**(Radia Integration Server の **¥etc** ディレクトリにある **zone.mk**)。LDAP ディレクトリ サービスの 1 つです。起動と同時に、Radia Management Portal またはゾーンの特定のインスタンスを表すオブジェクトのセットをロードします。起動時に **¥etc** **¥zone** ディレクトリからロードされるオブジェクトには、特定のインフラストラクチャセットを特定のロケーションで管理する際に必要となる以下の情報がすべて保持されています。
  - 管理対象デバイス (device.mk)
  - デバイス グループ メンバーシップ (group.mk)
  - クロス リファレンス デバイス グループ (xref.mk)
  - ジョブ ステータスおよびジョブ履歴 (job.ckpt および history.mk)
  - ユーザー (user.mk)
  - エンタイトルメント、タスク、およびサービスの設定 (entitlement.mk、task.mk、および msg.mk)
  - ネットワーク (dns.mk および lanmanredirector.mk)企業内に 1 つまたは複数の Radia Management Portal ゾーンが存在する場合、すべてのゾーンは同じ名前を持つディレクトリのセットを起動時にロードします。
- **Radia 管理エージェント (RMA)**。リモート デバイスにインストールされ、Radia Management Portal に代わってタスクを実行します。詳細については、305 ページの「*Radia 管理エージェントをインストールする*」を参照してください。

# Radia Management Portal ゾーンの概要

大規模企業では通常、既存のインフラストラクチャの表示および管理が効率化できるよう、複数の **Radia Management Portal** を使用する必要があります。複数のポータルサイトがあると、オペレーションがすべてのサイトにわたって単一のロケーションから実行できるようにする必要性が出てきます。このリリースでは、企業内の各 **Radia Management Portal** に対してゾーンおよび個別のゾーンディレクトリ構造を定義することで、より高いスケーラビリティが実現されています。

## ゾーンとは何か

ゾーンとは、デバイス、インフラストラクチャ、およびソフトウェアの論理的なセットのことです。ディレクトリ サービスで表示および操作することが可能で、**Radia Management Portal** により管理されます。

ゾーンは **Radia Management Portal** がインストールされるたびに作成され、作成されたゾーン内のすべてのオブジェクトには、そのゾーン名の高位修飾子が指定されています。最初にインストールされたゾーンをマスターゾーンと呼び、それ以外を下位ゾーンと呼びます。ゾーンへのアクセスに必要な URL 情報は、プロパティの 1 つとしてそのゾーンオブジェクトそのものに保持されます。

## ゾーン ディレクトリ構造

ディレクトリ構造、および最上位にあるコンテナの名前は、すべての Radia Management Portal ゾーンに共通です。

図 1.1 は、ゾーン ディレクトリ構造およびコンテナを模式的に表したものです。各コンテナの説明および使用方法については、101 ページの「Zone のコンテナについて」を参照してください。

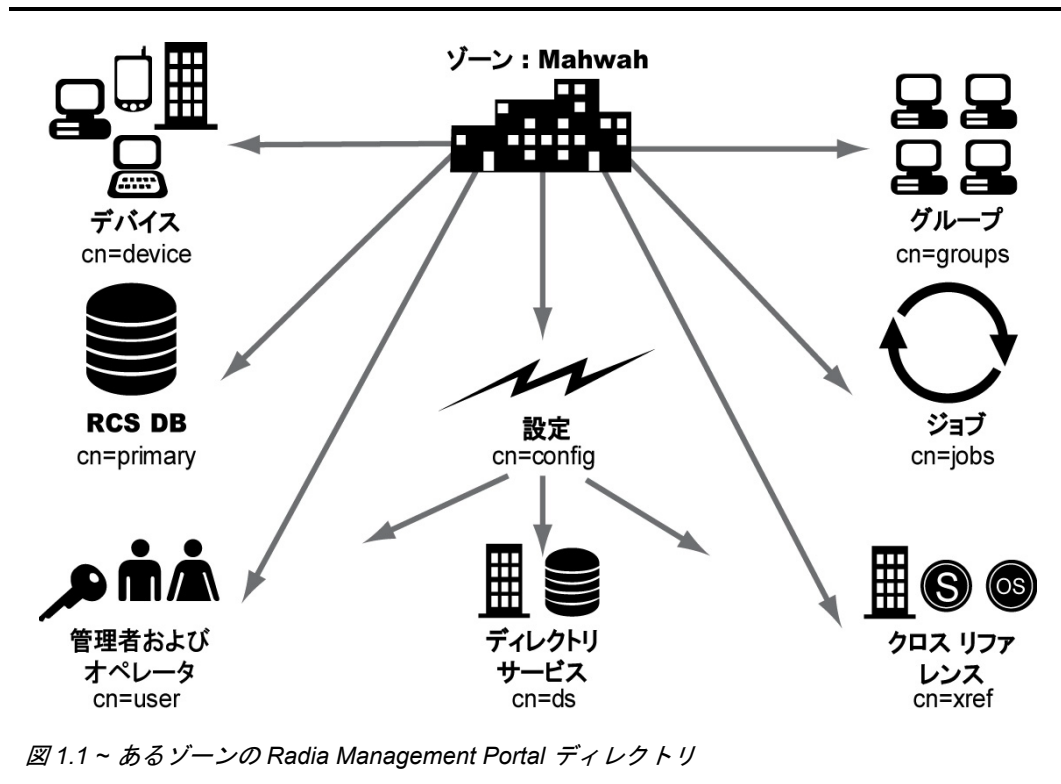


図 1.1 ~ あるゾーンの Radia Management Portal ディレクトリ

## ゾーン内のオブジェクト名について

Radia Management Portal それ自体も、さまざまなオブジェクトクラスのオブジェクトを保持するディレクトリ サービスです。各オブジェクトには、共通名が割り当てられます (cn=名前)。各オブジェクトに割り当てる共通名は、そのクラスに属するすべてのオブジェクトの中で一意であることが必要です。このことはたとえば、企業内のゾーン名についても当てはまります。また 1つのゾーンの中では、同じクラスの各オブジェクトの共通名も一意であることが必要です。[Zone] コンテナの共通名は、企業内のすべてのゾーンに対して同じものがあらかじめ割り当てられています。



ゾーン内の各エントリは、そのロケーションにより識別することもできます。たとえば「図 1.1」では、**[Devices]** コンテナ エントリのロケーションは **cn=device,cn=Mahwah** であり、RCS 上の **PRIMARY** ファイルのロケーションは **cn=Primary,cn=Mahwah** です。

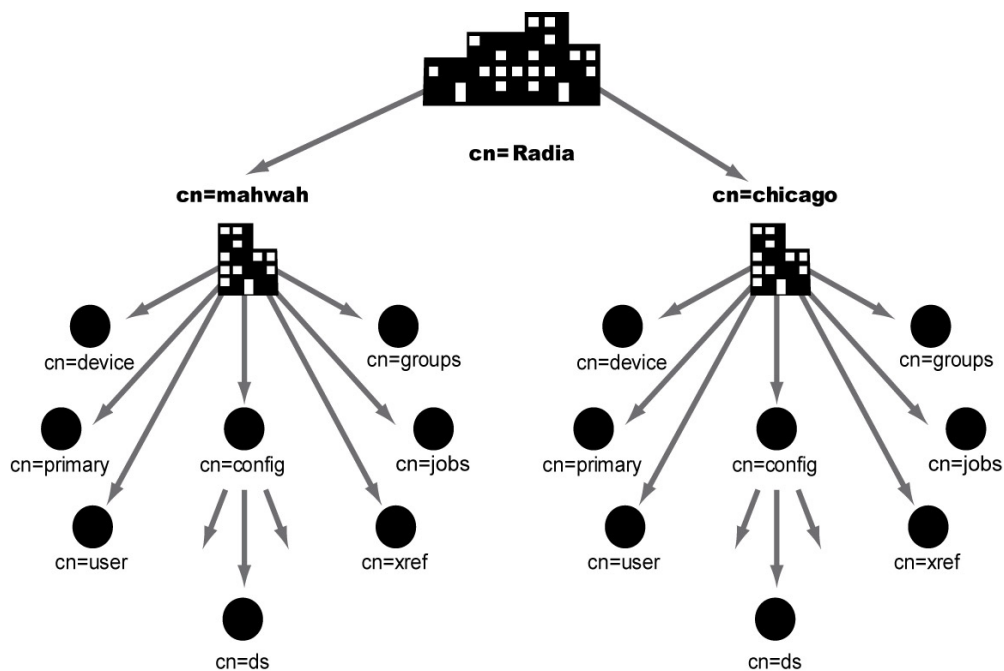


図 1.2 ~ Radia Management Portal の複数のゾーン

この方法で名前を表記すると、企業内のすべてのゾーンの中でも、デバイスやその他のオブジェクトの名前を確実に区別することができます。「図 1.2」を例にとると、Mahwah ゾーンの **[Devices]** コンテナのロケーションは **cn=device,cn=Mahwah,cn=radia** であり、Chicago ゾーンの **[Devices]** コンテナのロケーションは **cn=device,cn=Chicago,cn=radia** となります。

#### 注意

Radia Management Portal に表示されているオブジェクトのアイコンまたはラベル上にマウスカーソルを合わせると、そのオブジェクトの共通名を表示することができます。

こうして、ディレクトリ構造と命名コンテキストにより、企業内のすべてのゾーンのあらゆるオブジェクトに対し、それぞれ別々の名前を付けることができます。またこれによって、企業内全体のデバイスに対するオペレーションのスケジュールを単一のサイトから行うことが可能になります。

## 新しい用語

以下に説明するのは、このリリースで新たに使用される用語です。これらの用語は、このマニュアル全体を通して頻繁に使用されるものです。意味を十分理解した上で、このマニュアルをご利用になることをお勧めします。

すべての用語を網羅した用語集については、このマニュアルの巻末に掲載されています。

### 下位ゾーン

企業内で 2 番目以降にインストールされた **Radia Management Portal** ゾーン。これらのインストールは通常、最初にインストールされた **Radia Management Portal** のマスター ゾーンにより行われます。企業内のゾーン全体の中で各オブジェクトの識別名が一意となるには、まず企業内の各ゾーンの名前が一意である必要があります。

### 管理対象デバイス

PDA やプリンタなど、**Radia Management Portal** ゾーンの [**Devices**] コンテナに追加された、ネットワーク内のコンピュータやその他のハードウェア デバイス。

### ゾーン

ゾーンとは、デバイス、インフラストラクチャ、およびソフトウェアの論理的なセットのことです。ディレクトリ サービスで表示および操作することが可能で、**Radia Management Portal** により管理されます。

ゾーンは **Radia Management Portal** がインストールされるたびに作成され、作成されたゾーン内のすべてのオブジェクトには、そのゾーン名の高位修飾子が指定されます。最初にインストールされたゾーンをマスター ゾーンと呼び、それ以外を下位ゾーンと呼びます。ゾーンへのアクセスに必要な URL 情報は、そのゾーン オブジェクトのプロパティに指定されます。

### ゾーン アクセス ポイント

企業内のすべての **Radia Management Portal** ゾーンを定義しているコンテナ。ゾーン アクセスポイントに移動すると、他のゾーンの **Radia Management Portal** を開くことができるほか、企業内の任意のゾーンに属するデバイスに対してゾーン オペレーションをスケジュールすることができます。「ゾーン ジョブ」を参照してください。

### ゾーン オペレーションのスケジュール

選択したゾーンまたはゾーンのセット内のデバイス グループに対し、スケジュールを設定した上で、事前に定義されたタスクを起動する **Radia Management Portal** のタスク。このジョブでは、あらゆるゾーンの中から、オペレーションのオーディエンスとして選択された特定のグループに現在含まれているデバイスがすべて検出されます。

## ゾーン ジョブ

1 つまたは複数の **Radia Management Portal** ゾーンの中の特定のグループに属するデバイスに対してスケジュールされたジョブ グループです。ゾーン ジョブをスケジュールするには、特定の通知コマンドなどのジョブが事前定義されたタスク テンプレートが必要になるほか、各ターゲットゾーン内のグループ名が同じになる必要があります。

## ディレクトリ サービス

このマニュアルでは、**Radia Management Portal** からアクセスできる、さまざまなタイプのディレクトリ サービスを総称する言葉として使用されています。ディレクトリ サービスは、**LDAP (Lightweight Directory Access Protocol)** ディレクトリ、**Radia Configuration Server** ファイル、(別の **Radia Management Portal** へのアクセスを可能にする) **DSML** ファイル、メタキット (\*.MK) ファイルなどのタイプに分かれます。メタキット ファイルは、カスタマイズされた **Radia Management Portal** のコンテナにアクセスするためのものです。

**Radia Management Portal** ユーザーは、**[Directory Services]** コンテナで定義されている (適切な権限が与えられた) 他の **LDAP** ディレクトリ サービスに接続することができます。

## マウント ポイント

ディレクトリ 構造の中で、ディレクトリの接続が行われたロケーションです。マウントされたディレクトリに対しては、マウント ポイントがルート ノードになるため、移動できるのはマウント ポイントより下位に位置するノードのみです。

## マスター ゾーン

企業内で最初にインストールされる **Radia Management Portal** ゾーンです。それ以外の **Radia Management Portal** は、**Radia Management Portal** マスター ゾーンに下位ゾーンとしてインストールされます。マスター ゾーンは、マスター ポータルとも呼ばれます。

## まとめ

- **Radia Management Portal** は、企業内全体での **Radia** インフラストラクチャの管理に使用する **Web** ベースのインターフェイスです。
- インフラストラクチャ内のオブジェクトに対して **[管理]** タスクや **[オペレーション]** タスクが実行できるほか、**RCS** データベースのインスタンスの管理や **Active Directory** を使用したポリシーの割り当てを行うことができます。
- **Radia Management Portal** は、**Portal Run-time**、**Radia Management Portal** ゾーン ディレクトリ、および **Radia** 管理エージェント(**RMA**) で構成されています。起動時には、ゾーン ディレクトリに属するコンテナ オブジェクトのセットがロードされます。
- ゾーンとは、デバイス、インフラストラクチャ、およびソフトウェアの論理的なセットのことです。ディレクトリ サービスで表示および操作することが可能で、**Radia Management Portal** により管理されます。各ゾーン ディレクトリに属するコンテナのセットはすべて同じものです。
- 複数のゾーンを作成することにより、さまざまなデバイス ロケーションで、数に制限なくデバイスを管理することができます。ゾーンの名前は一意であることが必要です。同じクラスに属する各オブジェクトの名前は、ゾーン内で一意であることが必要です。
- **Radia** サービスにより、その他さまざまな機能が利用できます。

# Radia Management Portal をインストールする

この章は以下を目的としています。

- Radia Management Portal がインストールできるようになる。
- ¥media フォルダを、クライアントのデフォルトのインストール先ディレクトリにする。
- Radia Management Portal にログオンできるようになる。
- パスワードが変更できるようになる。

## インストールの準備をする

1. Radia Management Portal をインストールする前に、Hewlett-Packard ライセンス ファイルが格納されている場所を確認します。  
不明点については、HP テクニカル サポートにお問い合わせください (2 ページを参照)。
2. Radia Management Portal のインストールに使用する以下の Radia CD-ROM を用意します。
  - 管理インフラストラクチャ CD-ROM
  - 管理アプリケーション CD-ROM
  - パブリッシュ CD-ROM
3. 最新情報については、製品付属の README ファイルを参照してください。

## Radia Management Portal をインストールする

Radia Management Portal を使用すると、既存の Windows インフラストラクチャを視覚的に管理したり、Radia インフラストラクチャの製品やアプリケーションを追加したりすることができるほか、必要に応じて Active Directory を使用しながら、Radia データベース上のサービスおよびポリシーの管理を行うことができます。

このリリースでは、新たにゾーンアーキテクチャとそれに関連する各種機能を採用することにより、複数の Radia Management Portal (RMP) サイトが存在する環境をサポートしています。マスターポータルサイトから管理する各 Radia Management Portal サイトには、バージョン 2.0 がインストールされていることが必要です。

### 事前に必要な Radia 関連の作業

Radia Management Portal 2.0 は、REXX メソッド ZTASKEND バージョン 1.8 と関係して動作することを念頭に最適化されています。この REXX メソッド ZTASKEND バージョン 1.8 は、Radia Configuration Server を 4.5.4 SP3 にアップグレードすると自動的にインストールされます。

Radia Configuration Server と Radia Management Portal の間の情報処理フローを向上させるには、この ZTASKEND (バージョン 1.8 以上) のほかに Radia Messaging Server 2.0 とも関係して Radia Management Portal を使用することをお勧めします。

Radia Configuration Server を 4.5.4 SP3 にアップグレードする詳細な方法については、Radia 4 RCS メディア ロケーションの **migrate\_RCS** フォルダに格納されている *Radia\_RCS\_Migrate.PDF* を参照してください。

また Radia Messaging Server のインストールに関する詳細については、『Radia Messaging Server Guide』を参照してください。

## システム要件

- サーバー
  - Windows 2000 w/SP3、NT 4.0、XP、Server 2003。
  - Radia Management Portal をインストールするには、管理者権限が必要です。
- クライアント
  - Web ブラウザをサポートしているプラットフォーム。
  - Microsoft Internet Explorer 4.0 以上または Netscape 4.0 以上 (クッキーの使用は有効にする)

## 個々のゾーンのディレクトリ サイズ

**Portal** ディレクトリ (Radia Integration Server の **¥etc** ディレクトリに格納されている **zone.mk**) には、デバイス、グループ、管理対象インフラストラクチャ、ジョブ ステータス、ネットワーク、マウント対象サービスに関する情報のほか、Radia Management Portal についての設定情報およびエンタイトルメント情報がすべてロードされます。

個々の Radia Management Portal ゾーンに含まれるデバイスの数は 10,000 が上限です。実際に個々のゾーンで管理するデバイスの数は、次の数字を上限の目安としてください。

- 推奨: 1,000 から 2,000
- 最大: 5,000

各企業の規模に合わせて、複数の Radia Management Portal ゾーンをインストールすることが可能です。企業内に新たなゾーンを作成する方法については、345 ページの *「RMP ゾーン(下位ゾーン)を追加インストールする」* を参照してください。

## インストールの手順

### 重要

このバージョンの Radia Management Portal は、クリーンな (空の) ディレクトリにインストールしてください。また、旧バージョンの Radia Management Portal が動作しているマシンにはインストールしないでください。

以下に示す手順に従って、1 つ目の Radia Management Portal ゾーンをインストールします。

## Radia Management Portal 2.x をインストールするには

### 注意

Radia Management Portal をインストールするマシン上で、既にインストールされている Radia Integration Server (httpd) が動作中の場合は、そのサービスを停止してください。

- 1 つ目の Radia Management Portal ゾーンインストールは、以下に示す手順に従って行います。ただしこの手順は、Radia Management Portal マスター ゾーンをコマンドラインからインストールするためのものです。
  - 2 つ目以降の Radia Management Portal ゾーンをインストールする場合は、[オペレーション] タスク グループの [Management Portal のインストール] タスクを使用します。詳細については、345 ページの「RMP ゾーン(下位ゾーン)を追加インストールする」を参照してください。
1. 管理インフラストラクチャ CD-ROM の **extended\_infrastructure** ¥management\_portal¥win32 へ移動し、**setup.exe** をダブルクリックします。  
[Radia Management Portal のインストール] ウィンドウが表示されます。

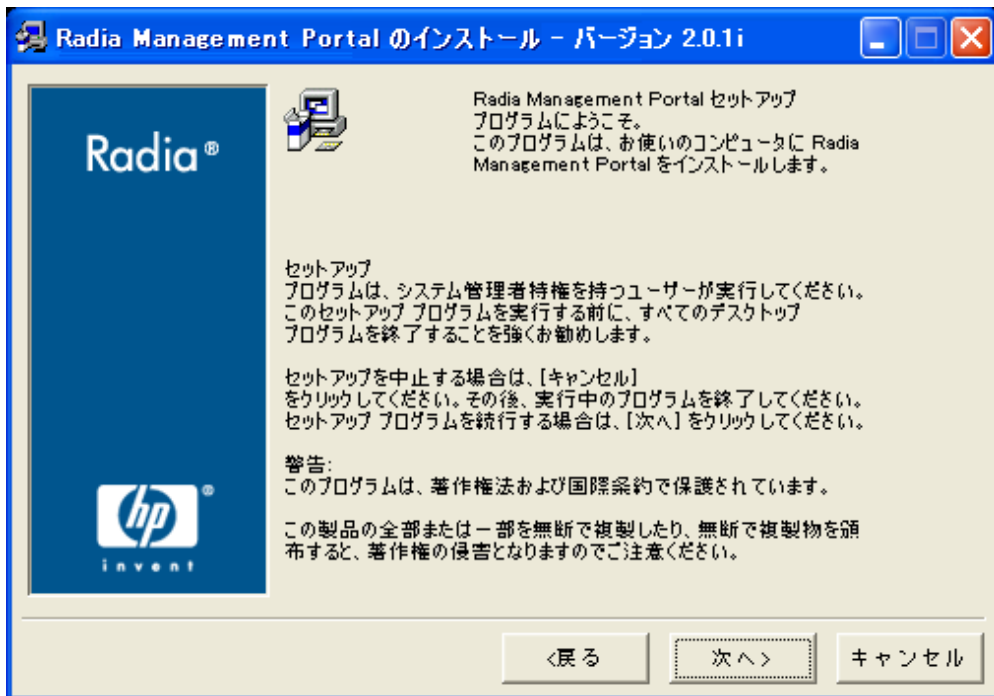


図 2.1 ~ Radia Management Portal の[ようこそ] ウィンドウ



2. [次へ] をクリックします。

[エンドユーザー ライセンス契約] ウィンドウが開き、この製品の使用許諾契約が表示されます。Radia Proxy Server をインストールするには、この内容に同意する必要があります。

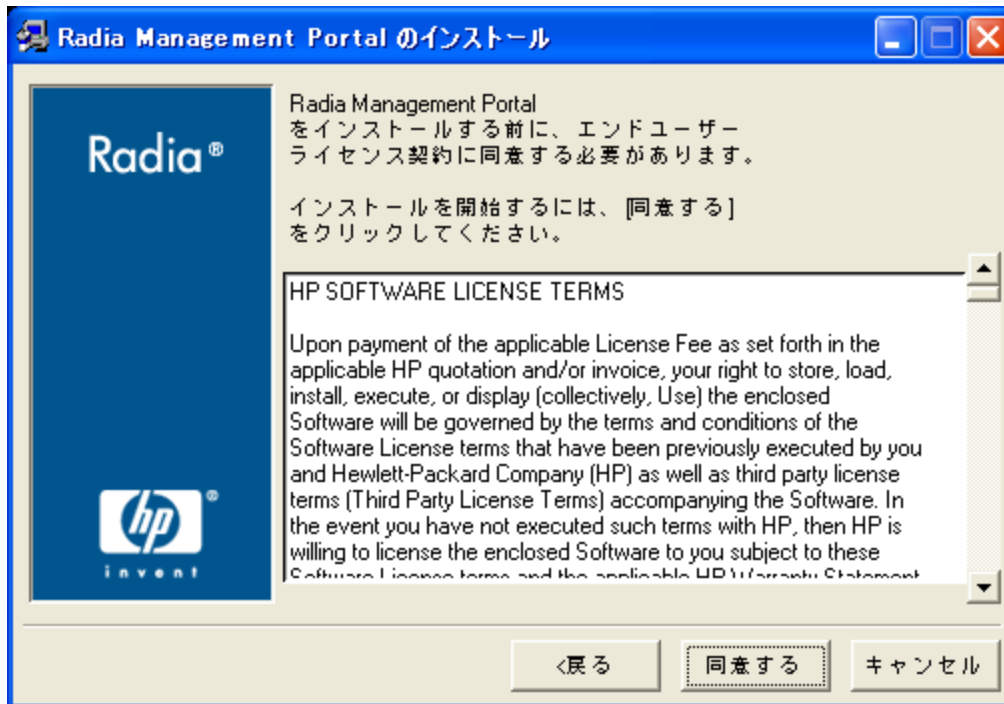


図 2.2 ~ [エンドユーザー ライセンス契約] ウィンドウ

## Radia Management Portal をインストールする

3. ソフトウェアの使用許諾契約に同意する場合は **[同意する]** をクリックし、インストールを続行します。  
**[Radia Management Portal のロケーション]** ウィンドウが表示されます。

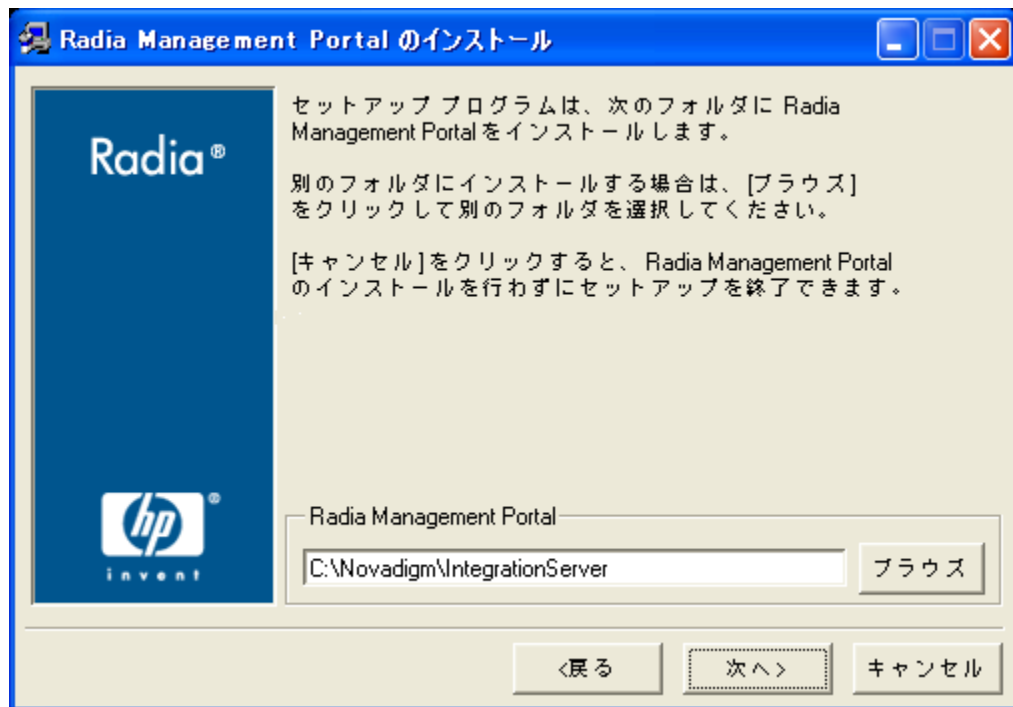


図 2.3 ~ [Radia Management Portal のロケーション] ウィンドウ

4. このウィンドウで、Radia Management Portal のインストール先フォルダを選択します。

### 注意

コンピュータ上に Radia Inventory Manager が既にインストールされている場合、Radia Management Portal はそれと同じディレクトリにインストールされるため、このウィンドウはスキップされます。

5. ウィンドウにデフォルトで指定されているインストール先フォルダをそのまま使用する場合は [次へ] をクリックします。他のフォルダを使用する場合は、[ブラウズ] をクリックしてインストール先フォルダを選択し、[次へ] をクリックします。  
[ライセンス ファイル] ウィンドウが表示されます。

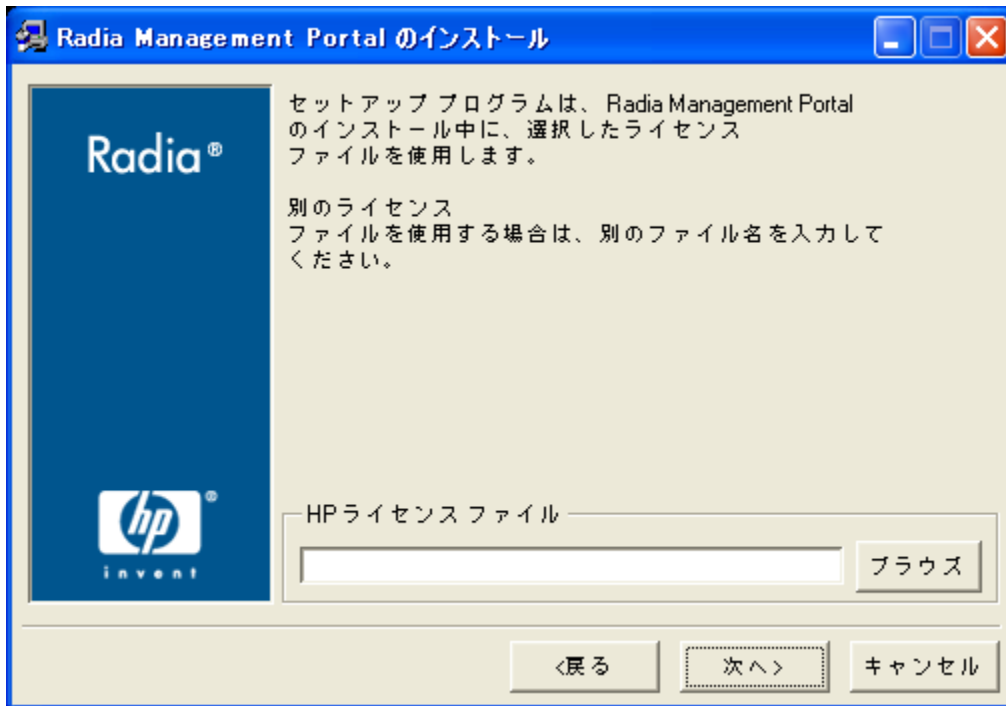


図 2.4 ~ [ライセンス ファイル] ウィンドウ

6. [ブラウズ] をクリックして、ライセンス ファイルの保存場所を指定します。必要に応じて、ライセンス ファイルの名前が **license.nvd** に変更されます。この場合、Radia Integration Server の **modules** ディレクトリにライセンス ファイルのコピーが作成されます。  
[ネットワーク探索の有効化] ウィンドウが表示されます。



図 2.5 ~ [ネットワーク探索の有効化] ウィンドウ

7. [はい] をクリックして、ネットワーク探索機能を有効にします (**推奨**)。この機能を有効にすると、管理可能な Windows 環境内のすべてのデバイスが、Radia Management Portal により自動的に探索されます。  
または  
[いいえ] をクリックして、ネットワーク探索機能を無効にします。主に Radia Management Portal のテストを行う時など、環境内に存在するすべてのマシンに対して自動探索が行われ不要にする必要がある場合には、この機能を無効にします。

8. [次へ] をクリックします。  
[ネットワーク探索の間隔] ウィンドウが表示されます。

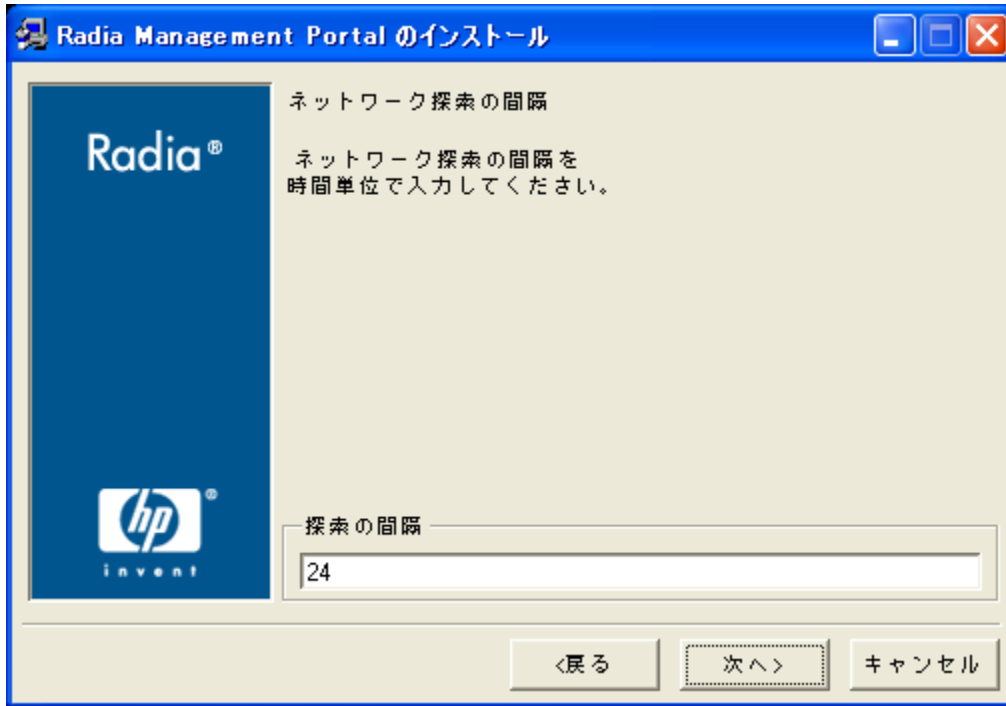


図 2.6 ~ [ネットワーク探索の間隔] ウィンドウ

9. [ネットワーク探索の間隔] ボックスに、ネットワーク探索ジョブを実行する間隔を入力します (単位は時間)。  
1 から 24 までのいずれかの数値が入力できます。デフォルトは 24 (時間) です。  
インストールが完了した後で、ネットワーク探索の間隔を変更する場合は、設定ファイルの **NETSCAN\_POLL** パラメータを編集します。詳細については、137 ページの「ネットワーク探索を設定する」を参照してください。

10. [次へ] をクリックします。  
[探索の開始遅延] ウィンドウが表示されます。



図 2.7 ~ [探索の開始遅延] ウィンドウ

11. [探索の開始遅延] ボックスに、Radia Management Portal が起動してから、ネットワーク探索が開始されるまでの時間を入力します (単位は時間)。この遅延時間は、Radia Management Portal が起動するたびに適用されます。入力できるのは、0 から 24 までのいずれかの数値です。デフォルトでは、Radia Management Portal が起動すると同時にネットワーク探索が開始されます。インストールが完了した後で、この探索開始の遅延時間を変更する場合は、設定 ファイルの **NETSCAN\_START\_DELAY** パラメータを使用します。詳細については、137 ページの「ネットワーク探索を設定する」を参照してください。

12. [次へ] をクリックします。  
1つ目のゾーンに対する [ゾーン情報] ウィンドウが表示されます。

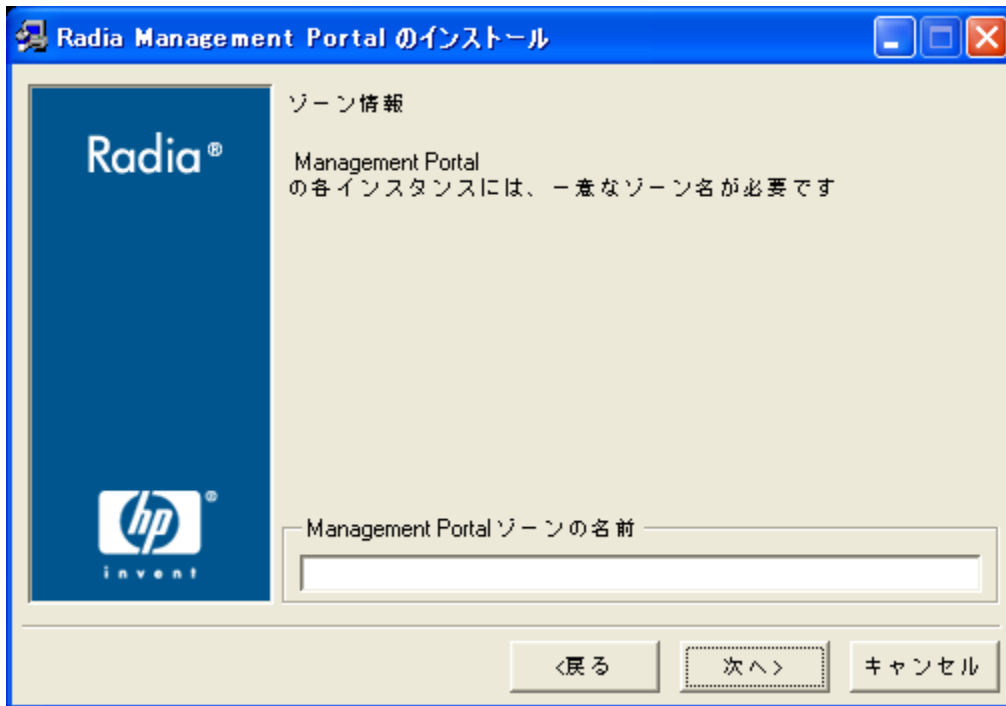


図 2.8 ~ [Radia Management Portal のゾーン名を入力する]ウィンドウ

13. [Management Portal ゾーンの名前] ボックスに、この Radia Management Portal のインスタンスを表すゾーン名を入力します。**Radia Management Portal** の各インスタンスには、企業内で一意なゾーン名が必要です。

名前には英数字を使用し、64 文字以内で入力します。スペースも使用できます。ただし、カンマ、ピリオド、アスタリスクなどの特殊文字は使用できません。

1つ目のゾーンには通常、管理されるインフラストラクチャ全体を表すのに適した名前 (**ACMECorp** など) を使用します。後でインストールする下位ゾーンには、そのゾーンで管理されるインフラストラクチャの区域またはロケーションを表す名前 (**NorthAmerica** や **Chicago** など) を使用します。

ゾーンに関する詳細については、23 ページの「ゾーンとは何か」を参照してください。

14. [次へ] をクリックします。

2 つ目のゾーンに対する [ゾーン情報] ウィンドウが表示されます。

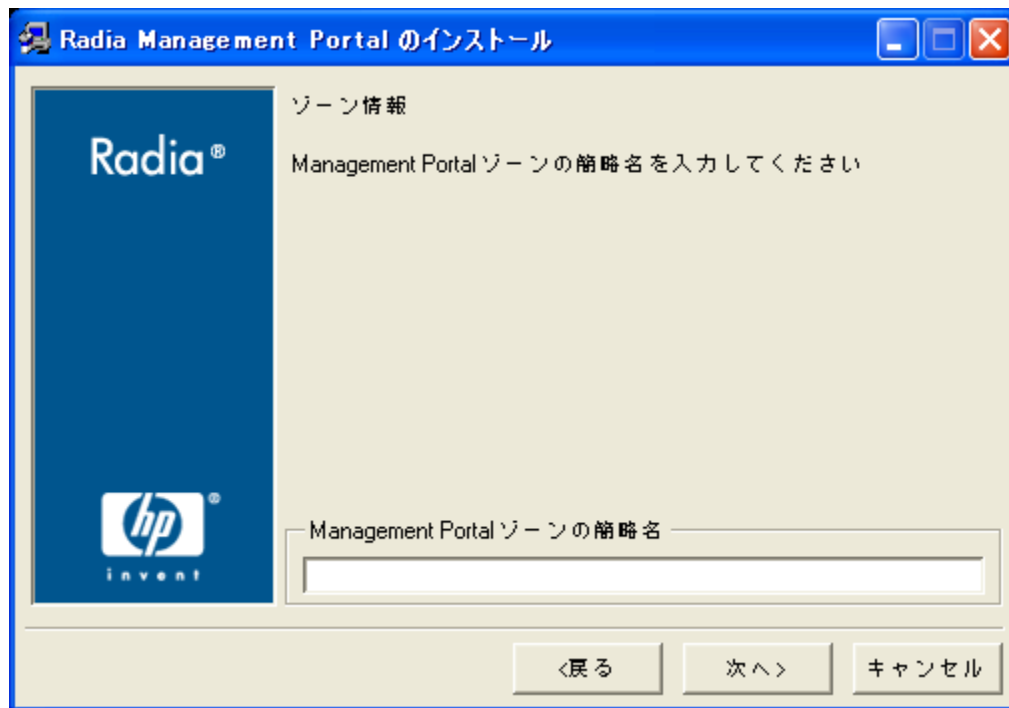


図 2.9 ~ [ゾーンの簡略名を入力する] ウィンドウ

15. [Management Portal ゾーンの簡略名] ボックスに、この Radia Management Portal ゾーン  
の簡略名を入力します。ただしこれはオプションです。簡略名を入力しなかった場合には、デフォ  
ルトの「ゾーン名」が使用されます。

この簡略名は、Radia Management Portal のユーザー インターフェイスで表示されるゾーン名  
です。



16. [次へ] をクリックします。  
インストール情報がまとめて表示されたウィンドウが表示されます。



図 2.10 ~ [インストールの設定] ウィンドウ

17. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。

Radia インフラストラクチャ コンポーネントのリモート インストールを実行する際に使用するモジュールをコピーするかどうかを尋ねるメッセージ ボックスが表示されます。

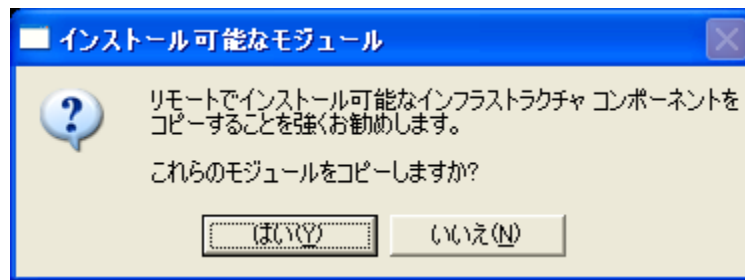


図 2.11 ~ インフラストラクチャ コンポーネント用のモジュールをコピーするかどうかを尋ねるメッセージ

---

18. [はい] をクリックします。

[リモートでインストール可能なコンポーネントのロケーション] ウィンドウが表示されます。

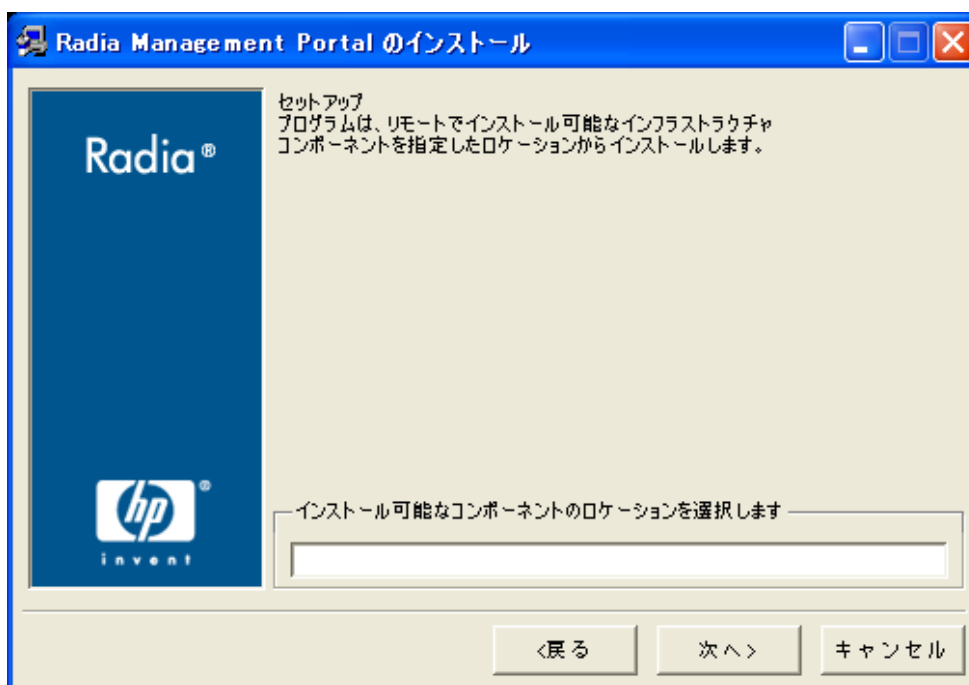


図 2.12 ~ [リモートでインストール可能なコンポーネントのロケーション] ウィンドウ

必要に応じて、[ブラウズ] をクリックして、管理インフラストラクチャ CD-ROM の場所を指定します。

19. [次へ] をクリックします。それらのモジュールが、Radia Integration Server の **¥media** ディレクトリにコピーされます。
- リモート インストールを実行する際に使用する Radia クライアント モジュールをコピーするかどうかを尋ねるメッセージ ボックスが表示されます。

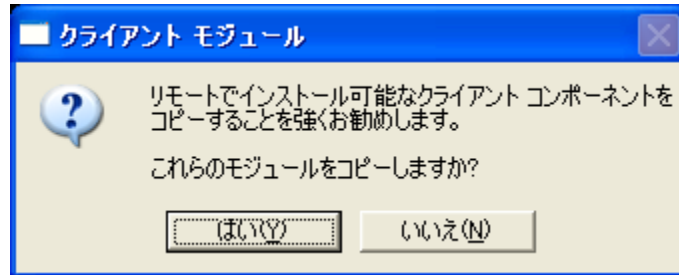


図 2.13 ~ リモート インストール用の Radia クライアント モジュールをコピーするかどうかを尋ねるメッセージ

---

20. [はい] をクリックします。  
[クライアント モジュールのロケーション] ウィンドウが表示されます。

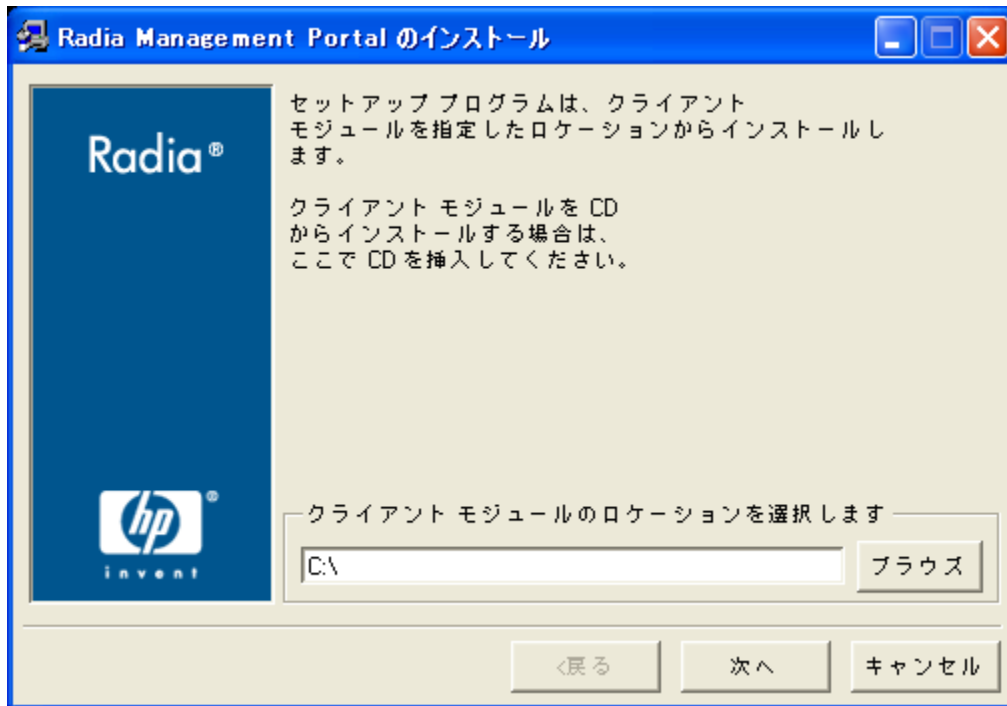


図 2.14 ~ [クライアント モジュールのロケーション] ウィンドウ

必要に応じて、管理インフラストラクチャ CD-ROM を取り出し、管理アプリケーション CD-ROM を挿入します。

21. [ブラウズ] をクリックして、Radia クライアント モジュールが格納されている 管理アプリケーション CD-ROM の場所を指定します。

22. [次へ] をクリックします。

Radia クライアント モジュールが、Radia Integration Server の ¥media ディレクトリにコピーされます。さらに、ドキュメント (Radia マニュアル ライブラリ) をインストールするかどうかを尋ねるメッセージ ボックスが表示されます。

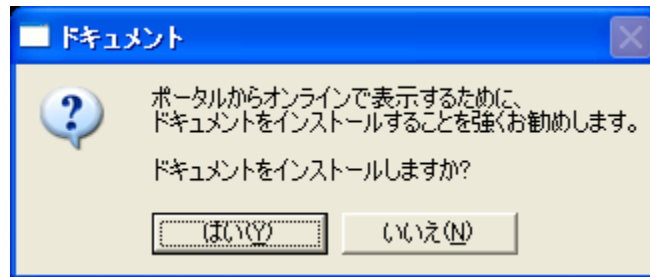


図 2.15 ~ Radia マニュアル ライブラリをインストールするかどうかを尋ねるメッセージ

---

23. [はい] をクリックします。  
[パブリッシュのロケーション] ウィンドウが表示されます。

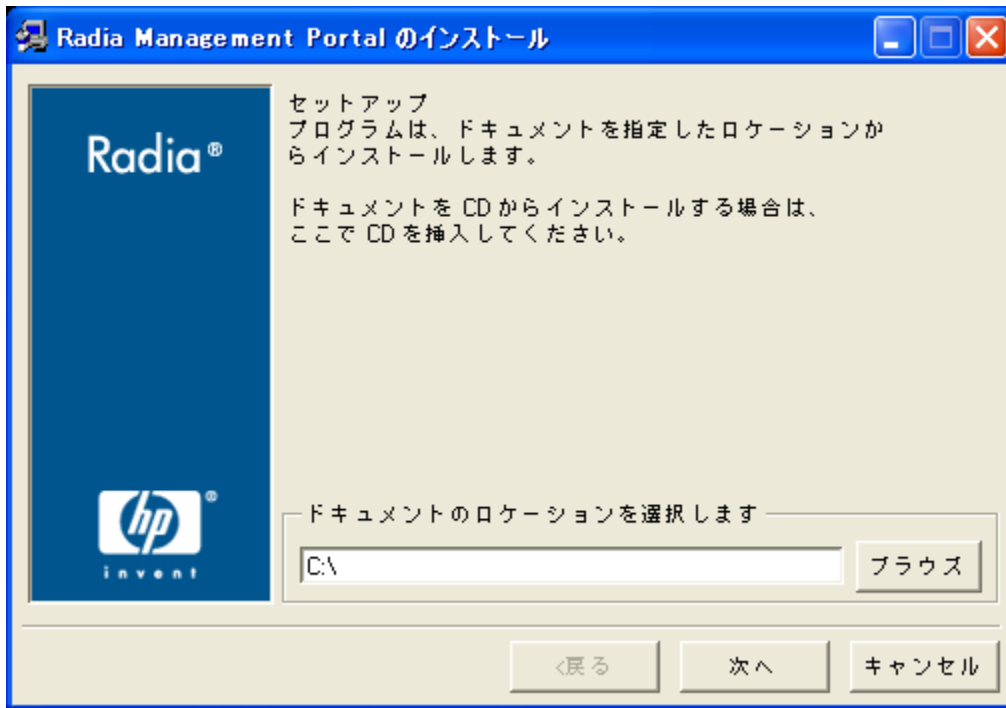


図 2.16 ~ [パブリッシュのロケーション] ウィンドウ

必要に応じて、管理アプリケーション CD-ROM を取り出し、CD-ROM を挿入します。

24. [パブリッシュのロケーション] ウィンドウで、ドキュメントが格納されている場所を選択します。
25. [次へ] をクリックします。  
Radia マニュアル ライブラリが Radia Management Portal にインストールされます。
26. インストールが完了したら [完了] をクリックします。  
Radia Management Portal の画面が表示されます。
27. **Admin** としてログオンします (パスワードは **secret**)。

## タスクを更新する

### 注意

このタスクは、Radia Management Portal 2.x の初回インストール時には必要ありません。

Radia Management Portal の新しいビルドを入手した際、[タスクを更新] を実行すると使用可能なタスクが更新できます。

### ヒント

[タスクを更新] の実行により追加または更新されるタスクのリストが自動的に表示されるので、Radia Management Portal の各リリースにおいてどのタスクが「新しい」のかを確認することができます。

1. 必要に応じて、Radia Management Portal (Radia Integration Server [httpd] サービス) を再起動します。
2. **Admin** としてログオンし (パスワードは **secret**)、[タスクを更新] を実行します。[タスクを更新] の実行に関する詳細情報が表示されます。
3. ナビゲーション支援を使用して、[**directory**]、[**Zone**]、[**Configuration**]、[**Tasks**] の順に選択します。
4. [ディレクトリ管理] タスク グループの [タスクを更新] をクリックします。
5. [更新のサブミット] ダイアログ ボックスが表示されます。



6. [すべて選択] をクリックして更新可能な項目をすべて選択し、[コミット] をクリックします。



図 2.17 ~ [更新タスクの選択] を実行して RMP 2.x のタスクを更新する

これで、最新リリースで追加または更新されたタスクがすべて使用できるようになります。

### Radia Management Portal からログオフするには

- バナー領域にある [ログアウト] をクリックします。

## リモートの Radia Management Portal の IP アドレスを指定する

Radia Configuration Server がインストールされているのとは別のコンピュータに Radia Management Portal をインストールする場合、ZTASKEND に必要な行が含まれていることを確認した上で、Radia Configuration Server 上の EDMPROF.DAT ファイルに、Radia Management Portal の IP アドレスおよびポートを指定する必要があります。

ZTASKEND の内容の確認および EDMPROF.DAT の設定は、以下の手順に従って行ってください。

### ZTASKEND の内容を確認する

#### 重要

1. この確認手順が必要となるのは、ZTASKEND を使用して **RADISH** の実行ファイルを呼び出す場合のみです。Radia Messaging Service が既実装されている場合は、このタスクを実行する必要はありません。Radia Messaging Service で ZTASKEND を使用すると、RADISH ではなく QMSG が呼び出されます。
2. **radish.exe** が呼び出されるように変更するには、Radia Configuration Server 上の **radish.exe** がビルド 37 以上である必要があります。radush プログラムのビルド番号を確認する場合は、389 ページの「**RADISH.EXE のバージョン情報を収集する**」を参照してください。

### Radia Management Portal に必要な行が、ZTASKEND に含まれていることを確認するには

1. Radia Configuration Server が動作しているコンピュータ上で、Radia Configuration Server のインストール先フォルダ (**¥rexx¥Novadigm** フォルダ) から **ZTASKEND** を検索します。

**ZTASKEND** が格納されているデフォルトのフォルダは、**SystemDrive:¥Novadigm ¥ConfigurationServer¥rexx¥Novadigm ¥**です。

このディレクトリには、すべての **Radia REXX** スクリプトが格納されています。

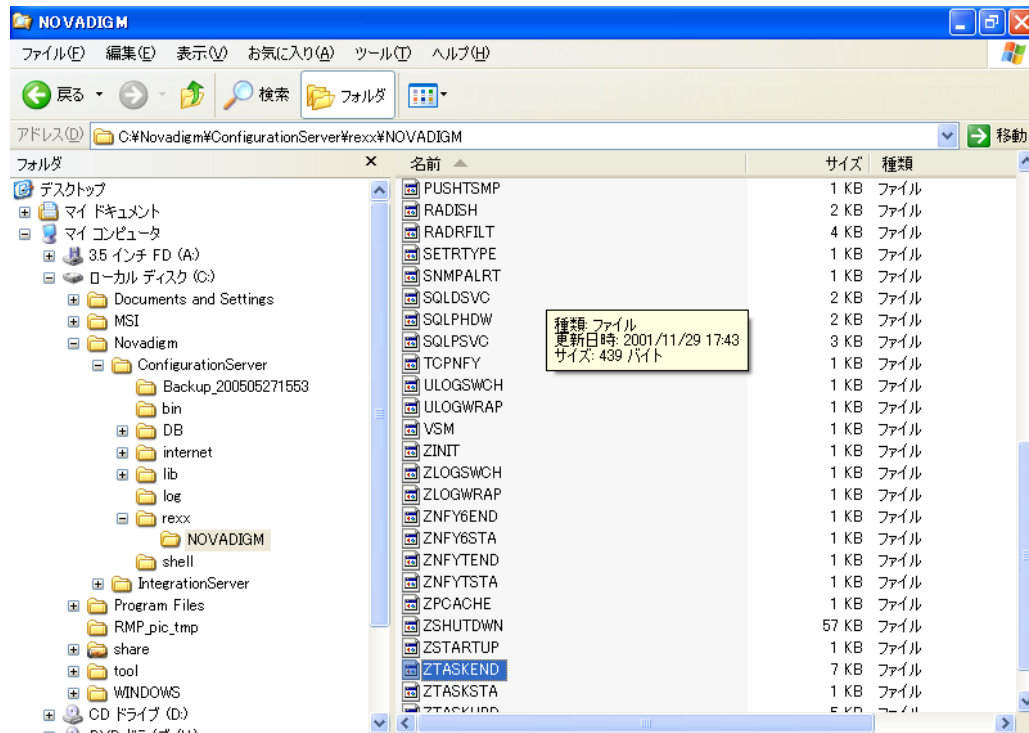


図 2.18 ~ Radia Configuration Server の ¥rexx ¥Novadigm フォルダにある ZTASKEND

2. **ZTASKEND** をコピーし、¥rexx ディレクトリに貼り付けます。

#### 警告

ZTASKEND REXX スクリプトをこのディレクトリにコピーしないと、Radia データベースを更新する際、上書きされることがあります。

3. ワードパッドなどのテキスト エディタを使って、**ZTASKEND** (¥rexx ディレクトリ) を開きます。

4. マネージャによって Radia Management Portal がインストールされる場合、下の「[図 2.19](#) ~ マネージャにより Radia Management Portal がインストールされる場合に ZTASKEND へ追加される行」に示す内容が ZTASKEND に追加されます。

---

```
/* Object post to Radia Management Portal */
IF ZCVT.RMP = "ENABLED" THEN DO;
  SAY "***<>*** RADIA MANAGEMENT PORTAL ENABLED CALLING RADISH POST: ROUTINE "
  SESSION.REASON = SUBWORD(MYPARM,2,1);
  ADDRESS EDMLINK "radish post: -section MGR_RMP /proc/rcs SESSION ZCONFIG
  ZMASTER APPEVENT ZSTATUS";
END;
```

[図 2.19](#) ~ マネージャにより Radia Management Portal がインストールされる場合に ZTASKEND へ追加される行

---

5. 「[図 2.19](#)」の行が ZTASKEND に含まれていることを確認します。
6. 必要に応じて、**ADDRESS EDMLINK** 行のパラメータの順序を「[図 2.19](#)」に示されている(下記部分の)順序と一致するように修正します。

```
ADDRESS EDMLINK "radish post: -section MGR_RMP /proc/rcs SESSION ZCONFIG
ZMASTER APPEVENT ZSTATUS";
```

7. 変更内容を保存してファイルを閉じます。

#### 注意

ZTASKEND は、テキスト ファイルとして保存しないでください。保存する際は、ファイル名に拡張子がないことを確認してください。

## EDMPROF.DAT を設定する

EDMPROF.DAT ファイルの [MGR\_RMP] セクションには、Radia Management Portal の HTTP HOST を指定します。製品が出荷される時点での EDMPROF.DAT ファイルは、Radia Management Portal と Radia Configuration Server が同一のコンピュータ上で動作するものとして設定されています。

Radia Management Portal と Radia Configuration Server が別々のコンピュータ上で動作している場合には、HOST および POST に正しい URL が指定されるよう EDMPROF.DAT ファイルの [MGR\_RMP] セクションを編集する必要があります。

デフォルト設定

```
HTTP_HOST = Localhost
HTTP_PORT = 3466
```

ここで行う編集のフォーマット

```
HTTP_HOST= HOST NAME
```

```
HTTP_PORT= 3466
```

または

```
HTTP_HOST= IPADDRESS
```

```
HTTP_PORT= 3466
```

EDMPROF.DAT ファイルを編集する手順は次のとおりです。

### EDMPROF.DAT ファイルを編集するには

1. Radia Configuration Server の **bin** フォルダで **edmprof.dat** ファイルを検索します。デフォルトの場所は **SystemDrive:\Novadigm\ConfigurationServer\bin** です。
2. **edmprof.dat** ファイルの編集を始める前に、そのバックアップ コピーを作成しておくようお勧めします。
3. お使いのテキスト エディタで **edmprof.dat** ファイルを開き、[MGR\_RMP] セクションを表示します(下の「[図 2.20 ~ edmprof.dat ファイルの \[MGR\\_RMP\] セクション](#)」を参照)。

```

-----*
* Manager Radia Management Portal Section *
* HTTP_HOST = Host name of Radia Management Portal (RMO) *
* Multiple hosts may be specified (space or comma separated) *
* for fail over *
* HTTP_PORT = IP Port number of RMP *
* NO restart required *
-----*
[MGR_RMP]
HTTP_HOST = localhost
HTTP_PORT = 3466

```

[図 2.20 ~ edmprof.dat ファイルの \[MGR\\_RMP\] セクション](#)

4. HTTP\_HOST に指定されている **localhost** を Radia Management Portal のホスト マシンのホスト名または IP アドレスに置き換えます。

たとえば、下の「[図 2.21](#)」では、**IP アドレス 11.11.11.11** を使って Radia Management Portal のホストが指定されています。ポート番号 3466 は、Radia Management Portal が使用するデフォルトのポート番号です。

```

-----*
[MGR_RMP]
HTTP_HOST = 11.11.11.11
HTTP_PORT = 3466

```

[図 2.21 ~ \[MGR\\_RMP\] セクションの HTTP\\_Host に Radia Management Portal の IP アドレスまたはホスト名を指定する](#)

5. 変更内容を保存し、テキスト エディタを終了します。

これで、`edmprof.dat` に指定されたとおり、リモート インストールされた Radia Management Portal を使用するよう Radia Configuration Server が設定されました。

#### 注意

Radia Configuration Server が、指定された Radia Management Portal を使用していることを検証するには、RCS ログのポストを監視するか、または Radia Management Portal クライアントを確認します (各クライアントには、Radia Subscriber セクションの下で配布されたサービスが表示されるため)。

## Radia Management Portal を起動/停止する

### Radia Management Portal を起動するには

1. 必要に応じて、Windows のサービス画面を表示します。たとえば Windows 2000 であれば、デスクトップ上の [マイ コンピュータ] を右クリックします。さらに [管理] を選択します。[サービスとアプリケーション] ノードを展開し、[サービス] をクリックします。
2. [Radia Integration Server] を右クリックし、[開始] を選択します。

### Radia Management Portal を停止するには

1. 必要に応じて、Windows のサービス画面を表示します。たとえば Windows 2000 であれば、デスクトップ上の [マイ コンピュータ] を右クリックします。さらに [管理] を選択します。[サービスとアプリケーション] ノードを展開し、[サービス] をクリックします。
2. [Radia Integration Server] を右クリックし、[停止] を選択します。

# Radia Management Portal にアクセスする

## Radia Management Portal にアクセスするには

1. Web ブラウザを開きます。
2. アドレス バーに、`http://<IP_Address または Host name >:3466` と入力します。
  - *IP\_Address* には、Portal ゾーン ディレクトリがインストールされているコンピュータの IP アドレスを指定します。
  - *Host name* には、Portal ゾーン ディレクトリがインストールされているコンピュータのホスト名を指定します。

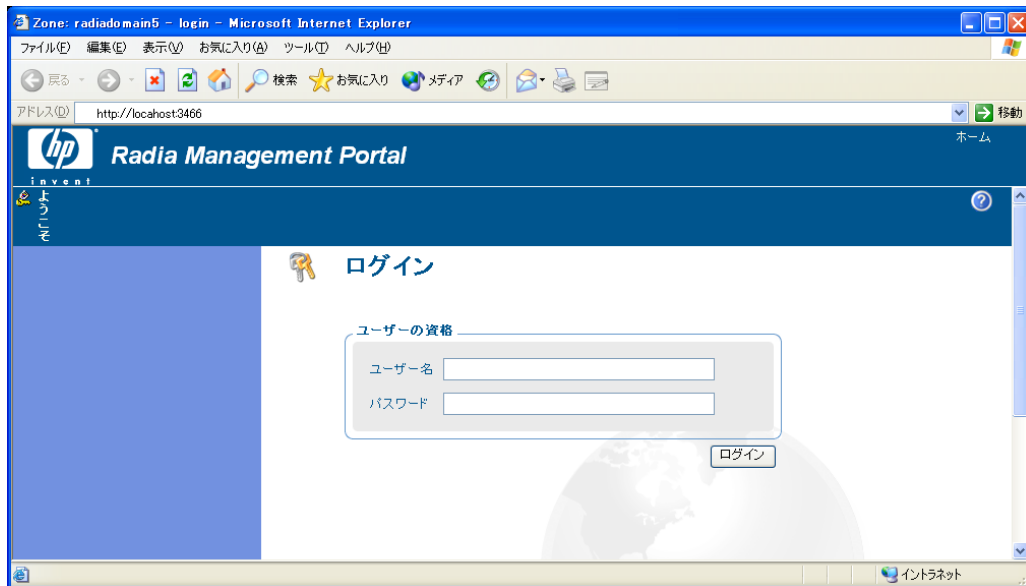


図 2.22 ~ Radia Management Portal のログイン ページ

### 注意

Radia Inventory Manager、Radia Policy Manager、またはマニュアル ライブラリが、Radia Management Portal と同じコンピュータ上にインストールされている場合には、右上のパナー領域 ([ホーム] リンクの横) にあるリンクを使用することができます。

たとえば、Radia Management Portal のパナー領域に INVENTORY と表示されている場合、そのリンクをクリックすれば Radia Inventory Manager にアクセスできます。

# ログオンする

## Radia Management Portal にログオンするには

1. [ユーザー名] ボックスに、ユーザー名を入力します。

- **Admin**

**Admin** を入力すると、無制限のアクセス権限を持つユーザーとして Radia Management Portal にログオンできます。この ID は変更しないことをお勧めします。

パスワードは **secret** です。

### 警告

Radia Management Portal をプロダクション環境に移行する際は必ず、事前にパスワードを変更してください。詳細については、58 ページの「パスワードを変更する」を参照してください。

- **Guest**

**Guest** を入力すると、タスクへのアクセス権限を持たない非認証ユーザーとしてログオンすることができます。

パスワードは必要ありません。

- **Operator**

**Operator** を入力すると、基本的なオペレーションへのアクセス権限を持つユーザーとしてログオンすることができます。

パスワードは必要ありません。

- **Test**

**Test** を入力すると、ごく一部のアクセス権限しか持たないテストユーザーとしてログオンすることができます。テストユーザーに対するエンタイトルメントオプションは、Portal 管理者としてログオンすると変更することができます。変更した場合、改めて **Test** でログオンすると、変更の結果を確認することができます。

パスワードは必要ありません。



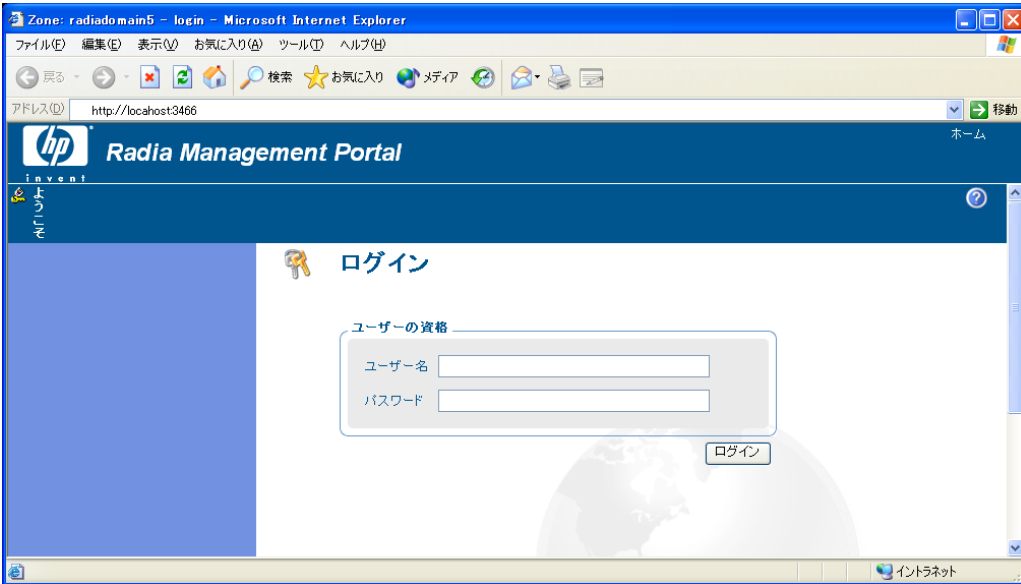


図 2.23 ~ Radia Management Portal のログイン ページ

- 必要に応じて、[パスワード] ボックスにパスワードを入力します。パスワードは、大文字と小文字が区別されます。

Admin ID 用のパスワードは **secret** です。その他の ID には、パスワードは必要ありません。

- [ログイン] をクリックします。

または

Enter キーを押します。

ユーザー ID がバナー領域 (インターフェイスの左上の領域) に表示され、ワークスペースには、最上位にある Radia ゾーン ディレクトリのアイコンが表示されます。詳細については、64 ページの「*Radia Management Portal* でタスクを実行する」を参照してください。

#### Radia Management Portal からログオフするには

- バナー領域にある [ログアウト] をクリックします。

## パスワードを変更する

パスワードを変更するには、ユーザー インターフェイス、およびタスクの実行に関する基本事項について十分な理解が必要です。パスワードの変更は、ユーザーごとに用意されている **[人を修正]** ダイアログ ボックスで行います。

Radia Management Portal のユーザー インターフェイスに関する詳細については、65 ページを参照してください。

- またタスクの実行に関する詳細については、64 ページの「*Radia Management Portal* でタスクを実行する」を参照してください。

### パスワードを変更するには

1. ナビゲーション支援を使用して、**[Directory]** の **[Zone]** ロケーションに移動します。ログオン直後のロケーションとなるデスクトップから、ワークスペースにある **[Directory]** をクリックし、さらに **[Zone]** をクリックします。
2. ワークスペースから **[Administrations & Operators]** をクリックします。
3. ワークスペースで、パスワード変更の対象となるユーザー (**Portal 管理者**など) を選択します。  
対象ユーザー用の **[Desktop]** コンテナおよび **[Sessions]** コンテナがワークスペースに表示されます。

#### 注意

**[ユーザー パスワード]** フィールドの入力内容は、**[プロパティ]** ダイアログ ボックスでは表示されませんが、対象ユーザーの **[プロパティの修正]** ダイアログ ボックスでは、別の記号に置き換えられて表示されます。

4. [モデル管理] タスク グループの [修正] をクリックします。  
[人を修正] ダイアログ ボックスが表示されます。

## 人を修正

プロパティ

説明	<input type="text" value="This user has complete access to the system."/>
表示名	<input type="text" value="Portal Administrator"/>
ユーザー パスワード	<input type="password" value="....."/>
外部ユーザー ID	<input type="text"/>
外部認証?	<input type="text" value="0"/>

グループ メンバーシップ

使用可能	選択済み
<ul style="list-style-type: none"><li>Account Administrators (account_admins)</li><li>Auditors (audit_admins)</li><li>Infrastructure Administrators (infrastructure_admins)</li><li>Operations Staff (opsys)</li><li>Package Administrators (package_admins)</li><li>Policy Administrators (policy_admins)</li><li>RCS Administrators (rcs_admins)</li><li>Service Administrators (service_admins)</li></ul>	<input type="text"/>

図 2.24 ~ [人を修正] ダイアログ ボックス。

5. [ユーザー パスワード] ボックスで、すべての文字がアスタリスクでマスキングされている古いパスワードを選択状態にし、そこへ新しいパスワードを入力します。

6. [修正] をクリックします。

[人を修正] ダイアログ ボックスが閉じ、この **Portal 管理者** 用の [Desktop] コンテナおよび [Sessions] コンテナがワークスペースに表示されます。

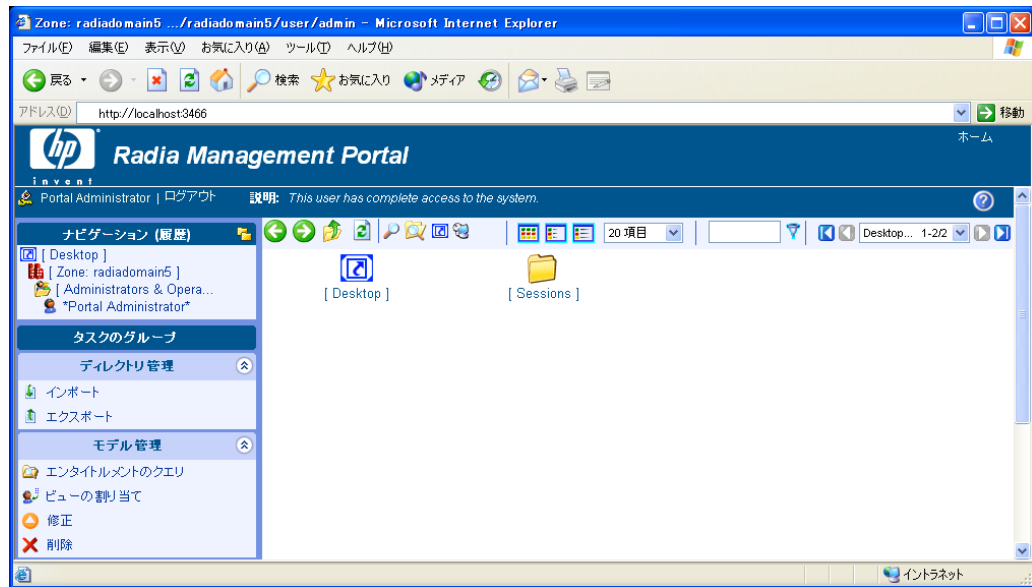



図 2.25 ~ Portal 管理者のパスワードを変更後の ナビゲーション支援

パスワードは変更されていますが、セキュリティ上の理由から表示はされません。

**注意**

各ユーザーのプロパティを表示するには、[Zone] の [Administrations & Operators] コンテナにある各ユーザー オブジェクトに移動し、[プロパティの表示] アイコン  をクリックします。

## まとめ

- 1つ目の **Radia Management Portal 2.0** を、ゾーン名を付けてインストールします。1つ目にインストールされたゾーンが企業内のマスターゾーンになります。
- 2つ目以降の **Radia Management Portal** ゾーンをインストールする場合は、**[オペレーション]** タスクグループの **[Management Portal のインストール]** タスクを使用します。**[Management Portal のインストール]** タスクにより、下位ゾーンがリモートにインストールされます。企業内の各ゾーン名は一意であることが必要です。
- パナー領域の **[ログアウト]** をクリックすると、**Radia Management Portal** からログオフできます。
- **[Zone]** にある **[Administrations & Operators]** コンテナからパスワードを変更します。ユーザーを選択し、**[モデル管理]** タスクグループで **[修正]** をクリックします。
- **Radia Management Portal** の新しいビルドを入手後、**[タスクを更新]** を実行すると使用可能なタスクを更新することができます。

Radia Management Portal をインストールする

# Radia Management Portal を使用する

この章は以下を目的としています。

- ロケーションモードおよび履歴モードでのナビゲーション支援の使用方法、デスクトップおよびショートカットの使用方法、ツールバーアイコンの使用方法など、Radia Management Portal 2.x のユーザーインターフェイスに理解する。
- Radia Management Portal 2.0 で使用できるタスクグループおよびタスクに理解する。
- インフラストラクチャ内のオブジェクトを表す新しいアイコンに理解する。
- ディレクトリの最上位レベルに存在する **[Zone]** コンテナに理解する。
- Radia Management Portal ゾーンの中の各ロケーションに移動する方法を習得する。
- ネットワーク、Radia Configuration Server 上にある Radia データベース、Active Directory をはじめとする LDAP ディレクトリなど、Radia Management Portal からアクセスできるように設定されたロケーションに移動する方法を習得する。
- **[RCS 管理]** タスクを使用して、Radia データベースのインスタンスが操作できるようになる。
- **[ポリシー]** タスクおよび **[ポリシー (詳細)]** タスクを使用して、Active Directory などの LDAP ディレクトリによるポリシーの割り当ておよび管理ができるようになる。

## Radia Management Portal でタスクを実行する

Radia Management Portal を使用する利点の 1 つに、操作手順の一貫性が挙げられます。これにより、インフラストラクチャ内のデバイスに通知を行う場合でも、リモート コンピュータに Radia Management Portal をインストールする場合でも、基本的には同じ手順に従って操作できます。

### Radia Management Portal でタスクを実行するには

1. ナビゲーション支援を使用して、タスクを実行するインフラストラクチャ内のロケーションを選択します。選択されたロケーションは**権限**とも呼ばれます。  
このマニュアルで説明するすべて手順には、それぞれ適切な開始ロケーションが示されています。すべてのタスクをまとめたリストについては、84 ページの「**タスクバーおよびタスクの概要**」を参照してください。
2. **[タスクのグループ]** タスクバーからタスクを選択します。
3. タスクの実行対象となるデバイス メンバーやジョブを実行するタイミングなど、タスクを実行する過程で必要となる情報をワークスペースに入力します。タスクの実行に関する詳細については、281 ページの「**タスクのライフサイクルについて**」を参照してください。



図 3.1 ~ Radia Management Portal でのタスクの実行

### 注意

Radia Management Portal のユーザー インターフェイスに関する詳細については、65 ページの「*Radia Management Portal 2.x のインターフェイスについて*」を参照してください。

また、個別のタスクに関する詳細については、「**管理機能**」および「**オペレーション機能**」の各章を参照してください。

RCS タスクおよび [ポリシー] タスクに関する詳細については、106 ページの「**[RCS 管理] タスクを使用する**」以下にある各トピックを参照してください。



# Radia Management Portal 2.x のインターフェイスについて

Radia Management Portal のユーザー インターフェイスは、いくつかの異なる領域から構成されています。

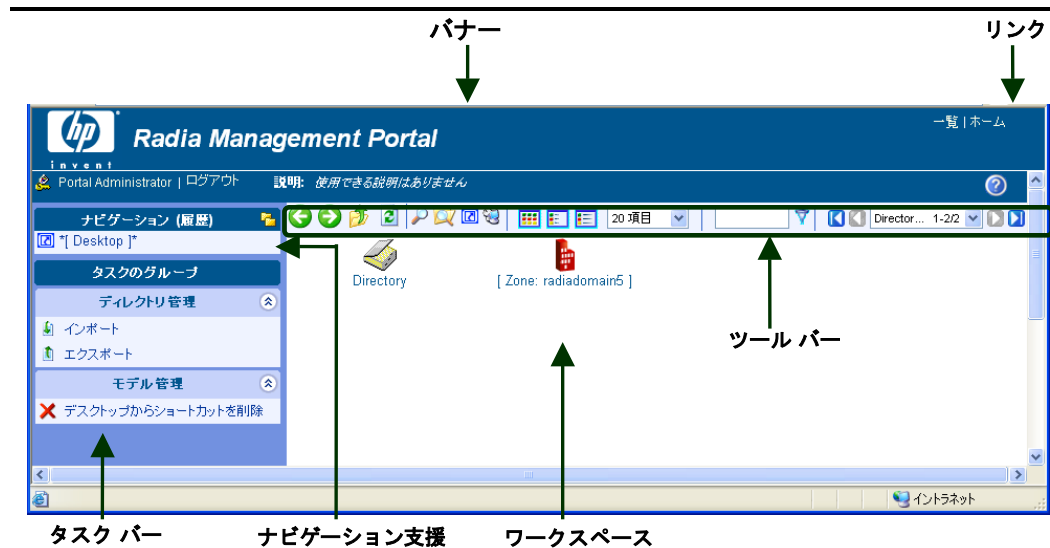



図 3.2 ~ Radia Management Portal 2.x のユーザー インターフェイス


- **バナー領域。** この領域については、66 ページで説明します。
- **ナビゲーション支援 (履歴モードまたはロケーションモード)。** 旧バージョンの「権限ナビゲーション支援」は「ナビゲーション支援」と改称されました。新しいナビゲーション支援には、「履歴」(デフォルト) および「ロケーション」(RMP 1.x リリースで使用) という 2 つのモードがあります。ナビゲーション タイトル バーの右上にあるアイコンを使用すれば、これら 2 つのモードをすばやく切り替えることができます。詳細については、69 ページの「2 つのナビゲーションモード (履歴モードとロケーションモード)」を参照してください。

- **デスクトップ ロケーション (新規)**。Radia Management Portal は、ユーザーがログオンすると、ナビゲーション (履歴) モードの下でデスクトップ レベルから開始されます。この開始ロケーションからは、Radia Management Portal ディレクトリのほか、現在の Radia Management Portal ゾーンに属するコンテナやオブジェクトにもすばやくアクセスできます。このバージョンでは、その他のロケーションやデバイスのショートカットをデスクトップに追加 (および削除) することができます。ディレクトリ レベルからは、外部の **Active Directory** にもアクセスできます。ただしこの場合、ポータル管理者があらかじめ、アクセスに関して外部の **Active Directory** を設定しておく必要があります。詳細については、73 ページの「デスクトップにアクセスする/戻る」を参照してください。
- **ナビゲーション インジケータ (新規)**。
  - ナビゲーション支援の中で、現在のロケーションに対応するエントリーは、2つのアスタリスク (\*) で囲まれます。このロケーションのオブジェクトは、ワークスペースに表示されます。
  - 角かっこ ([ ]) で囲まれたオブジェクトには、子オブジェクトが存在します。
- **タスク グループ (新規)**。全タスク グループのリストと、Radia Management Portal で使用できるすべてのタスクをまとめた表については、84 ページの「タスクバーおよびタスクの概要」を参照してください。
- **ツール バー アイコン ボタン (新規)**。詳細については、96 ページの「ツールバー」を参照してください。
- **Radia ゾーンのコンテナ オブジェクト (新規)**。100 ページの「Radia ディレクトリおよびRadia ゾーンのオブジェクト」を参照してください。

## バナー

バナー領域には、現在の Radia ディレクトリに関する説明、いくつかのリンク、および製品のバージョン情報が表示されます。

- **[ログアウト]** をクリックすると、Radia Management Portal (RMP) からログオフできます。
- **[ホーム]** をクリックすると、RMP のホーム ページに戻ります。これは、ナビゲーション (ロケーション) モードでのディレクトリ ロケーションです。
- マウス ポインタを  ボタンに合わせると、Radia Management Portal のバージョン番号が表示されます。たとえば、RMP V2.0 と表示された場合、その Radia Management Portal はバージョン 2.0 であることがわかります。

- ログイン後、 ボタンをクリックすると、Radia Management Portal コンポーネント モジュールのバージョンおよびビルド レベルに関する詳細情報が表示されます。HP テクニカル サポートに問い合わせをする際、この情報があると便利です。詳細については、387 ページの「バージョン情報のウィンドウを表示する」を参照してください。

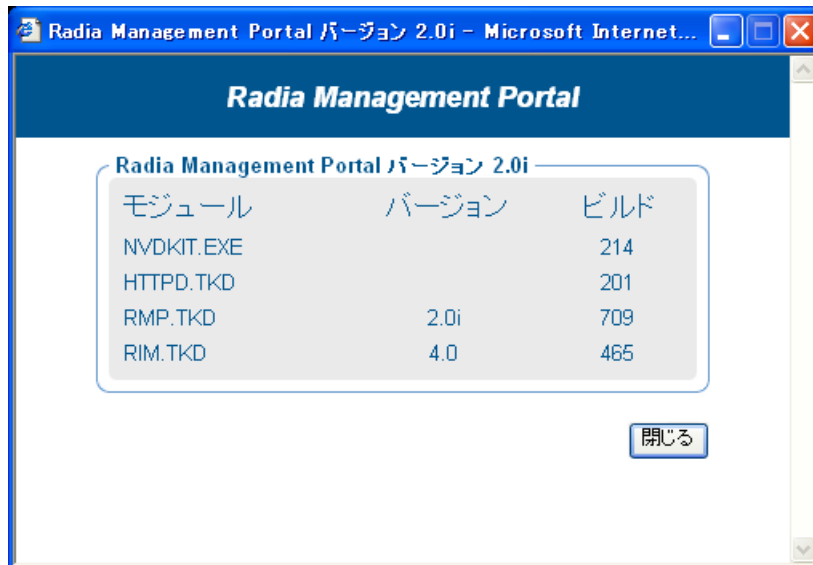


図 3.3 ~ [Radia Management Portal のバージョン情報が表示される] ウィンドウのサンプル

#### 注意

同じコンピュータ上にインストールされている Radia Inventory Manager や Radia Policy Manager へは、Radia Management Portal のバナーにあるそれぞれのリンク (**INVENTORY** または **POLICY**) をクリックすればアクセスできます。

また同じコンピュータ上にインストールされている Radia Publications Library へは、Radia Management Portal のバナーにある [**PUBS**] リンクをクリックすればアクセスできます。

## ナビゲーション支援を使用する

ナビゲーション支援を使用すると、タスクの実行対象となる Radia Management Portal ディレクトリの場所を一覧から選択することができます。Radia Management Portal で選択した各タスクは、選択した権限の範囲内で実行されるという原則を認識しておくことは重要です。

Radia Management Portal は、ユーザーがログオンすると、ナビゲーション (履歴) モードの下でデスクトップレベルから開始されます。

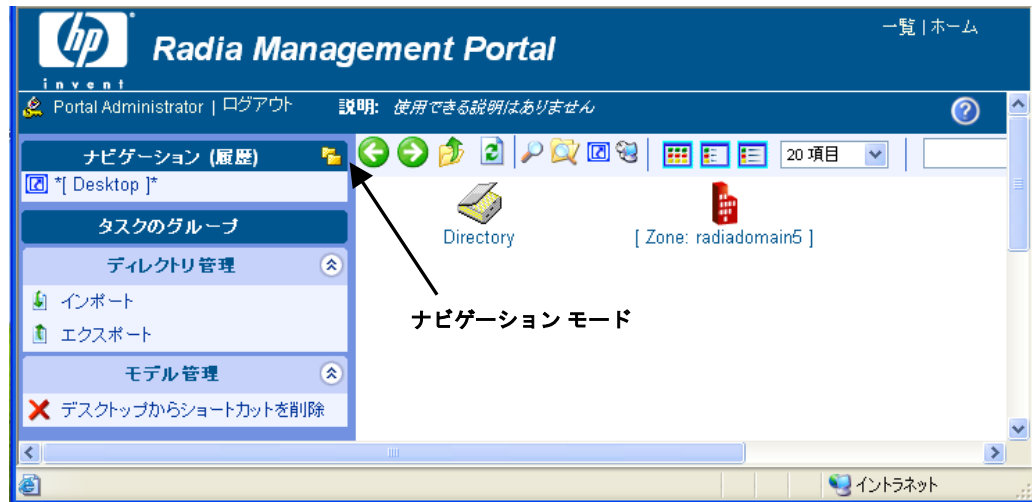


図 3.4 ~ ナビゲーション (履歴) モードでの最初のデスクトップ ロケーション


この最初のデスクトップ ロケーションからは、Radia Management Portal ディレクトリのほか、現在の Radia Management Portal ゾーンに属するコンテナやオブジェクトにもすばやくアクセスできます。

また、頻繁に使用するオブジェクトにすばやく移動できるよう、デスクトップにショートカットを追加することができます。詳細については、73 ページの「デスクトップにショートカットを追加する」を参照してください。

## 2つのナビゲーションモード (履歴モードとロケーションモード)

ナビゲーションには、ナビゲーション (履歴)  とナビゲーション (ロケーション)  という2種類のモードがあります。アイコンをクリックすれば、いつでもモードを切り替えることができます。

### ■ ナビゲーション (履歴)

Radia Management Portal にログインした時の、デフォルトのナビゲーションモードです。ナビゲーション (ロケーション) モードに切り替える場合は、 をクリックします。

ナビゲーション支援 (履歴モード) では、ナビゲーションパスが記録されます。ナビゲーション (履歴) に記録されているエントリをクリックするだけで、以前アクセスしたことのあるロケーションにすばやく戻ることができます。

- ナビゲーション支援の中で、現在のロケーションに対応するエントリは、2つのアスタリスク (\*) で囲まれます。このロケーションのオブジェクトは、ワークスペースに表示されます。
- 角かっこ ([ ]) で囲まれたオブジェクトには、子オブジェクトが存在します。

たとえば下に示した「[図 3.5](#)」からは、ユーザーの現在のロケーションは ACME Corp ゾーン レベルであり、[Zone] の [Network] コンテナに属する [Microsoft Windows Network] オブジェクトに以前アクセスしたということがわかります。

履歴モードを使用すると、これまでにアクセスしたロケーションの間を直接行き来することができます。

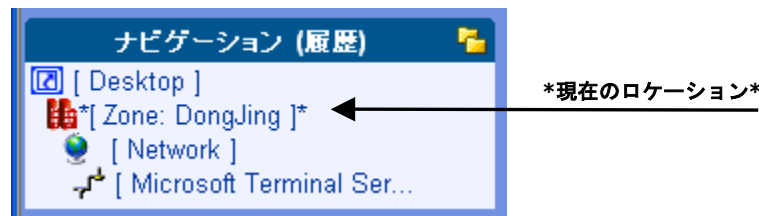


図 3.5 ~ ナビゲーション (履歴) に記録されている以前アクセスしたロケーションのサンプル。アスタリスク (\*) は現在のロケーションを示す。

### ■ ナビゲーション (ロケーション)


このモードでは、タスクの実行対象となるディレクトリ内のロケーションを、ディレクトリ構造の中から選択することができます。ナビゲーション (履歴) モードに切り替える場合は、 をクリックします。

図 3.6 は、ナビゲーション (ロケーション) モードでのデスクトップ ロケーションを表示したものです。デスクトップは、[Zone] の [Administrations & Operators] コンテナにある現在のユーザー エントリによって異なります。

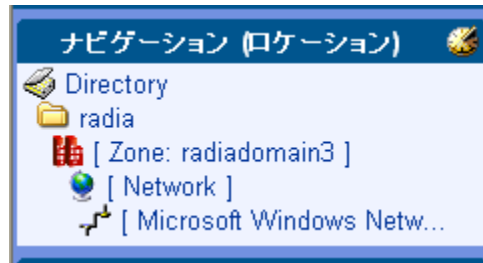


図 3.6 ~ ナビゲーション (ロケーション) モードでのデスクトップ ロケーションのサンプル

## ナビゲーションセッションの例: ネットワーク オブジェクトを表示する

以下に示す一連の手順を例に、Radia Management Portal ゾーンのコンテナ間の移動、およびネットワーク上から自動的に検出されるオブジェクトの表示について詳しく説明します。

### Portal ディレクトリおよび Microsoft Windows Network にアクセスするには

1. 初めてログオンすると、ナビゲーション支援に **[Desktop]** が表示されます。デスクトップ以外のロケーションにいる場合は、バナー領域の **[ホーム]** をクリックしてから、ナビゲーション領域の **[Desktop]** エントリをクリックします。

Radia Management Portal ディレクトリ オブジェクトが、ワークスペースに表示されます。

2. ワークスペースで、**[Zone]** をクリックします。



図 3.7 ~ 権限 - デスクトップからアクセスした [Zone] コンテナ

このゾーンの最上位にあるオブジェクトが、ワークスペースに表示されます。詳細については、101 ページの「**Zone のコンテナについて**」を参照してください。

### 注意

このリリースでは、**[Zone]** レベルのコンテナ オブジェクトとして、**Configuration**、**Cross References**、**Devices**、**Groups**、および **Zone Access Points** の各コンテナが新たに追加されました。

3. ワークスペースで、**[Network]** をクリックします。

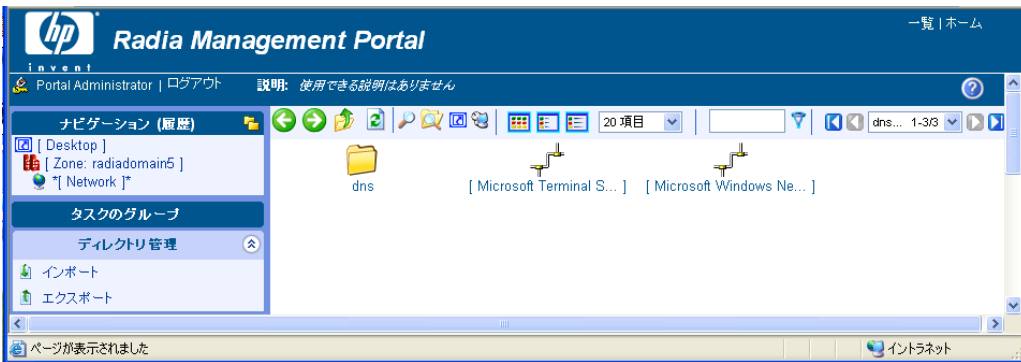




図 3.8 ~ 権限 – [Zone] の [Network] コンテナ

この段階で、ナビゲーション支援には **[Desktop]**、**[Zone]**、および **[Network]** が表示されます。これが選択された権限です。

検出されたオブジェクトの Microsoft Windows Network 以外にも、DNS、Microsoft Terminal Services、Netware、および Web Client Networks にそれぞれ対応するエントリが存在します。そのリストは、各企業のネットワーク、およびマウントポイントとして設定されているネットワークによって異なります。140 ページの「**ディレクトリ サービスを設定する**」を参照してください。

4. ワークスペースで、**[Microsoft Windows Network]** をクリックします。

- 大規模なネットワークでは、オブジェクトの共通名を基に、フィルタ オプションおよびページング オプションを使用してオブジェクトを検索します。
  - たとえば、フィルタ用のテキスト ボックスに **\*nt\*** と入力し  をクリックすると、名前に「nt」が含まれるオブジェクトのみ表示されます。フィルタを無効にする場合は、入力内容を削除して  をクリックします。
  - 1 ページあたりのアイテム数の最小値を設定した上で、**[ブラウズ]** ボタンまたは特定のページを選択できる **[ページ]** ボックスの一覧を使用して、選択肢となるアイテムをページごとに表示します。

### 注意

各環境についての情報は自動的に検出されるため、個々の環境における Microsoft Windows Network 内のオブジェクトは、この例で使用されるオブジェクトとは異なります。



図 3.9 ~ Microsoft Windows Network に含まれるオブジェクトの選択肢の表示

- デスクトップに戻り、ナビゲーション支援の **[Desktop]** をクリックします。



## デスクトップにアクセスする/戻る

デスクトップは、ログオン時にアクセスするデフォルトのロケーションです。セッションの途中でデスクトップに戻る手順は以下のとおりです。

1. [ホーム] をクリックします。[ホーム] は、バナー領域の右上にあります。  
[ホーム] をクリックすると、ナビゲーション (履歴) モードの [Directory] レベルに戻ります。

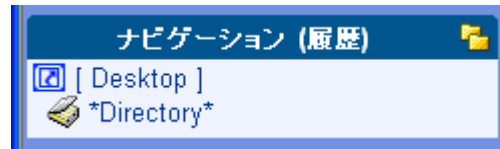


図 3.10 ~ [ホーム] を使用してディレクトリまたはデスクトップに戻る

---

2. ナビゲーション支援の [Desktop] エントリをクリックします。

## デスクトップにショートカットを追加する

このバージョンでは、Radia Management Portal の新しくなったデスクトップ ロケーションにショートカットが追加できるようになりました。デスクトップ ロケーションは、ユーザーごとに異なります。

### デスクトップにショートカットを追加するには

1. ナビゲーション (履歴) モードにします。
2. インフラストラクチャ内の特定のデバイス グループやロケーションへのショートカットを作成するには、まずそのデバイスやロケーションに移動します。たとえば下の図のように、[Zone]、[Groups]、[Default Group] を順に選択し、デバイスのデフォルト グループに移動します。

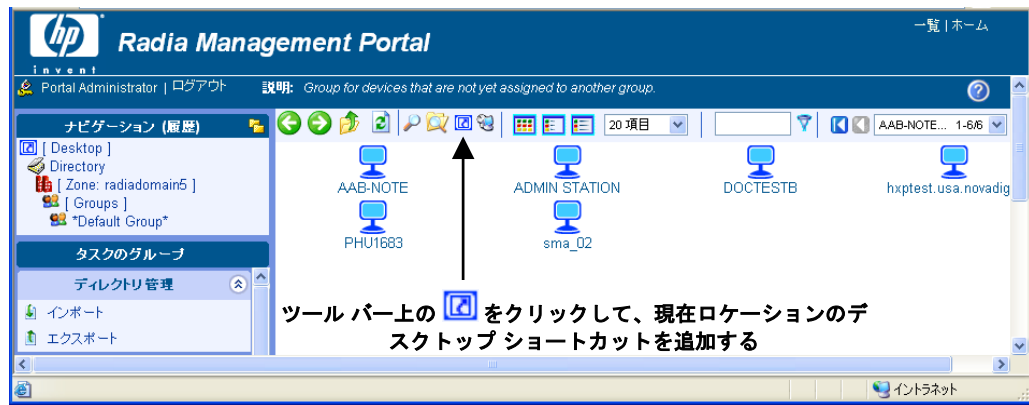


図 3.11 ~ ショートカットとしてデスクトップに追加するオブジェクト


3. ショートカットを作成するロケーションに移動したら、ツールバー上の [デスクトップショートカットを追加] アイコン  をクリックします。  
[ショートカットを追加] ウィンドウが表示されます。



図 3.12 ~ [Default Group へのショートカットを追加] ウィンドウ (確認用ウィンドウ)

4. ショートカットの追加を確認するメッセージが表示されたら、✓をクリックします。

または

ショートカットの追加をキャンセルする場合は、✗をクリックします。

✓をクリックすると、デスクトップにショートカットが追加されます。

デスクトップ上のショートカットは、削除しない限りセッションのたびに表示されます。

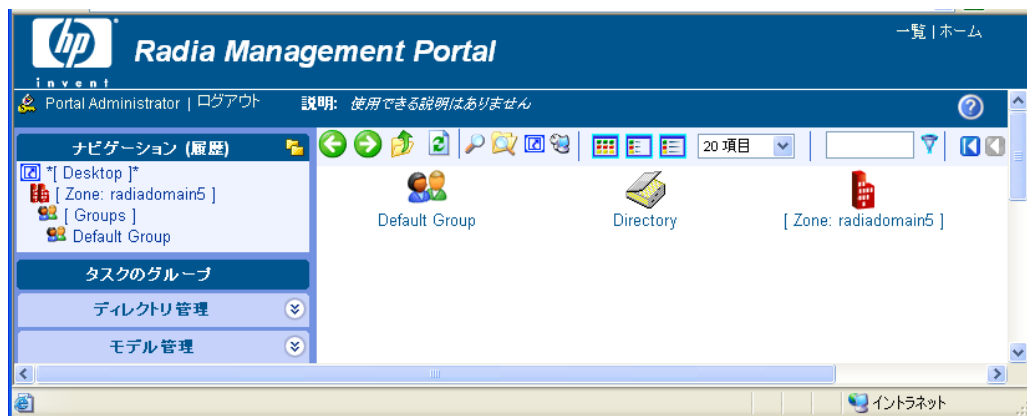


図 3.13 ~ [Default Group] へのショートカットが追加されたデスクトップ

## デスクトップからショートカットを削除する

[モデル管理] タスク グループの [デスクトップからショートカットを削除] タスクを使用すると、デスクトップに追加したショートカットを削除することができます。

### デスクトップからショートカットを削除するには

1. デスクトップ ロケーションに戻ります。必要に応じて、73 ページの「デスクトップにアクセスする/戻る」を参照してください。

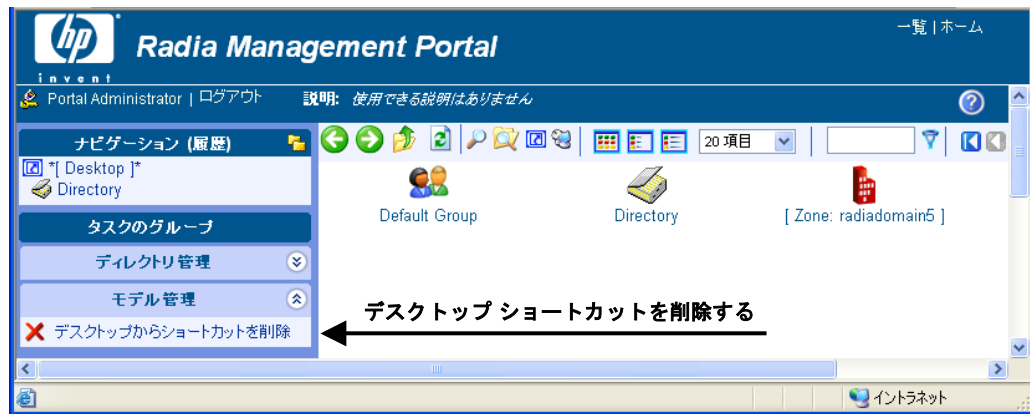


図 3.14 ~ [モデル管理] グループから [デスクトップからショートカットを削除] タスクを選択

2. [モデル管理] タスク グループの [デスクトップ ショートカットの削除] をクリックします。  
[オブジェクトの削除] ウィンドウが開き、[使用可能] カラムにデスクトップ ショートカット オブジェクトが表示されます。

## オブジェクト の削除



図 3.15 ~ デスクトップ から削除するショートカットを選択するための [オブジェクトを削除] ウィンドウ

3. デスクトップ から削除するショートカットを [選択済み] カラムに移動します。カラムの間でショートカットを移動する際は、**矢印**のアイコン ボタンを使用するか、各エントリをダブルクリックします。

- 削除するショートカットをすべて [選択済み] カラムに移動したら、[次へ] をクリックします。  
[オブジェクトの削除] の [要約] ダイアログ ボックスが表示されます。[選択されたオーディエンス] 領域に、デスクトップから削除されるショートカットのリストが表示されます。

---

## オブジェクト の削除

1 選択 — 2 要約

選択されたオーディエンス

Default Group

サブミット 戻る キャンセル

図 3.16 ~ デスクトップから削除するショートカットについての [要約] ページ

---

- [サブミット] をクリックすると、[選択されたオーディエンス] 領域に表示されているショートカットがデスクトップから削除されます。  
削除されると自動的にデスクトップ ロケーションへ戻ります。削除されなかったショートカットのみが表示されます。

## Portal ディレクトリおよび [Zone] 内のコンテナ間を移動する

### 注意

「権限ナビゲーション支援」は「ナビゲーション支援」と改称されました。

ナビゲーション支援を使用すると、インフラストラクチャをブラウズしながら、タスクを実行するロケーションが選択できます。*Radia Management Portal* で選択した各タスクは、選択した権限レベルの範囲内で実行されるという原則を認識しておくことは重要です。

ここでは具体例を基に、Microsoft Windows Network 内の権限を選択する方法について説明します。

## Zone 内のコンテナ間を移動するには

1. ナビゲーション (履歴) モードで Portal Directory Zone の各コンテナにアクセスするには、**[Desktop]** をクリックします。  
デスクトップ内のオブジェクトがワークスペースに表示されます。

### 注意

ナビゲーション (ロケーション) モードでは、**[Desktop]** が常にナビゲーション支援の最上位エントリとなります。

2. ワークスペースで **[Zone]** アイコンをクリックします。



図 3.17 ~ 権限 - デスクトップからアクセスした [Zone] コンテナ

このゾーン ディレクトリの最上位にあるオブジェクトが、ワークスペースに表示されます。これらが **Zone** のコンテナです。

### 注意

このリリースでは、[Zone] の [Directory] レベルのオブジェクトとして、**Configuration**、**Cross References**、**Devices**、**Groups**、および **Zone Access Points** の各コンテナが新たに追加されました。

- ワークスペースで **[Devices]** をクリックします。

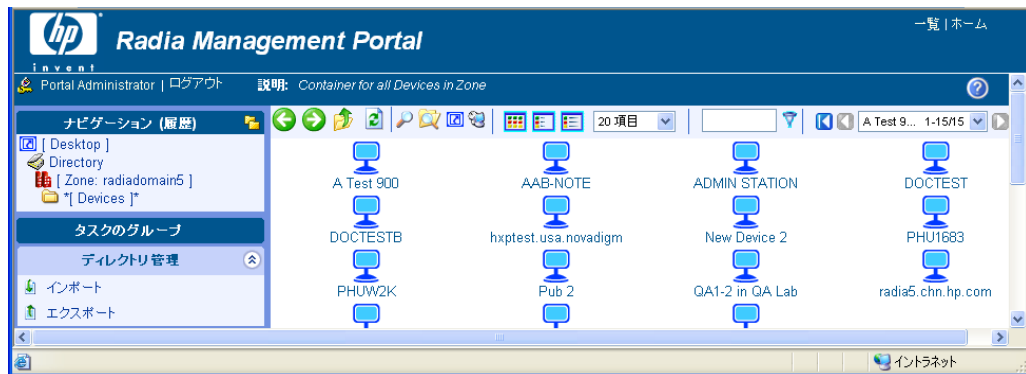



図 3.18 ~ 権限 - [Zone] の [Devices] コンテナ

この段階で、ナビゲーション支援には **[Desktop]**、**[Zone]**、および **[Devices]** が表示されます。これが選択された権限です。

この Radia Management Portal ゾーンで管理されている各デバイスは、対応するエントリが必ず **[Devices]** コンテナに含まれています。デバイスを管理するにはいくつかの方法があります。これについては、160 ページの「デバイスおよびデバイス グループを設定する」で説明します。

通常 **[Devices]** コンテナは、その大部分が自己管理型です。つまり、その他のタスクを実行すると、**[Devices]** コンテナ エントリの作成や更新が Radia Management Portal によって自動的に行われます。

**[Devices]** コンテナおよび Zone のその他のコンテナの詳細については、101 ページの「Zone のコンテナについて」を参照してください。

- ここで、ゾーン レベルのコンテナに戻ります。次のどちらかの操作を行います。
  - ツール バー アイコン  をクリックし、ナビゲーション パスの 1 つ上のレベルへ移動する。または
  - ナビゲーション支援の **[Zone]** エントリをクリックする。



ワークスペースに、[Zone] のコンテナが再度表示されます。ただしナビゲーションパスには、これまでにアクセスしたロケーションがすべて表示されます。



図 3.19 ~ [Devices] コンテナへのアクセスが反映されたナビゲーション履歴のサンプル

5. ワークスペースの [Groups] コンテナをクリックします。

[Groups] コンテナに現在あるデバイス グループがすべて、ワークスペースに表示されます。Radia Management Portal がインストールされた直後であれば、表示されるのは [Default Group] オブジェクトのみです。Radia Management Portal がインストールされてからある程度期間が経っていれば、通常は、ユーザーにより作成されたさまざまなグループがこのコンテナに表示されます。

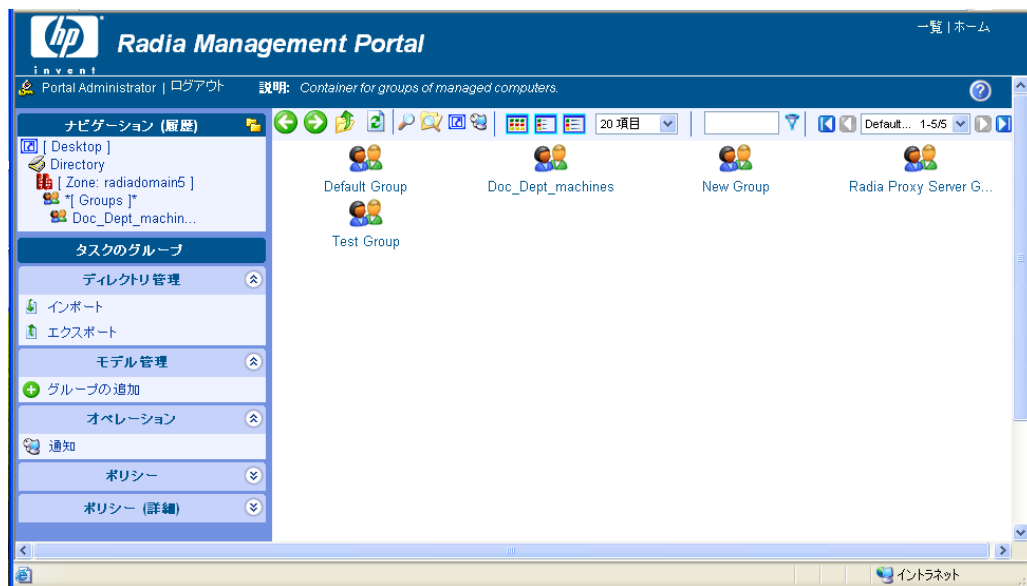



図 3.20 ~ 3 つのデバイス グループを持つ [Zone] の [Groups] コンテナのサンプル

[Groups] コンテナは、Radia Management Portal の中でも、オペレーションの実行に必要な非常に重要なコンテナです。ほとんどすべてのタスクは、デバイス グループに対して実行されます。

[Devices] コンテナに属するデバイスは、こうしたグループのメンバーシップを保持するだけであり、デバイス オブジェクトそのものが、グループ コンテナ内に存在するわけではありません。グループ メンバーシップは、追加や削除を自由に行えます。

グループを作成する方法や、グループにデバイスを追加またはインポートする方法に関する詳細については、177 ページの「ゾーンインフラストラクチャを設定する」を参照してください。

- ワークスペースで [Default Group] オブジェクトをクリックした後、ツールバーの [プロパティの表示] アイコン  をクリックします。

[Default Group] オブジェクトの [グループのプロパティ] ページが表示されます。



図 3.21 ~ 各メンバーへのリンクを持つ [Default Group] の [グループのプロパティ] ページ

[プロパティ] 領域の [メンバー] エントリの下には、グループ内の各デバイスがリンクと共に表示されます。

7. [Default Group] の [グループのプロパティ] ページで、メンバーのリンクをいずれか1 つクリックします。
- そのリンクに対応する [デバイスのプロパティ] ページが表示されます。



図 3.22 ~ 各メンバーへのリンクを持つ [Default Group] の [デバイスのプロパティ] ページ

### 注意

ナビゲーション (ロケーション) モードに切り替えると、実際にはこのページが [Devices] コンテナの中にあることが確認できます。

各デバイスの [プロパティ] ページには、**グループ メンバーシップ**が表示されます。「図 3.22」に表示されているデバイスは、**Default Group** およびユーザーが作成した **doc\_dept\_machines** という 2 つのグループのメンバーになっています。

8. デスクトップにすばやく戻る場合は、バナー領域の右上にある [ホーム] リンクをクリックします。
9. [ホーム] を使用すると、ナビゲーション (履歴) 領域のエントリがすべて消去されます。
- [Zone] 内のコンテナにアクセスする方法、およびコンテナ間を移動する方法についての説明は以上です。次のトピックでは、タスクバー、タスク、および便利なツールバー ボタンについて説明します。

## タスクバーおよびタスクの概要



ナビゲーション支援を使用してインフラストラクチャにアクセスすると、タスクバーが表示されます。タスクバーには、タスクを分類したいくつかのグループ (タスク グループ) が表示されます。タスクとは、ジョブを開始するためにユーザーが行う作業のことです。使用できるタスクは、選択したナビゲーション ロケーションや、各ユーザーに設定されたロールにより異なります。

標準的なタスク グループは以下のとおりです。

- ディレクトリ管理
- インフラストラクチャ
- 一覧の管理
- モデル管理
- オペレーション
- ポリシーの管理
- ポリシー (詳細)
- RCS 管理

ツール バーのアイコンから直接起動できるタスクについては、96 ページの「ツールバーのタスク」を参照してください。

また、タスク グループの追加、修正、および削除に関する詳細については、206 ページの「タスク グループを設定する」を参照してください。

各タスク グループの表示を最大化する場合は 、最小化する場合は  をそれぞれクリックします。

### [ディレクトリ管理] タスク グループ

[ディレクトリ管理] タスク グループは、Radia Management Portal ディレクトリの管理に使用します。

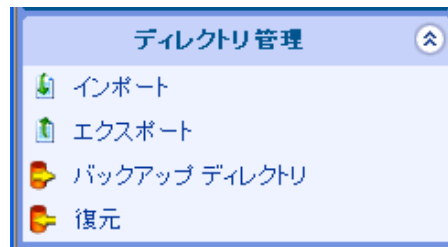


図 3.23 ~ [ディレクトリ管理] タスク グループの表示例

- **[バックアップディレクトリ]**   
[バックアップディレクトリ]をクリックすると、Radia Management Portal ゾーンディレクトリ全体のバックアップを作成することができます。詳細については、240 ページの「Portal ゾーンディレクトリのバックアップを作成する」を参照してください。
- **[エクスポート]**   
[エクスポート]をクリックすると、Radia Management Portal ゾーンディレクトリの一部が LDIF (LDAP Data Interchange Format) ファイルにエクスポートできます。詳細については、249 ページの「Portal ディレクトリからデータをエクスポートする」を参照してください。
- **[インポート]**   
[インポート]をクリックすると、LDIF (LDAP Data Interchange Format) ファイルが Radia Management Portal ゾーンディレクトリにインポートできます。詳細については、252 ページの「Portal ディレクトリにデータをインポートする」を参照してください。
- **[復元]**   
[復元]をクリックすると、Portal ゾーンディレクトリ全体のバックアップを復元することができます。詳細については、245 ページの「Portal ディレクトリを復元する」を参照してください。
- **[タスクを更新]**   
Radia Management Portal の新しいビルドを入手後、[タスクを更新]をクリックすると使用可能なタスクが更新できます。[Zone]、[Configuration]、[Tasks] コンテナの順に選択すると使用できるようになります。詳細については、257 ページの「タスクを更新する」を参照してください。

## [インフラストラクチャ] タスク グループ

[インフラストラクチャ] タスク グループは、Radia Configuration Server 上の Radia データベースや Active Directory サービスなどの外部サービスに開始したり、停止したりする場合に使用します。各サービスは、**[Zone]**、**[Configuration]**、**[Directory Services]** コンテナの順に選択することでアクセスできるように設定されています。

### 2.0 [ディレクトリ サービスを開始]

[ディレクトリ サービスを開始] をクリックすると、Radia Configuration Server 上のプライマリ Radia データベースや、Active Directory サービスをはじめとするその他のディレクトリ サービスに接続できます。詳細については、152 ページの「ディレクトリ サービスを起動する」を参照してください。

### 2.0 [ディレクトリ サービスを停止]

[ディレクトリ サービスを停止] をクリックすると、Radia Configuration Server 上のプライマリ Radia データベースや、Active Directory サービスをはじめとするその他のディレクトリ サービスなど、外部のサービスへの接続を切断することができます。詳細については、154 ページの「ディレクトリ サービスを停止する」を参照してください。

## [モデル管理] タスク グループ

[モデル管理] タスク グループは、Radia Management Portal ディレクトリおよびゾーンの管理に使用します。

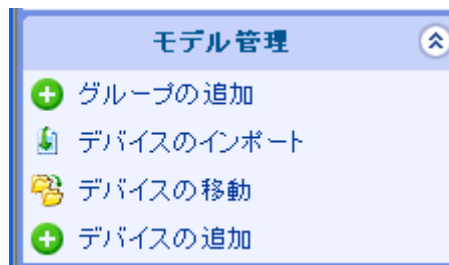












図 3.24 ~ [モデル管理] タスク グループの表示例 (デバイス グループ用)

以下のリストは、Radia Management Portal で使用可能な [モデル管理] タスクをすべて列挙したものです。ただし実際に使用できるタスクは、選択したナビゲーション ロケーションによって異なるため、以下で説明するタスクの中には、「図 3.24」に表示されていないものもあります。

- **[オブジェクト タイプの追加]**   
**[オブジェクト タイプの追加]** タスクをクリックすると、デバイス、デバイス グループ、サーバー、ユーザー、ユーザー グループ、代理管理、タスク グループ、ディレクトリ サービスなど、選択した権限の中にオブジェクトが作成できます。このリリースの新しいオブジェクト タイプについては後述します。
- 2.0** **[デバイスの追加]**   
**[デバイスの追加]** をクリックすると、[Zone] に対して新しいデバイスを定義した上で、[Zone] の [Groups] コンテナに属する [Default Group] またはその他のグループのメンバーシップがそのデバイスに付与できます。このタスクを実行すると、[Zone] の [device] コンテナの中にデバイスのエントリが自動的に作成されます。詳細については、160 ページの「RMP ゾーンにデバイスを追加する」を参照してください。
- 2.0** **[ディレクトリ サービスの追加]**   
新しい **[ディレクトリ サービスの追加]** タスクをクリックすると、Radia Management Portal ゾーンと、Radia Configuration Server の ZTOPTASK サービスなど他のディレクトリ サービスとの接続が設定できます。このタスクは、[Zone]、[Configuration]、[Directory Services] コンテナの順に選択することで、使用できるようになります。詳細については、141 ページの「ディレクトリ サービスを追加する」を参照してください。
- 2.0** **[グループの追加]**   
[device] コンテナから **[グループの追加]** をクリックすると、オペレーションを実行する対象として複数のデバイスをひとまとめにしたグループを新たに作成することができます。詳細については、183 ページの「グループを追加する」を参照してください。1 つのタスクで、複数のメンバーをグループに移動または追加する場合や、デバイスをグループにインポートする場合は、**[デバイスのインポート]** タスクの項を参照してください。
- 2.0** **[インストール プロファイルの追加]**   
**[インストール プロファイルの追加]** をクリックすると、[Radia Client のインストール] タスクの実行時に選択できるカスタム プロファイルが定義できます。**[インストール プロファイルの追加]** は、[Zone]、[Configuration] コンテナ、[Profiles]、[Radia Products]、[Client Installs] の順に選択すると、使用できるようになります。詳細については、317 ページの「インストール プロファイルの追加、修正、および削除を行う」を参照してください。
- **[無効]**   
**[無効]** をクリックすると、ジョブまたはジョブ グループの処理が実行されなくなります。詳細については、268 ページの「ジョブまたはジョブ グループを無効にする」を参照してください。

- **[有効]**   
[有効] をクリックすると、次回の実行スケジュールからジョブまたはジョブ グループの処理を再開することができます。詳細については、269 ページの「ジョブまたはジョブ グループを有効にする」を参照してください。
- **2.0** **[デバイスのインポート]**   
[デバイスのインポート] タスクをクリックすると、DNS 名がフルパスで指定されたデバイスのリストが、[Zone] の [device] コンテナに追加できます。これらのデバイスは、このタスクの開始ロケーションである [Zone] の [device] コンテナのメンバーになります。詳細については、197 ページの「デバイスをインポートする」を参照してください。
- **[修正]**   
[修正] をクリックすると、オブジェクトが修正できます。たとえば、それぞれの管理者がアクセスできる Radia Management Portal の領域を変更したり、ジョブ グループのスケジュールを変更したりすることが可能です。詳細については、204 ページの「オブジェクトを変更する」または 262 ページの「ジョブ グループを修正する」を参照してください。
- **2.0** **[デバイスの移動]**   
[デバイスの移動] タスクをクリックすると、[Zone] の [Groups] コンテナから選択したグループに、その他のグループのメンバーであるデバイスを移動またはコピーすることができます。詳細については、190 ページの「グループにデバイスを移動する」を参照してください。
- **[クエリ]**   
[クエリ] (ツール バーからも使用可能) をクリックすると、ディレクトリ ツリーから情報を抽出したり、ジョブの対象をある範囲に制限したりすることができます。たとえば、タスクのスケジュールを設定する特定のオーディエンスを検索することが可能です。詳細については、284 ページの「クエリを実行する」を参照してください。
- **[ジョブのクエリ]**   
[ジョブのクエリ] をクリックすると、既存ジョブの検索やステータス確認、およびその内容変更を行うことができます。詳細については、264 ページの「ジョブまたはジョブ グループのクエリを行う」を参照してください。
- **[ユーザーの代理管理のクエリ]**   
[ユーザーの代理管理のクエリ] をクリックすると、ユーザーのロールに関する情報を表示することができます。詳細については、226 ページの「ユーザーの代理管理のクエリを行う」を参照してください。
- **[削除]**   
[削除] をクリックすると、オブジェクトとそのすべての子を、Radia Management Portal ディレクトリから削除することができます。詳細については、205 ページの「オブジェクトを削除する」または 270 ページの「ジョブまたはジョブ グループを削除する」を参照してください。



- 2.0** **【デスクトップからショートカットを削除】**  **【デスクトップからショートカットを削除】** をクリックすると、以前に追加したショートカットを、デスクトップ ロケーションから削除することができます。詳細については、76 ページの「デスクトップからショートカットを削除する」を参照してください。
- **【失敗したジョブの再開】**  **【失敗したジョブの再開】** をクリックすると、現在のジョブ グループに表示されている失敗したジョブを再開することができます。詳細については、267 ページの「ジョブ グループの失敗したジョブを再開する」を参照してください。
  - **【停止】**  **【停止】** をクリックすると、アクティブなジョブ グループの実行を停止することができます。267 ページの「ジョブ グループを停止する」を参照してください。
  - **【プロパティの表示】**  **【モデル管理】** タスク グループの **【プロパティの表示】** をクリックするか、ツール バーの  をクリックすると、オブジェクトのプロパティを表示することができます。詳細については、272 ページの「プロパティを表示する」を参照してください。


## [オペレーション] タスク グループ

[オペレーション] タスク グループは、Radia インフラストラクチャに対してオペレーションを実行する際に使用します。このリリースでは、以下のタスクが新たに追加されました。




図 3.25 ~ [オペレーション] タスク グループの表示例


以下の表は、Radia Management Portal で使用できるオペレーションとその説明をまとめたものです。ただし実際に使用できるタスクは、選択した権限によって異なるため、以下で説明するタスクの中には、上記の「図 3.25」に表示されていないものもあります。

**2.0** [ジョブ シーケンスの追加] 


[ジョブ シーケンスの追加] を使用すると、ジョブ シーケンスを定義することができます。このタスクには、[Jobs] コンテナからアクセスします。ジョブ シーケンスの作成は、数多くのデバイスに共通のジョブを多数のゾーンにわたって管理する上で有効な手段です。詳細については、362 ページの「ジョブ シーケンスを作成する」を参照してください。

**2.0** [タスク テンプレートの追加] 


[タスク テンプレートの追加] は、[Zone] の [Configuration] コンテナ内にある [Task Templates] コンテナから使用することができます。[タスク テンプレートの追加] を使用すると、タスク タイプとして [通知] や [RPS のインストール] などを事前に設定し、それをタスク テンプレートとして保存することができます。タスク テンプレートは、[ゾーン オペレーションのスケジュール] タスクを実行する際に選択して適用することができます。詳細については、341 ページの「タスク テンプレートを追加する」を参照してください。

■ [ヘルプ デスク通知] 


ツール バー上の [ヘルプ デスク通知] アイコンをクリックすると、既知の名前を持つ個々のコンピュータに対して、通知をすばやく行うことができます。詳細については、294 ページの「[ヘルプ デスク通知] を使用する」を参照してください。

■ [Radia Client のインストール] 

[Radia Client のインストール] をクリックすると、Radia Client をリモート コンピュータ上にインストールすることができます。詳細については、313 ページの「Radia Client をインストールする」を参照してください。クライアント インストール プロファイルは複数を使用することができます。詳細については、317 ページの「複数のプロファイルを使用したリモート インストールのサポート」を参照してください。

■ [管理エージェントのインストール] 


[管理エージェントのインストール] をクリックすると、Radia 管理エージェントをリモート コンピュータ上にインストールすることができます。詳細については、305 ページの「Radia 管理エージェントをインストールする」を参照してください。

■ [Proxy Server のインストール] 


[Proxy Server のインストール] をクリックすると、Radia Proxy Server をリモート コンピュータ上にインストールすることができます。詳細については、330 ページの「Radia Proxy Server をインストールする」を参照してください。

**2.0** [Management Portal のインストール] 


[Management Portal のインストール] をクリックすると、インフラストラクチャに Radia Management Portal ゾーンを追加インストールすることができます。詳細については、345 ページの「RMP ゾーン (下位ゾーン) を追加インストールする」を参照してください。[下位ゾーンを開く] タスクおよび [ゾーン オペレーションのスケジュール] タスクの項も参照してください。

**2.0** [下位ゾーンを開く] 


[下位ゾーンを開く] をクリックすると、[Zone Access Points] コンテナから、企業内の別のゾーンの Radia Management Portal にすばやくアクセスできます。詳細については、360 ページの「下位ゾーンを開く」を参照してください。

■ [ダイナミック キャッシュのページ] 


[ダイナミック キャッシュのページ] をクリックすると、Radia Proxy Server のダイナミック キャッシュをページすることができます。詳細については、338 ページの「Radia Proxy Server のダイナミック キャッシュをページする」を参照してください。

■ [通知] 

[通知] に属するタスクを使用すると、選択したオーディエンスに対してアクションが実行できます。詳細については、290 ページの「通知タスクを使用する」を参照してください。

■ [ダイナミック キャッシュのページ] 


[ダイナミック キャッシュのページ] をクリックすると、Radia Proxy Server のダイナミック キャッシュをページすることができます。詳細については、338 ページの「Radia Proxy Server のダイナミック キャッシュをページする」を参照してください。

■ [管理エージェントのリフレッシュ] 


[管理エージェントのリフレッシュ] をクリックすると、Radia Management Portal に登録された Radia サービスが、選択した管理エージェントにより直ちに更新されます。詳細については、312 ページの「Radia 管理エージェントをリフレッシュする」を参照してください。

■ [再開] 


[再開] をクリックすると、サービスを停止した後、新たに開始することができます。詳細については、340 ページの「サービスを管理する」を参照してください。

■ [リジューム] 




[リジューム] をクリックすると、一時的に停止されていたサービスの実行をリジュームすることができます。詳細については、340 ページの「サービスを管理する」を参照してください。

■ [パスワードの設定] 

[パスワードの設定] をクリックすると、リモート制御により Radia Client 上の VNC サーバーへ初めてアクセスする前に、VNC 認証パスワードを設定することができます。詳細については、367 ページの「リモート制御を使用する」を参照してください。

**2.0** [ゾーン オペレーションのスケジュール] 

[Zone Access Points] コンテナから [ゾーン オペレーションのスケジュール] をクリックすると、企業内で選択された各ゾーンに含まれるすべてのデバイスに対して通知ジョブや RPS のインストール ジョブを実行することができます。これらのジョブ オプションは、タスク テンプレートとして事前に定義されていることが必要です。詳細については、352 ページの「ゾーン オペレーションをスケジュールする」を参照してください。

- **[開始]**   
[開始] をクリックすると、サービスを実行することができます。詳細については、340 ページの「サービスを管理する」を参照してください。
- **[ビューアーの起動]**   
[ビューアーの起動] をクリックすると、リモートの Radia Client 上で VNC セッションを開始することができます。詳細については、367 ページの「リモート制御を使用する」を参照してください。
- **[停止]**   
[停止] をクリックすると、サービスを停止することができます。詳細については、340 ページの「サービスを管理する」を参照してください。
- **[Proxy Server の同期]**   
[Proxy Server の同期] をクリックすると、Radia Proxy Server を Radia Configuration Server へ強制的に接続し、ファイルを Radia Proxy Server 上のスタティック キャッシュへプレロードすることができます。詳細については、336 ページの「Radia Proxy Server を同期させる」を参照してください。

## [ポリシー] タスク グループ

[ポリシー] タスク グループは、Active Directory などの LDAP ディレクトリを使用してポリシーを割り当てる際に使用します。

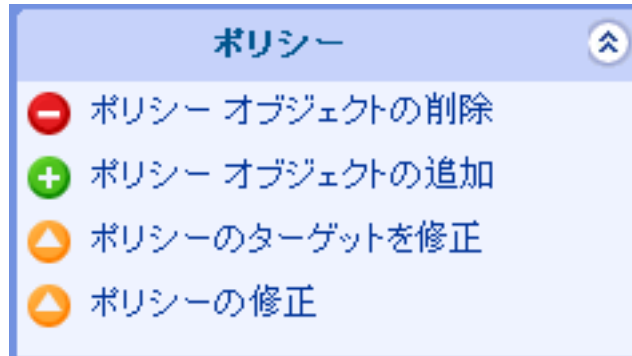





図 3.26 ~ [ポリシー] タスク グループ

以下のリストは、使用可能な [ポリシー] タスクをまとめたものです。ただし、実際に使用できるタスクは、選択した権限により異なります。

**2.0** [ポリシー オブジェクトの追加]   
[ポリシー オブジェクトの追加] をクリックすると、LDAP ディレクトリに、新しいグループまたは組織単位が作成できます。詳細については、119 ページの「*ポリシー オブジェクトを追加する*」を参照してください。

**2.0** [ポリシーの修正]   
[ポリシーの修正] をクリックすると、選択したポリシー オブジェクトにサービスを割り当てることができます。詳細については、121 ページの「*ポリシーを修正する*」を参照してください。

[ポリシーのターゲットを修正]   
[ポリシーのターゲットを修正] をクリックすると、ポリシーの割り当てに基づいて、ターゲットグループのメンバーを指定することができます。詳細については、123 ページの「*ターゲットを修正する*」を参照してください。

**2.0** [ポリシー オブジェクトの削除]  
[ポリシー オブジェクトの削除] をクリックすると、LDAP ディレクトリから、グループまたは組織単位が削除できます。詳細については、121 ページの「*ポリシー オブジェクトを削除する*」を参照してください。





## [ポリシー (詳細)] タスク グループ

[ポリシー (詳細)]タスク グループは、『Policy Server Guide』で説明されているような Radia Policy の属性の変更を行う際に使用します。これらの属性は、ポリシーのスコープ、関係、および割り当ての管理に使用します。

### 警告

これらのタスクは、Policy Server および Radia Policy の属性について十分理解した上で使用するようにしてください。

使用できるタスクは以下のとおりです。

- 2.0** [デフォルトの修正]   
[デフォルトの修正] をクリックすると、サービス内の各属性にデフォルト値を設定することができます。このタスクを実行すると、**edmPolicyDefault** が変更されます。詳細については、『Policy Server Guide』を参照してください。詳細については、129 ページの「デフォルト値を修正する」を参照してください。
- 2.0** [依存関係の修正]   
[依存関係の修正] をクリックすると、ポリシーのリンクが修正できます。このタスクを実行すると、**edmLink** 属性が変更されます。詳細については、『Policy Server Guide』を参照してください。詳細については、125 ページの「依存関係を修正する」を参照してください。
- 2.0** [フラグの修正]   
[フラグの修正] をクリックすると、ポリシー解決のスコープを特定のオブジェクトに制限することができます。このタスクを実行すると、**edmFlags** 属性が変更されます。詳細については、『Policy Server Guide』を参照してください。詳細については、127 ページの「フラグを修正する」を参照してください。
- 2.0** [上書きの修正]   
[上書きの修正] をクリックすると、サービスの属性に対して、既に設定されている値の代わりに別の値を指定することができます。このタスクを実行すると、**edmPolicyOverride** 属性が変更されます。詳細については、『Policy Server Guide』を参照してください。詳細については、130 ページの「上書きを修正する」を参照してください。

## [RCS 管理] タスク グループ

[RCS 管理] タスク グループは、Radia データベースのインスタンスの管理に使用します。

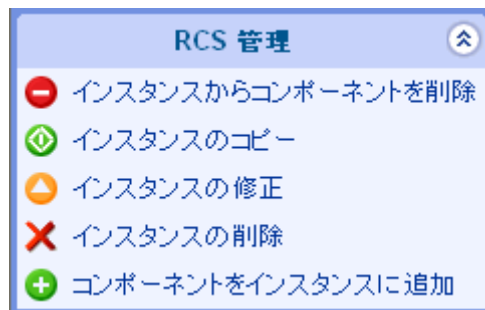









図 3.27 ~ [RCS 管理] タスク グループ

以下のリストは、[RCS 管理] タスクをまとめたものです。ただし、実際に使用できるタスクは、ナビゲーション支援での選択項目により異なります。

- 2.0** [コンポーネントをインスタンスに追加]   
[コンポーネントをインスタンスに追加] をクリックすると、選択したインスタンスに接続を追加することができます。詳細については、110 ページの「コンポーネントをインスタンスに追加」を参照してください。
- 2.0** [インスタンスのコピー]   
[インスタンスのコピー] をクリックすると、選択したインスタンスのコピーを作成することができます。詳細については、113 ページの「インスタンスをコピーする」を参照してください。
- 2.0** [インスタンスの削除]   
[インスタンスの削除] をクリックすると、選択したインスタンスを Radia データベースから削除することができます。詳細については、114 ページの「インスタンスを削除する」を参照してください。
- 2.0** [インスタンスの修正]   
[インスタンスの修正] をクリックすると、選択したインスタンスを修正することができます。[インスタンスの修正] ウィンドウの[詳細ビュー]を使用すれば、System Explorer から修正可能な属性はすべて修正することができます。詳細については、114 ページの「インスタンスを修正する」を参照してください。

- 2.0** [インスタンスからコンポーネントを削除]  
[インスタンスからコンポーネントを削除] をクリックすると、選択したインスタンスから接続を削除することができます。詳細については、116 ページの「インスタンスからコンポーネントを削除する」を参照してください。

## ツールバーのタスク

- 2.0** [デスクトップにショートカットを追加]   
[デスクトップにショートカットを追加] をクリックすると、Radia Management Portal のデスクトップ ロケーションにショートカットアイコンを追加することができます。これにより、頻繁にアクセスするロケーションへ容易に移動することが可能になります。デスクトップ ロケーションは、ログオン後最初に表示されるロケーションであり、ユーザー名ごとに異なります。詳細については、73 ページの「デスクトップにショートカットを追加する」を参照してください。
- 2.0** [ヘルプ デスク通知]   
このリリースでは、新たに配置された [ヘルプ デスク通知] アイコンを使ってコンピュータへの通知を行うことができる効率的なタスクが追加されました。[ヘルプ デスク通知] のツールバー アイコンを使用すれば、個々のコンピュータに対して通知をすばやく行うことができます。このアイコンを使用するのは通常、問題の解決を担当するヘルプ デスク スタッフです。デスクトップまたはゾーン内の任意のロケーションから使用できます。コンピュータの DNS 名は、リストから選択できないため、直接入力する必要があります。詳細については、294 ページの「[ヘルプ デスク通知] を使用する」を参照してください。
- 2.0** [プロパティの表示]   
ツールバーの [プロパティの表示] をクリックすると、オブジェクトのプロパティが表示されます。詳細については、272 ページの「プロパティを表示する」を参照してください。

## ツールバー

ネットワーク内にあるコンピュータのリストなど、Radia ディレクトリに属するオブジェクトを表示している間、ワークスペースの上部にはツールバーが表示されます。このツールバーは、インフラストラクチャをブラウズする際や、クエリの結果を表示する際も表示されます。

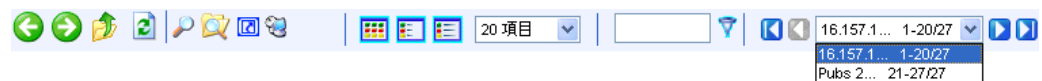






図 3.28 ~ Radia Management Portal のツールバーの表示例



**注意**





このマニュアルには一部、旧バージョンのツールバーを表示した図が使用されています。ツールバーの使用に関する詳細については、こうした旧バージョン用の画像ではなく、このトピックを参考にしてください。

## ナビゲーションアイコン


-  をクリックすると、1つ前のページに戻ることができます。
-  をクリックすると、次のページに進むことができます。
-  をクリックすると、Radia Management Portal ディレクトリの階層の中で1つ上のレベルに移動できます。
-  をクリックすると、ワークスペースに表示されている情報をリフレッシュすることができます。

## タスクアイコン

これらのタスクに関する詳細については、96 ページの「ツールバーのタスク」を参照してください。

-  をクリックすると、ナビゲーション支援で現在アクセスしている (\* で囲まれている) オブジェクトの**プロパティを表示**することができます。
-  をクリックすると、現在アクセスしている (\* で囲まれている) ナビゲーション ロケーションへの**ショートカットをデスクトップに追加**することができます。
-  をクリックすると、現在のレベルおよびそれより下位のレベルにあるオブジェクトに関して**ディレクトリにクエリを行う**ことができます。
-  をクリックすると、**[ヘルプデスク通知]** ダイアログ ボックスを表示して、既知の名前を持つ個々のコンピュータに通知を行うことができます。

## 印刷アイコンとステータス アイコン




- [Jobs] コンテナから  をクリックすると、ジョブ リストの印刷可能なビューを表示することができます。

オブジェクトの表示には一部を除いて、複数のフォーマットが使用できます。

[ステータス] ボックスの一覧を使用すれば、選択したステータス条件を満たすジョブだけを表示することができます。選択できるジョブ ステータスは以下のとおりです。

- 全部
- 開始を待機中
- 成功
- 失敗
- アクティブ
- 無効化

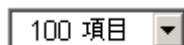
## 表示のアイコン


- 潜在的なターゲットを大きいアイコンで表示するには、 をクリックします。
- 潜在的なターゲットをリスト ビュー (小さいアイコン) で表示するには、 をクリックします。
- 潜在的なターゲットを詳細ビューで表示するには、 をクリックします。

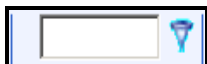
## ページ移動およびフィルタのアイコン

次のアイコンを使用すると、多数のアイテムのブラウズや選択を効率的に行うことができます。


- ドロップダウン リスト ボックスを使用すると、現在のページの最大アイテム数が設定できます。

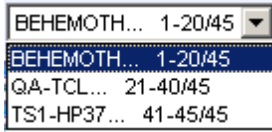






- フィルタ用のテキスト ボックスにフィルタの値を入力し  をクリックすると、表示名、共通名、および「cn= 値」を基に、現在のページのアイテムをフィルタすることができます。



入力するフィルタ値に使用できるのは、テキスト、アスタリスク (\*) および疑問符 (?) のワイルドカード文字、「cn= 値」、および、LDAP 属性値 (属性 = 値) です。

- フィルタを無効にする場合は、テキストボックスをクリアして  をクリックします。ドロップダウンリストボックスまたは矢印を使用すると、オブジェクトの複数のページを順番に表示することができます。
  - ドロップダウン リスト ボックスでは、一覧を開いて特定のページを選択することができます。



-  をクリックすると、オブジェクトのリストの先頭に移動できます。
  -  をクリックすると、オブジェクトのリスト内の 1 つ前のページに移動できます。
  -  をクリックすると、オブジェクトのリスト内の次のページに移動できます。
  -  をクリックすると、オブジェクトのリスト内の最後のページに移動できます。
- スクロールバーを使用すると、画面をスクロールして、現在表示されていないアイテムを表示することができます。

## ワークスペース

ワークスペースはメインの作業領域で、アクションに基づいて表示内容が切り替わります。

## Radia ディレクトリおよび Radia ゾーンのオブジェクト

Radia Management Portal のユーザー インターフェイスについて十分理解することができたら、次は、管理対象となるインフラストラクチャの主な領域にアクセスする方法について理解する必要があります。まず最初に、Radia Management Portal の Radia ディレクトリおよび Radia ゾーンに表示されるオブジェクトについて解説します。

これらのオブジェクトは、ツリー ビューを使って系統的に表示されます。このツリーは以下のようなアイコンで構成されます。各アイコンは [Zone] の [Directory] に属する特定のオブジェクトを表します。

### ■ ゾーン

[Zone] の [Directory] には、このロケーションで Radia Management Portal により管理されるすべてのデバイス、インフラストラクチャ、およびソフトウェアが含まれます。その他の Radia Management Portal ゾーンには、Zone Access Points コンテナで使用可能な接続からアクセスします。

### ■ Active Directory

Radia Management Portal 管理者によりアクセスに関して設定された Active Directory は、ワークスペースのディレクトリ レベルに表示されます。

### ■ Primary ファイル

この Primary ファイルは、Radia Configuration Server 上にある Radia データベースの Primary ファイルのことです。Radia Management Portal の [RCS 管理] タスクを使用すると、Radia データベースに対してインスタンス レベルのタスクを実行することができます。Primary ファイルの設定については、101 ページの「ディレクトリ サービスを追加する」を参照してください。

### ■ コンテナ

コンテナとは、オブジェクトからなるグループで、特定のオブジェクト タイプを選択したり、インフラストラクチャ全体の中で各管理者の権限が及ぶ範囲を制限したりする場合に使用します。Radia ゾーンの最上位レベルにあるコンテナについては、101 ページの「Zone のコンテナについて」で説明します。すべてのゾーンには同一のコンテナが含まれ、それらの名前も同じです。このマニュアルで説明されている各手順には、タスクを実行する際の開始ロケーションとなるコンテナが示されています。

### ■ コンピュータ、サーバー、およびデバイス

サーバーとは、Radia Management Portal で管理されるインフラストラクチャの各要素 (サービス) を実行するための物理デバイスです。サーバーは、IP アドレスが設定可能である必要があります。Radia Configuration Server を実行する NT Server は、サーバーの一例です。

コンピュータは、インフラストラクチャ内に存在する物理デバイスです。この Radia Management Portal ゾーンでコンピュータを管理する場合には、[コンピュータの管理] を指定して、そのコンピュータを [Zone] の [Devices] コンテナに追加する必要があります。

デバイスは、[Zone] の [Devices] コンテナの中に存在する物理デバイスで、このゾーンから管理されます。またデバイスは、[Groups] コンテナおよび [Cross References] コンテナに含まれるグループのメンバーシップを持っています。

#### ■ ネットワーク

ネットワークとは、Microsoft Windows Network など、Radia Management Portal により検出された外部ネットワーク ディレクトリのことを表します。ネットワークに属するオブジェクトは、個別に選択した上で、この Radia Management Portal ゾーンによる管理操作を行うことができます。

#### ■ ディレクトリ サービス

外部サービスが Radia Management Portal ゾーンに対して定義されることにより、そのサービスへの接続を Radia Management Portal 内から有効にすることができます。Active Directory、Radia Configuration Server 上にある Radia データベース、およびその他の LDAP ディレクトリは、アクセスに関する設定を [Directory Services] コンテナから行うことが可能です。

#### ■ サービス

サービスとは、Radia Configuration Server や Radia Proxy Server などのサーバー上で動作するアプリケーションのことです。

## Zone のコンテナについて

このトピックでは、[Zone] ノードの直下に存在する、Radia Management Portal ゾーンのコンテナについて説明します。コンテナは自己管理型のディレクトリ エリアであるため、管理オペレーションは実行されません。

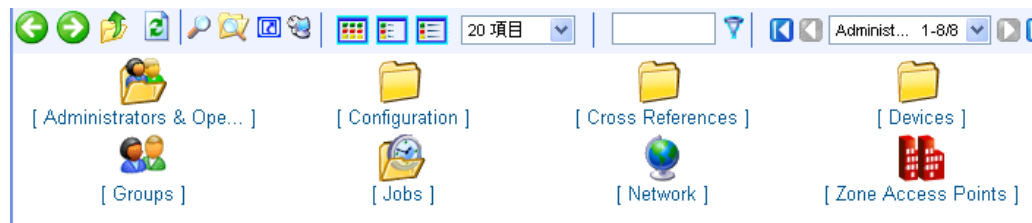


図 3.29 ~ Zone のコンテナ

### 注意

このリリースでは、数多くのコンテナやオブジェクトが新しく追加されたことで、以下の操作が可能になりました。

- Radia Management Portal により自動的に作成され管理されるグループに対して、デバイスに関する既知の情報 (ハードウェア、ソフトウェア、および管理対象サービス) を基にオペレーションを実行する。
- リモート ゾーンへのアクセス機能を持つ複数のゾーンを企業内に作成し、リモートゾーン デバイス グループに対してオペレーションを実行する。
- Radia Configuration Server にアクセスし、サービスとポリシーをインスタンス レベルで管理する。Active Directory などの LDAP ディレクトリを使ってポリシーを適用する。
- Active Directory などの 外部 LDAP ディレクトリに属するエントリに接続し、それをブラウズする。
- 既存のネットワーク ディレクトリに接続し、それをブラウズする。

#### ■ [Administrations & Operators] コンテナ (cn=USER)

[Administrations & Operators] コンテナは、Radia Management Portal ユーザーの認証と、ユーザーが実行を許可されるタスクの指定を行うために最初から用意されているデフォルトのコンテナです。ユーザー グループは、Radia Management Portal、アカウント、インフラストラクチャ、ネットワーク、パッケージ、ポリシー、サービス、および Radia Configuration Server の各管理者のほか、オペレータや監査担当者ごとに構成されます。

#### ■ [Configuration] コンテナ (cn=config)

[Configuration] コンテナには、内部および外部のオブジェクトやマウント ポイント用に、Radia Management Portal ゾーンの起動設定が保持されます。前のコンテナに属するオブジェクトはすべて、ゾーンの起動時にディレクトリとして「マウント」されます。

[Configuration] コンテナから定義およびマウントされるディレクトリ オブジェクトは次のとおりです。

- 代理管理者のエンタイトルメント
- Radia Management Portal の各タスク グループおよび各タスク
- Radia 製品、クライアントのインストール ディレクトリ、およびプロファイル
- ディレクトリ サービス

#### ■ [Directory Services] コンテナ (cn=ds, cn=config)

[Directory Services] コンテナは、[Configuration] コンテナに含まれます。ゾーンにより、起動時の自動接続またはオペレーション実行中の接続が行われる外部ディレクトリ サービスおよびマウント ポイントは、このコンテナにより定義されます。このコンテナを使用して、Active Directory など、企業内にある他の LDAP ディレクトリ サービスへのアクセスや、Radia Configuration Server 上のプライマリ Radia データベースへのアクセスを定義することができます。またこのコンテナからは、新たに追加した Radia データベースへのアクセスも定義することができます。

配布されているゾーンテンプレートでは、以下のマウントポイントに関する設定が自動的に定義されます。

- Domain Name System (DNS)
  - Windows Networking
  - Radia Messaging
- **[Cross References] (cn=xref) (自己管理型)**
- [Cross References]** コンテナは自己管理型で、コンテナ内のデバイスグループが自動生成されます。これらのグループは、**[Devices]** コンテナに属するコンピュータ上に Radia 管理エージェントがインストールされると同時に作成されます。**[Cross References]** コンテナでは、Radia 管理エージェントから Radia Management Portal へ送られた、ゾーンの管理下にある全デバイスの情報を基に、以下の分類に従ってすべてのデバイスにメンバーシップが作成、保持されます。
- デバイス メーカー — たとえば、Hewlett-Packard、Dell、Gateway などのデバイスグループ。
  - インフラストラクチャ サービス — たとえば、Radia Proxy Server、Radia 管理エージェント、Radia Configuration Server などのデバイスグループ。
  - 管理対象サービス — たとえば、Radia Application Manager や Radia Software Manager によりデバイス上で管理されている各サービスのグループ。
  - オペレーティング システム — たとえば、Windows XP。以下の図に示すように、特定のオペレーティング システムのグループ内には、サービス パック レベルごとにサブグループが作成されます。



図 3.30 ~ [Cross References] コンテナの [Windows XP] グループに属する [Service Pack 1] のロケーションのサンプル

■ **[Devices] コンテナ (cn=device) (自己管理型)**

**[Devices]** コンテナには、この Radia Management Portal ゾーンにより管理されているすべてのデバイスについてのオブジェクト プロパティが保持されます。各エントリは、**[Groups]** コンテナに属するグループにデバイスを追加したり、ネットワーク内のコンピュータ オブジェクトから **[コンピュータの管理]** を選択したりするなど、その他のオペレーションが実行される際、自動的にこのコンテナ内に作成されます。

このコンテナに属するデバイスは、その他のコンテナのメンバーシップを保持します。たとえば各デバイスは、オペレーションの実行が効率化できるよう、**[Groups]** コンテナに属するグループのメンバーシップを少なくとも 1 つ保持する必要があります。さらに各デバイスは、それぞれのハードウェア、ソフトウェア、管理対象サービス、および Radia インフラストラクチャを基にして、**[Cross References]** コンテナに属するさまざまなエントリの自動メンバーシップを保持します。

■ **[Groups] コンテナ (cn=group)**

Radia Management Portal のオペレーションはそのほとんどが、個々のデバイスではなく、デバイス グループに対して実行されます。**[Groups]** コンテナには、ユーザーが作成するグループとは別に、**[Default Group]** がデフォルトで用意されています。各デバイスは、ユーザーが選択したグループ (1 つ以上) すべてに対してメンバーシップを保持します。指定したターゲット グループに対してスケジュールされたオペレーションは、ジョブを実行する時点におけるそのグループのメンバーに対して実行されます。グループは階層的に定義できます。たとえば、グループ AA のメンバーであるデバイスのすべてまたはその一部を、グループ A のサブグループとして定義することが可能です。

1 つ以上のゾーンに属するグループに対してジョブをスケジュールする場合は、各ゾーンの **[Groups]** コンテナに同じ名前のグループを作成した上で、オペレーションの対象にするグループを選択します。

■ **[Jobs] コンテナ (cn=jobs)**

このコンテナには、Radia Management Portal によりスケジュールまたは最近実行されたジョブやジョブ グループのオブジェクトが保持されます。**[Jobs]** コンテナの中には、完了したジョブのレコードが日単位で格納される **[History]** コンテナがあります。

■ **[RCS - Primary] コンテナ (cn=PRIMARY)**

Radia Management Portal 管理者によりアクセスに関する設定が既に行われていれば、この **[Primary]** コンテナから Radia Configuration Server および Radia データベースにアクセスできます。

■ **[Network] コンテナ (cn=network)**

**[Directory Services]** コンテナから、DNS や Microsoft Windows Network などのマウント ポイントとして設定されている企業ネットワークにアクセスする際に使用するコンテナです。

**[Network]** コンテナは主に、Radia Management Portal ゾーンの管理下に置く必要があるコンピュータへのアクセスに使用します。

■ **[Zone Access Points] コンテナ (cn=zone-sap)**

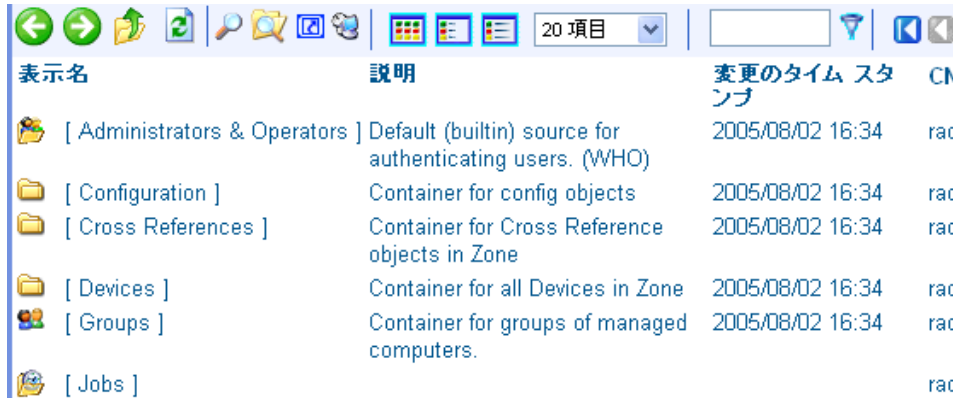
このコンテナには、アクセスに関する設定が既に行われている企業内の現在のゾーンおよびリモートゾーンのエントリが保持されます。このコンテナからは、**[オペレーション]** タスクを使用して、下位ゾーンの Radia Management Portal を表示したり、企業内の複数ゾーンに対し一度にジョブが起動できるゾーン オペレーションをスケジュールしたりすることができます。



## 詳細ビューを使用して説明を表示する

新しいオブジェクトに遭遇するたびに、**詳細ビュー**に切り替えるようにすれば **Radia Management Portal** のオブジェクトに関する知識を増やしていくことができます。**詳細ビュー**には、各オブジェクトに対して **1 行程度**の**説明**が表示されます。

下の「**図 3.31**」は、その例として、**[Directory]** の最上位レベルに位置するオブジェクトに対し、それぞれの説明が表示されている様子を示したものです。



表示名	説明	変更のタイムスタンプ	CN
[ Administrators & Operators ]	Default (builtin) source for authenticating users. (WHO)	2005/08/02 16:34	rac
[ Configuration ]	Container for config objects	2005/08/02 16:34	rac
[ Cross References ]	Container for Cross Reference objects in Zone	2005/08/02 16:34	rac
[ Devices ]	Container for all Devices in Zone	2005/08/02 16:34	rac
[ Groups ]	Container for groups of managed computers.	2005/08/02 16:34	rac
[ Jobs ]			rac

図 3.31 ~ 説明が表示された \*Directory\* の詳細ビュー

**Radia Management Portal** のユーザー インターフェイスと **Radia** ゾーンの主要なコンテナについて理解することができたら、インフラストラクチャの管理操作を開始します。

- **Radia Management Portal** ゾーンを設定して、デバイスが管理できる状態にする場合は、「第 4 章：管理機能」に進みます。
- **Radia Management Portal** ゾーンに属するデバイスに対してオペレーションを実行する場合は、「第 5 章：オペレーション機能」に進みます。
- **Radia** データベースのインスタンスに対して **[RCS 管理]** タスクを実行する方法については、106 ページの「**[RCS 管理]** タスクを使用する」を参照してください。
- **LDAP** ディレクトリを使用してポリシーを実行する方法については、117 ページの「**RMP** から **LDAP** ディレクトリを使ってポリシーを割り当てる」を参照してください。

## [RCS 管理] タスクを使用する

Radia Management Portal には Radia データベースのインスタンスを操作するためのタスクがいくつか用意されており、それらのタスクが格納されているのが [RCS 管理] タスク グループです。

### 前提条件

- Radia Configuration Server のサービスが、変更の必要なマシン上で開始されること。
- Radia Configuration Server のディレクトリ サービスを定義した上で、そのディレクトリ サービスに RMP を接続すること。詳細については、「ディレクトリ サービスを追加する」(141 ページ) および「ディレクトリ サービスを起動する」(151 ページ) の各トピックを参照してください。

### [RCS 管理] タスクについて

[RCS 管理] タスク グループは、Radia データベースのインスタンスの管理に使用します。

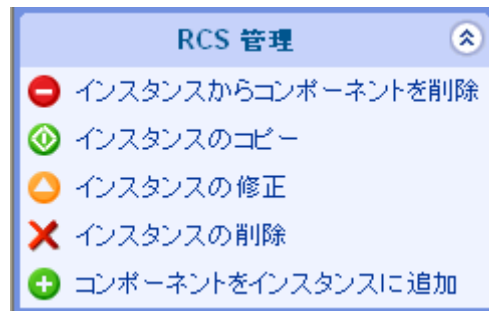


図 3.32 ~ [RCS 管理] タスク グループ

**[RCS 管理]** に属する各タスクは以下のとおりです。ただし、実際に使用できるタスクは、ナビゲーション支援での選択項目により異なります。

- **[コンポーネントをインスタンスに追加]**  
[コンポーネントをインスタンスに追加] をクリックすると、選択したインスタンスに接続を追加することができます。
- **[インスタンスのコピー]**  
[インスタンスのコピー] をクリックすると、選択したインスタンスのコピーを作成することができます。
- **[インスタンスの削除]**  
[インスタンスの削除] をクリックすると、選択したインスタンスを Radia データベースから削除することができます。
- **[インスタンスの修正]**  
[インスタンスの修正] をクリックすると、選択したインスタンスを修正することができます。[インスタンスの修正] ウィンドウの [詳細ビュー] を使用すれば、System Explorer から修正可能な属性はすべて修正することができます。
- **[インスタンスからコンポーネントを削除]**  
[インスタンスからコンポーネントを削除] をクリックすると、選択したインスタンスから接続を削除することができます。

## インスタンスを作成する

[RCS 管理] タスク グループの [インスタンスの作成] タスクを使用して、選択したクラスにインスタンスを新たに追加します。

### インスタンスを追加するには

1. ナビゲーション支援を使用して、新しいインスタンスを追加するクラスに移動します。たとえば、[アカウント] クラスに移動します。
2. [RCS 管理] タスク グループの [インスタンスの作成] をクリックします。  
[作成] ウィンドウが表示されます。

---



**作成**

\* 必須フィールド

Accounts を新規作成

Instance*	<input type="text"/>
Friendly name*	<input type="text"/>

図 3.33 ~ [作成] ウィンドウ

---

3. [インスタンス] ボックスに、新しいインスタンスの名前を入力します。
4. [簡略名] ボックスに、インスタンスの表示名を入力します。

5. [作成] をクリックします。  
新しいインスタンスの [プロパティ] ウィンドウが表示されます。

---

 **Susan Fields**  
RCS ユーザー名 のプロパティ

[基本](#) | [詳細](#)




[プロパティ](#) | [接続](#)

プロパティ

Friendly name	Susan Fields
Created	2005/08/03 10:54
Last Modified	2005/08/03 10:54

[先頭に戻る](#)

接続

- ☐  Susan Fields
  - ☐ *Application*
    - ☐  Maint 40
  - ☐ *Workgroups*
    - ☐  [Default]

[先頭に戻る](#)

図 3.34 ~ [プロパティ] ウィンドウ

---

## コンポーネントをインスタンスに追加する

[コンポーネントをインスタンスに追加] タスクを使用して、選択したインスタンスに接続を追加します。

### コンポーネントをインスタンスに追加するには

1. ナビゲーション支援を使用して、接続を作成するインスタンスに移動します。
2. [RCS 管理] タスク グループの [コンポーネントをインスタンスに追加] をクリックします。  
[コンポーネントをインスタンスに追加] の [選択] ウィンドウが表示されます。このウィンドウに表示されるフィールドは、ナビゲーション支援で選択したオブジェクトによって異なります。

---

### 100\_MGR に接続を追加

1 選択 — 2 追加 — 3 要約

タイプ

▼

図 3.35 ~ [接続を追加] ウィンドウ

---

- 必要に応じて、作成する接続のタイプを[タイプ]ボックスの一覧から選択します。ここで選択する接続のタイプにより、次に表示されるドロップダウンリストから選択できるクラスが決まります。

---

## 100\_MGR に接続を追加

1 選択 2 追加 3 要約

選択

タイプ: Services

クラス

リセット キャンセル

図 3.36 ~ [接続を追加] ウィンドウの [クラス] 領域

---

4. [クラス] ボックスの一覧から、接続先のクラスを選択します。  
[接続] 領域が表示されます。

## 100\_MGR に接続を追加

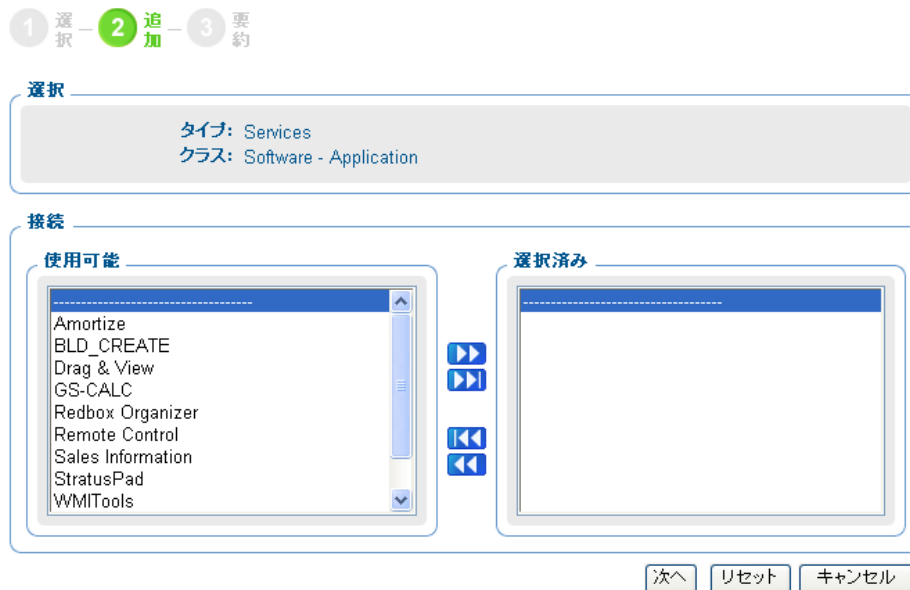



図 3.37 ~ [接続を追加] ウィンドウの [接続] 領域

5. [使用可能] ボックスで 1 つまたは複数のインスタンスをクリックします。
6.  をクリックして、選択したインスタンスを [選択済み] の一覧に追加します。
7. [次へ] をクリックします。  
[接続を追加] の [要約] ウィンドウが表示されます。
8. [コミット] をクリックします。  
[プロパティ] ウィンドウが開き、そこに新しい接続が表示されます。



## インスタンスをコピーする

[インスタンスのコピー] タスクを使用して、選択したインスタンスのコピーを作成します。

### インスタンスをコピーするには

1. ナビゲーション支援を使用して、コピーするインスタンスに移動します。
2. [RCS 管理] タスク グループの [インスタンスのコピー] をクリックします。  
[コピー] ウィンドウが表示されます。

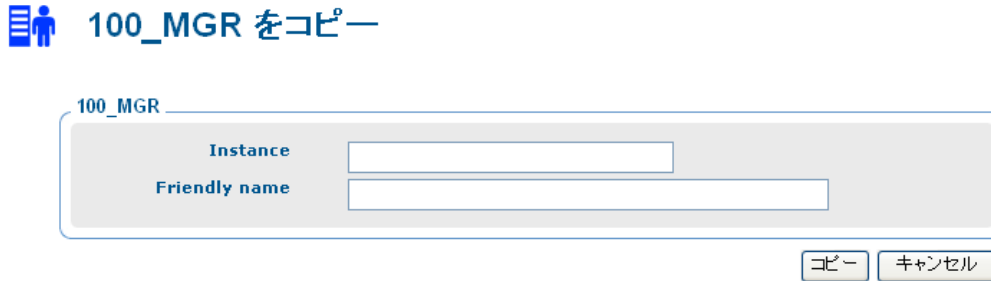


図 3.38 ~[コピー] ウィンドウ

---

3. [インスタンス] ボックスに、新しいインスタンスの名前を入力します。
4. [簡略名] ボックスに、インスタンスの表示名を入力します。
5. [コピー] をクリックします。  
新しいインスタンスの [プロパティ] ウィンドウが表示されます。

## インスタンスを削除する

[インスタンスの削除] タスクを使用して、選択したインスタンスを Radia データベースから削除します。

### インスタンスを削除するには

1. ナビゲーション支援を使用して、削除するインスタンスに移動します。
2. [RCS 管理] タスク グループの [削除] をクリックします。  
[削除] ウィンドウが表示されます。



---

### 100\_MGR を削除



図 3.39 ~ [削除] ウィンドウ

---

3. 選択したインスタンスの削除を確認するメッセージが表示されたら  をクリックします。  
または  
選択したインスタンスの削除をキャンセルする場合は、 をクリックします。

## インスタンスを修正する

[インスタンスの修正] タスクを使用して、選択したインスタンスを修正します。

## インスタンスを修正するには

1. ナビゲーション支援を使用して、修正するインスタンスに移動します。
2. [RCS 管理] タスク グループの [インスタンスの修正] をクリックします。  
[修正] ウィンドウが表示されます。

### ⑤ Amortize を修正

基本 | 詳細

プロパティ | 動作 | メソッド

\* デフォルト値。

プロパティ

Friendly name	Amortize
Service Name/Description	Amortize
Catalog Group Name	Demo Applications
Mandatory or Optional *	<input type="radio"/> O
Local Repair *	<input type="checkbox"/>
Service Create Ordering *	<input type="checkbox"/>
Events to Report *	AJ=B,AD=B,AU=B,AR=B,AV=F,VA=B,VD=B
Reboot Options *	
Vendor Name	Parnes
WEB URL Name	http://www.novadigm.com
Author Name *	
Version Description	1.0

図 3.40 ~ [修正] ウィンドウ

3. 必要な変更を行います。
4. [修正] をクリックします。  
[プロパティ] ウィンドウが表示されます。

## インスタンスからコンポーネントを削除する

[インスタンスからコンポーネントを削除] タスクを使用して、選択したインスタンスから接続を削除します。

### 接続を削除するには

1. ナビゲーション支援を使用して、接続を削除するインスタンスに移動します。
2. [RCS 管理] タスク グループの [インスタンスからコンポーネントを削除] をクリックします。  
[接続を追加] ウィンドウが表示されます。


## ⑤ Amortize から接続を削除

基本 | 詳細

1 削除 — 2 要約



図 3.41 ~ [接続を削除] ウィンドウ

3. [使用可能] ボックスで 1 つまたは複数のインスタンスをクリックします。
4.  をクリックして、選択したインスタンスを [選択済み] の一覧に移動します。
5. [次へ] をクリックします。  
[要約] ウィンドウが表示されます。
6. [コミット] をクリックします。  
[プロパティ] ウィンドウが表示され、接続が削除されます。

# RMP から LDAP ディレクトリを使ってポリシーを割り当てる

Radia Management Portal には、LDAP ディレクトリを使ってポリシーの割り当ておよび管理を行うためのタスクがいくつか用意されています。LDAP ディレクトリの例としては Active Directory があるほか、Radia Management Portal それ自体も LDAP ディレクトリの 1 つです。

## 前提条件

- Policy Server およびポリシーの割り当て全般に関する知識があること。
- Primary Radia Configuration Server サービスへの接続が存在し、サービスへのアクセスが可能であること。
- LDAP ディレクトリ サービスへの接続が存在すること。詳細については、151 ページの「ディレクトリ サービスを起動する」を参照してください。
- ディレクトリ サービスの [ポリシーに使用] フィールドが True に設定されていること。そのためには、ディレクトリ サービスの修正が必要です。149 ページの「ディレクトリ サービスのプロパティを変更する」を参照してください。
- Radia Policy Manager で、**edm** 以外のプレフィックスを持つ LDAP ポリシー拡張が定義されている場合は、Radia Management Portal にカスタム ポリシー プレフィックスを定義すること。カスタム ポリシー プレフィックスの定義には、**rmp.cfg** ファイルの **PREFIX** パラメータを使用します。詳細については、158 ページの「カスタム LDAP ポリシー拡張プレフィックスを設定する」を参照してください。

### 警告

アクセスが許可されている [ポリシー] タスクの実行は、慎重に行ってください。ディレクトリ内のオブジェクトにポリシーを割り当てても、そのポリシーが必ずしも適用されるわけではありません。たとえば、ポリシー情報を持つオブジェクトがポリシー検索の対象外であれば（つまり、検索処理においてそのオブジェクトの検証が行われなければ）、そのポリシーは検出されません。詳細については、『Radia Policy Server Guide』を参照してください。

## [ポリシー] タスクについて

[ポリシー] タスク グループは、Active Directory をはじめ、さまざまな LDAP ディレクトリを用いてポリシーを割り当てる際に使用します。

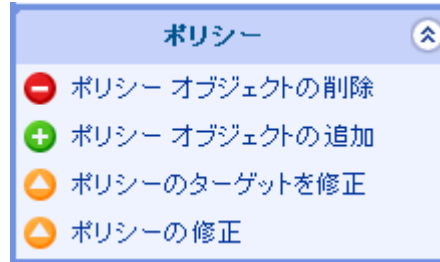


図 3.42 ~ [ポリシー] タスク グループ

以下に、使用可能な [ポリシー] タスクを示します。ただし、実際に使用できるタスクは、選択した権限により異なります。

- **[ポリシー オブジェクトの追加]**  
[ポリシー オブジェクトの追加] をクリックすると、LDAP ディレクトリに、グループまたは組織単位を新たに作成することができます。
- **[ポリシーの修正]**  
[ポリシーの修正] をクリックすると、選択したポリシー オブジェクトにサービスを割り当てることができます。
- **[ポリシーのターゲットを修正]**  
[ポリシーのターゲットを修正] をクリックすると、ポリシーの割り当てに基づいて、ターゲットグループのメンバーを指定することができます。
- **[ポリシー オブジェクトの削除]**  
[ポリシー オブジェクトの削除] をクリックすると、LDAP ディレクトリから、グループまたは組織単位を削除することができます。

## ポリシー オブジェクトを追加する

[ポリシー オブジェクトの追加] タスクを使用して、グループまたは組織単位を追加します。

### ポリシー オブジェクトを追加するには

1. ナビゲーション支援を使用して、ポリシー オブジェクトの追加先となるディレクトリ サービスのコンテナに移動します。

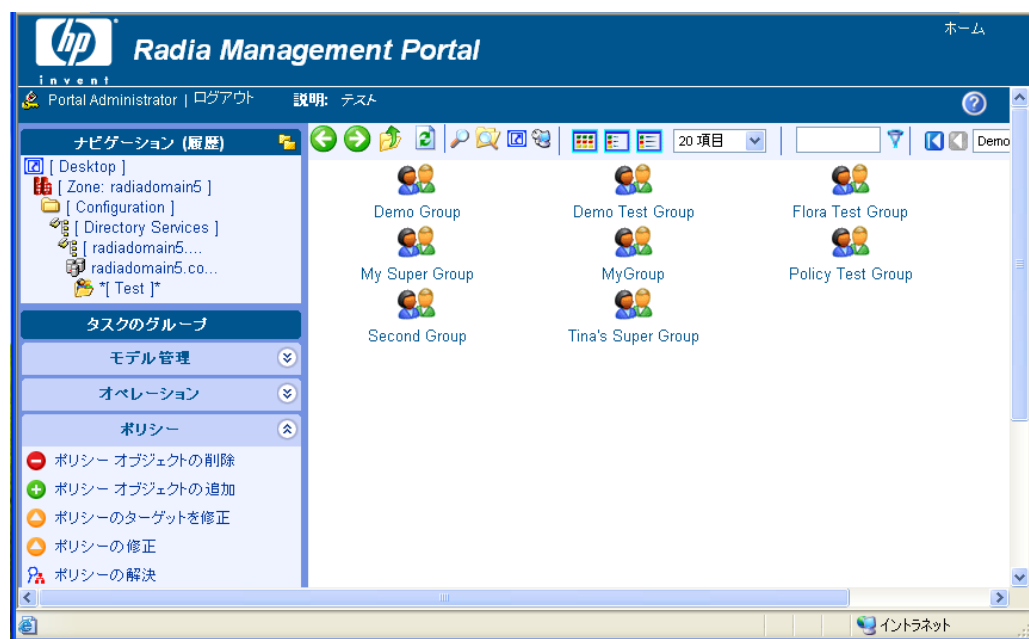


図 3.43 ~ ポリシー オブジェクトの指定

2. [ポリシー] タスク グループの [ポリシー オブジェクトの追加] をクリックします。  
[ポリシー オブジェクトの追加] ウィンドウが表示されます。

---

## ポリシー オブジェクトの追加

選択

タイプ:

キャンセル

図 3.44 ~ [ポリシー オブジェクトの追加] ウィンドウ

3. [タイプ] ボックスの一覧から、[Groups] または [Organizational Unit] を選択します。  
[グループを追加] ウィンドウが表示されます。

---

## グループ を追加

プロパティ

共通名

表示名

説明

追加 リセット キャンセル

図 3.45 ~ [グループを追加] ウィンドウ

4. [共通名] ボックスに、ポリシー オブジェクトの一意の名前を入力します。



5. [表示名] ボックスに、ポリシー オブジェクトの名前を入力します。RMP にはこの名前が表示されます。
6. [説明] ボックスに、説明を入力します。この説明は、詳細ビューに表示されます。
7. [追加] をクリックします。  
このポリシー オブジェクトの[プロパティ] ウィンドウが表示されます。

## ポリシー オブジェクトを削除する

[ポリシー オブジェクトの削除] タスクを使用して、グループまたは組織単位を削除します。

### ポリシー オブジェクトを削除するには

1. ナビゲーション支援を使用して、削除するポリシー オブジェクトに移動します。
2. [ポリシー] タスク グループの [ポリシー オブジェクトの削除] をクリックします。  
[グループの削除] ウィンドウが表示されます。



このオブジェクトを削除してもよろしいですか? ✓ ✗

図 3.46 ~ [グループの削除] ウィンドウ

---

3. オブジェクトの削除を確認するメッセージが表示されたら ✓ をクリックします。  
または  
オブジェクトの削除をキャンセルする場合は、✗ をクリックします。

## ポリシーを修正する

[ポリシーの修正] タスクを使用して、選択したポリシー オブジェクトにサービスを割り当てます。

## ポリシーを修正するには

1. ナビゲーション支援を使用して、修正するポリシー オブジェクトに移動します。
2. [ポリシー] タスク グループの [修正] をクリックします。  
[ポリシーを修正] ウィンドウが表示されます。



図 3.47 ~ [ポリシーを修正] ウィンドウ

3. [ポリシーを修正] ウィンドウで、既存のポリシーを修正するか、またはポリシー オブジェクトに追加的に割り当てるサービスを選択します。このウィンドウの使用方法については、161 ページの「グループの変更の基本手順」を参照してください。また、サービスの属性を修正する方法については 167 ページの「属性エディタを使用する」、式エディタを使ってサービスに対する制約を修正する方法については 171 ページの「式エディタを使用する」をそれぞれ参照してください。
4. 変更作業が完了したら、[コミット] をクリックします。

## ターゲットを修正する

[ターゲットを修正] を使用して、ポリシーの割り当てを基にターゲット グループのメンバーを指定します。

### ターゲットを修正するには

1. ナビゲーション支援を使用して、対象のポリシー オブジェクトに移動します。
2. [ポリシー] タスク グループの [ターゲットを修正] をクリックします。  
[ポリシーのターゲットを修正] ウィンドウが表示されます。

### ポリシー ターゲット を修正

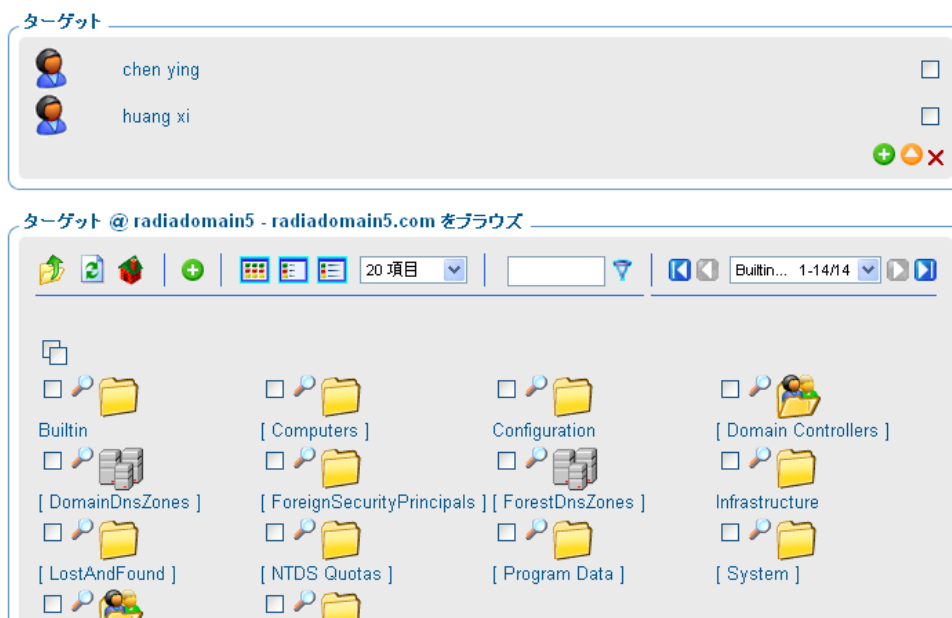


図 3.48 ~ [ポリシーのターゲットを修正] ウィンドウ

3. [ポリシーのターゲットを修正] ウィンドウで、目的のターゲットを選択します。このウィンドウの使用方法については、161 ページの「グループの変更の基本手順」を参照してください。
4. 変更作業が完了したら、[コミット] をクリックします。

## 管理対象サービスのキャッシュをリフレッシュする

[管理対象サービスのキャッシュをリフレッシュ] タスクを使用して、Radia Management Portal に表示されるサービスのリストを周期的にリフレッシュします。このリストは、Radia データベースに格納されている情報を基に作成されます。

### 管理対象サービスのキャッシュをリフレッシュするには

1. ナビゲーション支援を使用して、[**Configuration**] コンテナに移動します。
2. [ポリシー] タスク グループの [管理対象サービスのキャッシュをリフレッシュ] をクリックします。

## [ポリシー (詳細)] タスクについて

[ポリシー (詳細)] タスク グループは、『Policy Server Guide』で説明されているような Radia Policy の各属性の変更を行う際に使用します。これらの属性は、ポリシーのスコープ、関係、および割り当ての管理に使用します。

### 警告

これらのタスクは、Policy Server および Radia Policy の属性について十分理解した上で使用するようにしてください。

使用できるタスクは以下のとおりです。

- **[デフォルトの修正]**  
[デフォルトの修正] をクリックすると、サービス内の各属性にデフォルト値を設定することができます。このタスクを実行すると、`edmPolicyDefault` が変更されます。詳細については、『Policy Server Guide』を参照してください。
- **[依存関係の修正]**  
[依存関係の修正] をクリックすると、ポリシーのリンクを修正することができます。このタスクを実行すると、`edmLink` 属性が変更されます。詳細については、『Policy Server Guide』を参照してください。
- **[フラグの修正]**  
[フラグの修正] をクリックすると、ポリシー解決のスコープを特定のオブジェクトに制限することができます。このタスクを実行すると、`edmFlags` 属性が変更されます。詳細については、『Policy Server Guide』を参照してください。
- **[上書きの修正]**  
[上書きの修正] をクリックすると、サービスの属性に対して、既に設定されている値の代わりに別の値を指定することができます。このタスクを実行すると、`edmPolicyOverride` 属性が変更されます。詳細については、『Policy Server Guide』を参照してください。

## 依存関係を修正する

[依存関係の修正] タスクを使用して、ポリシーのリンクを修正します。このタスクを実行すると、edmLink 属性が変更されます。詳細については、『Policy Server Guide』を参照してください。

### 警告

このタスクを使用すると、親との関係やグループとの関係などの他にも、さまざまな関係を作成することができます。ただしこのタスクは、頻繁には使用しないことをお勧めします。

### 例

Jennifer Blake は、Sales 部門の Marketing グループに所属しています。Jennifer をはじめ Marketing グループのメンバーは、その他の社員が使用しているのとは別のマシンを使用しています。そのため、Marketing グループでは、HP Compaq Notebook nc6000 マシン用のサービスをいくつか利用できるようにする必要が生じています。これを踏まえて、ここでは Marketing グループから HP Compaq Notebook nc6000 グループへの依存関係(リンク)を作成する方法について説明します。

**依存関係を修正するには**

1. ナビゲーション支援を使用して、ポリシーのリンクを修正するグループ (Marketing) に移動します。
2. [ポリシー (詳細)] タスク グループの [ポリシーの依存関係を修正] をクリックします。  
[ポリシーの依存関係を修正] ウィンドウが表示されます。

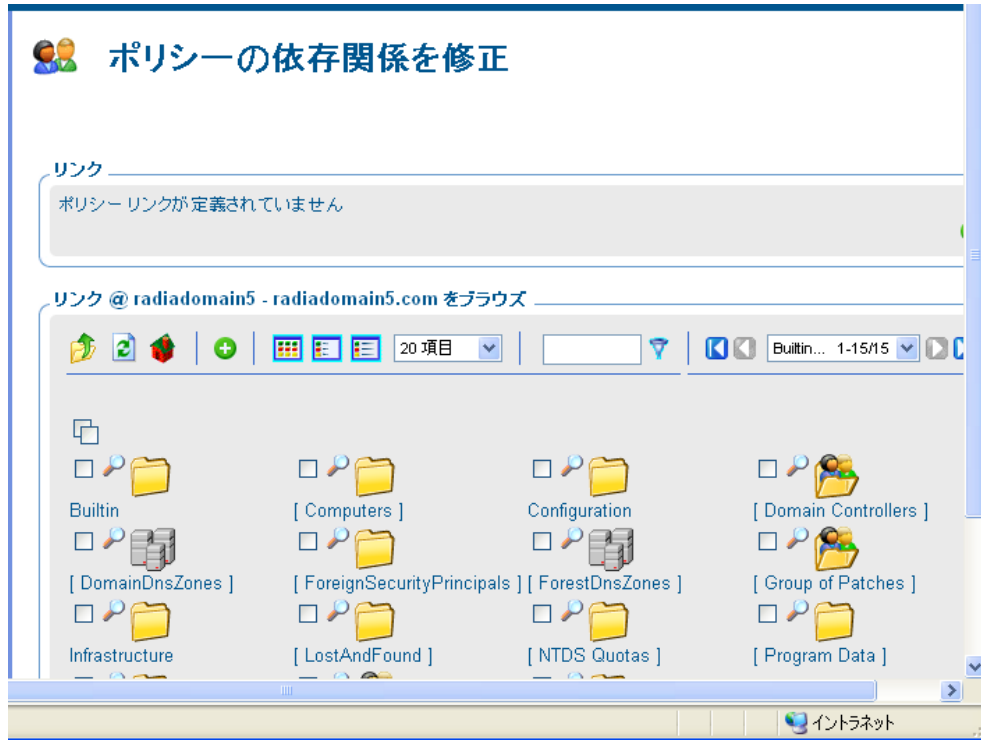


図 3.49 ~ [ポリシーの依存関係を修正] ウィンドウ

- このウィンドウで、ポリシーのリンクを選択します。このウィンドウの使用方法については、161 ページの「グループの変更の基本手順」を参照してください。

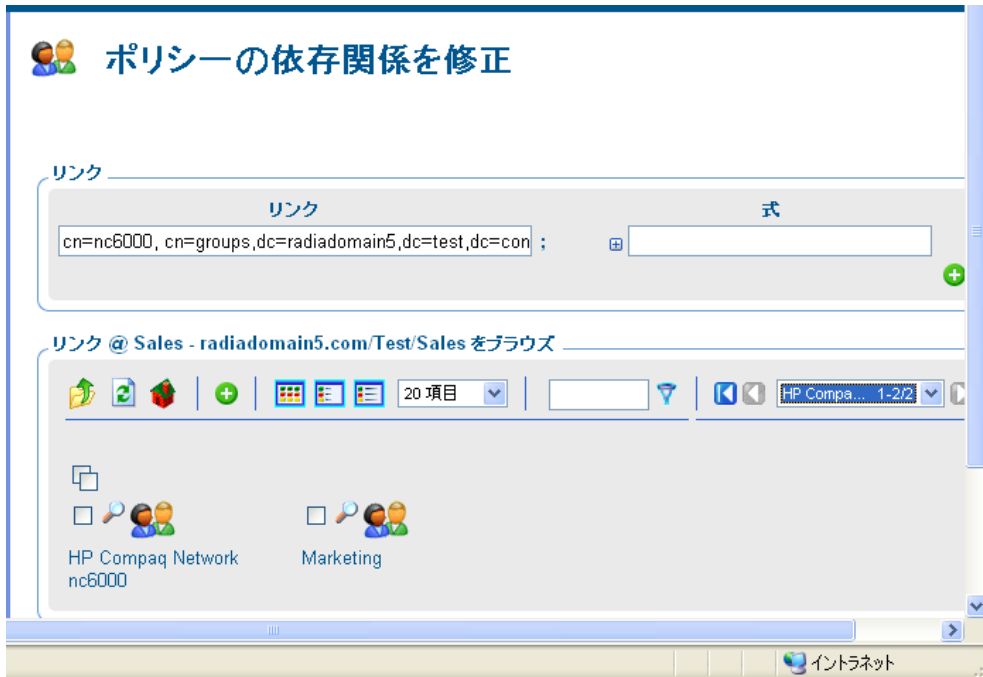


図 3.50 ~ [ポリシーの依存関係を修正] ウィンドウ

- さらに制約を追加する場合は、式エディタを使用します。このウィンドウの使用方法については、171 ページの「式エディタを使用する」を参照してください。また、式に関する詳細については『Policy Server Guide』を参照してください。
- [コミット] をクリックして、ポリシーの従属関係について変更した内容を保存します。

## フラグを修正する

[フラグの修正] を使用して、ポリシー解決のスコープを特定のオブジェクトに制限します。このタスクを実行すると、`edmFlags` 属性が変更されます。詳細については、『Policy Server Guide』を参照してください。

## 例

Marketing グループはここでも Sales のメンバーです。ところが、Marketing グループは、Sales と同じソフトウェア アプリケーションを利用する必要があります。そのため場合によっては、Marketing グループのポリシー解決を制限するためのフラグを設定することが必要になります。

### フラグを修正するには

1. ナビゲーション支援を使用して、ポリシー解決のスコープを制限するポリシー オブジェクトに移動します。
2. [ポリシー (詳細)] タスク グループの [ポリシー フラグを修正] をクリックします。


---

## ポリシー フラグ を修正



図 3.51 ~ [ポリシー フラグを修正] ウィンドウ

---

3. 目的に合った項目のチェック ボックスをオンにします。
  - **[分離]**  
Policy Server において、親オブジェクトが処理の対象から除外されます。
  - **[続行]**  
Policy Server において、このオブジェクトに含まれるその他の属性がすべて無視されます。  
[分離] を選択していなければ、親オブジェクトに対する処理はそのまま行われます。
  - **[中断]**  
Policy Server において、ポリシーの解決が中止され、クライアントに条件が返されます。この場合、クライアント デバイスにはポリシーが適用されません。
  - **[厳密な]**  
Policy Server において、memberOf 属性が無視され、edmFlags、edmPolicy、edmLink のみ処理されます。
4.  をクリックして変更を確定します。
5. [コミット] をクリックします。



## デフォルト値を修正する

[ポリシーのデフォルトを修正] タスクを使用して、バージョンなど、サービス内の各属性にデフォルト値を設定します。このタスクを実行すると、`edmPolicyDefault` が変更されます。詳細については、『Policy Server Guide』を参照してください。

### 例

Sales アプリケーションにバージョンが指定されていない場合、このタスクを使用して、ターゲットマシンに配布するデフォルトバージョンを指定します。

### デフォルト値を修正するには

1. ナビゲーション支援を使用して、対象のポリシー オブジェクトに移動します。
2. [ポリシー (詳細)] タスク グループの [ポリシーのデフォルトを修正] をクリックします。  
[ポリシーのデフォルトを修正] ウィンドウが表示されます。

## ポリシーのデフォルト を修正



図 3.52 ~ [ポリシーのデフォルトを修正] ウィンドウ

3. このウィンドウで、定義する属性が含まれるサービスを選択します。このウィンドウの使用方法については、ページの「グループの変更の基本手順」を参照してください。

4. サービスを選択したら、属性エディタを使用してデフォルト値を指定します。このエディタの使用方法については、167 ページの「属性エディタを使用する」を参照してください。また、属性に関する詳細については『Policy Server Guide』を参照してください。
5. 式エディタを使用して、追加する制約を指定します。このエディタの使用方法については、171 ページの「式エディタを使用する」を参照してください。また、式に関する詳細については『Policy Server Guide』を参照してください。

## 上書きを修正する

[**上書きの修正**] タスクを使用して、サービスの各属性に対し、既に設定されている値の代わりに別の値を指定します。このタスクを実行すると、**edmPolicyOverride** 属性が変更されます。詳細については、『Policy Server Guide』を参照してください。

### 例

Bob Smith には Sales アプリケーション バージョン 1 の使用が許可されています。この場合このタスクを使用して、Bob に対してのみバージョン情報を上書きすることで、バージョン 2 の使用を許可します。

### 上書きを修正するには

1. ナビゲーション支援を使用して、対象のポリシー オブジェクトに移動します。
2. [ポリシー (詳細)] タスク グループの [**上書きの修正**] をクリックします。

[ポリシーの上書きを修正] ウィンドウが表示されます。

## ポリシーの上書きを修正



図 3.53 ~ [ポリシーの上書きを修正] ウィンドウ

3. このウィンドウで、上書きを定義するサービスを選択します。このウィンドウの使用方法については、「グループの変更の基本手順」を参照してください。
4. サービスを選択したら、属性エディタを使用して上書きを指定します。このエディタの使用方法については、167 ページの「属性エディタを使用する」を参照してください。また、属性に関する詳細については『Policy Server Guide』を参照してください。
5. 式エディタを使用して、追加する制約を指定します。このエディタの使用方法については、171 ページの「式エディタを使用する」を参照してください。また、式に関する詳細については『Policy Server Guide』を参照してください。

## まとめ

- Radia Management Portal のユーザー インターフェイスは一貫性を備えているため、基本的には同じ手順に従って各タスクを最後まで実行することができます。
- Radia Management Portal のユーザー インターフェイスは、バナー領域、ナビゲーション支援、タスクバー、ツールバー、およびワークスペースの各領域から構成されています。
- 旧バージョンの「権限領域」は「ナビゲーション領域」と改称されました。ナビゲーションモードには、セッション中に Radia Management Portal のナビゲーションパスが記録されるナビゲーション(履歴)モードと、現在のロケーションのディレクトリパスが表示されるナビゲーション(ロケーション)モードの2種類があります。ナビゲーションタイトルバーに表示されるアイコンを使用して、2つのナビゲーションモードを相互に切り替えることができます。
- ログインして最初の権限はデスクトップ領域で、Portal ディレクトリおよび Radia ゾーンへのリンクが表示されます。頻繁に使用するナビゲーションロケーションへのショートカットを、デスクトップ上に追加したり、削除したりすることができます。
- Radia Management Portal の各タスクは、機能別に分類されたタスクグループで管理されます。使用できるタスクグループおよびタスクは、現在のナビゲーションロケーションのほか、割り当てられたロールによっても異なります。
- Radia Management Portal ゾーンは、いくつかのコンテナで構成されます。各コンテナおよびロケーションに移動すると、そこに格納されているオブジェクトに関連のあるタスクを実行することができます。
- Radia Management Portal の [RCS 管理] タスクグループに格納されているタスクを使用すると、Radia データベースのインスタンスを操作することができます。
- Radia Management Portal には、LDAP ディレクトリを使ってポリシーの割り当ておよび管理を行うためのタスクが用意されています。上記のタスクは、[ポリシー] タスクグループおよび [ポリシー (詳細)] タスクグループから使用できます。

# 管理機能

この章は以下を目的としています。

- ネットワーク探索およびディレクトリ サービスについて **Radia Management Portal** ゾーンが設定できるようになる。
- ディレクトリ サービス、**RCS Primary Database**、または **[Directory Services]** コンテナで定義したその他のオブジェクトに接続したり、これらとの接続を切断したりできるようになる。
- **Radia Management Portal** ゾーンによるデバイスのさまざまな管理方法について理解する。
- オペレーションを実行するためにデバイスのグループが作成できるようになる。また、グループにデバイスを追加、移動、コピー、およびインポートする方法を習得する。
- 代理管理ロールを作成および設定したり、**Radia Management Portal** ディレクトリに管理者およびオペレータを追加したりすることができるようになる。
- バックアップ、復元、インポート、およびエクスポートの各タスクを使用して、**Radia Management Portal** ゾーン ディレクトリが管理できるようになる。
- アクティブなジョブを表示および管理したり、**[Job History]** コンテナから実行済みのジョブを表示したりすることができるようになる。
- **Radia Management Portal** のオブジェクトのプロパティが表示できるようになる。

Radia Management Portal は、組織のインフラストラクチャを設定および管理するためのさまざまな管理機能を備えています。これらの管理機能により、組織内の管理者およびオペレータのニーズに即した Radia Management Portal を準備することができます。また、Radia Management Portal ディレクトリのバックアップの作成など、一般的な管理機能も処理できます。

このリリースでは、ディレクトリ サービスを設定することにより、RCS Primary ファイルや、ポリシー管理用の Active Directory などの既存の LDAP ディレクトリに、ユーザーがアクセスできるようになりました。詳細については、140 ページの「ディレクトリ サービスを設定する」を参照してください。

また、Radia Management Portal ゾーンでデバイスを管理するためのコンテナおよびタスクが導入されました。詳細については、160 ページの「デバイスおよびデバイス グループを設定する」を参照してください。

## Radia Management Portal ゾーンを設定する

インストールの終了後、さまざまな新機能が使用できるようにするために、次のオブジェクトをゾーンのインフラストラクチャに追加する必要があります。

- **ディレクトリ サービス**  
Radia Management Portal から接続できるようにする外部ディレクトリごとに、ディレクトリ サービス オブジェクトを追加します。
- **ネットワーク探索とマウント ポイント**  
Radia Management Portal は、企業内の一連のネットワーク ディレクトリにマウント ポイントを経由して接続するよう設定されています。この定義は、[Directory Services] コンテナにもあり、必要に応じて、起動を自動から手動に変更することができます。
- **グループ**  
このリリースのほぼすべてのオペレーションは、デバイス グループを使用して実行されます。特定の Radia Management Portal ゾーンにインポートまたは追加したデバイスをグループにクラスタリングすると、効率的にオペレーションを共通化することができます。
- **下位ゾーン**  
最初にインストールした Radia Management Portal から [ゾーンのインストール] タスクを実行して、企業内の下位ゾーンをインストールします。下位ゾーンには、それぞれ一意の名前を付けます。[Zone Access Points] コンテナには、すべてのゾーンのエントリがあります。これを使用すると、企業内の全ゾーンのデバイスに対してゾーン オペレーションをスケジュールすることができます。

## ■ タスク テンプレート

ゾーン オペレーションのジョブをスケジュールする前に、タスク テンプレートを追加する必要があります。(通知機能が活用できるか、**Radia Proxy Server** タスクをインストールするために、タスク テンプレートをオプションとして既定のオプションに追加してもよろしい…)

## ■ [Cross References] コンテナ

[Cross References] コンテナのグループは自己管理型であるため、[Devices] コンテナのデバイスに **Radia** 管理エージェントをインストールした後は、これらのグループが自動的に作成され、ダイナミックに管理されます。

# ネットワーク探索について理解する

Radia Management Portal では、起動時および定期的な間隔でネットワーク探索ジョブ (NETSCAN) を実行して、ネットワーク上のリソースを自動的に探索します。検出されたオブジェクトは、[Zone] の [Network] ロケーションの適切なネットワーク コンテナに配置されます。このコンテナでは、Radia Management Portal ゾーンで管理するオブジェクトを選択することができます。

Radia Management Portal で検出されたオブジェクトのネットワーク コンテナを表示するには、ナビゲーション ロケーション支援で [Desktop]、[Zone]、[Network] の順に移動します。

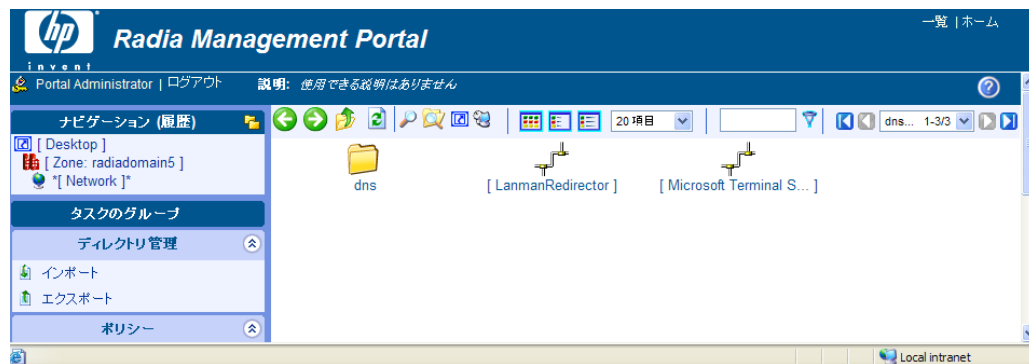


図 4.1 ~ 探索されたネットワークが配置された [Network] コンテナのサンプル

特定のネットワークで検出されたオブジェクトを表示するには、[Network] コンテナに移動し、ワークスペースでネットワークをクリックします。次に例を示します。

- 管理可能な Windows デバイスを表示するには、[Microsoft Windows Network **cn=lanmanredirector**] をクリックします。
- 管理可能な Netware デバイスを表示するには、[Netware or Compatible Networks **(cn=nrnwk)**] をクリックします。

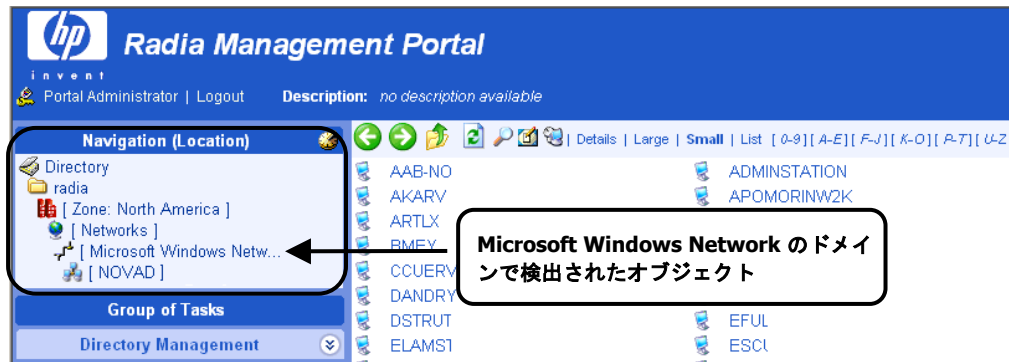


図 4.2 ~ Microsoft Windows Network のドメインで検出されたオブジェクト



## ネットワーク探索を設定する

環境によっては、ネットワーク探索がよりきめ細かく管理できるように、ネットワーク探索を設定しなければならない場合があります。特に、大規模なネットワーク環境では、その必要があります。

ネットワーク探索ジョブを実行するたびに、新たに検出されたオブジェクトが **[Network]** コンテナに追加されます。追加のネットワーク探索ジョブでは、以前に探索された **[Network]** コンテナへのオブジェクトの追加のみが行われ、削除は行われません。

### ネットワーク探索を設定するには

1. **Radia Integration Server** のサービスを停止します。
2. **Radia Management Portal** の設定ファイル (**rmp.cfg**) をテキスト エディタで開きます。デフォルトでは、このファイルは **SystemDrive:\Novadigm\IntegrationServer\etc** にあります。

---

```
#
# Copyright (C) 1997-2001 HP. All Rights Reserved.
#
# $Header: /cvs/nvd/rmp/default.rc,v 1.6 2002/02/01 17:56:24 Exp $
#
#
# RMP Module (Radia Management Portal)
#
# This section provides the core configuration for the
# RMP Sub-system. Please take care when hand-editing this.
#
rmp::init {
    URL      /
    }
#
# END OF CONFIG
#
```

← ネットワーク探索の設定パラメータを挿入する。

図 4.3 ~ デフォルトの **rmp.cfg** ファイルのサンプル

3. 上の「図 4.3 ~ デフォルトの **rmp.cfg** ファイルのサンプル」で示すように、このファイル内の左波かっこ ( { ) の前に、138 ページの「表 4.1 ~ ネットワーク探索の設定パラメータ」のパラメータを挿入することができます。

## 4. パラメータと値はスペースで区切ります。

表 4.1 ~ ネットワーク探索の設定パラメータ

パラメータ	説明
NETSCAN	<p>ネットワーク探索を有効または無効にします。デフォルトでは、有効になっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「NETSCAN 0」と入力すると、ネットワーク探索が無効になります。</li> <li>「NETSCAN 1」と入力すると、ネットワーク探索が有効になります。</li> </ul>
NETSCAN_START_DELAY	<p>Radia Management Portal の起動時に、ネットワーク探索が開始されるまでの待機時間を秒単位で指定します。デフォルトは、15 分 (900 秒) です。この値は、次のように指定します。</p> <pre>NETSCAN_START_DELAY 900</pre> <p>この値は、次のように Tcl 式を使用して指定することもできます。</p> <pre>NETSCAN_START_DELAY {15*60}</pre> <p>15 は分を表す数値です。これに 60 秒を掛けると、値は 900 秒になります。</p>
NETSCAN_POLL	<p>ネットワーク探索の間隔を秒単位で指定します。デフォルトの設定は 86400 秒 (24 時間) です。</p> <p>この値は、Tcl 式を波かっこで囲って指定することもできます。たとえば、12 時間を指定するには、次のように入力します。</p> <pre>NETSCAN_POLL {12*60*60}</pre> <p>12 は時間を表す数値です。これに 60 秒を掛け、さらに 60 分を掛けます。</p>
NETSCAN_INCLUDE	<p>指定のオブジェクト クラスごとに、ネットワーク探索の対象を、インクルードリストで名前が指定されたオブジェクトに限定します。デフォルトでは、ネットワーク内の全クラスで検出されたすべてのオブジェクトが対象になります。次の構文を使用します。</p> <pre>NETSCAN_INCLUDE { object_class {object_list} object_classn {object_list} }</pre> <p>意味:</p> <p><i>object_class</i> は、後続のオブジェクト リストで指定したメンバーに、探索対象のオブジェクトが制限されるクラスです。有効なオブジェクト クラスとしては、ネットワーク、ツリー、ドメイン、コンピュータなどがあります。ネットワークには、他のクラスが含まれる場合もあります。ヒント: マウス ポインタをアイコン上に合わせると、オブジェクトのクラスの一覧が表示されます。</p> <p><i>object_list</i> は、共通名を波かっこで囲んだスペース区切りのリストです。これらの共通名は、指定のオブジェクト クラスについてネットワーク探索の対象に含まれるオブジェクトのみを指定します。指定のクラスの名前が付いていないオブジェクトは除外されます。</p> <p>名前の大文字と小文字は区別されません。</p> <p>例: 次の例では、探索対象を Microsoft Windows Network 内の 2 つの指定ドメインにある全オブジェクトに制限します。その他のネットワークは探索されません。</p> <pre>NETSCAN_INCLUDE { network {lanmanredirector} domain {domain1 domain2} }</pre> <p>その他の例については、139 ページの「NETSCAN_INCLUDE を使用してネットワーク探索を制限する」を参照してください。</p>

5. ファイルを保存して閉じます。
6. Radia Integration Server を再起動し、Radia Management Portal を起動します。

## NETSCAN\_INCLUDE を使用してネットワーク探索を制限する

NETSCAN\_INCLUDE {} パラメータを使用すると、ネットワーク内のオブジェクトおよびオブジェクトクラスのネットワーク探索を制限することができます。これにより、非常に効果的で極めて厳密な制限を設定することができます。

一般的な構文については、「表4.1 ~ ネットワーク探索の設定パラメータ」の NETSCAN\_INCLUDE エントリを参照してください。

NETSCAN\_INCLUDE を使用する際は、次の事項に留意してください。

1. クラスは階層構造になっており、インクルードリストは上位のクラスから下位のクラスの順に処理されます。たとえば、ネットワーク クラスのインクルードリストは、ドメインのインクルードリストより先に処理されます。

---

ネットワーク

ドメイン

コンピュータ

図 4.4 ~ Microsoft Windows Network のオブジェクト クラスの階層のサンプル

---

2. NETSCAN\_INCLUDE リストでクラスに名前が付けられていない場合は、すべてのオブジェクトが対象に含まれます。これは、上位クラスのオブジェクトの処理に適用された制限によります(下の手順 3 の説明を参照)。
3. NETSCAN\_INCLUDE リストで指定のクラスのオブジェクトを制限すると、同じクラスの名前が付いていないオブジェクトも除外することになります。また、除外対象の分岐に含まれる下位クラスのオブジェクトもすべて除外することになります。

たとえば、定義でドメイン リストを対象に含めると、リストにないネットワーク内のドメインはすべて除外されます。除外対象のドメインに含まれるコンピュータもすべて除外されます。

**例:**

独自の NETSCAN\_INCLUDE リストを記述する際は、次の例を参考にしてください。

1. **NETSCAN\_INCLUDE { }**  
ネットワーク内のオブジェクトをすべて探索します。デフォルトです。
2. **NETSCAN\_INCLUDE { network {lanmanredirector} }**  
探索対象を lanmanredirector ネットワークに制限します。lanmanredirector は、Microsoft Windows Network の共通名です。その他のネットワークは探索されません。lanmanredirector のすべてのオブジェクトが探索されます。
3. **NETSCAN\_INCLUDE { computer {gta02 vhr01 kwo04 jra06} }**  
コンピュータ オブジェクトの探索対象をリストの 4 つのコンピュータ (gta02、vhr01、kwo04、および jra06) に制限します。コンピュータではないネットワーク オブジェクトをすべて探索します。
4. **NETSCAN\_INCLUDE { domain {Novad} computer {gta02 vhr01 kwo04 jra06} }**  
ドメインまたはコンピュータ オブジェクトではないネットワーク オブジェクトをすべて探索します。コンピュータがドメイン Novad に存在すれば、これらのコンピュータをすべて探索します。その他のコンピュータは探索されません。

## ディレクトリ サービスを設定する

[Zone Configuration] コンテナには、[Directory Services] コンテナがあります。このコンテナでは、企業内の Radia Configuration Server PRIMARY Database や Active Directory サービスなど、別のディレクトリ サービスの定義、設定、接続、または切断を実行することができます。詳細については、次の「ディレクトリ サービスを追加する」のトピックを参照してください。



図 4.5 ~ [Directory Services] コンテナのロケーションのサンプル

## ディレクトリ サービスを追加する

Radia Management Portal のゾーン ディレクトリ サービスから別のディレクトリ サービスへの接続を定義するには、[**Directory Services**] コンテナの [**ディレクトリ サービスの追加**] タスクを使用します。RMP ゾーンには、次のディレクトリ サービスのタイプのいずれかを追加することができます。

- **LDAP**  
このタイプを使用すると、Microsoft Active Directory、DNS、Netscape Iplanet などの別の LDAP ディレクトリに接続できます。
- **RCS**  
このタイプを使用すると、Radia Configuration Server に接続したり、Radia データベースの PRIMARY ファイルにアクセスしたりすることができます。
- **DSML**  
このタイプを使用すると、企業内の別の Radia Management Portal ゾーンまたは Radia Information Base (RIB) サービスに接続できます (注意: [**Management Portal のインストー**ル] タスクを使用すると、このエントリが自動的に作成されます)。
- **MK**  
このタイプは、ゾーン ディレクトリ サービスのカスタム メタキット コンテナを作成した経験を持つ上級ユーザーが使用することをお勧めします。このタイプを使用すると、Radia Management Portal の機能を拡張することができます。

ディレクトリ サービスの接続のプロパティを定義する場合は、次の項目を指定する必要があります。

- **マウント ポイント**。これは、接続先のディレクトリ構造の最上位レベルです。下位レベルはブラウズできますが、それより上のレベルはブラウズできません。たとえば、Active Directory の最上位レベルへの接続や、組織内部の特定の単位への接続を定義することができます。
- **アクセス用のログイン資格**。接続が行われる際は、必ず資格が渡されます。
- **Radia Management Portal の起動時の接続を、自動、手動、または無効に指定します。**
  - 接続を手動にすると、ユーザーは、定義されたディレクトリにアクセスするたびに接続を行う必要があります。詳細については、186 ページの「**事前定義されたディレクトリ サービスを起動するには**」を参照してください。
  - 接続が無効の場合、定義されたディレクトリに任意の人物がアクセスできるようにするためには、管理者が接続を自動または手動に設定する必要があります。詳細については、186 ページの「**ディレクトリ サービスのプロパティを変更する**」を参照してください。

## ディレクトリ サービスを追加するには

1. **[Directory Services]** コンテナに移動します。このコンテナは、**[Zone]** の **[Configuration]** コンテナ内にあります(下図参照)。

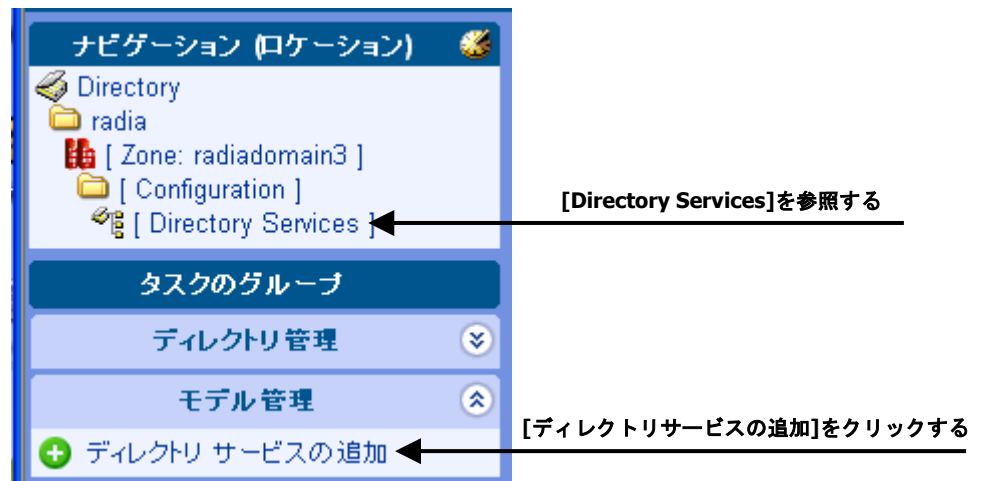


図 4.6 ~ [ディレクトリ サービスの追加]のロケーション

2. **[モデル管理]** タスク グループの **[ディレクトリ サービスの追加]** をクリックします。  
[ディレクトリ サービスの追加] ページが表示されます。このページでプロパティを指定します。
3. 最初に、**[タイプ]** ドロップダウン リストでディレクトリ サービスの**タイプ**を選択します。

表 4.2 ~ タイプによるディレクトリ サービスの追加

選択したタイプ	追加されるディレクトリ サービス
[ds-dsml]	DSML: RIB や別の RMP ゾーンなどの外部ディレクトリ サービス
[ds-ldap]	LDAP: Active Directory などの LDAP ディレクトリ サービス
[ds-mk]	MK: カスタム [Zone Metakit] コンテナ (上級ユーザーのみ)
[ds-rcs]	RCS: Radia データベースをホストする Radia Configuration Service

タイプを選択すると、[ディレクトリ サービスのプロパティ] ページに、一連のプロパティおよびそのタイプに固有のデフォルト値が表示されます。プロパティの指定の詳細については、以下のトピックを参照してください。

- 「LDAP ディレクトリ サービスのプロパティを指定する」
- 「RCS ディレクトリ サービスのプロパティを指定する」
- 「DSML ディレクトリ サービスのプロパティを指定する」
- 「メタキット ディレクトリ サービスのプロパティを指定する」

4. プロパティをすべて入力したら、[サブミット] をクリックします。

ディレクトリ サービスの定義が [Directory Services] コンテナに追加されます。サービスへの接続については、「ディレクトリ サービスを起動する」のトピックを参照してください。

## LDAP ディレクトリ サービスのプロパティを指定する

[タイプ] ボックスの一覧の [ds-ldap] (LDAP および AD) をクリックした場合、ディレクトリ サービスのプロパティの指定方法については、次の表を参照してください。

表 4.3 ~ [タイプ] = [ds-ldap] の場合のディレクトリ サービスのプロパティ

フィールド	説明
[共通名]	ディレクトリ サービスの共通名。ディレクトリ サービス オブジェクトの中で一意の名前を指定する必要があります。また、X500 標準に準拠する必要があります。 <b>例:</b> eng.novadigm.com は、ds=eng,ds=novadigm,ds=com という LDAP ディレクトリ サービスに割り当てられます。
[表示名]	[Directory Services] コンテナでのオブジェクトの表示名。
[説明]	対象のディレクトリ サービスの説明。
[起動]	[自動]、[手動]、または [無効] をクリックします。 <b>[自動]</b> RMP ゾーンの起動時に、対象のディレクトリ サービスに自動的に接続されるよう指定します。 <b>[手動]</b> RMP セッション中に管理者またはユーザーが "ディレクトリ サービスを開始" タスクを使用して接続しなければならないよう、対象のディレクトリ サービスへの接続を指定します。 <b>[無効]</b> 対象のディレクトリ サービスへの接続を制限します。セッション中に任意の人物が対象のディレクトリ サービスに接続できるようにするためには、起動を自動または手動に変更する必要があります。
[タイプ]	<b>[ds-ldap]</b> LDAP ディレクトリ サービスで必要となるタイプ。

表 4.3 ~ [タイプ] = [ds-ldap] の場合のディレクトリ サービスのプロパティ

フィールド	説明
[URL] (Web ページ アドレス)	形式: ldap://<IP アドレスまたは修飾されたコンピュータ名>:389/ <修飾されたユーザー名> 例: ldap://10.10.10.1:389/administrator@eng.novadigm.com ldap://usa.mycompany.com:389/admin@usa.mycompany.com
[パスワード]	[URL] に入力したユーザー名のパスワード。
[ポリシーに使用]	デフォルト: [false] <b>[False]</b> 対象の LDAP ディレクトリ サービスを [ポリシー] タスクで使用しないことを示します。 <b>[True]</b> 対象のディレクトリ サービスですべての [ポリシー] タスクで使用できるようにします。このフィールドを設定するには、 <b>[修正]</b> タスクを実行します。
[使用]	入力すると、対象のディレクトリ サービスの共通名が上書きされます。

[サブミット] をクリックして、対象のディレクトリ サービスの定義を入力します。

次の図に、LDAP ディレクトリ サービスにアクセスするディレクトリ サービスのプロパティの設定例を示します。



## ディレクトリ サービスを追加

ディレクトリ サービスのプロパティ

共通名	myldap.novadigm.com
表示名	my LDAP Directory Service
説明	Active Directory Service
起動	自動 手動 無効
タイプ	ds-ldap ds-mk ds-rcs
URL	ldap://10.10.10.1389/administrator@myldap.novadigm.cc
パスワード	●●●●●
使用	

サブミット キャンセル

図 4.7 ~ LDAP ディレクトリ サービスに追加するディレクトリ サービスのプロパティのサンプル

### 注意:

1. ポリシーに使用している LDAP ディレクトリ サービスを指定する場合は、149 ページの「ディレクトリ サービスのプロパティを変更する」を参照してください。
2. ポリシーに使用しているが、edm 以外の LDAQ ポリシー拡張プレフィックスを使用している LDAP ディレクトリ サービスを指定する場合は、158 ページの「カスタム LDAP ポリシー拡張プレフィックスを設定する」も参照してください。

## RCS ディレクトリ サービスのプロパティを指定する

RCS ディレクトリ サービスの接続を行う場合のディレクトリ サービスのプロパティの指定方法については、次の表を参照してください。

**表 4.4 ~ [タイプ] = [ds-rcs] の場合のディレクトリ サービスのプロパティ**

フィールド	説明
[共通名]	デフォルト: [primary] Primary が存在する場合、デフォルトは [RCS/n] になります。 必須。ディレクトリ サービス オブジェクトの中で一意の名前を指定する必要があります。また、X500 命名標準に準拠する必要があります。
[表示名]	オブジェクトの表示名。
[説明]	対象のディレクトリ サービスの説明。
[起動]	[自動]、[手動]、または [無効] をクリックします。 <b>[自動]</b> RMP ゾーンの起動時に、対象のディレクトリ サービスに自動的に接続されるよう指定します。 <b>[手動]</b> RMP セッション中に管理者またはユーザーが "ディレクトリ サービスを開始" タスクを使用して接続しなければならないよう、対象のディレクトリ サービスへの接続を指定します。 <b>[無効]</b> 対象のディレクトリ サービスへの接続を制限します。セッション中に任意の人物が対象のディレクトリ サービスに接続できるようにするためには、起動を自動または手動に変更する必要があります。
[タイプ]	<b>[ds-rcs]</b> Radic Configuration Server ディレクトリ サービスへの接続で必要となるタイプ。
[URL] (Web ページ アドレス)	デフォルトのエントリ: rcs://localhost:3464/RAD_MAST 形式: rcs://<ホスト名または IP アドレス>:<ポート番号>/<ユーザー名> 例: rcs://myserver600:3464/RAD_MAST Radic Configuration Server の修飾されたホスト名または IP アドレスを指定するには、<localhost> を変更します。必要に応じて、ユーザー名は、デフォルトの RAD_MAST から、インストール時に使用したユーザー名に変更してください。通常、ポート番号は 3464 です。
[パスワード]	[URL] に入力したユーザー名のパスワード。
[パス] ([修正] タスクを参照)	RCS Primary ファイルへの接続を効率的に行うためのオプションのエントリ。 RCS の ZTOPTASK.EXE のフルパスを指定します。次に例を示します。 C:/Novadigm/ConfigurationServer/bin/ztoptask.exe

表 4.4 ~ [タイプ] = [ds-rcs] の場合のディレクトリ サービスのプロパティ

フィールド	説明
[DS プレフィックス]	デフォルト: cn=config,cn=<ゾーン名>,cn=radia RCS Primary ファイルをマウントする Radia Management Portal を指定します。 RCS が対象のゾーンの RCS Primary Database であり、AD でのポリシーの割り当てに使用される場合は、値を変更する必要はありません。
[タイムアウト]	デフォルト: 0 RCS 接続のタイムアウトを指定しない場合は、 <b>0</b> のままにします。一定の期間が経過してもアクティビティがない場合に RCS 接続のタイムアウトを指定するには、このフィールドにタイムアウト期間を秒単位で入力します。

[サブミット] をクリックして、対象のディレクトリ サービスの定義を入力します。

次の図に、Radia Configuration Server の Radia データベース PRIMARY ファイルにアクセスする、ディレクトリ サービスのプロパティの設定例を示します。

### ディレクトリ サービスを追加

ディレクトリ サービスのプロパティ

共通名	<input type="text" value="primary"/>
表示名	<input type="text" value="RCS Database"/>
説明	<input type="text" value="RCS Database"/>
起動	<input checked="" type="radio"/> 自動 <input type="radio"/> 手動 <input type="radio"/> 無効
タイプ	<input type="text" value="ds-ldap"/> <input type="text" value="ds-mk"/> <input checked="" type="text" value="ds-rcs"/>
URL	<input type="text" value="rcs://localhost:3464/RAD_MAST"/>
パスワード	<input type="password" value="●●●"/>
DS プレフィックス	<input type="text" value="cn=config,cn=radiadomain5,cn=radia"/>
パス	<input type="text"/>
タイムアウト	<input type="text" value="0"/>

図 4.8 ~ RCS のディレクトリ サービスのプロパティのサンプル

## DSML ディレクトリ サービスのプロパティを指定する

DSML 接続のディレクトリ サービスのプロパティの指定内容は、LDAP 接続の場合と同じです。唯一の相違点は、URL エントリの形式です。DSML では、URL を **ldap:** ではなく **dsml:** で開始します。DSML 接続は、別の RMP ゾーンに接続する場合、または Radia Information Base (RIB) ディレクトリ サービスに接続する場合に定義します。

## メタキット ディレクトリ サービスのプロパティを指定する

上級ユーザーであれば、ゾーンに別の [Directory Services] コンテナを追加して、Radia Management Portal ゾーンの機能を拡張することができます。ゾーン内の各コンテナは、ゾーンの起動時に、テンプレート (\*.tmpl) ファイル、LDAP データ交換 (\*.ldif) ファイル、およびメタキット (\*.mk) ファイルを使用して、ディレクトリ サービスとしてロードされます。

ディレクトリ サービスをカスタマイズした場合は、\*.mk ファイル用のディレクトリ サービス定義を追加します。ディレクトリ サービスのプロパティの指定方法については、次の表の解説を参照してください。

### 注意

ds-mk ディレクトリ サービスの例として、Radia Management Portal 独自のディレクトリ サービスのマウント ポイントが挙げられます。これには、[Zone] の [Configuration] の [Radia Management Portal] コンテナにあるタスク、ジョブ、ユーザーなどのディレクトリ サービスのマウント ポイントが該当します。

表 4.5 ~ [タイプ] = [ds-mk] の場合のディレクトリ サービスのプロパティ

フィールド	説明
[共通名]	ディレクトリ サービスの共通名。ディレクトリ サービス オブジェクトの中で一意の名前を指定する必要があります。また、X500 標準に準拠する必要があります。 例: [zone]/[config]/[tasks]
[表示名]	ディレクトリ サービス オブジェクトの表示名。 例: マウント ポイント:[Tasks]
[説明]	対象のディレクトリ サービスまたはマウント ポイントの説明。

表 4.5 ~ [タイプ] = [ds-mk] の場合のディレクトリ サービスのプロパティ

フィールド	説明
[起動]	[自動]、[手動]、または [無効] をクリックします。 <b>【自動】</b> RMP ゾーンの起動時に、対象のディレクトリ サービスの接続またはマウントが自動的に 行われるよう指定します。 <b>【手動】</b> RMP セッション中に管理者またはユーザーが "ディレクトリ サービスを起動" タスクを 使用して接続しなければならないよう、対象のディレクトリ サービスの接続またはマウ ントを指定します。 <b>【無効】</b> 対象のディレクトリ サービスの接続またはマウントを制限します。セッション中に任意 の人物が対象のディレクトリ サービスに接続できるようにするためには、起動を自動ま たは手動に変更する必要があります。
[タイプ]	<b>[ds-mk]</b> カスタム メタキット ディレクトリ サービスへの接続で必要となるタイプ。
[使用]	共通名を上書きします。
[テンプレート]	ディレクトリ サービスで必要なテンプレート ファイルを指定します。 例: <<module.curpath>>/etc/task.ldif

[サブミット] をクリックして、対象のディレクトリ サービスの定義を入力します。

## ディレクトリ サービスのプロパティを変更する

ゾーンの **[Directory Services]** コンテナで定義したディレクトリ サービスの接続のプロパティを変更するには、**[モデル管理]** タスク グループの **[修正]** タスクを使用します。たとえば、起動モードや、ポリシーに LDAP 接続を使用しているかどうかを示すフラグなどを変更することができます。

### ディレクトリ サービスのプロパティを変更するには

1. 変更するサービスのディレクトリ サービスのプロパティを表示します。  
**[ディレクトリ サービスのプロパティ]** ページを表示するには、**[Zone]** コンテナ、**[Configuration]** コンテナ、**[Directory Services]** コンテナの順にクリックして、ディレクトリ サービス オブジェクトをクリックします。
2. **[モデル管理]** タスク グループの **[修正]** をクリックします。  
特定のオブジェクト タイプの **[修正]** ページが表示されます。「図 4.9」に、**[LDAP を修正]** ページの表示例を示します。

図 4.9 ~ [LDAP を修正] ページのサンプル

3. プロパティの変更を反映するようにエントリを変更します。これらのフィールドの詳細については、「ディレクトリ サービスを追加する」の該当する表を参照してください。
4. 対象のディレクトリ サービスがポリシー管理に使用されている場合は、[ポリシーに使用] ドロップダウンリストで **[true]** をクリックします。この設定により、対象のディレクトリ サービスの [ポリシー] タスクがすべて使用できるようになります。

#### 注意

ポリシーに LDAP ディレクトリ サービスを使用しているが、カスタムのポリシー プレフィックスを使用している (つまり、edmPolicy のように edm 以外のプレフィックスを指定している) 場合は、rmp.cfg ファイルの PREFIX パラメータでカスタム プレフィックスを指定する必要があります。詳細については、158 ページの「カスタム LDAP ポリシー拡張プレフィックスを設定する」を参照してください。

5. プロパティの変更を保存するには、[修正] をクリックします。[ディレクトリ サービスのプロパティ] ページが表示されます。このページに、変更したプロパティが表示されます。  
プロパティの変更をキャンセルするには、[リセット] をクリックします。[修正] ページを終了するには、[キャンセル] をクリックします。

## ディレクトリ サービスを削除する

定義済みのディレクトリ サービスへの接続を削除するには、[モデル管理] タスク グループの [削除] タスクを使用します。

### ヒント

ディレクトリ サービスのエントリを削除する代わりに、これを無効にする方法もあります。無効にするには、[修正] タスクで [起動] フィールドを [無効] に設定します。

ディレクトリ サービス オブジェクトを削除するには

### 警告

別のユーザーが使用しているディレクトリ サービスを削除すると、そのユーザーは親オブジェクトにリダイレクトされ、エラー メッセージが表示されます。

次の手順は、Radia Management Portal から任意のオブジェクトを削除する手順と基本的に同じです。

1. [Zone] コンテナ、[Configuration] コンテナ、[Directory Services] コンテナの順に移動して、削除対象のディレクトリ サービスをクリックし、オブジェクトのプロパティを表示します。
2. [モデル管理] タスク グループの [削除] をクリックします。  
削除を確認する [ディレクトリ サービスを削除] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. 削除を確定するには緑色のチェック マークをクリックし、削除をキャンセルするには赤の X をクリックします。

## ディレクトリ サービスを起動する

外部ディレクトリ サービスまたはネットワーク マウント ポイントに接続するには、[インフラストラクチャ] タスク グループの [ディレクトリ サービスを起動] タスクを使用します。

- [Zone] コンテナの Configuration コンテナで定義したディレクトリ サービスを起動するには、下記の手順を実行します。ディレクトリ サービスを新たに定義する場合、あるいは起動モードを手動または無効に定義した場合は、この手順を実行する必要があります。
- [Devices] コンテナからディレクトリ サービスを起動するには、153 ページの「デバイスに対して定義されたサービスを開始する」手順を実行します。この手順では、サービスが存在しない場合に、サービスを [Directory Services] コンテナに追加するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

ディレクトリ サービスのマウント ポイントの定義または変更に関する詳細については、141 ページの「ディレクトリ サービスを追加する」、または 149 ページの「ディレクトリ サービスのプロパティを変更する」を参照してください。

## 事前定義されたディレクトリ サービスを起動するには

1. 接続するサービスのディレクトリ サービスのプロパティを表示します。

[ディレクトリ サービスのプロパティ] ページを表示するには、[Zone] の [Configuration] コンテナに移動し、[Directory Services] をクリックします。ワークスペースでディレクトリ サービス オブジェクトをクリックします。

2. [インフラストラクチャ] タスク グループの [ディレクトリ サービスを開始] をクリックします。

接続が直ちに開始されます。ワークスペースに、接続マウント ポイントで定義したディレクトリの最上位レベルのオブジェクトが表示されます。

アクセスするディレクトリ サービスのタイプに応じて、ナビゲーション ロケーションが変わります。また、構造内を移動するごとに、対象のオブジェクトで使用できるタスクが表示されます。次の表に、ディレクトリ サービスのタイプごとのアクセスするディレクトリのロケーションを示します。

表 4.6 ~ アクセスするディレクトリおよびマウント ポイントのロケーション

オブジェクト	ディレクトリのロケーション
Active Directory、その他の LDAP ディレクトリ	ゾーンと同じディレクトリ レベル
RCS の Primary ファイル	[Zone] の [Configuration] の [Primary] コンテナ
ネットワーク マウント ポイント	[Zone] の [Network] コンテナ
DSML (下位ゾーンまたは RIB)	[Zone] の [Zone Access Points] コンテナ
メタキット ディレクトリ サービス (上級ユーザー対象)	テンプレートで定義

「図 4.10」に、RCS データベースへの接続例を示します。

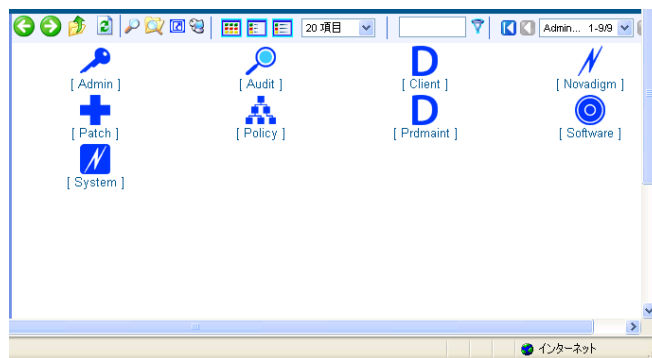


図 4.10 ~ RMP ゾーンから RCS データベース の Primary ファイルへのアクセス



## デバイスに対して定義されたサービスを開始するには

1. ナビゲーション支援を使用して、[Zone] の [Devices] コンテナに移動します。
2. 開始するサービスが含まれているデバイスをクリックします。
3. 開始するサービスをワークスペースでクリックします。

[サービスのプロパティ] ページが表示されます。

4. [インフラストラクチャ] タスク グループの [ディレクトリ サービスを開始] をクリックします。
5. [Zone] の [Configuration] コンテナにディレクトリ サービスとしてサービスが追加されていない RCS に接続する場合は、次のダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスで次に実行する操作のオプション ボタンをクリックします。

### ディレクトリ サービス を接続



図 4.11 ~ ディレクトリ サービスとして RCS を追加する画面

- [追加] をクリックすると、最初にディレクトリ サービスとして [Zone] の [Configuration] コンテナに RCS を追加してから、サービスに接続することができます。

ディレクトリ サービス エントリを追加すると、Radia Management Portal ゾーンの起動時に、この RCS ディレクトリに常に自動接続されます。RCS を初めてゾーンに追加した場合、[共通名] はデフォルトで [primary] になります。このゾーンに primary RCS が存在する場合、[共通名] はデフォルトで [rcs1] になります。ディレクトリ サービスとして RCS を追加する方法の詳細については、146 ページの「RCS ディレクトリ サービスのプロパティを指定する」を参照してください。

- [接続] をクリックすると、このロケーションから直接 RCS に接続することができます。


152 ページの「図 4.10」に、RCS データベースへの接続例を示します。

## ディレクトリ サービスを停止する

外部ディレクトリ サービスまたはデバイス サービスとの現在の接続を切断するには、[インフラストラクチャ] タスク グループの [ディレクトリ サービスを停止] タスクを使用します。停止すると、別の接続を実行するまで、そのディレクトリ サービスのオブジェクトは、**Radia Management Portal** のオペレーションが実行できなくなります。

- ディレクトリ サービスとして定義したサービスを停止するには、次の「ディレクトリ サービスを停止するには」の手順を実行します。
- **[Devices]** コンテナの **[サービスのプロパティ]** ページで RCS サービスからの接続を切断するには、154 ページの「デバイスに対して定義されたサービスを停止するには」の手順を実行します。

### ディレクトリ サービスを停止するには

1. 切断を行うための [ディレクトリ サービスのプロパティ] ページを表示します。  
[ディレクトリ サービスのプロパティ] ページを表示するには、次の手順を実行します。
  - a. ナビゲーション支援を使用して、**[Zone]** コンテナ、**[Configuration]** コンテナ、**[Directory Services]** コンテナの順に移動します。
  - b. ワークスペースでディレクトリ サービス オブジェクトをクリックします。
  - c. 必要に応じて、ツールバーの **[プロパティの表示]** アイコン  をクリックします。
  - d. **[インフラストラクチャ]** タスク グループの **[ディレクトリ サービスを停止]** をクリックします。
2. 接続が直ちに解除されます。

### デバイスに対して定義されたサービスを停止するには

1. ナビゲーション支援を使用して、**[Zone]** の **[Devices]** コンテナに移動します。
2. 停止するサービスが含まれている **デバイス** をクリックします。
3. 停止するサービスをワークスペースでクリックします。  
[サービスのプロパティ] ページが表示されます。
4. **[インフラストラクチャ]** タスク グループの **[ディレクトリ サービスを停止]** をクリックします。
5. 接続が直ちに解除されます。

## 外部 LDAP 認証を設定する

Radia Management Portal のユーザーの外部 LDAP 認証を実装するには、このトピックで示す手順を実行し、`rmp.cfg` の設定 パラメータを使用します。これらのエントリでは、ポータル管理者 (Admin) も含め、すべての Radia Management Portal ユーザーの LDAP 認証が有効になります。

「表 4.7」に、外部 LDAP 認証を有効にするために必要な最少限のエントリを示します。有効にすると、特定のユーザー ID について LDAP 認証を無効にすることができるようになります。詳細については、157 ページの「特定のユーザーの LDAP 認証を無効にする」を参照してください。

LDAP 認証を有効化する場合に使用する、ユーザーの外部ユーザー ID を指定する方法については、101 ページの「ユーザーを追加する」を参照してください。

### 注意

デフォルトでは、管理者のユーザー ID はローカルの RMP ディレクトリにのみバインドされます。

### Radia Management Portal で外部 LDAP 認証を有効にするには

1. Radia Integration Server のサービスを停止します。
2. Radia Management Portal の設定ファイル (`rmp.cfg`) をテキスト エディタで開きます。デフォルトでは、このファイルは `SystemDrive:\Novadigm\IntegrationServer\etc` にあります。

```
# RMP Module (Radia Management Portal)
#
# This section provides the core configuration for the
# RMP Sub-system. Please take care when hand-editing this.
#
rmp::init {
    URL /

    LDAP_AUTH      1
    LDAP_AUTH_DN   <<user>>@mydomain.com
    LDAP_AUTH_HOST myldaphostname:389

}
#
# END OF CONFIG
#
```

LDAP 認証を有効にするサンプル パラメータ

図 4.12 ~ 外部 LDAP 認証を定義する `rmp.cfg` ファイルのサンプル

3. 上の「[図 4.12 ~ 外部LDAP 認証を定義する rmp.cfg ファイルのサンプル](#)」で示すように、このファイル内の左波かっこ ( { ) の前に、以下のパラメータを挿入します。パラメータは、大文字で入力する必要があります。
4. パラメータと値は 1 つ以上のスペースで区切ります。

**表 4.7 ~ 外部 LDAP 認証の rmp.cfg のパラメータ**

パラメータと値	定義と例
LDAP_AUTH 1	外部 LDAP 認証を有効にするには、 <b>1</b> に設定します。 認証を無効にするには、 <b>0</b> に設定します。デフォルトは <b>0</b> です。 LDAP_AUTH 1
LDAP_AUTH_DN <<user>>@<mydomain.com>	ユーザーがバインドされるドメインを定義します。 <mydomain.com> は、ユーザーがバインドされるドメインに置き換えます。<<user>> の部分は、ログイン ページで入力した値に置き換わります。 LDAP_AUTH_DN <<user>>@mydomain.com LDAP_AUTH_DN <<user>>@domainA.com
LDAP_AUTH_HOST hostname:389	LDAP サーバーのホスト名とポート。 "myldaphostname" は、LDAP サーバーのホスト名です。

5. ファイルを保存して閉じます。
6. Radia Integration Server を再起動し、Radia Management Portal を起動します。

## 特定のユーザーの LDAP 認証を無効にする

特定のユーザーの LDAP 認証を無効にするには、[人を修正] タスクで対象ユーザーの外部認証の値を 0 に設定します。[人を追加] ダイアログ ボックスの [外部認証] で [いいえ] をクリックしても、同じことができます。

詳細については、227 ページの「ユーザーを追加する」および 233 ページの「ユーザーを変更する」を参照してください。

---

### 人を修正

プロパティ

説明	<input type="text" value="Lisa Smith"/>
表示名	<input type="text" value="Lisa Smith"/>
ユーザー パスワード	<input type="password" value="●●●●●●●●"/>
外部ユーザー ID	<input type="text" value="Smith1"/>
外部認証?	<input type="text" value="0"/>

図 4.13 ~ ユーザーの LDAP 認証を無効にするには、[外部認証] を 0 (ゼロ) に設定

---

Radia Management Portal でディレクトリが新規作成されると、すべてのポータル管理者 (Admin) の外部認証は、デフォルトで [いいえ] ([人を修正] ダイアログ ボックスでは [0]) に設定されます。

## カスタム LDAP ポリシー拡張プレフィックスを設定する

ほとんどの Radia Policy Server の実装では、デフォルトの `edm` の LDAP ポリシー拡張プレフィックス (例: `edmPolicy`) を使用します。ただし、[ポリシー] タスク用に LDAP ディレクトリ サービスを定義し、`edm` 以外のポリシー拡張プレフィックスを使用する場合は、以下に示す手順で LDAP ポリシー拡張プレフィックスを Radia Management Portal に定義します。この手順では、`PREFIX` パラメータを `rmp.cfg` ファイルに追加し、`edm` 以外のポリシー プレフィックスの値を指定します。

Radia Policy Server および LDAP ポリシー拡張の設定の詳細については、『Radia Policy Server Guide』を参照してください。

### Radia Management Portal で (edm 以外の) カスタム LDAP ポリシー プレフィックスを設定するには

1. Radia Integration Server のサービスを停止します。
2. Radia Management Portal の設定ファイル (`rmp.cfg`) をテキスト エディタで開きます。デフォルトでは、このファイルは `SystemDrive:\Novadigm\IntegrationServer\etc` にあります。

---

```
#
# Copyright (C) 1997-2001 HP. All Rights Reserved.
#
# $Header: /cvs/nvd/rmp/default.rc,v 1.6 2002/02/01 17:56:24 Exp $
#
# RMP Module (Radia Management Portal)
#

# This section provides the core configuration for the
# RMP Sub-system. Please take care when hand-editing this.
#
rmp::init {
    URL          / 挿入された PREFIX パラメータがカスタム LDAP ポリシー プレフィックス
                 を定義する
    PREFIX rad ←
}

#
# END OF CONFIG
#
```

---

図 4.14 ~ `edm` 以外の LDAP ポリシー プレフィックスを定義する `rmp.cfg` ファイルのサンプル

3. 上の「図 4.14 ~ `edm` 以外の LDAP ポリシー プレフィックスを定義する `rmp.cfg` ファイルのサンプル」で示すように、このファイル内の左波かっこ (`{}`) の前に、`PREFIX` パラメータを挿入します。パラメータは、大文字で入力する必要があります。

4. PREFIX パラメータと値は 1 つ以上のスペースで区切ります。Radia Policy Server で定義した LDAP ポリシー拡張プレフィックス値と同じ値を入力します。大文字と小文字の区別も合わせてください。

表 4.8 ~ カスタム ポリシー プレフィックスを設定するパラメータ

パラメータ	説明
PREFIX	<p>デフォルト値の edm 以外の LDAP ポリシー拡張プレフィックスを定義します。PREFIX パラメータと値は 1 つ以上のスペースで区切ります。値は、Radia Policy Manager で定義した LDAP ポリシー拡張プレフィックスと一致させる必要があります。</p> <p>次に例を示します。</p> <p style="padding-left: 40px;">PREFIX rad</p> <p>上の例では、ポリシー プレフィックスに edm ではなく rad を定義しています。</p>

5. ファイルを保存して閉じます。
6. Radia Integration Server を再起動し、Radia Management Portal を起動します。

## ゾーン アクセス ポイントを設定する

[Management Portal のインストール] タスクで複数のポータルゾーンをインストールするたびに、企業内の他の Radia Management Portal ゾーンへのアクセス ポイントが自動的に設定されます。

Radia インフラストラクチャの別のゾーンにアクセスするには、[Zone Access Points] コンテナに移動して、表示するゾーンのアイコンをクリックします。

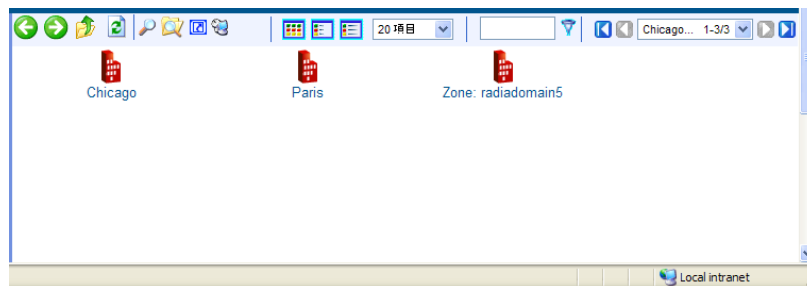


図 4.15 ~ [Zone Access Points] コンテナから Chicago ゾーンへのアクセス

## デバイスおよびデバイス グループを設定する

Radia Management Portal ゾーンでは、さまざまな方法でデバイスを管理することができます。

- 1 番目は、[Zone] コンテナの [Devices] コンテナにコンピュータを追加する方法です。この方法では、デバイスも [Groups] コンテナの Default Group のメンバーになります。詳細については、次の「RMP ゾーンにデバイスを追加する」を参照してください。
- 2 番目は、グループを作成する方法です。この方法では、グループのメンバーのオペレーションが容易になります。デバイスのグループの追加については、183 ページのトピックを参照してください。
- 3 番目は、デバイスに Radia 管理エージェントをインストールする方法です。デバイスに Radia 管理エージェントをインストールすると、デバイスが自動的に適切な [Cross References] コンテナ グループのメンバーになります。この方法は、特定のオペレーション、ソフトウェア、またはハードウェアに関する設定を全デバイスに通知する必要がある場合に効果的です。詳細については、305 ページの「Radia 管理エージェントをインストールする」を参照してください。

### RMP ゾーンにデバイスを追加する

デバイスは、さまざまな方法で RMP ゾーンに追加できます。下の「表 4.9」では、これらの方法について説明します。実際の企業の環境に最も適した方法を選択してください。コンピュータは、すべてデバイスとしてデバイス コンテナに追加されます。特に指定がない限り、デバイスも [Default Group] コンテナのメンバーとして追加されます。

表 4.9 ~ [Zone] コンテナの [Devices] コンテナへのコンピュータの追加方法

方法	説明と参照先
ネットワークでの選択	ネットワーク内で検出されたコンピュータをブラウズします。この方法では、[オペレーション] タスク グループの [コンピュータの管理] タスクを使用します。詳細については、「第 5 章 オペレーション機能」の「コンピュータを管理する」を参照してください。
Active Directory での選択	マウントされた Active Directory のロケーションからコンピュータをブラウズします。この方法では、[オペレーション] タスク グループの [コンピュータの管理] タスクを使用します。詳細については、「第 5 章 オペレーション機能」の「コンピュータを管理する」を参照してください。
ホスト名のリスト	ホスト名のリストを作成します。この方法では、[デバイスのインポート] タスクを使用します。詳細については、197 ページの「デバイスをインポートする」を参照してください。



表 4.9 ~ [Zone] コンテナの [Devices] コンテナへのコンピュータの追加方法

方法	説明と参照先
個別のエントリ	[Groups] コンテナのグループをブラウズします。この方法では、[モデル管理] タスク グループの [デバイスの追加] タスクを使用します。詳細については、177 ページの「 <a href="#">単一デバイスを追加する</a> 」を参照してください。
Radia 管理エージェントのインストール	このリリースの Radia 管理エージェントがインストールされているコンピュータは、Radia Management Portal にアクセスすると、自動的に [Devices] コンテナに追加されます。

Radia Management Portal でデバイスを管理するタスクを実行する前に、Radia Management Portal の標準的なブラウズおよび選択用のウィンドウの使用方法を把握しておく必要があります。詳細については、161 ページの「[グループの変更の基本手順](#)」を参照してください。

## グループの変更の基本手順

Radia Management Portal の多くのタスクでは、グループのアイテムをブラウズおよび変更するための類似したウィンドウが表示されます。このトピックでは、これらのウィンドウの使用方法について説明します。実行しているタスクに関係なく、同じ手順が適用されます。

このウィンドウを使用するタスクでは、3 つまたは 4 つの手順を実行します。同時に変更を適用する場合は 3 つの手順を、また、変更の適用前に変更内容を確認する場合は 4 つの手順を実行します。

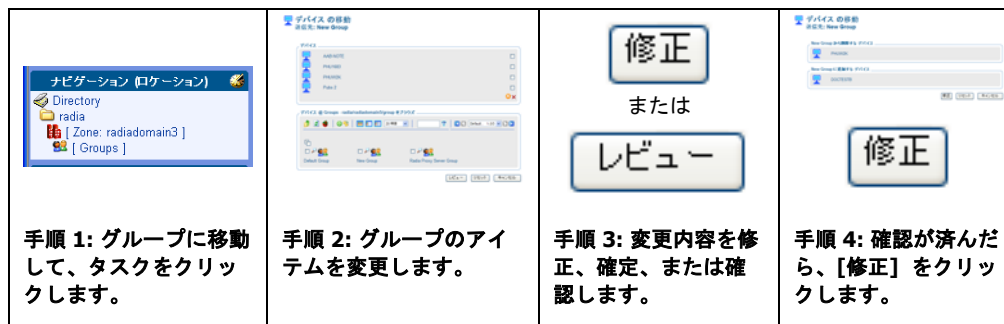


図 4.16 ~ アイテムのグループを変更するタスクの概要

## [ブラウザおよび変更] ウィンドウを使用する

「図 4.17」に、[ブラウザおよび変更] ウィンドウのサンプルを示します。[モデル管理] タスク グループの [デバイスの移動] をクリックすると、[デバイスの移動] ウィンドウが表示されます。

このウィンドウは、グループ リスト領域、ブラウザ領域、変更に関連する各種ボタンの 3 つの領域で構成されます。各領域の使い方を確認してください。サービス オブジェクトまたはポリシー オブジェクトの作業を行う場合は、グループ リスト領域にサービス属性および式のエディタも表示されます。

以下では、各領域の使用方法について説明します。



図 4.17 ~ [デバイスの移動] タスクの [ブラウザおよび変更] ウィンドウのサンプル

### ヒント

変更作業を続行して、変更内容を確認するには、[レビュー] をクリックする必要があります。

### ■ グループ リスト

上部の領域には、変更対象のグループのアイテムの一覧が表示されます。たとえば、「[図 4.17](#)」では、**[New Group]** のアイテムの一覧が表示されています。これは、**[Zone]** の **[Groups]** コンテナのデバイスのグループです。

グループ領域に一覧表示されているアイテムを追加または削除する方法については、163 ページの「[グループ リスト領域を使用する](#)」を参照してください。

Radia サービス オブジェクトの作業を行う場合、グループ リストのサービス名のチェック ボックスをオンにすると、**属性エディタ**で属性の値を指定することができます。詳細については、167 ページの「[属性エディタを使用する](#)」を参照してください。

Radia サービス オブジェクトの作業を行う場合、グループ リスト領域のサービス名のチェック ボックスをオンにすると、**式エディタ**で追加の制約を指定することもできます。詳細については、171 ページの「[式エディタを使用する](#)」を参照してください。

### ■ ブラウズ領域

下部の領域では、**Radia Management Portal** ゾーンをブラウズすることができます。また、アイテム名のチェック ボックスをオンにすると、そのアイテムをグループ リストに追加、移動、またはコピーすることができます。この領域の使用方法の詳細については、174 ページの「[ブラウズ領域を使用する](#)」を参照してください。

### ■ ボタン

実際に表示されるボタン名は異なりますが、左端のボタンは変更を確定するボタンです。

- グループ リストを変更して保存するには、**[修正]** または **[コミット]** をクリックします。
- **[レビュー]** が表示される場合は、変更を保存する前に変更内容を確認する必要があります。**[レビュー]** をクリックすると、変更内容を要約したウィンドウが表示されます。次に、**[修正]** をクリックして変更を行い、タスクを終了します。
- タスクを開始してから行ったグループ アイテムの変更を破棄するには、**[リセット]** をクリックします。
- タスクを終了するには、**[キャンセル]** をクリックします。

## グループ リスト領域を使用する

**[ブラウズおよび変更]** ウィンドウのグループ リスト領域を使用すると、グループからアイテムを削除したり、手動でアイテムを変更または追加したりすることができます。手動でアイテムを変更または追加するには、そのアイテムの **X500** 識別名を指定する必要があります。

### ヒント



X500 識別名は、アイテムのプロパティ ページのオブジェクトの情報領域に一覧表示されます。また、ワークスペースまたはナビゲーション領域でオブジェクトの名前にマウス カーソルを合わせても表示されます。

### リスト内の1つまたは複数のアイテムを削除するには

1. グループ リスト領域で、削除対象の各アイテムの右側にあるチェック ボックスをオンにします。

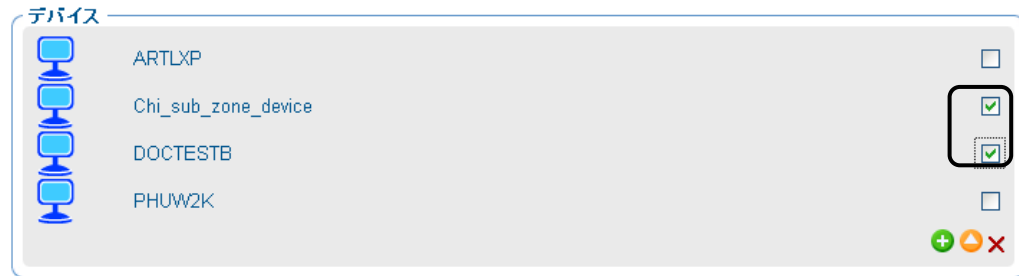


図 4.18 ~ リストから削除するアイテムのチェック ボックスをオンにする

2. リストからアイテムを削除するには、**X** をクリックします。
3. 変更したリストを保存するには、ブラウザ グループ領域の下にある [修正] または [コミット] をクリックします。

#### 注意

タスクによっては、[修正] ボタンの代わりに [レビュー] ボタンが表示される場合があります。この場合は、[レビュー] をクリックして、変更内容を確認してから [修正] をクリックします。

### リストの1つまたは複数のアイテムを変更するには

1. グループ リスト領域で、変更対象の各アイテムの右側にあるチェック ボックスをオンにします。
2. チェック ボックスをオンにしたアイテムを変更するには、**▶** をクリックします。

各領域の使用方法については、以下を参考にしてください。



図 4.19 ~ 変更の準備が整った状態のリストのアイテム

- テキストボックスでアイテムの X500 識別名を変更します。
- ✓ をクリックして変更を確認します。
- 変更したリストを保存するには、ページの下部にある [修正] ボタンをクリックします。

### 注意

タスクによっては、[修正] ボタンの代わりに [レビュー] ボタンが表示される場合があります。この場合は、[レビュー] をクリックして、変更内容を確認してから [修正] をクリックします。

### 手動でリストにアイテムを追加するには

- 手動でリストにアイテムを追加するには + をクリックします。  
リスト領域にテキストボックスが表示されます。このテキストボックスでは、オブジェクトの X500 識別名を指定することができます。

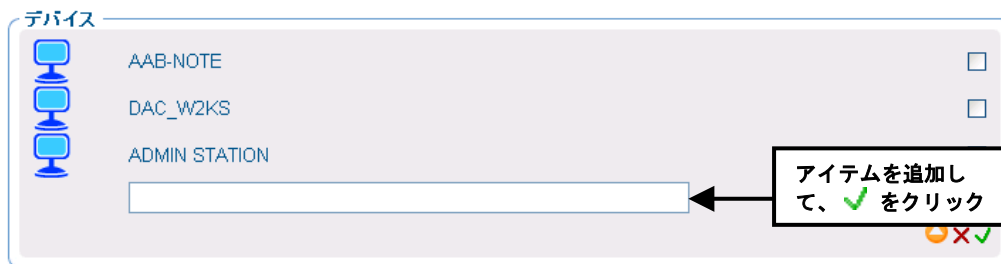


図 4.20 ~ グループにアイテムを追加するテキストボックス

### ヒント

X500 識別名は、アイテムのプロパティ ページのオブジェクトの情報領域に一覧表示されます。また、ワークスペースまたはナビゲーション領域でオブジェクトの名前にマウスカーソルを合わせても表示されます。

- テキストボックスに、追加するオブジェクトの X500 識別名を入力します。たとえば、デバイスの **Default Group** の X500 識別名は、次のようになります。  
cn=default,cn=group,cn=myzone,cn=radia
- ✓ をクリックして変更を確認します。

4. 変更したリストを保存するには、ブラウザ領域の下にある **[修正]** または **[コミット]** をクリックします。

**注意**

タスクによっては、**[レビュー]** ボタンが表示されます。この場合は、**[レビュー]** をクリックして、変更内容を確認してから **[修正]** をクリックします。

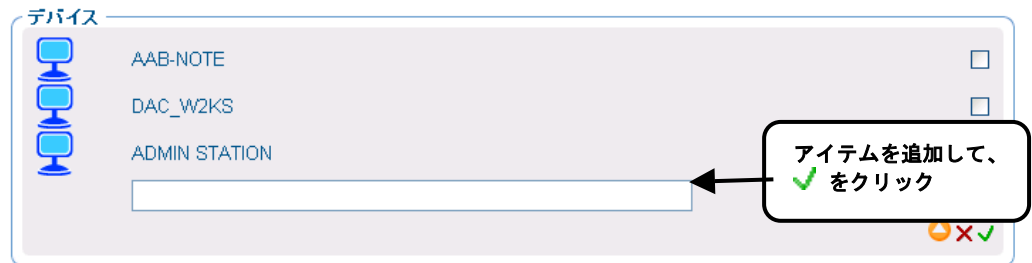


図 4.21 ~ グループにアイテムを追加するテキスト ボックス

5. テキスト ボックスでアイテムの **X500** 識別名を入力します。
6. **✓** をクリックして変更を確定します。
7. 変更したリストを保存するには、ブラウザ領域の下にある **[修正]** または **[コミット]** をクリックします。

**注意**

タスクによっては、**[修正]** または **[コミット]** ボタンの代わりに **[レビュー]** ボタンが表示される場合があります。この場合は、**[レビュー]** をクリックして、変更内容を確認してから **[修正]** をクリックします。

## 属性エディタを使用する

[ブラウズおよび変更] ウィンドウでサービスを選択すると、属性エディタを使用して、Radia サービスの属性値を指定することができます。属性エディタで指定する値は、ポリシーの値 (121 ページの「ポリシーを修正する」を参照)、デフォルト値 (129 ページの「デフォルト値を修正する」を参照)、または上書き (130 ページの「上書きを修正する」を参照) です。

次の手順では、属性エディタを使用して、Amortize アプリケーションのデフォルトのバージョンを 1.0 に設定する方法を示します。


### 属性エディタを使用するには

1. [ポリシー (詳細)] タスク グループの適切なタスクを選択したら、[ブラウズ] ウィンドウで Amortize などの適切なサービスのチェック ボックスをオンにします。

### ポリシーのデフォルトを修正



図 4.22 ~ [ポリシーのデフォルトを修正] ウィンドウ - Amortize サービスのチェック ボックスをオンにする

2. [属性] ボックスの左側にある  をクリックします。  
属性エディタ領域が表示されます。

---

## ポリシーのデフォルト を修正

ポリシーのデフォルト

優先度	ポリシー	属性	式
可能 (+)  (+)	software/amortize	<  <input type="text"/>	>;  <input type="text"/>

属性エディタ


 ポリシー: software/amortize  
属性の数: なし

図 4.23 ~ 属性エディタ

---



3. 新しい属性を追加するには、属性エディタ領域の  をクリックします。

## ポリシーのデフォルトを修正

ポリシーのデフォルト

優先度	ポリシー	属性	式
可能 (+) <input type="button" value="v"/>	(+) software/amortize	< <input type="text"/>	>; <input type="text"/>


属性エディタ

ポリシー: software/amortize  
属性の数: 1

:

図 4.24 ~ 属性の追加

4. 左側のテキストボックスに、追加する属性の名前を入力します (この例では、「version」と入力)。サービスで使用可能な任意の属性を指定することができます。
5. 右側のテキストボックスに、属性の値を入力します (この例では、「1.0」と入力)。

6.  をクリックして属性の変更を確定します。

## ポリシーのデフォルト を修正



図 4.25 ~ 追加した属性

ウィンドウのポリシーのデフォルト領域の **[属性]** ボックスに、指定した属性と値が適切な構文で表示されます。

7. 変更作業が完了したら、**[コミット]** をクリックします。

## 式エディタを使用する

[ブラウズおよび変更] ウィンドウでサービスを選択すると、**式エディタ**を使用して、選択したサービスに対して追加の制約を指定することができます。式エディタで指定する式は、ポリシーの式 (121 ページの「**ポリシーを修正する**」を参照)、デフォルトの式 (129 ページの「**デフォルト値を修正する**」を参照)、または上書きの式 (130 ページの「**上書きを修正する**」を参照) です。


次の手順では、式エディタを使用して、**Amortize** サービスの制約を設定する方法を示します。具体的には、(「**属性エディタを使用する**」で説明した) バージョン **1.0** のサービスを配布するのに加え、このサービスの配布先を、**Windows NT** オペレーティング システムが動作するマシンに限定します。

### 式エディタを使用するには

1. [ポリシー (詳細)] タスク グループの適切なタスクを選択したら、[ブラウズ] ウィンドウで Amortize などの適切なサービスのチェック ボックスをオンにします。

#### 注意

この手順で示す例でも、バージョンを示す属性値は 1.0 に設定されています。

2. [式] ボックスの左側にある  をクリックします。  
式エディタ領域が表示されます。

### ポリシーのデフォルトを修正

ポリシーのデフォルト


優先度	ポリシー	属性	式
可能 (+) ▼ (+)	software/amortize	< version="1.0" >	

式エディタ

[-] ポリシー: software/amortize  
式: なし

コミット リセット キャンセル

図 4.26 ~ 式エディタ

3. 新しい式を追加するには、式エディタ領域の  をクリックします。

## ポリシーのデフォルト を修正

ポリシーのデフォルト

優先度	ポリシー	属性	式
可能 (+) <input type="button" value="v"/>	(+) software/amortize	< version="1.0" >	<input type="text"/>

式エディタ

[-] ポリシー: software/amortize  
式: なし

追加:

オペランド1 または部分式:      演算子:      オペランド2:

図 4.27 ~ 新しい式の追加

4. [追加] ドロップダウン リストで、事前に定義された次のオペランドの中から 1 つをクリックして選択します。

### 注意

[追加] ドロップダウン リストに表示される事前定義されたオペランド以外のオペランドを使用するには、テキスト フィールドに任意のオペランドを入力します。

- **<<in.os>>**  
オペレーティング システムを基準にします。
- **<<in.uid>>**  
ユーザー ID を基準にします。

- **<<in.host>>**  
ホスト コンピュータを基準にします。
- **<<in.zcontext>>**  
ZCONTEXT 属性を基準にします。この属性の詳細については、『Radia Application Manager ガイド』を参照してください。

これらの各オプションは、ポリシーの解決時に入力として指定された属性に代わるものです。詳細については、『Radia Policy Server Guide』を参照してください。

5. 必要に応じて、[演算子] ドロップダウン リストで、目的の演算子をクリックして選択します(== など)。

表 4.10 ~ 演算子

式	意味
	論理和を表します。
&&	論理積を表します。
==	"等しい" を表します (大文字と小文字が区別されます)。
!=	"等しくない" を表します。
<=	辞書比較で "より小さいか等しい" を表します。
>=	辞書比較で "より大きい等しい" を表します (C ロケール)。
<	数値比較で "より小さい" を表します。
>	数値比較で "より大きい" を表します。
!	論理否定を表します。
Contains	文字列内のいずれかの位置に含まれていることを表します。大文字と小文字は区別されません。
Begins with	文字列の先頭が一致することを表します。大文字と小文字は区別されません。
Ends with	文字列の最後が一致することを表します。大文字と小文字は区別されません。
Matches	完全に一致することを表します。大文字と小文字は区別されません。

6. [オペランド 2] ボックスに適切な値を入力します (この例では、「NT」と入力)。

7. ✓ をクリックして式の変更を確定します。

## ポリシーのデフォルト を修正



優先度	ポリシー	属性	式
可能 (+)	software/amortize	<version="1.0">	<<in.os>> == NT

ポリシー @ Software - radia/radiadomain5/config/policies/software management/software をブラウズ

Amortize, BLD\_CREATE, data1, Drag & View, GS-CALC, Redbox Organizer, Remote Control, Sales Information, StratusPad, WinZip, WMITools

コミット リセット キャンセル

図 4.28 ~ 式

8. 変更作業が完了したら、[コミット] をクリックします

## ブラウズ領域を使用する

ブラウズ領域のアイコンを使用すると、ツールバーでアイテムを選択して、上部のグループリストにアイテムを追加、移動、またはコピーすることができます。

- このトピックでは、ブラウズ領域のツールバーのアイコンおよびブラウズ領域の使用方法について理解が深まるように解説します。
- アイテムのブラウズ、選択、およびブラウズ領域からグループリスト領域にアイテムを追加する方法については、177 ページの「グループにデバイスを移動する」に記載されている手順に従うことをお勧めします。

**注意**

ブラウザ領域でアイテムを選択してグループ リスト領域に追加したら、ページの下部にあるボタン ([修正]、[コミット]、または [レビュー]) のいずれかをクリックして、タスクを完了する必要があります。表示されるボタンが [レビュー] の場合は、次のウィンドウで [修正] もクリックする必要があります。





**現在のナビゲーション ロケーション**

現在のナビゲーション ロケーションは、ブラウザ領域のラベルでわかります。たとえば、次の図の場合、ブラウザのロケーションは、[Radia Zone Groups] コンテナの [Default Group] です。






図 4.29 ~ ブラウズ領域のラベルで把握できる現在のナビゲーション ロケーション




**ナビゲーションのアイコン**

- ゾーン ディレクトリの 1 つ上の階層に移動するには、 をクリックします。
- 表示をリフレッシュするには、 をクリックします。
- タスクの開始時にホームをブラウズ ロケーションに戻すには、 をクリックします。
- 対象のグループのアイテムをブラウズするには、 (グループまたはコンテナ アイコン) をクリックします。

**アクションのアイコン**

- 選択したオブジェクトを上部の領域に追加するには、 をクリックします。
- 選択したオブジェクトを上部の領域に移動するには、 をクリックします。
- 選択したオブジェクトを上部の領域にコピーするには、 をクリックします。

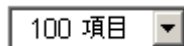
## 表示のアイコン


- 候補のターゲットを大きいアイコンで表示するには、 をクリックします。
- 候補のターゲットをリスト ビューで表示するには、 をクリックします。
- 候補のターゲットを詳細ビューで表示するには、 をクリックします。

## ページ移動およびフィルタのアイコン




次のアイコンを使用すると、多数のアイテムを効率的にブラウズしたり選択したりすることができます。

- ドロップダウン リスト ボックスを使用すると、現在のページの最大アイテム数を設定することができます。



- スクロール バーを使用すると、画面をスクロールして、現在表示されていないアイテムを表示することができます。
- テキスト ボックスにフィルタの値を入力して  をクリックすると、現在のページのアイテムにフィルタを適用することができます。フィルタに有効なワイルドカード文字は、アスタリスク (\*) と疑問符 (?) です。
- ドロップダウン リスト ボックスと矢印を使用すると、複数のページを順番に表示することができます。

## 選択のアイコン

- 一覧表示されているターゲットをすべて選択するには、 をクリックします。アイコンの表示が  に変わります。
- リストから特定のターゲットを選択するには、個別のチェック ボックスをオンにします。
- ターゲットのプロパティを表示するには、 をクリックします。



## ゾーン インフラストラクチャを設定する

このトピックのタスクでは、Radia Management Portal ゾーンで管理するゾーン デバイスおよびデバイス グループを設定します。

先に進む前に、ブラウザ操作および選択操作のウィンドウについて理解を深めておく必要があります。これについては、161 ページの「グループの変更の基本手順」の説明を参照してください。

### 単一デバイスを追加する

[Zone] の [Devices] コンテナに単一デバイスを追加するには、[モデル管理] タスク グループの [デバイスの追加] タスクを使用します。追加したデバイスは、タスクを開始した [Groups] コンテナ内のグループおよび **Default Group** のメンバーになります。

このデバイスを新しいグループに追加する場合は、最初に 183 ページの「デバイスのグループを追加するには」で説明する手順でグループを作成してから、次に説明する [デバイスの追加] タスクを実行します。

#### 単一デバイスを追加するには

1. 必要に応じて、ナビゲーション支援をロケーション モードに設定します。

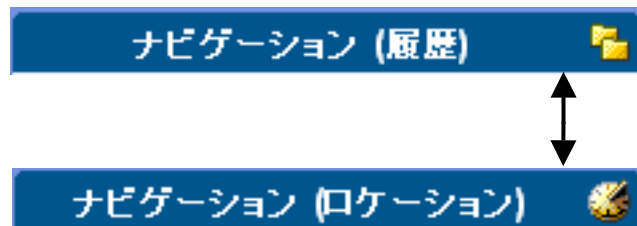


図 4.30 ~ ナビゲーションのロケーション モードと履歴モードを切り替えるには、タイトルバーのアイコンをクリック

2. [Zone]、[Groups] コンテナの順に移動します。



図 4.31 ~ [Zone] の [Groups] コンテナのサンプル

3. 新しいデバイスがメンバーとして所属するグループをワークスペースでクリックします。Default Group 以外のグループをクリックした場合でも、新しいデバイスは Default Group のメンバーになります。
4. [モデル管理] タスク グループの [デバイスの追加] をクリックします。  
[デバイスの追加] ダイアログ ボックスが表示されます。

## デバイスの追加

デバイスの追加

表示名	<input type="text"/>
DNS ホスト名	<input type="text"/>
IP アドレス	<input type="text"/>

図 4.32 ~ [デバイスの追加] ダイアログ ボックス

5. [デバイスの追加] で新しいデバイスに関する次のプロパティを入力します。
  - [表示名] ボックスに、デバイスの表示名を入力します。この名前は、インフラストラクチャの図でオブジェクトのラベルとして表示されます。値の入力を省略した場合は、[DNS ホスト名] ボックスに入力した検証済みの値が使用されます。値の入力を省略し、有効な DNS ホスト名が使用できない場合は、英数字による一意の共通名が生成され、表示名としても使用されます。
  - [DNS ホスト名] ボックスに、ネットワークで認識されているコンピュータの完全修飾された DNS ホスト名を入力します (たとえば、test900.usa.mydomain.com)。
  - [IP アドレス] ボックスに、(わかっている場合) コンピュータの IP アドレスを入力します。

**6. [サブミット] をクリックします。**

**[Devices]** コンテナにデバイスが追加されます。

- デバイスに一意のプロパティ (**DNS** ホスト名または **IP** アドレス) を指定した場合、デバイスはタスクを開始したグループに追加されます。タスクを開始したグループのワークスペースに、デバイスの新しいエントリが表示されます。デバイスは、表示名のアルファベット順に一覧表示されます。



図 4.33 ~ [Default Group] コンテナに正常に追加された "A Test 900" デバイス

- デバイスのプロパティが既存のデバイスのエントリと重複する場合、新しいデバイスは追加されません。

## デバイスに対して生成される共通名

デバイス エントリに割り当てる共通名はすべて、[Zone] の [Devices] コンテナの中で一意でなければなりません。Radia Management Portal によって生成されるデバイスの共通名は、必ず一意になります。生成された共通名の表示例を次に示します。

---



### New Device 2

デバイスのプロパティ

[プロパティ | オブジェクトの情報](#)

**プロパティ**

IP アドレス	16.159.12.167
グループ メンバーシップ	<a href="#">Default Group</a>
作成日のタイムスタンプ	2005/08/04 16:46
変更のタイムスタンプ	2005/08/04 16:46

[先頭に戻る](#)

**オブジェクトの情報**


表示名	New Device 2	<b>生成された共通名</b>
共通名	20050804T074630Z0 ←	
X500 識別名	<a href="#">cn=20050804t074630z0, cn=device, cn=radiadomain5, cn=radia</a>	
オブジェクトのクラス	top computer device	

[先頭に戻る](#)

図 4.34 ~ デバイスに対して生成された共通名のサンプル

---

## デバイスのプロパティを表示する

 デバイスのプロパティを表示するには、ワークスペースの上にあるツールバーの [プロパティの表示] アイコンをクリックします。

デバイスのプロパティは、[Groups] コンテナのデバイスのエントリに移動した後に、または [Devices] コンテナのデバイスのエントリから、表示することができます。

### QA1-2 in QA Lab デバイスのプロパティ

プロパティ | オブジェクトの情報

プロパティ

DNS ホスト名	qa1-2
グループ メンバーシップ	Default Group
作成日のタイムスタンプ	2005/08/04 16:47
変更のタイムスタンプ	2005/08/04 16:47

先頭に戻る


オブジェクトの情報

表示名	QA1-2 in QA Lab
共通名	20050804T074711Z0
X500 識別名	<a href="#">cn=20050804t074711z0, cn=device, cn=radiadomain5, cn=radia</a>
オブジェクトのクラス	top computer device

先頭に戻る

図 4.35 ~ 新たに追加したデバイスのプロパティの表示 (RMA をインストールしていない状態)

Radia 管理エージェントをデバイスにインストールすると、「図 4.36」に示すように、識別されるデバイスのプロパティのエントリが大幅に増えます。Radia Management Portal では、この情報を基にして、適切な [Cross References] コンテナ グループにデバイスのメンバーシップを作成します。

- [サービスのプロパティ] ページで下線が引かれているエントリをクリックすると、リンク先のロケーションに移動することができます。
- [サービスのプロパティ] ページに戻るには、ツールバーの  (左向きの矢印) をクリックします。

 **pathxptest.usa.mycompany.com**  
デバイスのプロパティ

プロパティ | オブジェクトの情報

プロパティ

DNS ホスト名	pathxptest.usa.novadigm.com
NVD IP ネットワーク番号	cn=16.0.0.0.cn=nvdipnetworknumber.cn=xref.cn=radiadomain5.cn=radia
DN	
OS のサービス パック オブジェクトへのリンク	cn=n/a.cn=windows_nt 5.2.cn=operatingsystem.cn=xref.cn=radiadomain5.cn=radia
SMBIOS エンクロージャ S/N	CNG503S1TC
SMBIOS システム S/N	CNG503S1TC
SMBIOS マシンの一意な UID	3639373336394E434735303353315443
SMBIOS メーカー	HP
SMBIOS 製品	ProLiant
	DL380
	G4
エンクロージャ製造メーカー	HP
オペレーティング システム	Windows NT 5.2
オペレーティング システム オブジェクトへのリンク	cn=windows_nt_5.2.cn=operatingsystem.cn=xref.cn=radiadomain5.cn=radia
オペレーティング システム のサービス パック	N/A
グループ メンバーシップ	Default Group
サブネット	16.0.0.0
システム製品名オブジェクトへのリンク	cn=proliant.cn=hp.cn=smsystemmanufacturer.cn=xref.cn=radiadomain5.cn=radia
システム製造メーカー オブジェクトへのリンク	cn=hp.cn=smsystemmanufacturer.cn=xref.cn=radiadomain5.cn=radia
ゾーン	Zone: radiadomain5
作成日のタイムスタンプ	2005/08/02 16:34
変更のタイムスタンプ	2005/08/02 16:34

[先頭に戻る](#)

オブジェクトの情報

表示名	pathxptest.usa.mycompany.com
共通名	20050805T050044Z0
X500 識別名	cn=20050805t050044z0.cn=device.cn=radiadomain5.cn=radia
オブジェクトのクラス	top
	computer
	device

[先頭に戻る](#)

図 4.36 ~ Radia 管理エージェントをインストールした後のデバイスのプロパティ

## グループを追加する

[Groups] コンテナに新しいデバイス グループを追加するには、[モデル管理] タスク グループの [グループの追加] タスクを使用します。[グループの追加] タスクでは、[Groups] コンテナの他のグループから新しいグループに、デバイスをコピーまたは移動することもできます。

- デバイスの追加または移動は行わずに、グループの追加のみを行う手順については、次の「デバイスのグループを追加するには」を参照してください。
- 新しいグループにデバイスを追加する手順については、186 ページの「新しいグループにデバイスを追加する」を参照してください。
- 所属するグループにデバイスをインポートするには、最初に [グループの追加] タスクでデバイスの新しいグループを作成します。次に、そのグループを選択して、[デバイスのインポート] タスクを実行します。詳細については、197 ページの「デバイスをインポートする」を参照してください。

### デバイスのグループを追加するには

この手順では、デバイスの新しいグループを作成します。ただし、グループへのデバイスの移動またはコピーは行いません。

1. 必要に応じて、ナビゲーション支援をロケーション モードに設定します。

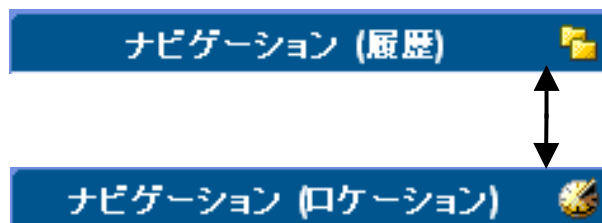


図 4.37 ~ ナビゲーションのロケーション モードと履歴モードを切り替えるには、タイトルバーのアイコンをクリック

---

2. [Zone] コンテナ、[Groups] コンテナの順に移動します。



図 4.38 ~ [Zone] の [Groups] コンテナのサンプル

3. [モデル管理] タスク グループの [グループの追加] をクリックします。  
[グループを追加] ダイアログ ボックスが表示されます。
4. 新しいグループについて次のプロパティを入力します。
  - [共通名] ボックスに、一意のグループ名を入力します。共通名は、オブジェクトクラスに対して一意でなければなりません。

#### 警告

オブジェクトの共通名は、一意でなければなりません。既に使用されている名前でもオブジェクトを作成しようとすると、オブジェクトが既に存在することを示すエラーメッセージがワークスペースに表示されます。

- [表示名] ボックスに、グループの表示名を入力します。この名前は、インフラストラクチャの図でオブジェクトのラベルとして表示されます。
  - [説明] ボックスに、グループの対象となるメンバーシップがわかるような説明を入力します。この説明は、詳細ビューに表示されます。
5. [追加] をクリックします。  
[グループを修正] ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスの表示内容は、次のとおりです。
    - 以前に入力したプロパティ
    - デバイスの定義を含まないグループ リスト
    - ゾーンの現在のグループを表示するブラウザ領域





## 新しいグループにデバイスを追加する

新しいグループを作成して、そのグループに [Zone] コンテナの [Groups] コンテナの他のグループからデバイスを移動またはコピーするには、[モデル管理] タスク グループの [グループの追加] タスクを使用します。

次の手順では、"Test Group" という名前のグループを [Groups] コンテナに追加し、[グループを修正] ページで Default Group から Test Group に 2 つのデバイスをコピーします。

### 注意

このサンプル手順を実際に実行すると、ブラウザ領域の使用方法に関する理解が深まります。

### 新しいグループにデバイスを追加するには

1. 必要に応じて、ナビゲーション支援をロケーションモードに設定します。

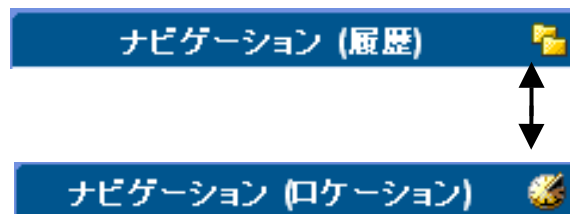


図 4.40 ~ ナビゲーションのロケーションモードと履歴モードを切り替えるには、タイトルバーのアイコンをクリック

2. [Zone]、[Groups] コンテナの順に移動します。



図 4.41 ~ [Zone] の [Groups] コンテナのサンプル

3. [モデル管理] タスク グループの [グループの追加] をクリックします。  
[グループを追加] ダイアログ ボックスが表示されます。
4. 新しいグループについて次のプロパティを入力します。
  - [共通名] ボックスに、「**Test Group**」と入力します。
  - [表示名] ボックスに、「**Test Group**」と入力します。この名前は、インフラストラクチャの図でオブジェクトのラベルとして表示されます。
  - [説明] ボックスに、「**Test Group of Devices**」と入力します。この説明は、詳細ビューに表示されます。

**警告**

オブジェクトの共通名は、一意でなければなりません。既に使用されている名前でオブジェクトを作成しようとすると、オブジェクトが既に存在することを示すエラーメッセージがワークスペースに表示されます。

5. [追加] をクリックします。  
[グループを修正] ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスの表示内容は、次のとおりです。
  - 以前に入力したプロパティ
  - デバイスの定義を含まないグループ リスト
  - ゾーンの現在のグループを表示するブラウザ領域

## グループを修正 Test Group

プロパティ

表示名	<input type="text" value="Test Group"/>
説明	<input type="text" value="Test Group of Devices"/>

デバイス

デバイスは定義されていません +

デバイス @ Groups - radia/radiadomain5/group をブラウズ

20 項目

Default... 1-4/4

<input type="checkbox"/>  Default Group	<input type="checkbox"/>  New Group	<input type="checkbox"/>  Radia Proxy Server Group	<input type="checkbox"/>  Test Group
--	--	---	---

修正 リセット キャンセル

図 4.42 ~ デバイスの [Test Group] の最初の [グループを修正] ウィンドウ

### 注意

環境によってブラウズ領域に表示されるグループは異なります。ただし、[Default Group] および新たに作成した [Test Group] は必ず表示されます。

- ブラウズ領域の [Default Group] アイコン  をクリックします。
- ブラウズ領域の表示がリフレッシュされ、Default Group のメンバーであるデバイスがすべて表示されます。  
特に指定がない限り、すべてのデバイスが Default Group に追加されるため、通常、Default Group のデバイスの数は非常に多くなります。  
Default Group には、少なくとも Radia Management Portal をホストするデバイスが含まれます。

8. ブラウズ領域で、デバイス名の横にあるチェック ボックスを少なくとも 1 つオンにします。

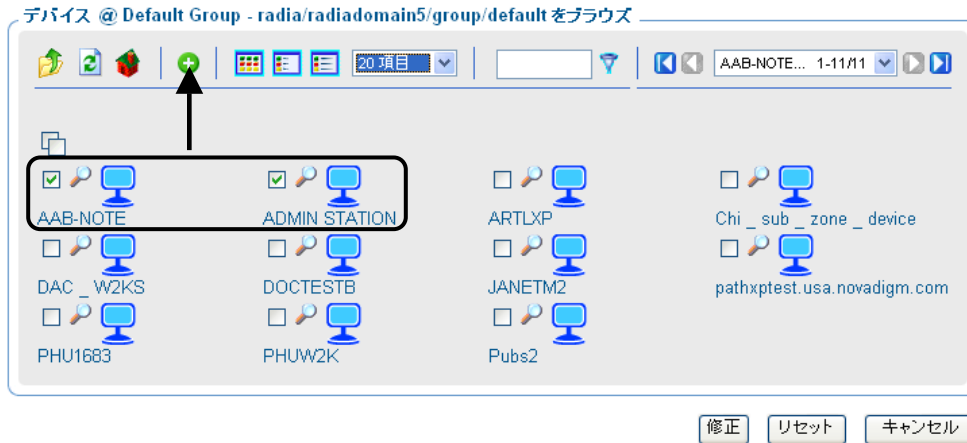


図 4.43 ~ 2 つのデバイスのチェック ボックスをオンにしたブラウズ領域

9. ブラウズ領域のツール バーの **+** をクリックして、チェック ボックスをオンにしたデバイスをグループ リストに追加します。

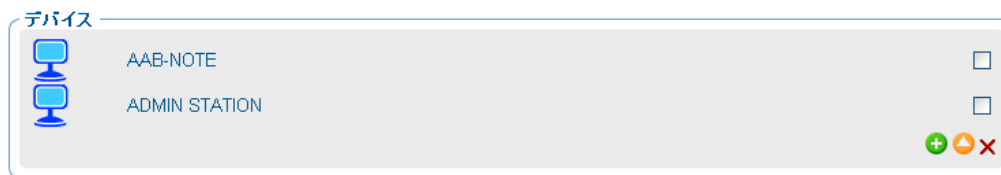


図 4.44 ~ ブラウズ領域でチェック ボックスをオンにしたアイテムをデバイス リストに追加

10. ブラウズ領域の下部にある [修正] ボタンをクリックして、タスクを完了します。

デバイスが [Test Group] に追加され、[グループを修正] ダイアログ ボックスが閉じます。  
[Groups] コンテナの [Test Group] の新しいロケーションが Radia Management Portal に表示され、グループの現在のデバイスがワークスペースに一覧表示されます。

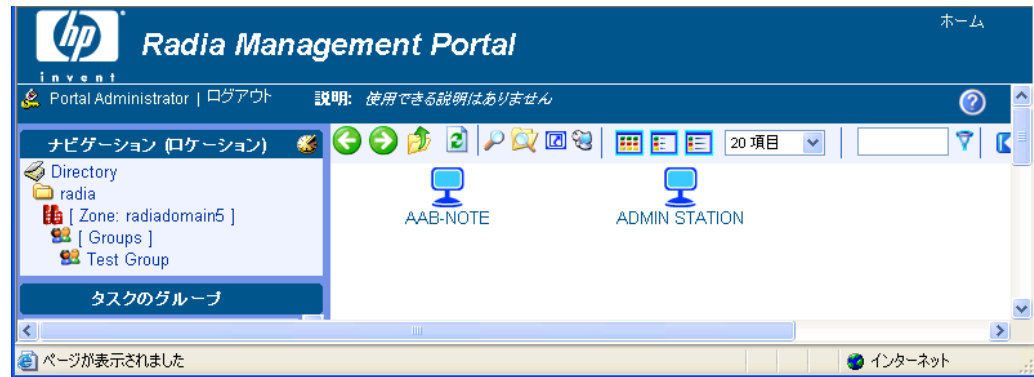


図 4.45 ~ 追加した [Test Group] のロケーションとそのコンテンツの表示

## グループにデバイスを移動する

既存のデバイス グループのメンバーを変更する必要がある場合は、常に [モデル管理] タスク グループの [デバイスの移動] タスクを使用します。このタスクでは、柔軟にデバイス グループのメンバーシップを変更したり、別のグループのメンバーであるデバイスをコピーしたり、グループのメンバーシップからデバイスを削除したりすることができます。

### ヒント

デバイスの新しいグループを作成する方法については、186 ページの「ユーザー グループを追加する」を参照してください。

[Network] コンテナからゾーンにデバイスを移動する方法については、278 ページの「Radia Management Portal ゾーンでコンピュータを管理する」を参照してください。

グループからデバイスを削除する手順については、194 ページの「グループからデバイスを削除する」を参照してください。

## グループにデバイスを移動するには

1. ナビゲーション支援を使用して、メンバーを変更する [Zone] の [Groups] コンテナのグループをクリックします。
2. [モデル管理] タスク グループの [デバイスの移動] をクリックします。

[デバイスの移動] ウィンドウが表示されます。このウィンドウを使用すると、対象のグループのデバイス メンバーシップを変更することができます。

### デバイスの移動

送信先: South Wing Group



図 4.46 ~ [デバイスの移動] タスクの最初のページ

このウィンドウの一般的なナビゲーション方法および使用方法については、161 ページの「グループの変更の基本手順」を参照してください。

3. [デバイスをブラウズ] で適切なデバイス ターゲットをブラウズします。



グループ メンバーシップに対して次のデバイスまたはデバイス グループのチェック ボックスをオンにすることができます。

- [Devices] コンテナのデバイス
- [Groups] コンテナのデバイスまたはグループ
- [Cross References] コンテナのデバイスまたはグループ

**注意**

デバイスは、[Zone] の [Devices] コンテナまたは [Groups] コンテナに追加するまで、[Groups] に移動またはコピーできません。たとえば、[ネットワーク] コンテナからアクセスしたデバイスは、移動またはコピーできません。この場合、最初に [コンピュータの管理] タスク、[デバイスのインポート] タスク (197 ページを参照)、または [デバイスの追加] タスクを使用して、デバイスをゾーンに追加する必要があります。

4. ブラウズ領域でデバイスまたはデバイス グループのチェック ボックスをオンにして、[Devices] にコピーまたは移動します。

- デバイスの送信元グループにおけるメンバーシップを維持したまま、チェック ボックスをオンにしたデバイスをコピーするには、 をクリックします。
- あるグループから別のグループにデバイスを移動するには、 をクリックします。チェック ボックスをオンにしたデバイスは、送信元グループのメンバーから削除されます。

5. 必要に応じて、対象のデバイスおよびグループがすべて [Devices] に一覧表示されるまで、ブラウズ操作と移動/コピー操作を繰り返します。



6. ページの下部にある [レビュー] ボタンをクリックします。

現在のグループに対して追加または削除するデバイスの要約を示したページが表示されます。次の図では、デバイス **DAC\_W2KS** を [South Wing Group] から [Test Group] に移動します。また、デバイス **Pubs 2** を [Test Group] に追加します。



図 4.47 ~ [デバイスの移動] タスクの要約画面の確認

7. 変更を確定するには、[修正] をクリックします。変更内容を修正するには、[リセット] をクリックします。

[修正] をクリックすると、確認用のページに表示された変更内容がグループに対して実行されます。[デバイスの移動] タスクが終了し、現在のグループのメンバーがワークスペースに表示されます。

## グループからデバイスを削除する

1. ナビゲーション支援を使用して、メンバーを変更する [Zone] の [Groups] コンテナのグループをクリックします。
2. [モデル管理] タスク グループの [デバイスの移動] をクリックします。  
[デバイスの移動] ウィンドウが表示されます。
3. 削除するグループのメンバーのチェック ボックスをオンにします。これらのチェック ボックスは、[Devices] の右側にあります。

### デバイスの移動 送信先: Test Group

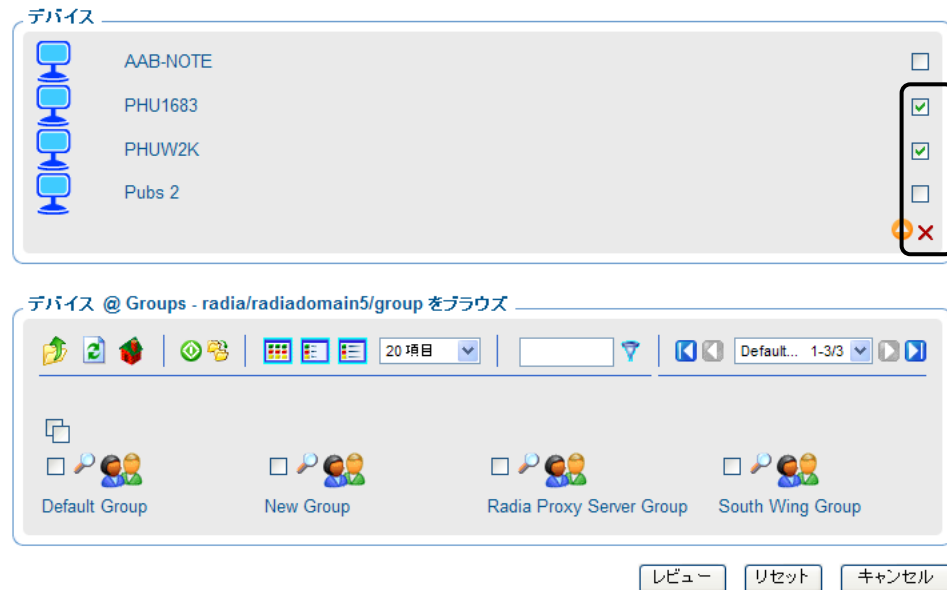


図 4.48 ~ 削除するデバイスのチェック ボックスをオンにする

4. 削除するデバイスのチェック ボックスをオンにしたら、**X** をクリックして、チェック マークを付けたアイテムを削除します。

5. [レビュー] をクリックして、変更内容を確認します。  
[グループから削除するデバイスの一覧を示した]ウィンドウが表示されます。

---

## デバイスの移動

送信先: Test Group

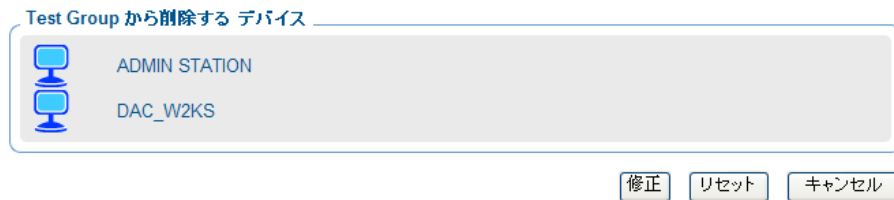


図 4.49 ~ グループから削除するデバイスを確認し、[修正] をクリック

6. [修正] をクリックして、デバイスの削除を完了します。  
タスクが終了すると、グループに残っているデバイスがワークスペースに表示されます。

## デバイスのグループを削除する

オペレーションの必要がなくなったデバイスのグループを [Groups] コンテナから削除するには、[モデル管理] タスク グループの [削除] タスクを使用します。ただし、デバイスの **Default Group** は削除できません。

グループを削除すると、そのグループのデバイス メンバーシップがすべて削除されます。ただし、Radia Management Portal ゾーンからデバイス自体は削除されません。削除したグループは、選択できなくなり、デバイスのグループに対して実行できるオペレーションで使用できなくなります。

### デバイスのグループを削除するには

1. ナビゲーション支援を使用して、[Groups] コンテナの適切なグループに移動します。
2. [モデル管理] タスク グループの [グループの削除] をクリックします。  
ワークスペースに確認メッセージが表示されます。

---

#### グループ の削除

このオブジェクトを削除してもよろしいですか? ✓ ✕

図 4.50 ~ [グループを削除] メッセージ

---

3. Radia Management Portal ディレクトリからのグループの削除を確認するには、✓ をクリックします。  
または  
グループの削除をキャンセルするには、✕ をクリックします。
4. グループのメンバーとして他のグループがない場合は、削除が完了します。  
削除するグループの中にメンバー (子) として複数のグループがある場合は、通知および確認メッセージがワークスペースに表示されます。

---

#### グループ の削除

South Wing Group には子があります

このオブジェクトおよびそのすべての子を削除してもよろしいですか? ✓ ✕

選択した子オブジェクトの削除

図 4.51 ~ 複数の子を持つグループの削除を確認するメッセージ

---

5. Radia Management Portal ディレクトリからのグループとそのメンバー グループの削除を確認するには、✓ をクリックします。  
または  
グループとそのグループ メンバーの削除をキャンセルするには、✕ をクリックします。削除をキャンセルした場合は、どのグループもメンバーシップも削除されません。

## デバイスをインポートする

完全修飾された DNS 名で指定したデバイスのリストを [Zone] コンテナの [Devices] コンテナに追加するには、[モデル管理] タスク グループの [デバイスのインポート] タスクを使用します。インポートしたデバイスは、このタスクを開始した [Zone] コンテナの [Groups] コンテナ グループのメンバーになり、デバイスの **Default Group** のメンバーにもなります。

個別のグループにデバイスをインポートする場合は、最初に [グループの追加] タスクで [Zone] コンテナの [Groups] コンテナ内にグループを作成してから、以下の手順でデバイスをインポートします。

### テキスト ファイルまたはリストからデバイスをインポートするには

1. Radia Management Portal の外部で、グループに追加するデバイスのテキストベースのリストまたはテキスト ファイルを用意します。リストには、各コンピュータの完全修飾された DNS 名を指定する必要があります。

#### 注意

グループのメンバーは後から変更できます。ただし、Radia Management Portal のオペレーションは、(サブセットではなく) グループ全体に対してしか実行できません。この点に留意してグループの構成を計画してください。

用意したリストのエントリは、198 ページの手順 6 のテキスト ボックスにカット アンドペーストできます。また、テキスト ファイルのリストをインポートすることもできます。

このタスクでファイル全体を自動的に入力するには、Radia Integration Server のロケーションの `¥etc¥group` フォルダに \*.txt ファイルを配置します。このデフォルトのロケーションは次のとおりです。

```
<SystemDrive>: ¥Novadigm¥IntegrationServer¥etc¥group
```

2. インポートされたデバイスがメンバーシップを保有することになる Radia Management Portal の [Zone] の [Groups] コンテナで、グループを指定または作成します。デバイスの新しいグループを追加する方法の詳細については、183 ページの「グループを追加する」を参照してください。

#### 注意

インポートされたデバイスは、すべて **Default Group** のメンバーになります。Default Group 以外のグループにデバイスをインポートする場合、デバイスは両方のグループのメンバーシップを保有します。

3. [Zone] の [Groups] コンテナに移動して、インポートされたデバイスを保有するグループをクリックします。

4. [モデル管理] タスク グループの [デバイスのインポート] をクリックします。  
[デバイスのインポート] ダイアログ ボックスが表示されます。ここで、入力メソッドのオプションをクリックします。

---

### デバイスのインポート

デバイスのインポート元:

テキスト  ファイル

図 4.52 ~ [デバイスのインポート] ダイアログ ボックスで入力メソッドのオプションを選択

---

5. グループのメンバーの入力メソッドを次の中から 1 つ選択します。
  - 次に表示されるダイアログ ボックスのテキスト ボックスに、グループのメンバーを入力 (またはカット アンド ペースト) するには、[テキスト] をクリックします。次のダイアログ ボックスが表示されます。

---

### デバイスのインポート

テキスト からデバイスをインポート

グループ  
テキスト

Test Group

サブミット キャンセル

図 4.53 ~ [デバイスのインポート] ウィンドウ

---

[Test Group] ボックスに、グループのメンバーを入力 (またはカット アンド ペースト) します。デバイスの DNS ホスト名は 1 つ以上のスペースで区切って入力します。メンバーは、次の手順で送信元入力リストから削除できます。

- 事前に用意し、Radia Management Portal のインストール ディレクトリの `¥etc¥group` フォルダに配置した `*.txt` ファイルを選択するには、[ファイル] をクリックします。次のダイアログ ボックスが表示されます。

## デバイスのインポート

ファイル からデバイスをインポート

グループ	Test Group
ファイル名	*filename.txt の検索場所: C:\Novadigm\IntegrationServer\etc\group
	<input type="text" value="-----"/>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ga_devices.txt</li> <li>prod_devices.txt</li> </ul>
	<input type="button" value="サブミット"/> <input type="button" value="キャンセル"/>

図 4.54 ~ [デバイスのインポート] ウィンドウ

グループのメンバーの送信元となるテキスト ファイルを [ファイル名] ボックスの一覧でクリックして選択します。メンバーは、次の手順で送信元リストから削除できます。

### 警告

[サブミット] をクリックすると、入力リストまたはテキスト ファイルのすべての新しいデバイスが、インフラストラクチャ ゾーンで選択したデバイス グループのメンバーとして直ちに追加されます。

6. [サブミット] をクリックして、選択したグループのメンバーとしてゾーンにデバイスを追加します。グループを追加すると、そのグループを選択してから、オペレーションを実行することができます。オペレーションは、選択したグループのすべてのメンバーに対して実行されます。デバイスを複数の異なるグループに分割する方法については、190 ページの「グループにデバイスを移動する」を参照してください。デバイスの一部を新しいグループに移動する方法については、186 ページの「新しいグループにデバイスを追加する」を参照してください。

## デバイスのグループに対するジョブのダイナミックなスケジューリング

次の [オペレーション] タスクのジョブは、デバイスのグループに対して使用する場合、ダイナミックにスケジューリングすることができます。

- クライアントのインストール
- 管理エージェントのインストール
- Proxy Server のインストール
- 通知
- Proxy Server の同期
- ダイナミック キャッシュのパーズ (Proxy Server)

このため、ジョブをスケジューリングするときではなく、ジョブを開始するたびに、ターゲットリストがグループに対して再スケジューリングされます。

このダイナミックな機能を使用すると、一連のデバイスへの通知などのジョブを最少限の労力で実行することができます。デバイスのグループを作成して、グループに対して日単位の通知をスケジューリングすることができます。実行の間にデバイスのグループのメンバーを変更することにより、毎日、ジョブは新しいグループのメンバーに通知を滞りなく行います。

## サービスを追加する

ゾーン内のデバイスにサービスを手動で追加するには、[サービスを追加] タスクを使用します。これは、デバイスに Radia 管理エージェントがインストールする前に実行でき、手動でサービスに接続したり、特定のサービスに対して Radia Management Portal のタスクを使用したりすることができます。

たとえば、デバイスに Radia Proxy Server のサービスを手動で追加した場合、サービスを指定するときに、[オペレーション] タスク グループで [Proxy Server の同期] タスクおよび [ダイナミック キャッシュのパーズ] タスクが使用できるようになります。デバイスに Radia Proxy Server のサービスを追加する方法の例については、203 ページの「図 4.57」を参照してください。

### 注意

Radia 管理エージェントをデバイスにインストールすると、そのサービスが自動的に検出されます。



## サービスを追加するには

1. ナビゲーション支援を使用して、サービスを追加するデバイスのエントリに移動します。デバイスには、[Zone] の [Devices] コンテナまたは [Zone] のいずれかの [Groups] コンテナからアクセスできます。

検出または入力されたサービスがデバイスにある場合は、ワークスペースにサービスの一覧が表示されます。

この時点でサービスがデバイスにない場合は、[デバイスのプロパティ] ページが表示されます。

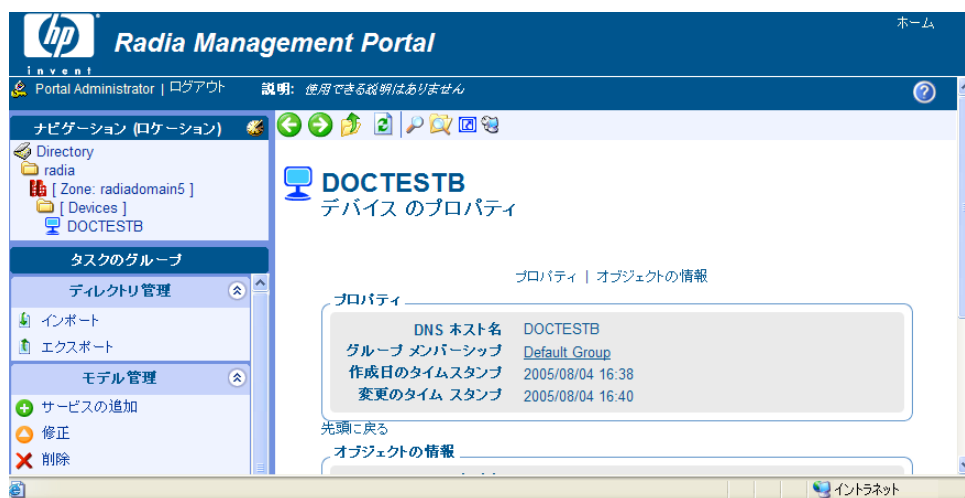


図 4.55 ~ 権限 - [Zone] のデバイス インスタンス

2. [モデル管理] タスク グループの [サービスを追加] をクリックします。  
[サービスを追加] ダイアログ ボックスが表示されます。



## サービスを追加

サービス タイプ

汎用  
RCS  
HTTPD

プロパティ

共通名

表示名

説明

ポート番号 3464

追加 キャンセル

図 4.56 ~ [サービスを追加] ダイアログ ボックス

3. [サービス タイプ] 領域で、追加するサービスのタイプをドロップダウン リストでクリックして選択します。
  - 汎用サービスを追加するには、[汎用] をクリックします。
  - Radia Configuration Server の ZTOPTASK.EXE サービスを追加するには、[RCS] をクリックします。
  - Radia Integration Service の {httpd} で動作するサービス (たとえば、Radia Proxy Server または Radia Inventory Manager Server 用のサービス) を追加するには [HTTPD] をクリックします。

タイプを選択すると、ページの表示がリフレッシュされ、クリックしたサービスのタイプに応じたフィールドが表示されます。
4. [共通名] ボックスに、オブジェクトの名前を入力します。
  - Radia Proxy Server のサービスを指定するには、「**rps**」と入力します。

### 警告

オブジェクトの共通名は、デバイスに対して一意でなければなりません。既に使用されている名前でもオブジェクトを作成しようとすると、オブジェクトが既に存在することを示すエラー メッセージがワークスペースに表示されます。

5. [表示名] ボックスに、サーバーの名前を入力します。この名前がインフラストラクチャの図で表示されます。
6. [説明] ボックスに、説明を入力します。入力した内容は、インフラストラクチャの図の詳細ビューに表示されます。
7. [ポート番号] ボックスに、サービスへの接続に使用するポート番号を入力します。
  - **3466** は、Radia Proxy Server などの Radia httpd サービスのデフォルトのポート番号です。表示例については、下の「[図4.57 ~ Radia Proxy Server のサービスを追加](#)」を参照してください。



## サービスを追加

サービス タイプ

HTTPD ▾

---

プロパティ

共通名	<input type="text" value="rps"/>
表示名	<input type="text" value="RPS"/>
説明	<input type="text" value="Radia Proxy Server"/>
ポート番号	<input type="text" value="3466"/>

図 4.57 ~ Radia Proxy Server のサービスを追加

### 注意

次の各フィールドは、タイプが RCS サービスの場合にのみ適用されます。それ以外のタイプの場合は、手順 12 に進んでください。

8. [パス] ボックスに、**RCS** マシンの `ztoptask.exe` の正確なパスを入力します (たとえば、`C:/Novadigm/ConfigurationServer/bin/ztoptask.exe`)。
9. [ユーザー] ボックスに、サービスへの接続に必要なユーザー名を入力します。
10. [ユーザー パスワード] ボックスに、ユーザーのパスワードを入力します。
11. RCS 接続のタイムアウトを指定しない場合は、[タイムアウト] ボックスの値はデフォルトの **0** のままにします。一定の期間が経過してもアクティビティがない場合に RCS 接続のタイムアウトを指定するには、[タイムアウト] ボックスにタイムアウト期間を秒単位で入力します。

12. [追加] をクリックして、デバイスにサービスを追加します。

新しいサービスがデバイスのプロパティに追加されます。新しいサービスの [サービスのプロパティ] ページがワークスペースに表示されます。

ここで定義したサービスに接続するには、[インフラストラクチャ] タスク グループの [ディレクトリ サービスを開始] タスクを使用します。詳細については、151 ページの「ディレクトリ サービスを起動する」を参照してください。

## オブジェクトを変更する

インフラストラクチャの図のオブジェクトを変更するには、[モデル管理] タスク グループの [グループの修正] タスクを使用します。グループ オブジェクトを変更する場合は、161 ページの「グループの変更の基本手順」も参照してください。

オブジェクトを変更するには

1. ナビゲーション支援を使用して、変更するオブジェクトに移動します。
2. [モデル管理] タスク グループの [修正] をクリックします。  
[デバイスを修正] ダイアログ ボックスが表示されます。

---

### デバイスを修正

プロパティ

表示名	<input type="text" value="Friendly Device Name"/>
説明	<input type="text"/>
IP アドレス	<input type="text"/>
オペレーティング システム	<input type="text" value="Windows XP"/>
オペレーティング システムのバージョン	<input type="text"/>

図 4.58 ~ [デバイスを修正] ダイアログ ボックス

3. 必要な修正を行います。
4. [修正] をクリックして、修正内容を保存します。  
または  
[リセット] をクリックして、修正を元に戻します。  
または  
[キャンセル] をクリックして、[修正] タスクをキャンセルします。

## オブジェクトを削除する

ゾーンからオブジェクトを削除するには、[モデル管理] タスク グループの [削除] タスクを使用します。オブジェクトに複数の子オブジェクトがある場合は、子オブジェクトもすべて削除するかどうかを確認してから削除を行うオプションがあります。たとえば、他のデバイスのグループがメンバーになっているデバイスのグループを削除する場合は、子オブジェクトを削除するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

### 警告

子を含むオブジェクトを削除する前に、子オブジェクトに移動して、すべてを削除するかどうかを確認することができます。

### オブジェクトおよびその子オブジェクトを削除するには

1. ナビゲーション支援を使用して、対象のオブジェクトに移動します。
2. [モデル管理] タスク グループの [削除] をクリックします。  
ワークスペースに確認メッセージが表示されます。



### グループの削除

このオブジェクトを削除してもよろしいですか? ✓ ✗

図 4.59 ~ [グループの削除] メッセージ

3. Radia Management Portal ディレクトリからのオブジェクトの削除を確認するには、✓ をクリックします。  
または  
オブジェクトの削除をキャンセルするには、✗ をクリックします。

4. オブジェクトに子オブジェクトがない場合は、削除が完了します。  
削除するオブジェクトに複数の子オブジェクトがある場合は、通知および確認メッセージがワークスペースに表示されます。

---

## グループの削除

West Coast Group には子があります  
このオブジェクトおよびそのすべての子を削除してもよろしいですか? ✓ ✕

選択した子オブジェクトの削除

図 4.60 ~ 複数の子を持つドメインの削除を確認するメッセージ

---

5. 最初に子オブジェクトを確認するには、[選択した子オブジェクトの削除] をクリックします。
6. Radia Management Portal ディレクトリからのオブジェクトとすべての子オブジェクトの削除を確認するには、✓ をクリックします。

または

オブジェクトとその子オブジェクトの削除をキャンセルするには、✕ をクリックします。削除をキャンセルした場合は、どのオブジェクトも削除されません。

## タスク グループを設定する

タスク バーは、タスクの論理的なグループ (タスク グループ) で構成されます。タスクとは、ジョブを開始するために実行するアクティビティのことです。使用できるタスクは、選択した権限およびロールによって異なります。標準のタスク グループ (84 ページの「タスクバー」を参照) に加え、独自のタスク グループを作成することができます。

## タスク グループを追加する

タスク グループを追加するには

1. ナビゲーション支援を使用して、**[Directory]**、**[Zone]**、**[Configuration]**、**[Tasks]** の順に移動します。

ワークスペースに現在の**タスク**および**タスク グループ**が表示されます。タスク グループは黄色のフォルダのアイコン、タスクは青のページのアイコンで表示されます。

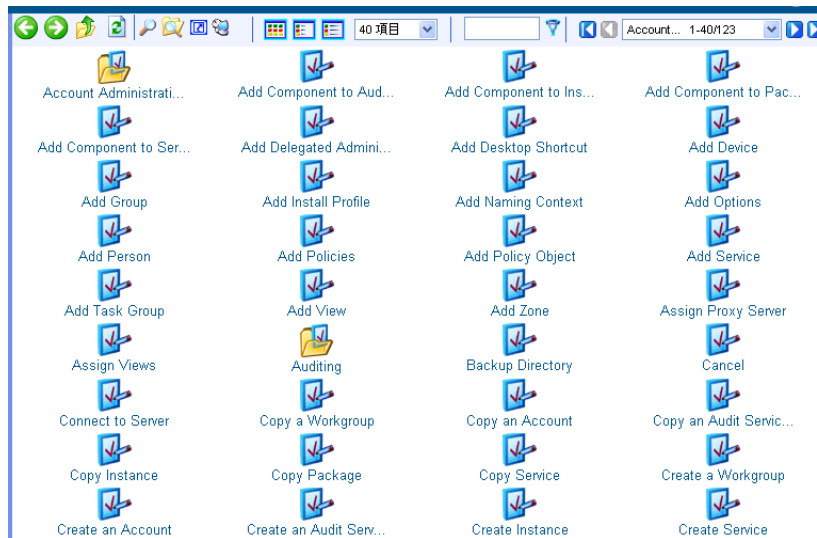


図 4.61 ~ 権限 - [Zone] の [Configuration] コンテナのタスク

2. [モデル管理] タスク グループの [追加] をクリックします。  
[タスク グループを追加] ダイアログ ボックスが表示されます。

---

### タスク グループ を追加

プロパティ

共通名	<input type="text"/>
説明	<input type="text"/>
表示名	<input type="text"/>

図 4.62 ~[タスク グループを追加] ダイアログ ボックス

---

3. [共通名] ボックスに、タスク グループ オブジェクトの名前を入力します。

#### 警告

オブジェクトの共通名は、一意でなければなりません。既に使用されている名前でもオブジェクトを作成しようとすると、オブジェクトが既に存在することを示すエラーメッセージがワークスペースに表示されます。

4. [説明] ボックスに、説明を入力します。入力した内容は、**詳細**ビューに表示されます。
5. [表示名] ボックスに、タスク グループの名前を入力します。省略した場合は、[共通名] で入力した名前が使用されます。





- [追加] をクリックします。  
[タスク グループを修正] ダイアログ ボックスが表示されます。

### タスク グループ を修正



図 4.63 ~ [タスク グループを修正] ダイアログ ボックス

- タスク グループに追加するタスクを [使用可能] ボックスの一覧で 1 つまたは複数クリックして選択します。
-  をクリックして、選択したグループを [選択済み] の一覧に追加します。
- [修正] をクリックします。  
新たに追加した [**Notify Operations**] タスク グループのコンテンツがワークスペースに表示されます。

10. ワークスペースの上にあるツールバーの [プロパティの表示] アイコン  をクリックします。  
[Notify Operations] の [タスク グループのプロパティ] が表示されます。

 **Notify Operations**  
タスクグループのプロパティ

プロパティ | オブジェクトの情報

プロパティ

メンバー	<a href="#">Notify</a>
作成日のタイムスタンプ	2005/08/05 11:26
変更のタイムスタンプ	2005/08/05 11:29

[先頭に戻る](#)

オブジェクトの情報

表示名	Notify Operations
共通名	Notify Operations
X500 識別名	<a href="#">cn=notify_operations, cn=task, cn=config, cn=radiomain5, cn=radia</a>
オブジェクトのクラス	top groupOfNames nvdTaskGroup

[先頭に戻る](#)

図 4.64 ~ [タスク グループのプロパティ] ダイアログ ボックスの表示

11. ここで追加した新しいタスク グループを確認するには、ナビゲーション支援を使用して、**[Directory]**、**[Zone]**、**[Groups]**、**[Default Groups]** の順に移動します。

タスク バーで新しいタスク グループの **[Notify Operations]** が使用できるようになっています。タスク グループは、アルファベット順で一覧表示されます。



図 4.65 ~ 新しいタスク グループの通知オペレーション

このタスク グループに一部の管理者しかアクセスできないように、Radia Management Portal を設定する方法の詳細については、213 ページの「代理管理を設定する」を参照してください。

## タスク グループを変更する

タスク グループを変更するには

1. ナビゲーション支援を使用して、**[Directory]**、**[Zone]**、**[Configuration]**、**[Tasks]** の順に移動します。
2. 変更するタスク グループをワークスペースでクリックします。

3. [モデル管理] タスク グループの [タスク グループを修正] をクリックします。  
[タスク グループを修正] ダイアログ ボックスが表示されます。

### タスク グループ を修正

図 4.66 ~ [タスク グループを修正] ダイアログ ボックス

4. 必要な変更を行います。タスク グループの設定の詳細については、207 ページの「タスク グループを追加する」を参照してください。
5. [修正] をクリックして、修正内容を保存します。  
または  
[リセット] をクリックして、このロールに対して行った変更を元に戻します。  
または  
[キャンセル] をクリックして、変更内容を保存せずにダイアログ ボックスを閉じます。  
選択したタスク グループのオブジェクトがワークスペースに表示され、変更内容を確認することができます。

## タスク グループを削除する

タスク グループを削除するには

1. ナビゲーション支援を使用して、[Directory]、[Zone]、[Configuration]、[Tasks] の順に移動します。
2. 削除するタスク グループをワークスペースでクリックします。
3. [モデル管理] タスク グループの [削除] をクリックします。  
[タスク グループの削除] ダイアログ ボックスが表示されます。



### タスク グループ の削除

このオブジェクトを削除してもよろしいですか? ✓ ✕

図 4.67 ~ [タスク グループの削除] ダイアログ ボックス

4. Radia Management Portal ディレクトリからのタスク グループの削除を確認するには、✓ をクリックします。

または

タスク グループの削除をキャンセルするには、✕ をクリックします。

## 代理管理を設定する

Radia Management Portal では、代理管理情報を設定することにより、各管理者がアクセスできるタスクを、本人および指定されたロールと関連のあるものだけに制限することができます。タスクとは、選択されたターゲット オーディエンスに対して実行される単一のオペレーション機能 (アクション) のことです。ロールとは、管理機能を定義したタスクの論理グループのことです。つまり、誰が何が実行できるかを設定し、それが実行できるインフラストラクチャ内の場所を指定します。

Radia Management Portal では、いくつかの標準のロールが用意されています。既存のロールを表示するには、ナビゲーション支援で [Directory] をクリックし、[Zone] をクリックして [Configuration] をクリックします。次に、ワークスペースで [代理管理] をクリックします。

次に示すロールは、Radia Management Portal の主要なオペレーションの実行に使用するロールです。

- **Global Default Policy**  
Radia Management Portal の管理者は、**Zone、Administrations & Operators、タスク**、および **Job History** のアクションのスキープの [モデル管理] タスクと [オペレーション] タスクにアクセスすることができます。
- **Operations Policy**  
オペレーション スタッフは、**Zone、Administrations & Operators**、および **タスク** のアクションのスキープの [オペレーション] タスクにアクセスすることができます。
- **System-Wide Access**  
Radia Management Portal の管理者は、すべてのアクションのスキープのすべてのタスクにアクセスすることができます。

#### 注意

Radia Management Portal からロックアウトされるのを防止するために、このロールは変更できません。

- **Test Global Policy**  
エンタイトルメントのオプションを試験的に使用することができます。
- 次に示すロールは、RCS データベースおよびポリシーの管理に使用するロールです。

- **Account Administration**
- **Advanced Policy Administration**
- **Auditing Administration**
- **Infrastructure Administration**
- **Package Administration**
- **Policy Administration**
- **RCS Administration**
- **Service Administration**

これらの代理管理ロールのいずれかをワークスペースでクリックすると、そのロールのプロパティが表示されます。

## 代理管理ロールを追加する

管理者の代理管理情報は、3段階のプロセスで追加します。最初に、管理者およびオペレータをロールに割り当てます。次に、管理者またはオペレータが実行できるタスクを指定します。最後に、管理者またはオペレータは指定のタスクが実行できるインフラストラクチャ内の場所を選択します。

### 代理管理ロールを追加するには

#### 注意

この手順で示す各図は、Radia Management Portal への最新の変更内容を反映していません。

1. ナビゲーション支援を使用して、**[Directory]**、**[Zone]**、**[Configuration]** の順に移動します。
2. ワークスペースで **[代理管理]** をクリックします。
3. **[モデル管理]** タスク グループの **[代理管理の追加]** をクリックします。  
[代理管理を追加] ダイアログ ボックスが表示されます。



### 代理管理 を追加

プロパティ

表示名

追加 リセット キャンセル

図 4.68 ~ [代理管理を追加] ダイアログ ボックス

4. [表示名] ボックスに、ロールの名前を入力します。

5. [追加] をクリックします。


[代理管理を修正] ダイアログ ボックスが表示されます。最初に、このロールに割り当てる管理者およびオペレータを選択します。



図 4.69 ~ [代理管理を修正] ダイアログ ボックス – [Administrations & Operators]

6. ダイアログ ボックスの [ブラウズして選択] の [Administrations & Operators] が選択されていることを確認します。選択されたテキストは太字で表示されます。



7. 追加する各管理者および各オペレータの横にある  をクリックします。
- 選択した管理者およびオペレータが、ダイアログボックスの [選択済み] の [管理者/オペレータ] カラムに表示されます。

## 代理管理を修正

表示名

Office Admins

ブラウズして選択

**Administrators & Operators** [A ~ E] [F ~ J] [K ~ O] [P ~ T] [U ~ Z] [すべて]

Tasks Authority

	Operator	
	Package Administrators	
	Policy Administrators	
	RCS Administrator	
	RCS Administrators	


6 - 10 項目 (共に 12 項目)

選択済み

管理者/オペレータ	タスクのグループ	ナビゲーション (ロケーション)
 Operations Staff		
 Portal Administrator		

修正 リセット キャンセル

図 4.70 ~ [代理管理を修正] ダイアログボックス - 管理者およびオペレータの選択

選択したアイテムの一覧から管理者またはオペレータを削除する場合は、 をクリックします。

次に、このロールに含めるタスクを選択します。

- ダイアログ ボックスの [ブラウズして選択] の [Tasks] をクリックします。  
[ブラウズして選択] の表示が更新され、このロールに含めるタスクのグループが選択できるようになります。

## 代理管理 を修正

**表示名**

Office Admins


**ブラウズして 選択**

<ul style="list-style-type: none"> <li> Administrators &amp; Operators</li> <li> <b>Tasks</b></li> <li> Authority</li> </ul>	<div style="text-align: right; margin-bottom: 5px;"> <a href="#">[A ~ E]</a> <a href="#">[F ~ J]</a> <a href="#">[K ~ O]</a> <a href="#">[P ~ T]</a> <a href="#">[U ~ Z]</a> <a href="#">[すべて]</a> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li> Account Administration <span style="float: right;">+</span></li> <li> Auditing <span style="float: right;">+</span></li> <li> Directory Management <span style="float: right;">+</span></li> <li> Infrastructure <span style="float: right;">+</span></li> <li> Model Administration <span style="float: right;">+</span></li> </ul> <p style="text-align: right; font-size: small;">1 - 5 項目 (共に 12 項目)  </p>
---	---

**選択済み**

管理者/オペレータ	タスクのグループ	ナビゲーション (ロケーション)
 Operations Staff <span style="float: right;">×</span>		
 Portal Administrator <span style="float: right;">×</span>		

図 4.71 ~ [代理管理を修正] ダイアログ ボックス - タスクの選択

- 選択するコンテナを確認しない場合は、一覧の下にある  をクリックします。5 つ以上のタスクグループを選択した場合は、一覧の上に表示される適切な文字の範囲をクリックすると、一覧に表示する範囲を限定することができます。

10. 追加する各タスク グループの横にある  をクリックします。

選択したタスク グループが、ダイアログ ボックスの [選択済み] の [タスクのグループ] カラムに表示されます。

## 代理管理 を修正

表示名

Office Admins

ブラウズして 選択


Administrators & Operators  
Tasks  
Authority

[A ~ E] [F ~ J] [K ~ Q] [P ~ T] [U ~ Z] [すべて]

Package  
Policy  
Policy (Advanced)  
RCS Administration  
Service


6 - 10 項目 (共に 10 項目)

選択済み

管理者/オペレータ	タスクのグループ	ナビゲーション (ロケーション)
 Operations Staff	 Notify tasks	
 Portal Administrator	 Operations	

修正 リセット キャンセル

図 4.72 ~ [代理管理を修正] ダイアログ ボックス - タスク グループの選択

選択したアイテムの一覧からタスク グループを削除する場合は、 をクリックします。

次に、このロールに割り当てられた管理者およびオペレータが管理できるインフラストラクチャ内の領域を選択します。

11. ダイアログ ボックスの [ブラウズして選択] の [権限] をクリックします。



[ブラウズして選択] の表示が更新され、このロールに割り当てられた管理者およびオペレータが管理できるインフラストラクチャ内の場所を選択できるようになります。



## 代理管理 を修正


表示名

Office Admins





ブラウズして選択

 Administrators & Operators  radiomain5 +

 Tasks  Zone: radiomain5 +


 Authority

選択済み

<u>管理者/オペレータ</u>	<u>タスクのグループ</u>	<u>ナビゲーション (ロケーション)</u>
 Operations Staff ×	 Notify tasks ×	
 Portal Administrator ×	 Operations ×	

修正 リセット キャンセル

図 4.73 ~ [代理管理を修正] ダイアログ ボックス - 権限の選択

12. 選択するコンテナを確認しない場合は、一覧の下にある  をクリックします。5 つ以上のタスクグループを選択した場合は、一覧の上に表示される適切な文字の範囲をクリックすると、一覧に表示する範囲を限定することができます。

13. 必要に応じて、右側のコンテナをブラウズして、さらに権限を制限することができます。権限を制限するには、まずブラウズするコンテナの名前 ([Zone] など) をクリックして、[Network] をクリックします。

## 代理管理 を修正

表示名

Office Admins

ブラウズして選択

 Administrators & Operators	 dns 
 Tasks	 LanmanRedirector 
 Authority	 Microsoft Terminal Services 
 Zone: DongJing	 Web Client Network 
 ネットワーク	

選択済み

管理者/オペレータ	タスクのグループ	ナビゲーション (ロケーション)
 Portal Administrator 	 Operations 	
 Operations Staff 	 Notify tasks 	

修正 リセット キャンセル

図 4.74 ~ [代理管理を修正] ダイアログ ボックス - コンテナ内の権限のブラウズ

特定のコンテナをブラウザすると、代理管理ロールに追加できるアイテムの一覧が限定されます。たとえば、**[Microsoft Windows Network]** をクリックします。

## 代理管理 を修正

表示名

Office Admins

ブラウザして選択

Administrators & Operators [A ~ E] [F ~ J] [K ~ O] [P ~ T] [U ~ Z] [すべて]

Tasks

Authority

**Zone: radiadomain5**

**Network**

**Microsoft Windows Network**

BWGROUP +

CHN.HP.COM +

COMPAL +

CS +

CSSC-OPENVIEW +

◀ 6 - 10 項目 (共に 35 項目) ▶▶

選択済み

管理者/オペレータ      タスクのグループ      ナビゲーション (ロケーション)

 Operations Staff ✕

 Portal Administrator ✕

 Notify tasks ✕


 Operations ✕

修正    リセット    キャンセル

図 4.75 ~ [代理管理を修正] ダイアログ ボックス - ドメイン内の権限のブラウズ

ここでは、特定のドメインを選択することができます。これにより、ネットワークの非常に限られた領域に、管理者のアクセスを制限することができます。

左側のアイテム (**[Entire Network]** など) をクリックすると、元の広い範囲の権限にいつでも戻すことができます。

14. 追加するアイテムの横にある  をクリックします。

選択した権限が、ダイアログボックスの [選択済み] の [ナビゲーション (ロケーション)] カラムに表示されます。

## 代理管理を修正

表示名

Office Admins

ブラウズして選択

Administrators & Operators Tasks [A ~ E] [F ~ J] [K ~ O] [P ~ T] [U ~ Z] [すべて]

Authority Zone: radiadomain5 Network Microsoft Windows Network

CHN.HP.COM +  
COMPAL +  
CS +  
CSSC-OPENVIEW +  
DD +


6 - 10 項目 (共に 34 項目) < >

選択済み

管理者/オペレータ	タスクのグループ	ナビゲーション (ロケーション)
 Operations Staff 	 Notify tasks 	 BWGROUP 
 Portal Administrator 	 Operations 	

修正 リセット キャンセル

図 4.76 ~ [代理管理を修正] ダイアログボックス - 権限の選択

選択したアイテムの一覧から権限を削除する場合は、 をクリックします。

15. [修正] をクリックします。  
[代理管理のプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。

---

## 代理管理 のプロパティ



図 4.77 ~ [代理管理のプロパティ] ダイアログ ボックス

---

## 代理管理ロールを変更する

代理管理ロールを変更するには

1. ナビゲーション支援を使用して、[**Directory**]、[**Zone**]、[**Configuration**]、[**Delegated Administration**] の順に移動します。
2. 変更する代理管理ロールをワークスペースでクリックします。



3. [モデル管理] タスク グループの [代理管理の修正] をクリックします。  
[代理管理を修正] ダイアログ ボックスが表示されます。

### 代理管理 を修正

表示名

Office Admins

ブラウズして選択

Administrators & Operators  
Tasks [A ~ E] [F ~ J] [K ~ O] [P ~ T] [U ~ Z] [すべて]

Authority  
Zone: radiadomain5  
Network  
Microsoft Windows Network

CHN.HP.COM +  
COMPAL +  
CS +  
CSSC-OPENVIEW +  
DD +

6 - 10 項目 (共に 34 項目) < >

選択済み

管理者/オペレータ	タスクのグループ	ナビゲーション (ロケーション)
Operations Staff ✕	Notify tasks ✕	BWGROUP ✕
Portal Administrator ✕	Operations ✕	

修正 リセット キャンセル

図 4.78 ~ [代理管理を修正] ダイアログ ボックス

4. 必要な変更を行います。代理管理ロールの設定の詳細については、215 ページの「代理管理ロールを追加する」を参照してください。
5. [修正] をクリックして、変更内容を保存します。  
または  
[リセット] をクリックして、このロールに対して行った変更を元に戻します。  
または  
[キャンセル] をクリックして、変更内容を保存せずにダイアログ ボックスを閉じます。  
[代理管理のプロパティ] ダイアログ ボックスが表示され、変更内容を確認することができます。

## 代理管理ロールを削除する

代理管理ロールを削除するには

1. ナビゲーション支援を使用して、[Directory]、[Zone]、[Configuration]、[Delegated Administration] の順に移動します。
2. 削除する代理管理ロールをワークスペースでクリックします。
3. [モデル管理] タスク グループの [代理管理の削除] をクリックします。  
[代理管理の削除] メッセージが表示されます。

---

### 代理管理 の削除

このオブジェクトを削除してもよろしいですか? ✓ ✗

図 4.79 ~ [代理管理の削除] メッセージ

---

4. Radia Management Portal ディレクトリからの代理管理ロールの削除を確認するには、✓ をクリックします。  
または  
代理管理ロールの削除をキャンセルするには、✗ をクリックします。

## ユーザーの代理管理のクエリを行う

選択したユーザーのロールに関する情報を表示するには、[モデル管理] タスク グループの [ユーザーの代理管理のクエリ] タスクを使用します。

ユーザーの代理管理のクエリを行うには

1. ナビゲーション支援を使用して、[Directory]、[Zone]、[Administrations & Operators] の順に移動します。
2. ワークスペースで対象のユーザーをクリックします。

3. [オペレーション] タスク グループの [ユーザーの代理管理のクエリ] をクリックします。  
次の図に示すような表が表示されます。

### 代理管理のプロパティ


プロパティ		
名前	対象	ナビゲーション (ロケーション)
 Infrastructure Administration	 Infrastructure	 radia/radiadomain5  radia/radiadomain5/user  radia/radiadomain5/config/task

図 4.80 ~ ユーザーの [代理管理のプロパティ] ダイアログ ボックス

4. 対象のオブジェクトのプロパティを表示するには、表内のリンクをクリックします。

## 管理者およびオペレータを設定する

認証情報は、Radia Management Portal ゾーン ディレクトリの [Administrations & Operators] コンテナに格納されます。このコンテナの最上位のレベルに、すべての管理者を追加する必要があります。管理者を追加してグループに割り当てると、適切な代理管理ポリシーに管理者を割り当てることができます。詳細については、224 ページの「代理管理ロールを変更する」を参照してください。

## ユーザーを追加する

ユーザーを追加する際は、ユーザーに一意のユーザー ID とパスワードを割り当てます。また、グループにユーザーを割り当てることもできます。すべてのユーザーに対して LDAP 認証が有効になっている場合は、外部ユーザー ID を割り当てたり、特定のユーザーの LDAP 認証を無効にしたりすることができます。

### 注意

デフォルトでは、外部 LDAP 認証はすべてのユーザーに対して無効になっています。外部 LDAP 認証を有効にする方法の詳細については、155 ページの「外部 LDAP 認証を設定する」を参照してください。

ユーザーを追加するには

1. ナビゲーション支援を使用して、**[Directory]**、**[Zone]** の順に移動します。
2. ワークスペースで **[Administrations & Operators]** をクリックします。

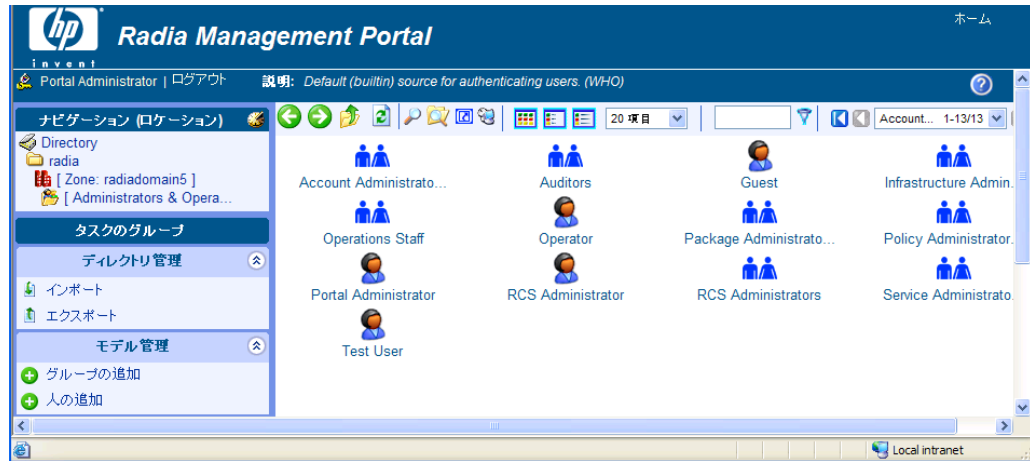



図 4.81 ~ [Zone] の [Administrations & Operators] の権限

3. [モデル管理] タスク グループの [人を追加] をクリックします。  
[人を追加] ダイアログ ボックスが表示されます。

---

 **人 を追加**

プロパティ

ユーザー ID

説明

表示名

ユーザー パスワード

外部ユーザー ID

外部認証?  オン  オフ

追加 キャンセル

図 4.82 ~ [人を追加] ダイアログ ボックス

---

4. [ユーザー ID] ボックスに、ユーザー名を入力します。

**警告**

オブジェクトのユーザー ID は、一意でなければなりません。既に使用されているユーザー ID でオブジェクトを作成しようとすると、オブジェクトが既に存在することを示すエラーメッセージがワークスペースに表示されます。

5. [説明] ボックスに、説明を入力します。入力した内容は、詳細ビューに表示されます。
6. [表示名] ボックスに、ユーザーの名前を入力します。この名前が **Radia Management Portal** で表示されます。
7. [ユーザー パスワード] ボックスに、ユーザーのパスワードを入力します。

8. **[外部ユーザー ID]** ボックスに、外部ユーザー ID を入力します。これは、AD や別の LDAP サービスなどの外部サービスによる認証で承認されたものでなければなりません。

**注意**

[人を追加] および [人を修正] ダイアログ ボックスの [External User ID] および [External Authentication?] フィールドは、Radia Management Portal で LDAP 認証が有効になっている場合に使用できます。デフォルトでは、外部 LDAP 認証は無効になっています。外部 LDAP 認証を有効にする方法については、155 ページの「外部 LDAP 認証を設定する」を参照してください。

9. **[外部認証?]** のラジオ ボタンを使用して、LDAP 認証が Radia Management Portal で有効になっている場合に、特定のユーザーの外部認証を許可するかどうかを選択します。特定のユーザーの外部認証を無効にするには、**[オフ]** をクリックします。特定のユーザーの外部認証を有効にするには、**[オン]** をクリックします。


10. **[追加]** をクリックします。

[人を修正] ダイアログ ボックスが表示されます。


**注意**

[人を修正] ダイアログ ボックスの [External authentication?] の値は、ラジオ ボタンではなく数値で表示されます。値を指定するには、**[はい]** の場合は「**1**」を、**[いいえ]** の場合は「**0**」を入力します。

11. ユーザーを追加するグループを **[使用可能]** ボックスの一覧で 1 つまたは複数クリックして選択します。

12.  をクリックして、選択したグループを [選択済み] の一覧に追加します。

または




すべてのグループを選択する場合は、[使用可能] の一覧のグループをすべてクリックする必要はありません。 をクリックするだけで、すべてのグループが [選択済み] の一覧に追加されます。このダイアログボックスの使用の詳細については、286 ページの「オーディエンスの選択」を参照してください。

## 人を修正

プロパティ

説明	<input type="text" value="Lisa Smith"/>
表示名	<input type="text" value="Lisa Smith"/>
ユーザー パスワード	<input type="password" value="....."/>
外部ユーザー ID	<input type="text" value="smithl"/>
外部認証?	<input type="text" value="1"/>

グループ メンバーシップ

使用可能		選択済み
Account Administrators (account_admins)		Operations Staff
Auditors (audit_admins)		
Infrastructure Administrators (infrastructure_?)		
Package Administrators (package_admins)		
Policy Administrators (policy_admins)		
RCS Administrators (rcs_admins)		
Service Administrators (service_admins)		

修正 リセット キャンセル

図 4.83 ~[人を修正] ダイアログ ボックス

13. [修正] をクリックします。  
[人のプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。

---

 **Lisa Smith**  
人のプロパティ

プロパティ | オブジェクトの情報

プロパティ

グループ メンバーシップ	<a href="#">Operations_Staff</a>
ユーザー ID	Lisa Smith
作成日のタイムスタンプ	2005/08/05 13:39
変更のタイム スタンプ	2005/08/05 13:39
外部ユーザー ID	smith1
外部認証?	1

[先頭に戻る](#)

オブジェクトの情報

表示名	Lisa Smith
説明	Lisa Smith
X500 識別名	<a href="#">uid=lisa.smith, cn=user, cn=radiadomain5, cn=radia</a>
オブジェクトのクラス	top person

[先頭に戻る](#)

図 4.84 ~[人のプロパティ] ダイアログ ボックス



## ユーザーを変更する

ユーザーを変更するには

1. ナビゲーション支援を使用して、[Directory]、[Zone] の順に移動します。
2. ワークスペースで [Administrations & Operators] をクリックします。
3. 変更するユーザーを選択します。
4. [モデル管理] タスク グループの [修正] をクリックします。  
[人を修正] ダイアログ ボックスが表示されます。

### 人を修正

プロパティ

説明	<input type="text" value="Lisa Smith"/>
表示名	<input type="text" value="Lisa Smith"/>
ユーザー パスワード	<input type="password" value="●●●●●●●●●●"/>
外部ユーザー ID	<input type="text" value="smith1"/>
外部認証?	<input type="text" value="1"/>

グループ メンバーシップ

使用可能		選択済み
Account Administrators (account_admins)	▶▶	Operations Staff
Administrators & Operators (AO)	▶▶	
Auditors (audit_admins)	◀◀	
Infrastructure Administrators (infrastructure_admins)	◀◀	
Network Admins (netadmins)		
Package Administrators (package_admins)		
Policy Administrators (policy_admins)		
RCS Administrators (rcs_admins)		
Service Administrators (service_admins)		

修正 リセット キャンセル

図 4.85 ~ [人を修正] ダイアログ ボックス

5. 必要な修正を行います。ユーザーの設定の詳細については、227 ページの「ユーザーを追加する」を参照してください。

#### 注意

[人を修正] ダイアログ ボックスの [External authentication?] フィールドには、ラジオ ボタンではなくテキスト ボックスが表示されます。有効な値は、[はい] の場合は **1** (特定のユーザーの外部認証を許可)、[いいえ] の場合は **0** (特定のユーザーの外部認証を無効化) です。

6. [修正] をクリックして、修正内容を保存します。  
または  
[リセット] をクリックして、このロールに対して行った修正を元に戻します。  
または  
[キャンセル] をクリックして、修正内容を保存せずにダイアログ ボックスを閉じます。  
[プロパティの表示] ダイアログ ボックスが表示され、修正内容を確認することができます。

## ユーザーを削除する

### ユーザーを削除するには

1. ナビゲーション支援を使用して、[Directory]、[Zone] の順に移動します。
2. ワークスペースで [Administrations & Operators] をクリックします。
3. 削除するユーザーを選択します。
4. [モデル管理] タスク グループの [削除] をクリックします。  
[人の削除] メッセージが表示されます。



このオブジェクトを削除してもよろしいですか? ✓ ✗

図 4.86 ~ [人の削除] メッセージ

5. Radia Management Portal ディレクトリからのユーザーの削除を確認するには、✓ をクリックします。  
または  
ユーザーの削除をキャンセルするには、✗ をクリックします。

## ユーザー グループを追加する

グループを追加するには

1. ナビゲーション支援を使用して **[Directory]** に移動します。
2. ワークスペースで **[Administrations & Operators]** をクリックします。

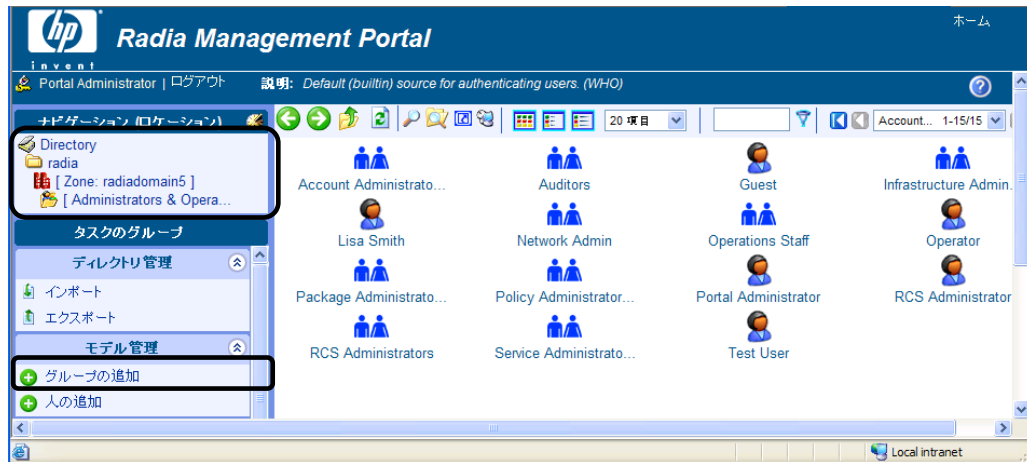


図 4.87 ~ [Zone] の [Administrations & Operators] の権限

3. [モデル管理] タスク グループの [グループの追加] をクリックします。  
[グループを追加] ダイアログ ボックスが表示されます。

### グループを追加

プロパティ

共通名	<input type="text"/>
表示名	<input type="text"/>
説明	<input type="text"/>

図 4.88 ~ [グループを追加] ダイアログ ボックス

4. [共通名] ボックスに、コンテナ オブジェクトの名前を入力します。

**警告**

オブジェクトの共通名は、一意でなければなりません。既に使用されている名前でもオブジェクトを作成しようとすると、オブジェクトが既に存在することを示すエラーメッセージがワークスペースに表示されます。

5. [表示名] ボックスに、グループの名前を入力します。この名前が Radia Management Portal で表示されます。
6. [説明] ボックスに、説明を入力します。入力した内容は、詳細ビューに表示されます。
7. [追加] をクリックします。  
[管理者およびオペレータのグループを修正] ダイアログ ボックスが表示されます。

 **管理者およびオペレータのグループを修正**

プロパティ

表示名	<input type="text" value="Network Admins"/>
説明	<input type="text" value="Network Admins"/>

メンバー








<b>使用可能</b>		<b>選択済み</b>
<input type="text" value="Guest"/> <input type="text" value="RCS Administrator"/> <input type="text" value="Test User"/>	 追加	<input type="text" value="Operator"/> <input type="text" value="Portal Administrator"/>
		
		

図 4.89 ~ [管理者およびオペレータのグループを修正] ダイアログ ボックス

8. このグループに割り当てるユーザーおよびグループを **[使用可能]** の一覧でクリックして選択します。
9.  をクリックして、選択したユーザーを **[選択済み]** の一覧に追加します。  
 または  
 すべてのユーザーを選択する場合は、**[使用可能]** の一覧のアイテムをすべてクリックする必要はありません。 をクリックするだけで、すべてのユーザーが **[選択済み]** の一覧に追加されます。このダイアログボックスの使用方法の詳細については、286 ページの「オーディエンスの選択」を参照してください。
10. **[修正]** をクリックします。  
 新しいグループが **[Administrations & Operators]** コンテナに追加されます。
11. プロパティを表示するには、ツール バーの **[プロパティの表示]** アイコン  をクリックします。  
**[管理者およびオペレータのグループのプロパティ]** ダイアログボックスが表示され、修正内容を確認することができます。

## Network Admins 管理者およびオペレータのグループのプロパティ

プロパティ | オブジェクトの情報

**プロパティ**

メンバー	Portal Administrator RCS Administrator
作成日のタイムスタンプ	2005/08/05 13:43
変更のタイムスタンプ	2005/08/05 13:44

[先頭に戻る](#)

**オブジェクトの情報**

表示名	Network Admins
説明	Network Admins
共通名	netadmins
X500 識別名	cn=netadmins, cn=user, cn=radiadomain5, cn=radia
オブジェクトのクラス	top groupOfNames

[先頭に戻る](#)

図 4.90 ~ グループの追加の **[管理者およびオペレータのグループのプロパティ]** ダイアログボックス

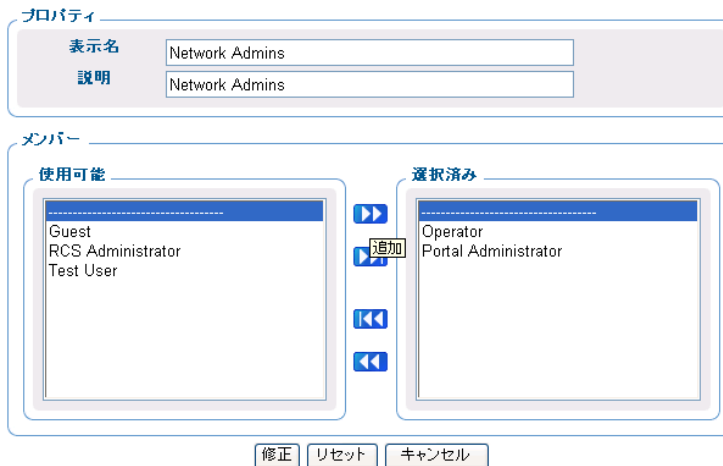
## グループを修正する

グループを修正するには

1. ナビゲーション支援を使用して、[Directory]、[Zone] の順に移動します。
2. ワークスペースで [Administrations & Operators] をクリックします。
3. 修正するグループを選択します。
4. [モデル管理] タスク グループの [修正] をクリックします。

[管理者およびオペレータのグループを修正] ダイアログ ボックスが表示されます。

### 管理者およびオペレータのグループを修正



プロパティ

表示名 Network Admins

説明 Network Admins

メンバー

使用可能

Guest  
RCS Administrator  
Test User

選択済み

Operator  
Portal Administrator

追加

修正 リセット キャンセル

図 4.91 ~ [グループを修正] ダイアログ ボックス

5. 必要な修正を行います。ユーザーの設定の詳細については、235 ページの「ユーザー グループを追加する」を参照してください。
6. [修正] をクリックして、修正内容を保存します。

または

[リセット] をクリックして、このロールに対して行った修正を元に戻します。

または

[キャンセル] をクリックして、修正内容を保存せずにダイアログ ボックスを閉じます。

ツール バーの [プロパティの表示] アイコン  をクリックすると、修正内容を確認することができます。

## グループを削除する

グループを削除するには

1. ナビゲーション支援を使用して、[Directory]、[Zone] の順に移動します。
2. ワークスペースで [Administrations & Operators] をクリックします。
3. 削除するグループを選択します。
4. [モデル管理] タスク グループの [削除] をクリックします。  
[管理者およびオペレータのグループの削除] メッセージが表示されます。



### 管理者およびオペレータのグループの削除

このオブジェクトを削除してもよろしいですか?

図 4.92 ~ [管理者およびオペレータのグループの削除] メッセージ

---

5. Radia Management Portal ディレクトリからのグループの削除を確認するには、 をクリックします。  
または  
グループの削除をキャンセルするには、 をクリックします。

## Portal ゾーン ディレクトリを管理する

Radia Management Portal に関する設定情報とエンタイトルメント情報、およびインフラストラクチャ、ジョブ ステータス、履歴に関する情報は、すべて一連のメタキット (\*.mk) ファイルと共に Radia Management Portal ゾーンディレクトリ (zone.mk) に格納されます (一連のメタキットファイルは、サービスとしてロードされます)。ここでは、Radia Management Portal ディレクトリのバックアップ、復元、またはクエリを行う方法、および Radia Management Portal ディレクトリのサブセットをインポートおよびエクスポートする方法について説明します。

## Portal ゾーン ディレクトリのバックアップを作成する

Radia Management Portal ゾーン ディレクトリ全体のバックアップ コピーを作成するには、[バックアップ ディレクトリ] タスクを使用します。このタスクは、バックアップを作成する権限を持ち、ゾーンの権限にアクセスした場合に使用できます。

- バックアップを実行する前に、240 ページの「バックアップ ディレクトリの命名、内容、およびメンテナンス」をお読みになることをお勧めします。
- 手順「Radia Management Portal ディレクトリをバックアップするには」は、242 ページに記載されています。
- Radia Management Portal ディレクトリの一部をエクスポートする方法の詳細については、249 ページの「Portal ディレクトリからデータをエクスポートする」を参照してください。

### 注意

リリース 2.0 より前の [バックアップ ディレクトリ] タスクでは、単一のディレクトリ ファイル (rmp.mk) が作成されていましたが、リリース 2.0 以降、このディレクトリ ファイルはなくなりました。代わりに、Radia Management Portal ディレクトリは、ゾーンでサービスとしてロードされる一連の \*.mk ファイルと共に、zone.mk ディレクトリ ファイルによって表されます。

## バックアップ ディレクトリの命名、内容、およびメンテナンス

ここでは、バックアップの格納先、命名、および内容について説明します。また、利便性の高い命名規則を使用して、Radia Management Portal で自動的にバックアップがメンテナンスできるようにする方法についても説明します。

バックアップを実行するたびに、Radia Management Portal のインストール先の **¥etc¥backup** ディレクトリに新しいサブディレクトリが作成されます。このデフォルトのロケーションは次のとおりです。

<SystemDrive>: ¥Novadigm¥IntegrationServer ¥etc ¥backup ¥

### バックアップのサブディレクトリ名

バックアップのサブディレクトリ名の構成は、ユーザーが割り当てた名前の後に、バックアップの作成日時を付加したものになります。プレフィックスは、[バックアップ ディレクトリ] タスクの実行中に割り当てる名前です。作成日時を付加することにより、復元を行う場合に適切なバックアップ ディレクトリを容易に識別することができます。



したがって、各バックアップディレクトリのフルネームは、次のような形式になります。

**<name>.YYYYMMDD-HHMM**

意味

- **<name>** は、ユーザーがバックアップディレクトリ用に入力した名前です。
- **YYYYMMDD** は、年、月、日の形式によるバックアップの日付です。
- **HHMM** は、時と分の形式によるバックアップの時刻です。

「図 4.93」に、[バックアップディレクトリ] タスクの実行後に作成された **backup** サブディレクトリの例を示します。ディレクトリのプレフィックスの **chicagodaily** は、[バックアップ] タスク中に指定した名前です。この名前の後に日付と時刻が付加されています。この例の場合、バックアップが 2004 年 4 月 30 日の午後 3 時 7 分に作成されたことを表します。

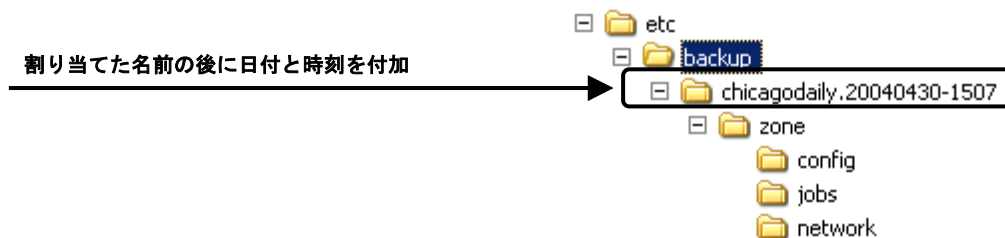


図 4.93 ~ backup サブディレクトリとその内容

### backup サブディレクトリの内容

backup サブディレクトリには、**zone.mk** ファイルが格納されます。また、ゾーンの設定用およびロードされたサービス用の追加の **\*.mk** ファイルを格納する複数のディレクトリも作成されます。

「表 4.11」に、一般的なゾーンの backup サブディレクトリに格納される追加の **\*.mk** ファイルのロケーションの要約を示します。

表 4.11 ~ backup サブディレクトリの内容の例

ロケーション	内容 (*.mk ファイル)
<<backup サブディレクトリ>>%zone	device (デバイス)、group (グループ)、user (ユーザー)、xref (Cross References)
<<backup サブディレクトリ>>%zone%config	entitlement (エンタイトルメント)、msg (メッセージ)、task (タスク)
<<backup サブディレクトリ>>%zone%jobs	history (履歴)
<<backup サブディレクトリ>>%zone%network	dns (DNS)、lanmanredirector

## バックアップ ディレクトリのメンテナンス

Radia Management Portal では、割り当てた名前のプレフィックスに基づいて、バックアップ ディレクトリが自動的にメンテナンスされます。同じ名前を付けたバックアップのセットが最大 7 つ保存されます。8 つ以上になると、新しいバックアップが保存された時点で最も古いバックアップが削除されます。毎日行うバックアップに同じ名前を付けると、バックアップを 7 日間保存することができます。週に 1 回行うバックアップに別の名前を付けると、バックアップを 7 週間保存することができます。

### ヒント

データを確実にバックアップするには、定期的に行う Radia Management Portal バックアップ ジョブを作成します。毎日行うバックアップに同じ名前を付けると、付加した日付と時刻により、バックアップ ディレクトリが一意的な状態で維持されます。Radia Management Portal では、最初の名前が同じバックアップ ディレクトリが最大 7 つ保存され、8 つ目のバックアップが作成された時点で最も古いバックアップが自動的に削除されます。

### Radia Management Portal ディレクトリをバックアップするには

1. ナビゲーション支援を使用して、[Zone] レベルに移動します。
2. [ディレクトリ管理] タスク グループの [バックアップ ディレクトリ] をクリックします。

[バックアップのサブミット] の [バックアップ オプション] ダイアログ ボックスが表示されます。

## バックアップ のサブミット

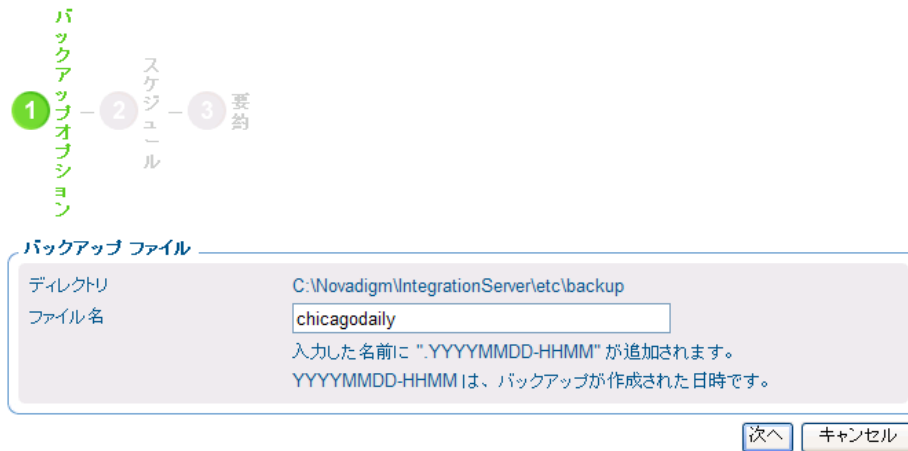


図 4.94 ~ [バックアップのサブメット] の [バックアップ オプション] ダイアログ ボックス

- [ファイル名] ボックスに、このバックアップのバックアップ ディレクトリ内のサブディレクトリ名を入力します。ここで割り当てた名前に、バックアップの作成日時が付加されます。したがって、このバックアップのディレクトリ名は次のようになります。

<割り当てた名前>.YYYYMMDD-HHMM

詳細については、240 ページの「バックアップ ディレクトリの命名、内容、およびメンテナンス」を参照してください。

- [次へ] をクリックします。  
[スケジュール] ダイアログ ボックスが表示されます。
- [スケジュール] ダイアログ ボックスで、このジョブをいつ実行するかを指定します。1 回のバックアップまたは定期的なバックアップをスケジュールすることができます。詳細については、287 ページの「ジョブをスケジュールする」を参照してください。

6. [次へ] をクリックします。  
[バックアップのサブメット] の [要約] ダイアログ ボックスが表示されます。



図 4.95 ~ [バックアップのサブミット] の [要約] ダイアログ ボックス。

7. [サブミット] をクリックします。  
ジョブの一覧が表示されます。ここで、[プロパティの表示] タスクを使用すると、ジョブのステータスなどの詳細な情報を表示することができます。詳細については、272 ページの「プロパティを表示する」を参照してください。
8. Radia Management Portal のバックアップ ディレクトリにアクセスするには、**<SystemDrive:>¥Novadigm¥IntegrationServer¥etc¥backup** に移動します。  
Radia Management Portal では、同じ名前のバックアップ ディレクトリが最大 7 つ保存され、8 つ目のバックアップが作成されると、最も古いバックアップが自動的にパージされます。これにより、毎日行う同じ名前のバックアップを 7 つ保存したり、1 週間に 1 回行う同じ名前のバックアップを 7 つ保存したりすることができます。

## Portal ディレクトリを復元する

Radia Management Portal ディレクトリ全体のバックアップを復元するには、[復元] タスクを使用します。

### 注意

[復元] タスクでは、Radia Management Portal バージョン 2.x 以降で作成されたバックアップのみを復元することができます。

### Radia Management Portal ディレクトリを復元するには

1. ナビゲーション支援を使用して、[Zone] レベルに移動します。
2. [ディレクトリ管理] タスク グループの [復元] をクリックします。  
[復元のサブミット] の [ファイル] ダイアログ ボックスが表示されます。

### 復元 のサブミット

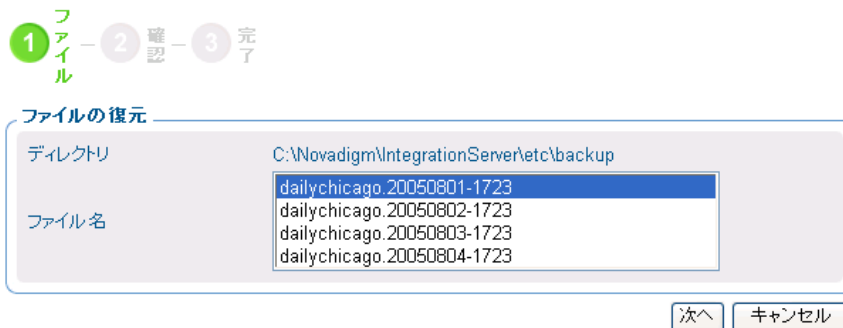


図 4.96 ~ [復元のサブミット] の [ファイル] ダイアログ ボックス

3. [ファイル名] ボックスの一覧から、復元するバックアップをクリックして選択します。

バックアップ名に付加されている日付とタイム スタンプを使用すると、作成日を基準にバックアップ ディレクトリを選択することができます。日付とタイム スタンプは、YYYYMMDD-HHSS の形式になっています。ここで、YYYY は年を、MM は月を、DD は日を表し、HH は時間を、SS は分を表します。たとえば、名前が **chicagodaily.20030515-1641** の場合は、2003 年 5 月 15 日の 16 時 41 分に作成されたバックアップであることを表します。

4. [次へ] をクリックします。  
確認のダイアログ ボックスのサンプルが表示されます。

---

## 復元 のサブミット



ファイル dailychicago.20050803-1723 から復元してよろしいですか?

---

図 4.97 ~ [復元のサブミット] の [確認] ダイアログ ボックス

5. Radia Management Portal ディレクトリの復元を確認するには、 をクリックします。  
または  
Radia Management Portal ディレクトリの復元をキャンセルするには、 をクリックします。
6. 復元の確認が済み、復元を実行する段階になると、[完了] ダイアログ ボックスが表示されます。  
[完了] をクリックして続行します。

---

## 復元 のサブミット



復元が完了しました

---


図 4.98 ~ [復元のサブミット] の [完了] ダイアログ ボックス

選択したバックアップの復元が完了します。

## Portal ディレクトリのクエリを行う

ツールバーの[クエリ]タスクアイコンを使用すると、Radia Management Portal ディレクトリのオブジェクトを検索することができます。クエリの結果を基に、情報を表示したり、ジョブの権限を選択したりすることができます。

### クエリを実行するには

1. ナビゲーション支援を使用して、クエリを実行するインフラストラクチャ内の場所に移動します。
2. ツールバーの[クエリ]  アイコンをクリックします。  
[ディレクトリのクエリ] ダイアログボックスが表示されます。

### ディレクトリのクエリ

**クエリのタイプ**

クエリの深さ  1レベル  現在のレベルとすべての下位レベル

クエリ フィルタ

---

**クエリ制約**

すべての制約を一致させる

共通名

表示名

オブジェクトのクラス

図 4.99 ~ [ディレクトリのクエリ] ダイアログボックス

3. [クエリのタイプ] の [クエリの深さ] で次のいずれかをクリックします。
  - [1 レベル]  
選択した権限より 1 つ下のレベルでクエリを行います。
  - [現在のレベルとすべての下位レベル]  
現在のレベルおよび選択した権限より下位のすべてのレベルでクエリを行います。
4. [クエリ フィルタ] ボックスの一覧で、検索するオブジェクトのタイプをクリックして選択します。  
たとえば、権限として [Administrations & Operators] をクリックし、このボックスの一覧の [ユーザー] をクリックすると、基準に合致するユーザーのみがクエリ結果として表示されます。  
[クエリ制約] に表示されるフィールドは、ここでの選択内容によって異なります。

- クエリを制約する場合は、[クエリ制約]に表示される各テキストボックスに適切な情報を入力します。

### 注意

これらのテキストボックスでは、ワイルドカードを使用することができます。たとえば、"a"の文字で始まる管理者、オペレータ、ユーザー、およびグループをすべて検索するには、次の手順を実行します。

- [クエリの深さ]で[現在のレベルとすべての下位レベル]をクリックします。
- [クエリフィルタ]ボックスの一覧の[Administrations & Operators]をクリックします。
- [共通名]ボックスに、「a\*」と入力します。

"a"の文字で始まるすべての管理者、オペレータ、ユーザー、およびグループがクエリ結果として表示されます。

[共通名]ボックスに、複数のパターンを入力して検索することができます。これを行うには、各パターンの間に「」(cn=)を入力します(この文字列の前後には、スペースを挿入しないでください)。

たとえば、「a」または「o」の文字で始まるユーザーおよびグループをすべて検索する場合は、次の手順を実行します。

- 上記の手順1と2を繰り返します。
- [共通名]ボックスに、「a\*)(cn=o\*」と入力します。

"a"または"o"の文字で始まるすべての管理者、オペレータ、ユーザー、およびグループの一覧がクエリ結果として表示されます。

- [クエリ制約]の各フィールドに入力したすべての指定内容にクエリ結果が合致するようにするには、[すべての制約を一致させる]チェックボックスをオンにします。
- [次へ]をクリックして、クエリを開始します。  
ワークスペースにクエリの結果が表示されます。

### 警告

クエリ結果の情報は表示専用です。

クエリ結果のオブジェクトに対してタスクを実行するには、まずオブジェクトをクリックして、権限を設定します。次に、タスクグループの適切なタスクをクリックします。



たとえば、共通名が "nova\*" のコンピュータについて、現在のレベルと下位のレベルを検索した場合、結果は下の「図 4.100」のように表示されます。

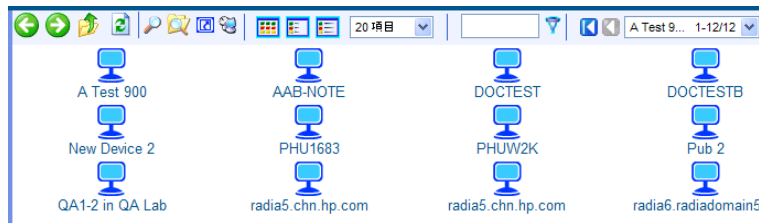


図 4.100 ~ クエリの結果

#### メモ

クエリ結果のオブジェクトに対してタスクを実行するには、オブジェクトをクリックして、権限を設定する必要があります。

## Portal ディレクトリからデータをエクスポートする

Radia Management Portal ディレクトリのサブセットを LDIF (LDAP データ交換フォーマット) ファイルにエクスポートするには、[エクスポート] タスクを使用します。LDIF は、LDAP 準拠のディレクトリ サービス間で ASCII フォーマットによるデータの転送を行うための標準フォーマットです。

デフォルトのエクスポート ロケーションは、Radia Integration Server の `etc/export` ディレクトリです。

### Radia Management Portal ディレクトリをエクスポートするには

1. ナビゲーション支援を使用して、エクスポートを実行するインフラストラクチャ内の場所に移動します。
2. [ディレクトリ管理] タスク グループの [エクスポート] をクリックします。  
[クエリ] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. 条件を指定して、ジョブの範囲を限定します。詳細については、284 ページの「クエリを実行する」を参照してください。

4. [次へ] をクリックします。  
[選択] ダイアログ ボックスが表示されます。
5. [使用可能] の一覧から対象者をクリックして選択し、[選択済み] の一覧に追加します。詳細については、286 ページの「オーディエンスの選択」を参照してください。
6. [次へ] をクリックします。  
[エクスポートのサブミット] の [エクスポートオプション] ダイアログ ボックスが表示されます。

## エクスポート のサブミット



図 4.101 ~ [エクスポートのサブミット] の [エクスポート オプション] ダイアログ ボックス

7. [ファイル名] ボックスに、ディレクトリに保存される LDIF ファイルの名前を入力します。
8. [次へ] をクリックします。  
[スケジュール] ダイアログ ボックスが表示されます。
9. [スケジュール] ダイアログ ボックスで、このジョブをいつ実行するかを指定します。詳細については、287 ページの「ジョブをスケジュールする」を参照してください。

10. [次へ] をクリックします。

[エクスポートのサブミット] の [要約] ダイアログ ボックスが表示されます。

## エクスポート のサブミット

エクスポート オプション

スケジュール

1 クエリ — 2 選択 — 3 — 4 — 5 要約

**選択されたオーディエンス**

Administrators & Operators  
Network  
Zone Access Points

**選択されたオプション**


出力ファイル: Admins.ldif

**スケジュール情報**

開始日時:	2005/08/03 13:55:00
継続時間:	0
一定間隔:	0
優先度:	0
タイプ:	なし

図 4.102 ~ [エクスポートのサブミット] の [要約] ダイアログ ボックス

**11. [サブミット] をクリックします。**

ジョブ グループの一覧のウィンドウが表示されます。[表示名] のエントリをクリックすると、ジョブのプロパティが表示されます。前のジョブのウィンドウに戻るには、ウィンドウのツールバーの をクリックします。詳細については、272 ページの「プロパティを表示する」を参照してください。

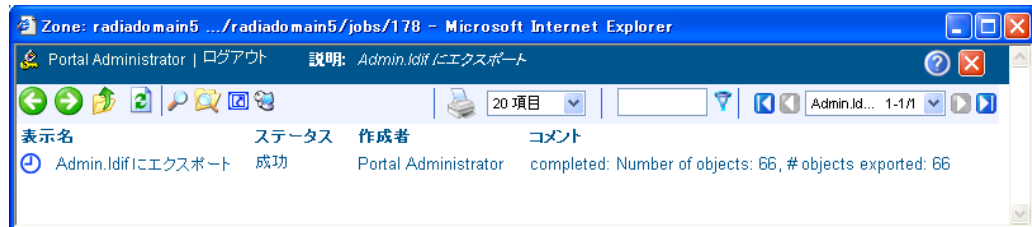


図 4.103 ~ エクスポートが正常に完了したことを示すジョブのステータス ウィンドウ

**12. Portal ディレクトリからエクスポートした LDIF ファイルにアクセスするには、*SystemDrive:* ¥Novadigm¥IntegrationServer¥etc¥export に移動します。**

## Portal ディレクトリにデータをインポートする

Radia Management Portal ディレクトリに LDIF ファイルをインポートするには、[インポート] タスクを使用します。たとえば、Radia Management Portal のユーザー インターフェイスは使用せずに、テキスト ファイルで Radia Management Portal ディレクトリを手動で修正するとします。この場合、ディレクトリをエクスポートして修正を行ってから、そのファイルを Radia Management Portal ディレクトリにインポートすることができます。

**警告**

データをインポートする前に、Radia Management Portal ディレクトリをバックアップしてください。詳細については、240 ページの「Portal ゾーン ディレクトリのバックアップを作成する」を参照してください。

## Radia Management Portal ディレクトリをインポートするには

1. ナビゲーション支援を使用して、インポート対象のデータを配置するインフラストラクチャ内の場所を選択します。
2. [ディレクトリ管理] タスク グループの [インポート] をクリックします。

[インポートのサブミット] の [ファイルの選択] ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスには、デフォルトのエクスポート ロケーション (Radia Integration Server の **¥etc ¥export¥** ディレクトリ) に格納されているファイルの一覧が表示されます。

### インポート のサブミット

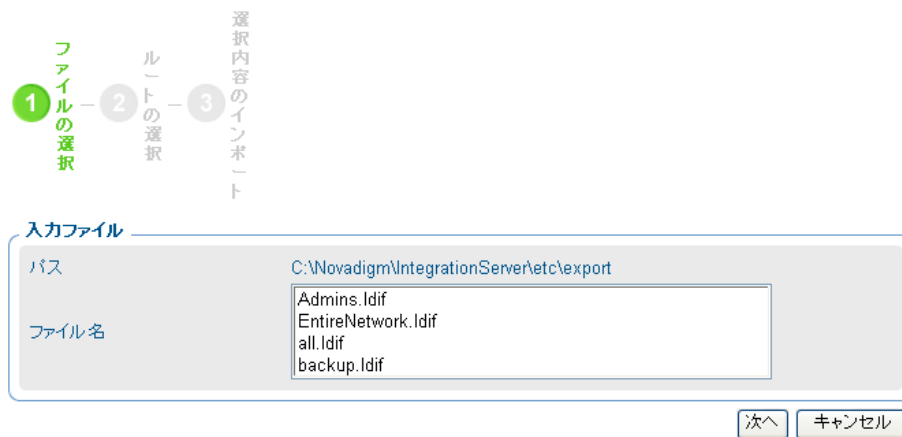


図 4.104 ~ [インポートのサブミット] の [ファイルの選択] ダイアログ ボックス

3. インポートするファイルをクリックします。
4. [次へ] をクリックします。

5. [インポートのサブミット] の [ルートの選択] ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスでは、既存の Portal ディレクトリと比較するインポート対象の LDIF ファイルの部分 (ルート ドメイン名) を選択します。たとえば、ディレクトリ全体をエクスポートし、ディレクトリの 1 つの領域 (下図の例では、[Administrations & Operators]) だけを修正した場合は、インポート時の "ルート" として [Administrations & Operators] のチェック ボックスをオンにします。LDIF ファイルの残りの部分は無視されます。

---

## インポート のサブミット

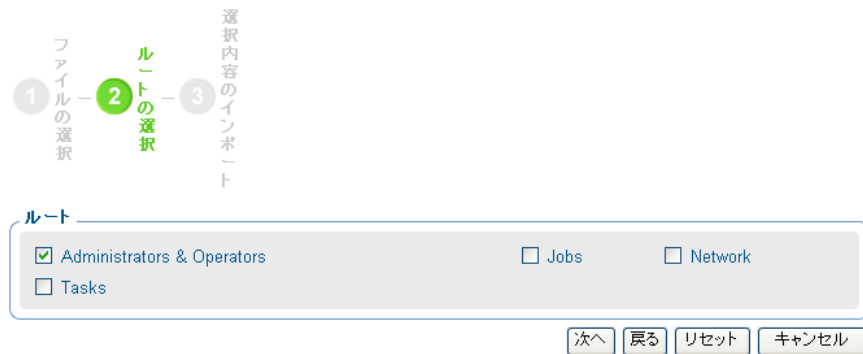


図 4.105 ~ [インポートのサブミット] の [ルートの選択] ダイアログ ボックス

---

## 6. [次へ] をクリックします。

[インポートをサブミット] の [選択内容のインポート] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスには、インポートする LDIF ファイルと Portal ディレクトリとの差分が表示されます。

## インポートのサブミット



1 ファイルの選択

2 ルールの選択

3 選択内容のインポート

差分

表示するノード:

- + Test User (radia/radiadomain5/user/test user)
- ▲ Guest (radia/radiadomain5/user/guest)
- ▲ Operator (radia/radiadomain5/user/operator)

追加

リストにノードがありません

削除

リストにノードがありません


修正

リストにノードがありません

図 4.106 ~ [インポートのサブミット] の [選択内容のインポート] ダイアログボックス

## 7. 必要に応じて、[表示するノード] ボックスの一覧の次のアイテムをクリックして、[差分] に表示する情報を制限します。

- LDIF ファイルに対して修正されたアイテムを同時にすべて確認するには、[すべて] をクリックします。
- LDIF ファイルに追加されたアイテムのみを確認するには、[追加] をクリックします。
- LDIF ファイルから削除されたアイテムのみを確認するには、[削除] をクリックします。
- LDIF ファイルで修正されたアイテムのみを確認するには、[修正] をクリックします。

8. [差分] で変更を確定するアイテムをクリックします。たとえば、Portal ディレクトリに [Test User] を追加する場合は、 をクリックします。

または

修正をすべて確定する場合は、[すべて選択] をクリックします。

選択したアイテムが下部の該当する一覧に追加されます。一覧からアイテムを削除する場合は、その名前をクリックします。

## インポートのサブミット



1 ファイルの選択

2 ルートの選択

3 選択内容のインポート

**差分**

表示するノード: すべて すべて選択

-  Administrators & Operators (radia/dongjing/device/20050713t095633z0)
-  JANETM2 (radia/dongjing/device/sunny)
-  Network Admins (radia/dongjing/device/20050713t095839z0)
-  pathxptest.usa.mycompany.com (radia/dongjing/device/eddyjp)
-  Portal Administrator (radia/dongjing/device/20050713t101018z0)

**追加**

 Test User (radia/dongjing/device/20050715t061330z0)

**削除**

リストにノードがありません

**修正**

リストにノードがありません

コミット 戻る キャンセル

図 4.107 ~ [インポートのサブミット] の [選択内容のインポート] ダイアログ ボックス



9. [コミット] をクリックします。  
Portal ディレクトリにアイテムが追加されます。

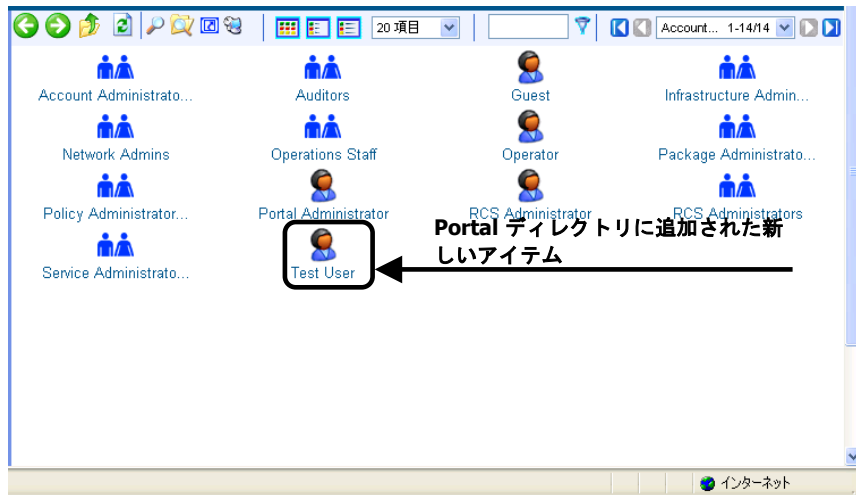


図 4.108 ~ Portal ディレクトリへのインポートの結果

## タスクを更新する

Radia Management Portal の新しいビルドを受け取ったときに、使用できるタスクを更新するには、[ポリシー タスクを更新] を使用します。

### ポリシー タスクを更新するには

1. Radia Management Portal を停止します。詳細については、54 ページの「*Radia Management Portal* を起動/停止する」を参照してください。
2. 新しい **rmp.tkd** を Radia Integration Server のディレクトリの **¥modules** フォルダにコピーします (デフォルトでは、*SystemDrive:¥Novadigm¥IntegrationServer¥modules*)。
3. Radia Management Portal を起動します。詳細については、54 ページの「*Radia Management Portal* を起動/停止する」を参照してください。
4. ナビゲーション支援を使用して、[Zone] の [Configuration] の [Tasks] コンテナに移動します。

5. [ディレクトリ管理] タスク グループの [ポータル タスクを更新] をクリックします。



図 4.109 ~ [Zone] の [Configuration] の [Tasks] コンテナに表示される [ポータル タスクを更新]

6. [更新タスクの選択] ダイアログ ボックスが表示されます。



図 4.110 ~ [更新タスクの選択] ダイアログ ボックス

7. 必要に応じて、[表示するノード] ボックスの一覧の次のアイテムをクリックして、[差分] に表示する情報を制限します。
- タスクの変更を同時にすべて確認するには、[すべて] をクリックします。
  - Radia Management Portal に追加できるタスクのみを確認するには、[追加] をクリックします。
  - Radia Management Portal から削除できるタスクのみを確認するには、[削除] をクリックします。
  - Radia Management Portal で変更できるタスクのみを確認するには、[変更] をクリックします。

8. [差分] で変更を確定するアイテムをクリックします。

または

変更をすべて確定する場合は、[すべて選択] をクリックします。

[追加]、[削除]、または [変更] の一覧に、選択したタスクが追加されます。一覧からタスクを削除する場合は、その名前をクリックします。

---

## 更新のサブミット

### 1 更新タスクの選択

#### 差分

表示するノード:

リストにノードがありません。

#### 追加

リストにノードがありません

#### 削除

リストにノードがありません

#### 変更

-  Notify (radia/radiadomain5/config/task/notify)
-  Operations (radia/radiadomain5/config/task/basic)
-  Notify (radia/radiadomain5/config/task/helpdesk/notify-helpdesk)
-  Add Policies (radia/radiadomain5/config/task/add-policy)
-  Remove Policies (radia/radiadomain5/config/task/remove-policy)

1 - 5 項目 (共に 14 項目)  

図 4.111 ~ [更新のサブミット] の [更新タスクの選択] ダイアログ ボックス

---

9. [コミット] をクリックします。

([追加]、[削除]、または [変更] の一覧に表示されている) 選択したタスクが Radia Management Portal の [Tasks] コンテナで更新されます。

## ジョブを管理する

Radia Management Portal ゾーン ディレクトリの **[Jobs]** コンテナには、システムの現在のすべてのジョブを表すオブジェクト、および過去 4 日の間に完了したジョブを表すオブジェクトが格納されています。

### 注意

ジョブは、実行すると直ちに **[History]** コンテナで表示できます。271 ページの「**ジョブ履歴を表示する**」を参照してください。

## ステータスを基準にジョブグループまたはジョブをフィルタする

**[権限]** ツールバーの **[ステータス]** ボックスを使用すると、ジョブステータスを基準に **[Jobs]** コンテナの表示をすばやくフィルタすることができます。たとえば、すべてのジョブ (つまり、すべてのジョブグループの一覧) を表示している場合、失敗したジョブが 1 つ以上あるジョブグループのみを表示するには、**[ステータス]** ボックスの一覧の **[失敗]** をクリックします。また、特定のジョブグループを表示している場合、これから実行する必要があるジョブの数を表示するには、このボックスの一覧の **[開始を待機中]** をクリックします。

### 注意

**[ジョブのクエリ]** タスクを使用すると、スケジュールされた開始時間または期間、ターゲットオーディエンス、ジョブまたはジョブグループをサブミットした人物など、追加の条件を満たすジョブをさらに検索することができます。詳細については、264 ページの「**ジョブまたはジョブグループのクエリを行う**」を参照してください。

### ステータスを基準にジョブをフィルタするには

1. ナビゲーション支援を使用して、[Directory] コンテナ、[Zone] コンテナの順に移動します。
2. ワークスペースで [Jobs] をクリックします。
3. ツールバーに表示される [ステータス] ボックスの一覧から目的のジョブ ステータスをクリックします。

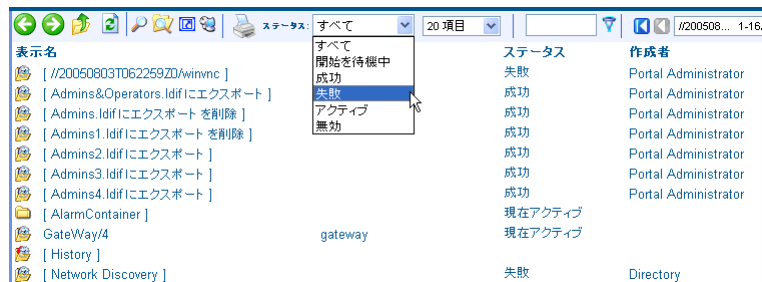


図 4.112 ~ クリックしたステータスのジョブの表示

クリックして選択したステータスのジョブのみがワークスペースに表示されます。

4. コンテナのジョブをすべて表示する状態に戻すには、[ステータス] ボックスの一覧の [すべて] をクリックします。

## ジョブ グループを修正する

現在進行中でないジョブ グループを修正するには、[修正] タスクを使用します。

### ジョブ グループを修正するには

1. ナビゲーション支援を使用して、[Directory] コンテナ、[Zone] コンテナの順に移動します。
2. ワークスペースで [Jobs] をクリックします。
3. 修正するジョブ グループを選択します。

4. [モデル管理] タスク グループの [修正] をクリックします。  
[ジョブグループを修正] ダイアログ ボックスが表示されます。

### ジョブ グループ を修正

スケジュール情報	
名前	ジョブ シーケンス (JobGroup)
説明	ジョブ シーケンス (JobGroup)
トレースを有効化?	<input type="radio"/> オン <input checked="" type="radio"/> オフ

時間ウィンドウ	
実行:	一度
開始日:	2005 7 28 時間 14 30

ジョブ スロットリング		
常に同時実行するジョブの最大数を	30	に設定
1 分ごとにまとめて開始するジョブ数を	0	個のジョブを
	60	秒ごとにまとめて開始

図 4.113 ~ [ジョブグループを修正] ダイアログ ボックス

5. 必要に応じてジョブを修正します。
  - [名前] ボックスでジョブ グループの名前を修正します。
  - [説明] ボックスでジョブ グループの説明を修正します。
  - ジョブ グループの実行に関するログに追加のメッセージが書き込まれるようにするには、[トレースを有効化?] フィールドの [オン] オプションをクリックします。HP テクニカル サポートから特別に指示がない限り、このオプションは [オフ] の設定のままにしておくことをお勧めします。
  - [常時実行するジョブ] ボックスに、このジョブ グループ内で常時アクティブ可能なジョブの総数を入力します。エントリの値が 0 の場合は無制限になります。デフォルト値は 30 です。
  - [まとめて開始するジョブ数] ボックスに、[開始間隔 (秒)] フィールドで指定した期間内に開始できるジョブ数を入力します。エントリの値が 0 (ゼロ) の場合は無制限になります。
  - [開始間隔 (秒)] ボックスに、次にジョブをまとめて開始するまで待機する期間を秒単位で指定します。エントリの値が 0 (ゼロ) の場合は無制限になります。デフォルトでは、1 分 (60 秒) 間隔で 1 つのまとまりのジョブが開始されます。
  - [実行] ボックスでは、ジョブ グループの実行頻度を修正します。
  - [開始日] ボックスでは、ジョブ グループを開始する日付と時刻を修正します。
6. 修正作業が完了したら、[修正] をクリックします。

修正内容が保存され、ジョブ グループが選択状態の権限になります。

## ジョブまたはジョブ グループのクエリを行う

既存のジョブまたはジョブ グループの検索、これらのステータスの確認、およびジョブ グループの修正を行うには、[モデル管理] タスク グループの [ジョブのクエリ] タスクを使用します。ジョブ、ジョブ グループ、またはその両方にクエリの対象を設定したり、スケジュールされた開始時間または期間、特定のジョブ ステータス ("失敗" など)、ターゲット オーディエンス、ジョブまたはジョブ グループをサブミットした人物などにクエリの対象を制限したりすることができます。たとえば、直前の 12 時間または 24 時間以内に失敗したすべてのジョブのクエリを行うことができます。

### ジョブまたはジョブ グループのクエリを実行するには

1. ナビゲーション支援を使用して、[Directory] コンテナ、[Zone] コンテナの順に移動します。
2. ワークスペースで [Jobs] をクリックします。



3. [モデル管理] タスク グループの [ジョブのクエリ] をクリックします。  
[ジョブのクエリ] ダイアログ ボックスが表示されます。

## 🕒 ジョブ のクエリ

**時間ウィンドウ**

スケジュール開始時間: 7 月 30 , 2005 16 : 00  
 スケジュール終了時間: 8 月 03 , 2005 16 : 40

**表示の選択**

表示: JobGroups

**ジョブの特徴**

すべての制約を一致させる

ステータス:  
 ターゲット ユーザー:  
 作成者:

開始を待機中  
 成功  
 失敗  
 アクティブ  
 無効

**CSV ファイルの作成**

ディレクトリ C:\Novadigm\IntegrationServer\etc\export  
 CSV ファイル名:  
 ファイル名に .csv という拡張子が付きます

次へ キャンセル

図 4.114 ~ [ジョブのクエリ] ダイアログ ボックス

[時間ウィンドウ] では、選択した日付と時刻の間に開始がスケジュールされたジョブまたはジョブ グループにクエリの対象を制限することができます。

4. [スケジュール開始時間] ボックスの一覧では、ジョブまたはジョブ グループの開始がスケジュールされた最も早い日付と時刻をクリックして選択します。
5. [スケジュール終了時間] ボックスの一覧では、ジョブまたはジョブ グループの開始がスケジュールされた最も遅い日付と時刻をクリックして選択します。

[表示の選択] では、クエリの対象をジョブにするか、ジョブ グループにするか、ジョブとジョブ グループの両方にするかを指定します。

6. [表示] ボックスの一覧の [Jobs] または [Job Groups] をクリックします。

### 注意

失敗したジョブを再開する場合は、**ジョブグループ**を対象にクエリを行います。**[失敗したジョブの再開]** タスクは、**ジョブグループ**のレベルでのみ使用できます。

[**ジョブの特徴**] では、クエリの対象をさらに制限することができます。

7. 以下の各フィールドで設定するすべての指定内容にクエリ結果が合致するようにするには、[すべての制約を一致させる] チェック ボックスをオンにします。
8. 特定のステータスのジョブまたはジョブ グループにクエリの対象を制限するには、[ステータス] ボックスの一覧のジョブ ステータスをクリックします。この指定は、オプションです。ジョブ ステータスとして、[開始を待機中]、[成功]、[失敗]、[アクティブ]、または [無効化] を指定することができます。
9. [ターゲット ユーザー] ボックスに、ジョブまたはジョブ グループを実行しているコンピュータ名を入力します。この指定は、オプションです。エントリのワイルドカードとしてアスタリスク (\*) を使用することができます。
10. [作成者] ボックスに、ジョブまたはジョブ グループをスケジュールしたユーザーのログオン ID を入力します。この指定は、オプションです。エントリのワイルドカードとしてアスタリスク (\*) を使用することができます。
11. [次へ] をクリックします。

条件に合致するジョブまたはジョブ グループの一覧が表示されます。



表示名	エイリアス	ステータス	作成者	開始日時
[ //20050803T062259ZD/winvc ]		失敗	Portal Administrator	
[ History ]				
[ Network Discovery ]		失敗	Directory	
[ Notify Latitudes of Upgrade Job Group ]	Notify Latitudes of Upgrade	Ended with Errors	Portal Administrator	
[ Notify_Dell_Latitudes Job Group ]	Notify_Dell_Latitudes	Ended with Errors	Portal Administrator	
[ Radia Management Portal のインストール ]		失敗	Portal Administrator	

図 4.115 ~ 失敗したジョブグループのクエリの結果

## ジョブグループの失敗したジョブを再開する

1. [Jobs] コンテナに移動して、1つまたは複数の失敗したジョブが格納されているジョブグループを表示します。

### 注意

不正なユーザー ログオンまたはパスワードが原因でジョブが失敗した場合は、ジョブを再開または修正しても問題は解消しません。正しい管理者権限を持つユーザーおよびパスワードのエントリで新しいジョブを作成する必要があります。

2. 対象のジョブグループの失敗したジョブを再開するには、[モデル管理] タスクグループの [失敗したジョブの再開] をクリックします。

アクティブなジョブのページに示すように、ジョブが直ちに再開されます(下の「[図4.116](#) ~ 失敗した[管理エージェントのインストールのジョブ]を再開すると、ステータスがアクティブとして表示される」を参照)。

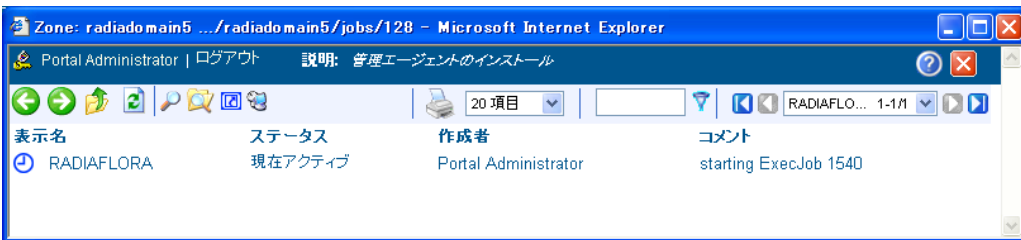


図 4.116 ~ 失敗した[管理エージェントのインストールのジョブ]を再開すると、ステータスがアクティブとして表示される

3. 再開したジョブが終了したら、ジョブステータスのページを閉じます。

## ジョブグループを停止する

実行中のアクティブなジョブグループを停止するには、[停止] タスクを使用します。反復的に実行するよう設定されているジョブグループの場合は、以降もスケジュールされたとおりに実行されます。

### 注意

このタスクは、ジョブグループにのみ適用され、個別のジョブには使用できません。

### ジョブ グループを停止するには

1. ナビゲーション支援を使用して、[Directory] コンテナ、[Zone] コンテナの順に移動します。
2. ワークスペースで [Jobs] をクリックします。
3. 停止するジョブ グループをクリックします。
4. [モデル管理] タスク グループの [停止] をクリックします。  
ワークスペースに確認メッセージが表示されます。



## ジョブ グループ を停止

管理エージェントのインストール を停止してもよろしいですか? ✓ ✗

図 4.117 ~ [ジョブ グループを停止] メッセージ

---

5. ジョブ グループの停止を確認するには、✓ をクリックします。  
または  
ジョブ グループの停止をキャンセルするには、✗ をクリックします。

## ジョブまたはジョブ グループを無効にする

ジョブまたはジョブ グループが処理されないようにするには、[無効] タスクを使用します。無効にしたジョブまたはジョブ グループの処理が再び実行できるようにするには、[有効] タスクを使用する必要があります。

### ジョブまたはジョブ グループを無効にするには

1. ナビゲーション支援を使用して、[Directory] コンテナの [Zone] コンテナの権限に移動します。
2. ワークスペースで [Jobs] をクリックします。
3. 無効にするジョブまたはジョブ グループをクリックします。

4. [モデル管理] タスク グループの [無効] をクリックします。  
ワークスペースに確認メッセージが表示されます。



## ジョブ グループ を無効化

管理エージェントのインストール を無効にしてもよろしいですか？ ✓ ✕

図 4.118 ~ [ジョブ グループを無効化] メッセージ

---

5. ジョブまたはジョブ グループの無効化を確認するには、✓ をクリックします。  
または  
ジョブまたはジョブ グループの無効化をキャンセルするには、✕ をクリックします。

## ジョブまたはジョブ グループを有効にする

次に実行がスケジュールされているときに、無効になっているジョブまたはジョブ グループを再開するには、[有効] タスクを使用します。

### ジョブまたはジョブ グループを有効にするには

1. ナビゲーション支援を使用して、[Directory] コンテナ、[Zone] コンテナの順に移動します。
2. ワークスペースで [Jobs] をクリックします。
3. 有効にするジョブまたはジョブ グループをクリックします。
4. [モデル管理] タスク グループの [有効] をクリックします。  
ワークスペースに確認メッセージが表示されます。



## ジョブ グループ を有効化

管理エージェントのインストール を有効にしてもよろしいですか？ ✓ ✕

図 4.119 ~ [ジョブ グループを有効化] メッセージ

---

5. ジョブまたはジョブ グループの有効化を確認するには、**✓**をクリックします。  
または  
ジョブまたはジョブ グループの有効化をキャンセルするには、**✗**をクリックします。

## ジョブまたはジョブ グループを削除する

ジョブまたはジョブ グループを完全に無効にし、ジョブの一覧から削除するには、**[削除]** タスクを使用します。

### ジョブまたはジョブ グループを削除するには

1. ナビゲーション支援を使用して、**[Directory]** コンテナの **[Zone]** コンテナの権限に移動します。
2. ワークスペースで **[Jobs]** をクリックします。
3. 削除するジョブまたはジョブ グループをクリックします。
4. **[モデル管理]** タスク グループの **[削除]** をクリックします。  
ワークスペースに確認メッセージが表示されます。



## ジョブ グループ の削除

このオブジェクトを削除してもよろしいですか? **✓** **✗**

図 4.120 ~ [ジョブ グループの削除] メッセージ

---

5. ジョブまたはジョブ グループの削除を確認するには、**✓**をクリックします。  
または  
ジョブまたはジョブ グループの削除をキャンセルするには、**✗**をクリックします。

## ジョブ履歴を表示する

[History] コンテナには、実行したすべてのジョブに関する日単位の履歴が格納されます。この履歴は、逆順の日付と時刻で表示されます。ジョブは、実行が停止されると直ちに、エラーの有無に関係なく当日の履歴ファイルに書き込まれます。

### ジョブ履歴を表示するには

1. ナビゲーション支援を使用して、[Directory] コンテナ、[Zone] コンテナの順に移動します。
2. ワークスペースで [Jobs] をクリックします。
3. ワークスペースで [History] をクリックします。

ジョブ履歴は、日付と時刻を基準に逆の時系列順序で一覧表示されます。履歴ファイルの日付の形式は YYYYMMDD です。

4. 確認するジョブの日付の履歴ファイルをクリックします。

### 注意

[詳細] をクリックすると、その日のジョブグループの簡潔な概要が表示されます。

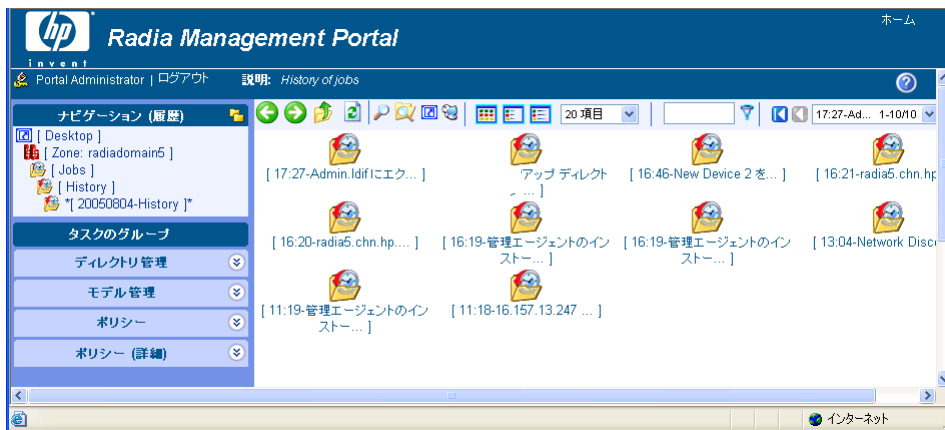


図 4.121 ~ 2004 年 4 月 30 日のジョブの履歴ファイル

5. ワークスペースに表示されているジョブグループの中から特定のジョブグループをクリックします。  
そのジョブグループで実行されたジョブの一覧がワークスペースに表示されます。
6. ワークスペースでジョブをクリックします。  
[ジョブのプロパティ] ダイアログボックスにジョブの詳細が表示されます。

## プロパティを表示する

オブジェクトまたはジョブのプロパティを表示するには、ツールバーの **[プロパティの表示]** アイコンをクリックします。表示されるプロパティは、選択したオブジェクトによって異なります。

**Service Techs**  
グループのプロパティ

プロパティ | オブジェクトの情報

**プロパティ**

メンバー	<a href="#">DOCTESTB</a> <a href="#">prod_devices1</a> <a href="#">Test800</a>
作成日のタイムスタンプ	2005/08/05 13:53
変更のタイムスタンプ	2005/08/05 13:56

先頭に戻る

**オブジェクトの情報**

表示名	Service Techs
説明	Service Techs
共通名	stechs
識別名	cn=stechs, cn=group, cn=radiadomain5, cn=radia
オブジェクトのクラス	top group

先頭に戻る

図 4.122 ~ [グループのプロパティ] ダイアログボックス

ほとんどのプロパティ ページには、**[プロパティ]** と **[オブジェクトの情報]** のグループ領域が表示されます（「図 4.122」を参照）。プロパティ ページ内を効率的に移動するには、次の方法があります。

- 目的のグループ領域にジャンプするには、上部に表示されるラベルのいずれかをクリックします。オブジェクトによっては、**[詳細]** というラベルが表示される場合があります。このラベルをクリックすると、そのオブジェクトの詳細なプロパティにアクセスすることができます。
- ページの先頭に戻るには、**[先頭に戻る]** をクリックします。

プロパティ ページで下線が引かれているアイテムは、そのオブジェクトへのアクティブなリンクであることを表します。たとえば、上の図では、**[プロパティ]** に一覧表示されているすべてのメンバー、および **[オブジェクトの情報]** の親オブジェクトに下線が引かれています。

- 下線が引かれているオブジェクトをクリックすると、そのオブジェクトのプロパティにジャンプできます。
- 前の表示に戻るには、Web ブラウザの **[前へ]** ボタンをクリックします。



## まとめ

- Radia Management Portal の新しいビルドを受け取ったときに、使用できるタスクを更新するには、[タスクを更新] を実行します。
- タスク グループは、追加、修正、および削除できます。
- 代理管理ロールは、次の 3 段階のプロセスで追加します。
  - ロールに管理者およびオペレータを割り当てる。
  - 割り当てたロールで管理者およびオペレータがアクセスできるタスクを指定する。
  - 管理者またはオペレータがタスクが実行できるインフラストラクチャ内の場所を選択する。
- Radia Management Portal ゾーン ディレクトリ全体をバックアップするには、[バックアップ ディレクトリ] タスクを使用します。指定したディレクトリ名に作成日時が付加されるので、復元を行う場合に適切なバックアップ ディレクトリを容易に選択することができます。
- Radia Management Portal ゾーン ディレクトリ全体のバックアップを復元するには、[復元] タスクを使用します。
- Radia Management Portal ディレクトリのサブセットを LDIF ファイルにエクスポートするには、[エクスポート] タスクを使用します。
- LDIF ファイルを Radia Management Portal ディレクトリにインポートするには、[インポート] タスクを使用します。
- [Groups] コンテナで定義したグループ間でデバイスを移動するには、[デバイスの移動] タスクを使用します。
- スケジュールされた開始時間、ステータス、サブミットを行った人物、またはターゲット オーディエンスを基準に、既存のジョブ、ジョブ グループ、またはその両方を検索するには、[ジョブのクエリ] タスクを使用します。クエリの結果を基に、ジョブのプロパティを表示したり、ジョブまたはジョブ グループを修正したりすることができます。
- ジョブまたはジョブ グループを管理するには、[修正]、[無効]、[有効]、[削除]、および [停止] の各タスクを使用します。
- ジョブ グループの失敗したジョブをすべて再開するには、[失敗したジョブの再開] タスクを使用します。
- 実行済みのジョブを確認するには、[History] コンテナを使用します。
- 任意のオブジェクトのプロパティを表示するには、[プロパティの表示] タスクを使用します。プロパティ ページでメンバーまたは親オブジェクトの一覧に設けられたリンクをクリックすると、そのオブジェクトのプロパティ ページにジャンプすることができます。



# オペレーション機能

この章は以下を目的としています。

- 各タスクのライフサイクルに理解する。
- すべての [オペレーション] タスクに共通の基本的な実行手順に理解する。
- Portal ゾーンで管理するコンピュータが選択できるようになる。
- [ヘルプデスク通知] を使用し、コンピュータへの通知を名前を基にしてすばやく行うことができるようになる。
- デフォルトのプロファイルやカスタマイズされたプロファイルを使用して、**Radia Client** がインストールできるようになる。
- クライアント インストール プロファイルの追加、修正、および削除ができるようになる。
- ダイナミックまたはスタティックなポート割り当てを使用して、**Radia** 管理エージェントをインストールすることができるようになる。
- **Radia Proxy Server** がインストールできるようになる。
- **Radia Proxy Server** を同期させることができるようになる。
- **Radia Management Portal** ゾーンをインストールして起動することができるようになる。
- ジョブのスケジュールに使用するタスク テンプレートが追加できるようになる。
- ジョブをスケジュールし、複数の **Radia Management Portal** ゾーンで実行することができるようになる。

- タスクを一度実行するだけで、複数のジョブを連続的に実行することができるようになる。
- リモート制御により **Radia Client** が管理できるようになる。

**Radia Management Portal** のタスクの中には、特に重要とされるタスクがいくつかあります。タスクとは、ジョブを開始するためにユーザーが行う作業のことです。またジョブとは、コンピュータによって実行される、あるまとまりを持った処理のことで、ユーザー (によるタスクの実行) またはスケジュールされたオペレーションにより開始されます。


### 注意

この章では、Radia 製品スイートの使用方法を既に習得されている方を対象に、Radia Management Portal を使用してこれらのタスクを実行する際の詳しい操作方法について説明します。

オペレーションについての理解がまだ十分でない方は、HP OpenView の Web サイトを参照してください。

**Radia Management Portal** の主要なタスクは次のとおりです。

- **[コンピュータの管理]**  
[コンピュータの管理] をクリックすると、1 つまたは複数のコンピュータが **Radia Management Portal** ゾーンに追加できます。これは、**Radia Management Portal** からコンピュータに対してその他の各オペレーションを実行する上で、あらかじめ必要となるタスクです。詳細については、278 ページの「*Radia Management Portal* ゾーンでコンピュータを管理する」を参照してください。
- **[タスク テンプレートの追加]**  
[タスク テンプレートの追加] を使用すると、タスク タイプとして通知や **[RPS のインストール]** などを事前に設定し、それをタスク テンプレートとして保存することができます。[ゾーン オペレーションのスケジュール] タスクを実行する際にも、タスク テンプレートを選択して適用することができます。[タスク テンプレートの追加] は、[Zone] の [Configuration] コンテナ内にある [Task Templates] コンテナから使用できます。
- **[Radia Client のインストール]**  
[Radia Client のインストール] をクリックすると、**Radia Client** がリモート コンピュータ上にインストールできます。詳細については、313 ページの「*Radia Client* をインストールする」を参照してください。クライアント インストール プロファイルは複数を使用することができます。詳細については、317 ページの「複数のプロファイルを使用したリモート インストールのサポート」を参照してください。
- **[管理エージェントのインストール]**  
[管理エージェントのインストール] をクリックすると、**Radia** 管理エージェントをリモート コンピュータ上にインストールすることができます。詳細については、305 ページの「*Radia* 管理エージェントをインストールする」を参照してください。
- **[Proxy Server のインストール]**  
[Proxy Server のインストール] をクリックすると、**Radia Proxy Server** をリモート コンピュータ上にインストールすることができます。詳細については、330 ページの「*Radia Proxy Server* をインストールする」を参照してください。

- **[Proxy Server の同期]**  
**[Proxy Server の同期]** をクリックすると、Radia Proxy Server を Radia Configuration Server へ強制的に接続し、ファイルを Radia Proxy Server 上のスタティック キャッシュへプレロードすることができます。詳細については、336 ページの「*Radia Proxy Server* を同期させる」を参照してください。
- **[ダイナミック キャッシュのページ]**  
**[ダイナミック キャッシュのページ]** をクリックすると、Radia Proxy Server のダイナミック キャッシュをページすることができます。詳細については、338 ページの「*Radia Proxy Server* のダイナミック キャッシュをページする」を参照してください。
- **[通知]**  
**[通知]** タスクを使用すると、選択したオーディエンスに対してアクションを実行することができます。詳細については、290 ページの「*通知タスクを使用する*」を参照してください。
- **[ヘルプデスク通知]**   
ツールバー上の **[ヘルプデスク通知]** アイコンをクリックすると、既知の名前を持つ特定のコンピュータに対して、通知をすばやく行うことができます。詳細については、294 ページの「*[ヘルプデスク通知]を使用する*」を参照してください。
- **[シーケンス] タスク**  
**[シーケンス]** タスクを使用すると、一連のジョブの入力および送信を、マスター ポータルから 1 回の操作で行うことができます。このタスクには、**[Jobs]** コンテナからアクセスします。ジョブシーケンスの作成は、数多くのデバイスに共通のジョブを多数のゾーンにわたって管理する上で有効な手段です。次期バージョン以降、ジョブシーケンスにおいて、各ジョブが実行される際に満たすべき条件が選択できる機能が追加される予定です。
- **[Radia Management Portal のインストール]**  
**[Radia Management Portal のインストール]** をクリックすると、インフラストラクチャに Radia Management Portal ゾーンを追加インストールすることができます。詳細については、345 ページの「*RMP ゾーン(下位ゾーン)を追加インストールする*」を参照してください。**[下位ゾーンを開く]** および **[ゾーンオペレーションのスケジュール]** の各タスクの項も参照してください。
- **[下位ゾーンを開く]**  
**[下位ゾーンを開く]** をクリックすると、**[Zone Access Points]** コンテナから、企業内の別のゾーンの Radia Management Portal にすばやくアクセスすることができます。詳細については、360 ページの「*下位ゾーンを開く*」を参照してください。
- **[ゾーンオペレーションのスケジュール]**  
**[Zone Access Points]** コンテナから **[ゾーンオペレーションのスケジュール]** をクリックすると、企業内で選択された各ゾーンに含まれるすべてのデバイスに対して通知ジョブや **[RPS のインストール]** ジョブを実行することができます。これらのジョブオプションは、タスクテンプレートとして事前に定義されていることが必要です。詳細については、352 ページの「*ゾーンオペレーションをスケジュールする*」を参照してください。

# Radia Management Portal ゾーンでコンピュータを管理する

ネットワークや外部ディレクトリに存在するコンピュータに対してさまざまなオペレーションを実行する前に、まず[コンピュータの管理]タスクを使用して、それらのコンピュータが Radia Management Portal ゾーンで管理できる状態にします。

## 重要

RMP Zone にデバイスを追加する方法を他にもあります。詳細については、「第 4 章：管理機能」の「RMP ゾーンにデバイスを追加する」(160 ページ)を参照してください。

[コンピュータの管理]タスクで行う作業は次のとおりです。

- 選択したコンピュータを **[Zone Devices]** コンテナに登録します。登録されたコンピュータは **[Zone]** ディレクトリの中で一意のデバイスとして認識されます。
- デバイスを **[Zone]** の **[Groups]** コンテナ内にある **[Default Group]** のメンバーに設定します。

Radia Management Portal ゾーンの管理下に入ったデバイスは、オペレーションの実行対象として選択できます。

ネットワーク上に存在するコンピュータを管理する手順は以下のとおりです。管理者により、既に Active Directory へアクセスできるよう設定が行われている場合には、これと同じ手順で、Active Directory のロケーションに存在するコンピュータを管理することができます。

### ネットワーク上に存在するコンピュータを管理するには

1. ナビゲーション支援を使用して、**[Zone]** の **[Network]** コンテナに移動します。
2. ワークスペースで、管理するコンピュータが含まれるネットワークをクリックします。たとえば、**[Microsoft Windows Network]** をクリックします。

3. ワークスペースで、**[Network]** より下位にある階層の中からコンピュータ オブジェクトを特定し、それをクリックします。たとえば、**[RADIADOMAIN5]** の中から **[RADIAFLORA]** をクリックします。



図 5.1 ~ Microsoft Windows Network のドメインから選択されたコンピュータ

4. [オペレーション] タスク グループの [コンピュータの管理] をクリックします。

この時点で、このコンピュータに対する一意のデバイス エントリが [Zone] の [Devices] コンテナ内に作成されます。ナビゲーション ロケーションが、[Devices] コンテナの [Devices] オブジェクトに切り替わります。



図 5.2 ~ [コンピュータの管理] タスクを選択後の Radia Management Portal

この管理対象デバイスに対して実行できるさまざまなタスクが、[オペレーション] タスク グループに表示されます。デバイスを追加した後で以下の作業を行えば、Radia Management Portal の特徴を最大限に活用することができます。

- このデバイスに対するオペレーションの実行に必要なデバイス グループすべてに、このデバイスを移動またはコピーします。詳細については、190 ページの「グループにデバイスを移動する」を参照してください。
- [Cross References] 内のグループが利用できるよう、Radia 管理エージェントをデバイス上にインストールします。Radia 管理エージェントを追加するその他の利点については、305 ページのページの「Radia 管理エージェントをインストールする」を参照してください。



## ネットワーク上に存在するコンピュータのグループを管理するには

コンピュータ グループを選択する場合は、グループに対するデバイスをブラウズおよび選択するためのダイアログについて、あらかじめ十分な知識が必要です。161 ページの「グループの変更の基本手順」を参照してください。

1. **[Zone]**、**[Network]** コンテナの順に移動します。
2. Radia Management Portal で管理できるようにするコンピュータ グループが含まれる **[Network]** レベルに移動します。
3. **[オペレーション]** タスク グループの **[コンピュータの管理]** をクリックします。
4. 管理できるようにするコンピュータをすべて選択します。
5. **[修正]** をクリックします。

選択されたコンピュータがすべて、**[Zone]** の **[Devices]** コンテナ、および **[Zone]** の **[Groups]** コンテナにある **[Default Group]** に追加されます。

デバイスを複数の異なるグループに移動またはコピーする方法については、190 ページの「グループにデバイスを移動する」を参照してください。

## Active Directory に存在する 1 つまたは複数のコンピュータを管理するには

Active Directory は、アクセスできるように Radia 管理者が設定を行うことが可能です。この場合 Active Directory は、Radia Management Portal の **[Zone]** と同じレベルにオブジェクトとして表示されます。

**[コンピュータの管理]** タスクを使用すれば、接続された Active Directory に存在する 1 つまたは複数のコンピュータを、**[Zone]** の **[Devices]** コンテナに追加できます。

Active Directory の設定および接続に関する詳細については、141 ページの「ディレクトリ サービスを追加する」を参照してください。

## タスクのライフサイクルについて

**[オペレーション]** タスクは、Radia Management Portal ゾーンで管理されるデバイスまたはデバイスグループに対して実行されます。これらのデバイスおよびグループ メンバーシップは、以下に示す 3 つのうちいずれかのロケーションに存在します。

- **[Devices]** コンテナ (単独のデバイス)
- **[Groups]** コンテナ (**[Default Group]** コンテナまたは作成された **[Groups]** コンテナ)
- **[Cross References]** コンテナ グループ (Radia 管理エージェントがインストールされているデバイスから生成されたグループ)

**[オペレーション]** タスクを実行するには、デバイスまたはデバイスグループを選択した上で、実行するタスクを **[オペレーション]** タスク グループから選択します。各 **[オペレーション]** タスクのライフサイクルは、どれもほぼ同じです。282 ページの図 5.3 を参照してください。

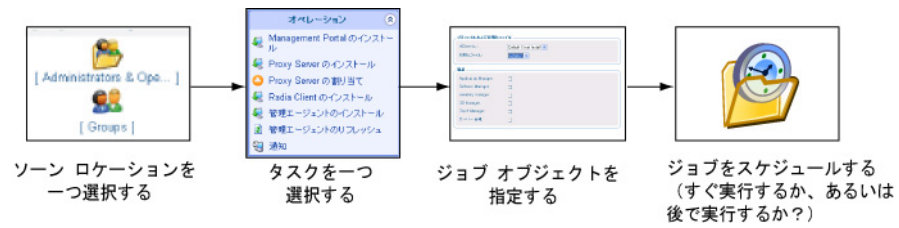


図 5.3 ~ タスクのライフサイクル

### 1. ゾーン ロケーションを選択します。

初めに、アクションの実行対象となるメンバー オブジェクトが含まれるゾーン ([Zone]) ロケーションに移動します。これらのメンバーは、タスクのオーディエンスとも呼ばれます。

通常、[Zone] の [Devices] にある [Groups] コンテナまたは [Cross References] コンテナが開始ロケーションとなります。どちらのコンテナが開始ロケーションとなるかは、実行するタスクの対象が、単独のデバイスであるか、デバイス グループであるかによって決まります。

選択した開始ロケーションに、タスクのオーディエンスとなるデバイスが多数含まれている場合には、[クエリ] ダイアログ ボックスが開き、そこでジョブの実行対象を制限することができます。たとえば、[Zone] のナビゲーション ロケーションからタスクを開始する場合、Radia Management Portal ディレクトリ内の [Groups] の一覧について、ディレクトリにクエリを実行することができます。

#### 重要

クエリが実行される時点とジョブが実行される時点とは環境が変化していることもあるため、クエリによってステータス情報の確認が行われることはありません。

### 2. タスクを選択します。

使用できるタスクは、選択した開始ロケーションに従ってフィルタされます。たとえば [Radia Proxy Server の同期] タスクが使用できるのは、開始ロケーションが [Devices] オブジェクトに含まれる [Radia Proxy Service] オブジェクト、またはすべての Radia Proxy Server の [Cross References] コンテナである場合です。

### 3. ジョブ オプションを指定します。

オプションは、選択したタスクによって異なります。たとえば、通知タスクを実行する場合には、ターゲット デバイスに対して実行するコマンドラインを指定します。

### 4. スケジュール オプションを指定します。

このジョブをいつ実行するかを指定します。

### 5. これまでに指定した内容を確認します。

ジョブに関する各種情報の指定が完了すると、それらの内容をまとめたウィンドウが表示されます。これまでに指定した内容を確認したら、そのジョブをサブミットします。

## [オペレーション] タスクを実行する基本手順

各タスクはいずれも同じライフサイクルを持つため、どのようなアクションを実行する場合でも、その基本的な手順は常に同じです。この基本的な手順における各操作は、タスクを選択後 Radia Management Portal のワークスペースに続けて表示されるいくつかのダイアログ ボックス上で行います。必要な情報の入力完了すると、ジョブが作成されます。

ここでは、これらの基本的な手順について詳しく説明します。

### 開始ゾーン ロケーションを選択する

オペレーションを開始するには、まずタスクの実行対象となるすべてのオブジェクトを含むゾーン ロケーションを選択します。[Zone] コンテナに関する詳細については、101 ページの「Zone のコンテナについて」を参照してください。含まれるオブジェクトクラスは、[Zone] コンテナごとに異なります。

- [オペレーション] タスクは通常、[Zone] の [Devices] にある [Groups] コンテナまたは [Cross References] コンテナから開始されます。どちらのコンテナが開始ロケーションとなるかは、実行するタスクの対象が、単独のデバイスであるか、デバイス グループであるかによって決まります。デバイス グループの作成および修正に関する詳細については、160 ページの「デバイスおよびデバイス グループを設定する」を参照してください。
- 企業内のその他のゾーンに関連するオペレーションは、[Zone Access Points] コンテナから開始されます。
- 別の [Zone] コンテナに移動する方法の詳細については、78 ページの「Portal ディレクトリおよび [Zone] 内のコンテナ間を移動する」を参照してください。



図 5.4 ~ 通常の開始ロケーション ([Zone] の [Groups] コンテナに含まれるグループ) のサンプル

## クエリを実行する

[クエリ] ダイアログ ボックスを使用して、ジョブの実行対象を制限します。たとえば、名前の頭文字が「N」であるコンピュータに関する情報をすべてエクスポートする場合には、[クエリ] ダイアログ ボックスを使用して、Microsoft Windows Network から検出されたコンピュータのうち、名前の頭文字が「N」であるものすべての一覧を検索します。

### 注意

特定のコンピュータなど、単独の権限に対してタスクを選択した場合、[クエリ] ダイアログ ボックスは表示されません。

### ディレクトリのクエリ

**クエリのタイプ**

クエリの深さ  1レベル  現在のレベルとすべての下位レベル

クエリ フィルタ

**クエリ 制約**

すべての制約を一致させる

共通名

表示名

オブジェクトのクラス

図 5.5 ~ [ディレクトリのクエリ] ダイアログ ボックス

## クエリを実行するには

1. [クエリのタイプ] の [クエリの深さ] で次のいずれかをクリックします。
  - [1 レベル]  
選択した権限より 1 つ下のレベルでクエリを行います。
  - [現在のレベルとすべての下位レベル]  
現在のレベルおよび選択した権限より下位のすべてのレベルでクエリを行います。
2. [クエリのフィルタ] ボックスの一覧で、検索するオブジェクトのタイプをクリックします。  
たとえば、権限として [Administrations & Operators] をクリックし、このボックスの一覧の [ユーザー] をクリックすると、基準に合致するユーザーのみがクエリ結果として表示されます。  
[クエリ制約] に表示されるフィールドは、ここでの選択内容によって異なります。
3. クエリを制約する場合は、[クエリ制約] に表示される各テキスト ボックスに適切な情報を入力します。

## 注意

これらのテキスト ボックスでは、ワイルドカードを使用することができます。たとえば、「a」の文字で始まる管理者、オペレータ、ユーザー、およびグループをすべて検索するには、次の手順を実行します。

1. [クエリの深さ] で [現在のレベルとすべての下位レベル] をクリックします。
2. [クエリのフィルタ] ボックスの一覧の [Administrations & Operators] をクリックします。
3. [共通名] ボックスに、「a\*」と入力します。

「a」の文字で始まるすべての管理者、オペレータ、ユーザー、およびグループがクエリ結果として表示されます。

[共通名] ボックスでは、各検索パターンの中に (スペースではなく) 以下のような文字列を直接入力することで、複数のパターンを検索することも可能です。)(cn=たとえば、名前に「a」または「o」の文字が含まれるユーザーおよびグループをすべて検索するには、次の手順を実行します。

1. 上記の手順 1 と 2 を繰り返します。
2. [共通名] ボックスに、「a\*)(cn=o\*」と入力します。

「a」または「o」の文字で始まるすべての管理者、オペレータ、ユーザー、およびグループの一覧が表示されます。

4. [クエリ制約] の各フィールドに入力したすべての指定内容にクエリ結果が合致するようにするには、[すべての制約を一致させる] チェック ボックスをオンにします。
5. [次へ] をクリックしてクエリを開始し、タスクの次の手順に進みます。

## オーディエンスの選択

[選択] ダイアログ ボックスを使用してオーディエンスを制限します。オーディエンスとは、アクションの実行対象となるデバイスまたはオブジェクトのグループです。

### 注意

以下の場合、[選択] ダイアログ ボックスは表示されません。

- ・ タスクを選択した際の開始ゾーン ロケーションが単独のオブジェクトである場合。
- ・ クエリの結果が単独のオブジェクトである場合。

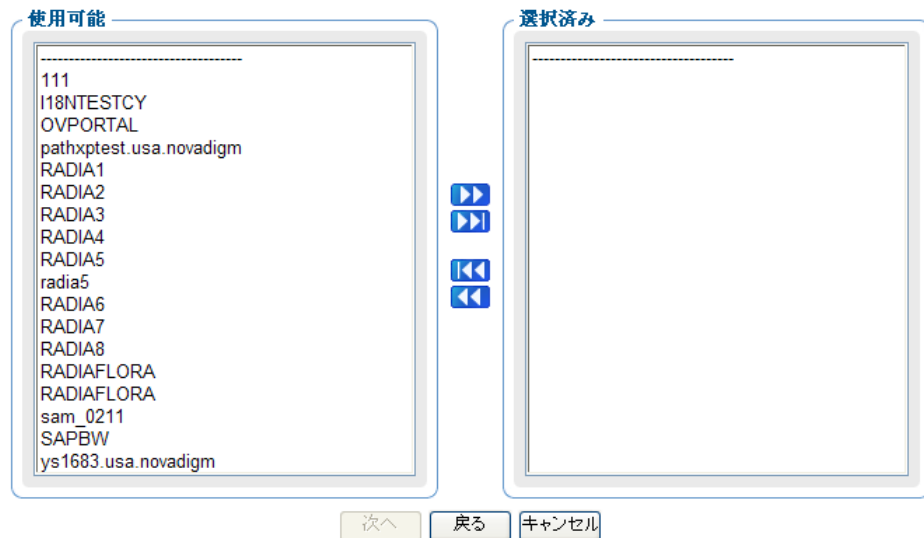






図 5.6 ~ [選択] ダイアログ ボックス

このウィンドウには、タスクを選択した際の開始ナビゲーション ロケーションに基づいて、選択可能なオーディエンスが表示されます。そのため、[Zone] レベルからタスクを開始した場合、[Zone] の [Administrations & Operators] に属する [Account Administrators Group] が開始ロケーションである場合に比べると、選択可能なオーディエンスが大幅に増加します。

### オーディエンスを選択するには

1. [使用可能] ボックスで 1 つまたは複数のデバイスをクリックします。
2.  をクリックして、選択したデバイスを [選択済み] の一覧に追加します。  
または  
すべてのデバイスを選択する場合は、[使用可能] の一覧にあるアイテムをすべてクリックする必要はありません。 をクリックするだけで、すべてのデバイスが [選択済み] の一覧に追加されます。
3. オーディエンス リストからデバイスを削除する場合は、[選択済み] の一覧から目的のデバイスを選択し、 をクリックします。  
または  
一覧からすべてのデバイスを削除する場合は、 をクリックするだけで、[選択済み] の一覧からすべてのデバイスを削除することができます。
4. [次へ] をクリックしてタスクの次の手順に進みます。

#### 注意

タスクの次の手順は、ジョブ オプションを指定するためのものです。このウィンドウで入力が必要な情報は、指定したタスクによって異なります。詳細については、それぞれ実行するタスクについての説明を参照してください。

## ジョブをスケジュールする

[スケジュール] ダイアログ ボックスを使用して、ジョブのスケジュール オプションを設定します。デフォルトでは、ジョブは設定直後に 1 度だけ実行されます。ただし、これらの設定は修正可能です。ジョブは、ツリー ビューにまとめて表示されます。最上位レベルは [スケジューラ] で、ジョブのスケジュールやディスパッチに使用されます。その下のレベルには、ジョブのさまざまなグループが含まれる [ジョブ グループ] が存在します。たとえば、10 台のコンピュータに通知を行うためのジョブグループがあるとします。このジョブ グループの下には、それぞれ 1 台のコンピュータに通知を行うジョブが計 10 個表示されます。

ジョブ グループは、指定した時間になると実行されるようにスケジュールされます。実行するジョブグループには、スケジューラからのパーミッションが必要です。同様に各ジョブには、そのジョブグループからの実行パーミッションが必要です。そのためすべてのジョブは、その親オブジェクト (ジョブグループまたはスケジューラ) から実行パーミッションを受け取ることになります。

スケジューラでは、ジョブに対してそれぞれの優先度に基づいた順序付けが行われます。2つのジョブが同時刻に実行されるよう設定されている場合には、優先度の高い方のジョブが、先に実行するためのパーミッションを受け取ります。期限切れのためスケジューラで実行できなかったジョブはキャンセルされます。

---

**スケジューラ情報**

ジョブ名:

説明:

優先度:

---

**時間ウィンドウ**

実行:

開始日: 2005   時間

継続時間:  時間ごと  分

---

**ジョブ スロットリング**

常に同時実行するジョブの最大数を  に設定、

1分ごとにまとめて開始するジョブ数を  個のジョブを毎分まとめて開始。

図 5.7 ~ 通知のサブミット - [スケジュール] ダイアログ ボックス (Windows)

---

## Windows でジョブをスケジュールするには

### 1. [スケジューラ情報] の各アイテムに必要な情報を入力します。

- 通知ジョブの場合は、[ジョブ名] ボックスにジョブ グループの名前を入力します。ジョブの概要を示す画面では、このジョブ名が、表示名の横にある [エイリアス] カラムに表示されます。
- [説明] ボックスに、スケジュールされたジョブの説明を入力します。この説明は、そのジョブの [プロパティの表示] ダイアログ ボックスに表示されます。
- [優先度] ボックスの一覧から、ジョブの優先度を選択します。スケジューラでは、特定の時間に実行されるようスケジュールされたすべてのジョブに対して、優先度による順序付けが行われます。



2. [時間ウィンドウ]の各アイテムに必要な情報を入力します。

- [実行] ボックスの一覧で、ジョブの実行回数を指定します。

[時間ウィンドウ]のその他のオプションは、選択したスケジュールのタイプにより異なります。

- [曜日] ボックスの一覧では、ジョブが実行される曜日を選択します。(適用されるのは毎週実行するよう設定されたジョブのみ)
- [開始日] ボックスの一覧では、以下の項目を選択します。
  - ◆ ジョブを実行する日付。
  - ◆ ジョブを実行する時間(時間および分)。
  - ◆ ジョブを実行する頻度(日または時間)。(適用されるのは、 $n$ 日ごとまたは $n$ 時間ごとに実行するよう設定されたジョブのみ)
- [継続時間] ボックスの一覧では、ジョブの実行時間(時間および分)を指定します。指定した時間が経過すると、そのジョブはキャンセルされます。

3. [ジョブ スロットリング]では、同時に実行するジョブの数、およびこのジョブ グループにおいて1分ごとに開始するジョブの数の上限を指定します。[ジョブ スロットリング]の設定項目は、相当数のジョブが含まれるジョブ グループをスケジュールする場合には特に有用です。

- [常に同時実行するジョブの最大数を  $n$  に設定]  
このジョブ グループの中で同時に実行できるジョブの最大数が表示されており、必要に応じて修正することもできます。デフォルトの値は、ジョブのタイプにより異なります。値が0の場合は無制限になります。
- [1分ごとにまとめて開始するジョブ数を  $n$  に設定]  
ここに0以外の値が指定されている場合は、このジョブ グループ内の1つ以上のジョブが、1分ごとにまとめて実行されます。ここには、1分ごとにまとめて実行するジョブの数を入力します。値が0の場合は無制限になります。

4. [次へ]をクリックして、このジョブの[要約]ダイアログ ボックスを表示します。


[要約]ダイアログ ボックスには、このジョブに対して指定された各種の情報がまとめて表示されます。これらの情報を確認したら、[サブミット]をクリックしてジョブを保存します。

## 主要タスク

Radia Management Portal のタスクの中には、特に重要とされるタスクがいくつかあります。ここでは、こうした主要なタスクについて、それぞれの使用方法を説明します。

## 通知タスクを使用する

ターゲット オーディエンスをすばやく特定するのに有用な通知タスクがいくつか用意されています。

- **[通知]**  
さまざまなクエリを実行して、通知先のターゲット オーディエンスを作成することができます。
- **[ヘルプ デスク通知]**   
ツールバー上の **[ヘルプ デスク通知]** アイコンをクリックすると、既知の名前を持つ特定のコンピュータに対して、通知をすばやく行うことができます。詳細については、294 ページの「**[ヘルプ デスク通知] を使用する**」を参照してください。

Radia Client への通知に関する詳細については、『Radia Application Manager ガイド』または『Radia Software Manager ガイド』を参照してください。

## オーディエンスの選択

**[通知]** タスクを使用すると、選択したターゲット デバイスに対しアクションを実行することができます。

**[通知]** タスクのオーディエンスとして、デバイス グループを選択することが可能です。

### 注意

Radia Management Portal では、Wake-on-LAN (WOL) が標準でサポートされています。通知先のマシンが起動状態にない場合でも Wake-on-LAN 機能をサポートしていれば、通知ジョブで送信される WOL メッセージにより起動状態になります。この場合、起動後のマシンに対して、120 秒間隔で繰り返し通知が行われます。ただし WOL メッセージは、ターゲットマシンの MAC アドレスがそのマシンのプロパティとして設定可能である場合に限り送信することができます。

## オーディエンスに通知を行うには

1. ナビゲーション支援を使用して権限を選択します。
2. [オペレーション] タスク グループの [通知] をクリックします。

### 注意


特定のコンピュータなど、単独の権限に対してタスクを選択した場合、[選択] ダイアログボックスは表示されません。この場合は、手順 5 に進んでください。

[クエリ] ダイアログボックスが表示されます。

3. 条件を指定して、ジョブの実行対象を制限します。詳細については、284 ページの「クエリを実行する」を参照してください。

### 注意

1 つまたは複数のグループを通知の実行対象にする場合、次の手順でグループ オブジェクトを選択する必要があるため、[Query Filter] には [コンピュータ] を指定しないでください。

4. [次へ] をクリックします。  
[選択] ダイアログボックスが表示されます。
5. [使用可能] の一覧からオーディエンスを選択し、 をクリックしてそれを [選択済み] の一覧に追加します。詳細については、286 ページの「オーディエンスの選択」を参照してください。

6. [次へ] をクリックします。  
[通知のサブミット] の [通知オプション] ダイアログ ボックスが表示されます。



図 5.8 ~ [通知のサブミット] の [通知オプション] ダイアログ ボックス

7. [タイプを通知] ボックスの一覧で、実行する通知のタイプを選択します。選択内容により、[コマンド] ボックスの内容が変わります。

必要に応じて、[コマンド] ボックスのコマンドを変更します。たとえば、[タイプを通知] ボックスの一覧から **Refresh Catalog** を選択すると、[コマンド] ボックスには自動的に以下のコマンドラインが表示されます。

```
radskman.exe req="Refresh Catalog",mname=|mgrname|,dname=SOFTWARE,
ip=|mgr_ip|,port=|mgr_port|,cat=y
```

通知を行う際は、パイプ記号 (|) で囲まれた情報を必要な情報に置き換える必要があります。たとえば、上記のコマンドラインを以下のように変更します。

```
radskman.exe req="Refresh Catalog",mname=EastCoast,dname=SOFTWARE,
ip=10.10.10.1,port=3464,cat=y
```




### 注意



通知オペレーションを頻繁に実行する場合は、デフォルト オプションがそれぞれの用途に合った内容になるよう、通知タスクを修正することをお勧めします。詳細については、296 ページの「通知コマンドのデフォルト オプションを設定する」を参照してください。


8. [ポート番号] ボックスに、通知デーモンがリスンするポート番号を入力します。デフォルトのポート番号は **3465** です。
9. 必要に応じて、ターゲット デバイスで使用するユーザー名を [ユーザー] ボックスに入力します。
10. 必要に応じて、ターゲット デバイスで使用するパスワードを [ユーザー パスワード] ボックスに入力します。
11. [次へ] をクリックします。  
[スケジュール] ダイアログ ボックスが表示されます。
12. [スケジュール] ダイアログ ボックスで、このジョブをいつ実行するかを指定します。詳細については、287 ページの「ジョブをスケジュールする」を参照してください。
13. [次へ] をクリックします。  
[要約] ダイアログ ボックスが表示されます。
14. [サブミット] をクリックします。  
[ジョブ ステータス] ウィンドウが開き、そこにジョブの一覧が表示されます。このダイアログ ボックスの表示内容は、60 秒間隔で自動的にリフレッシュされます。



図 5.9 ~ [ジョブステータス] ウィンドウ

-  をクリックすると、ジョブ ツリーまたはディレクトリ ツリーの中で 1 つ上のレベルに移動できます。たとえば、ジョブの詳細を表示した後でこのアイコンをクリックすると、ジョブ グループの概要を示す画面に戻ることができます。
-  をクリックすると、ウィンドウをリフレッシュして最新のステータスを表示することができます。
-  をクリックすると、ジョブまたはジョブ グループのプロパティの詳細を表示することができます。これにより、ジョブ ステータスの詳細情報を確認することができます。

-  をクリックすると、ジョブのショートカットをデスクトップに追加することができます。
-  をクリックすると、[ジョブ ステータス] ページの印刷可能なビューを表示することができます。

15. ジョブ ステータスを確認したら、 をクリックして [ジョブ ステータス] ダイアログ ボックスを閉じ、Radia Management Portal に戻ります。


## [ヘルプ デスク通知] を使用する

[ヘルプ デスク通知] タスクを使用すると、その場で 1 回だけ実行する通知タスクを、既知の DNS 名を持つ特定のコンピュータにすばやくサブミットすることができます。基本的にこのタスクは、問題の解決を担当するヘルプ デスク スタッフが使用するためのもので、一度だけ実行する通知タスクを、専用のウィンドウから迅速に処理することができます。

[ヘルプ デスク通知] タスクでサブミットする通知タスクについては、使用するオプションおよびコマンドの構文をあらかじめ設定するか、またはカスタマイズしておく必要があります。詳細については、次のいずれかを参照してください。

- 296 ページの「通知コマンドのデフォルト オプションを設定する」。
- 301 ページの「カスタム通知コマンドを作成する」。

### [Help Desk Tasks] グループから特定のコンピュータに通知を行うには

1. [ディレクトリ] の [Zone] の任意のロケーションから、[ヘルプ デスク通知] のツールバー アイコン  をクリックします。

[ヘルプ デスク通知のサブミット] ウィンドウが表示されます。

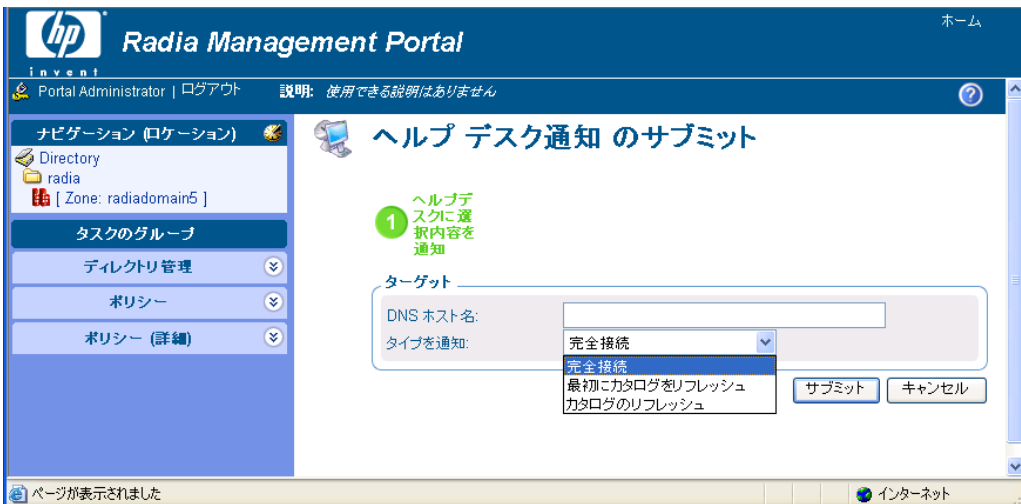


図 5.10 ~ [ヘルプ デスク] タスク グループから通知を行う

2. [DNS ホスト名] フィールドに、通知先となるクライアントコンピュータの DNS ホスト名を入力します。
3. [タイプを通知] フィールドの一覧を開き、実行する通知のタイプを選択します。通知の各タイプに対して、オプションを事前に設定しておく必要があります。296 ページの「通知コマンドのデフォルト オプションを設定する」を参照してください。
4. [サブミット] をクリックします。

選択した通知がその場で実行され、[ジョブ ステータス] ウィンドウが表示されます。

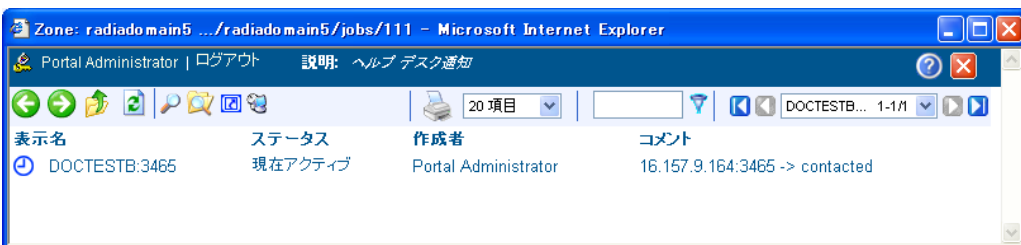


図 5.11 ~ [ヘルプ デスク通知] の [ジョブ ステータス] ウィンドウの表示例

5. **F5** キーを押して、このステータス ウィンドウをリフレッシュします。ジョブの詳細を確認する場合は、そのジョブの [表示名] をクリックします。

## 通知コマンドのデフォルト オプションを設定する

通知オペレーションを頻繁に実行する場合を想定して、デフォルト オプションがそれぞれの用途に合った内容になるよう、通知タスクを修正します。具体的には、特定の通知タスクを指定した上で、適切な通知タイプ (完全接続など) の各プロパティを修正します。

[ヘルプ デスク通知] タスクを使用する際はあらかじめ、[ヘルプ デスク通知] タスクの各オペレーションに対するデフォルト オプションおよびコマンドの構文を、この方法で設定しておく必要があります。


以下の各タスクから実行される通知オペレーションに対して、デフォルト オプションを設定することが可能です。

- [ヘルプ デスク通知] (「H」で始まるタスク名の一覧に表示される)
- [通知]
- [Notify via Inventory] (Radia Inventory Manager がロードされている場合)

### 通知コマンドのデフォルト オプションを設定するには

1. ナビゲーション領域で、[Directory]、[Zone]、[Configuration] の順に移動します。
2. ワークスペースで [Tasks] をクリックします。
3. ワークスペースで、変更する通知タスク ([通知] など) をクリックします。

#### ヒント

ツールバー上にある英数字のタブとページング用の矢印を使用すると、該当する文字を名前の頭文字とするオブジェクトに移動することができます。たとえば、通知タスクのページにすばやく移動するには、[K ~ O] をクリックして、[次へ]  をクリックします。

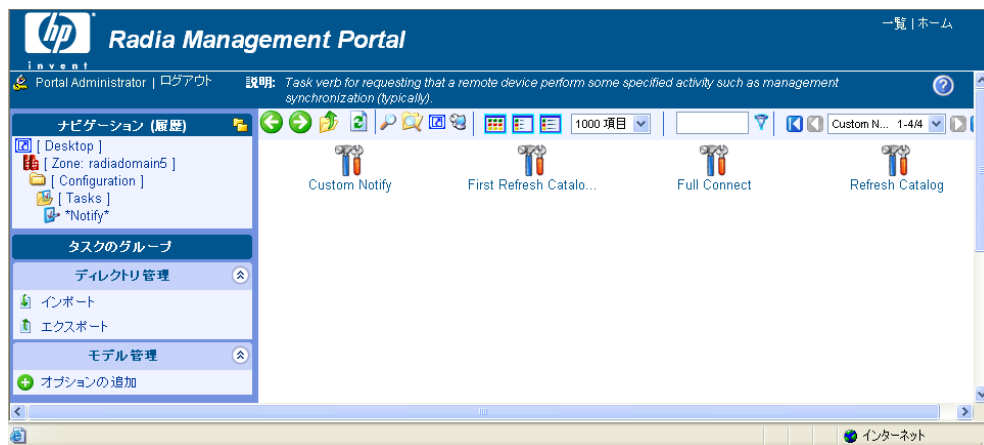


図 5.12 ~ 通知タスクのロケーション



4. ワークスペースで、デフォルトを設定する通知オペレーションのタイプ (**[Refresh Catalog]** など) をクリックします。

[オプションのプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。

## Refresh Catalog オプションのプロパティ

プロパティ | オブジェクトの情報

プロパティ

コマンド	radskman req="Refresh Catalog",mname=[mgrname],dname=SOFTWARE,ip=[mgr_ip],port=[mgr_port],cat=y
ポート番号	3465
ユーザー	user1
作成日のタイムスタンプ	2005/08/03 13:04
変更のタイムスタンプ	2005/08/03 13:04
完了予定	radia/catalog

先頭に戻る

オブジェクトの情報

表示名	Refresh Catalog
共通名	catalog
X500 識別名	<u>cn=catalog, cn=notify, cn=task, cn=config, cn=radiadomain5, cn=radia</u>
オブジェクトのクラス	top nvdTaskOptions

先頭に戻る

図 5.13 ~ [オプションのプロパティ] ダイアログ ボックス

5. [モデル管理] タスク グループの [修正] をクリックします。  
[オプションを修正] ダイアログ ボックスが表示されます。

## オプション を修正

プロパティ

表示名	<input type="text" value="Refresh Catalog"/>
コマンド	<input catalog",mname=' mgr"/' refresh="" type="text" value="radskmn req="/>
ポート番号	<input type="text" value="3465"/>
ユーザー	<input type="text" value="user1"/>
ユーザー パスワード	<input type="password" value="*****"/>
完了予定	<input type="text" value="クライアントの RCS への接続"/> ▼

図 5.14 ~ [オプションを修正] ダイアログ ボックス

6. 必要に応じてフィールドを変更します。
  - [表示名] ボックスで、タスクの表示名を変更します。
  - [コマンド] ボックスで、実行する通知に使用するデフォルトのコマンド ラインを変更します。
  - [ポート番号] ボックスで、通知デーモンがリスンするデフォルトのポート番号を変更します。
  - 必要に応じて、ターゲット デバイスで使用するデフォルトのユーザー名を [ユーザー] ボックスに入力します。
  - 必要に応じて、ターゲット デバイスで使用するデフォルトのパスワードを [ユーザー パスワード] ボックスに入力します。
  - [完了予定] ボックスの一覧から、どの時点で通知が完了したとみなすかを指定します。Radia Client およびアプリケーション イベント (APPEVENT) オブジェクトに関する詳細については、HP OpenView の Web サイトを参照してください。選択すべきオプションが明確でない場合は、[コンタクトするクライアント] を選択してください。

[完了予定] の種類:

[コンタクトするクライアント]

[クライアントの RCS への接続]

[クライアントからのアプリケーション イベントの送信]

[完了予定] のジョブ プロパティ:

adhoc

radia/catalog

radia/service

## 7. [修正] をクリックします。

[オプションのプロパティ] ダイアログ ボックスが開き、修正内容を確認することができます。

## 注意

「[図 5.15](#) ~ 修正後の [オプションのプロパティ]」に表示されているコマンドラインは、単に例として示したものです。



## Refresh Catalog

### オプションのプロパティ

#### プロパティ | オブジェクトの情報

##### プロパティ

コマンド	radskman req="Refresh Catalog",mname=Radia,dname=SOFTWARE,ip=16.157.129.10,port=3464,cat=y
ポート番号	3465
ユーザー	user1
作成日のタイムスタンプ	2005/08/03 13:04
変更のタイムスタンプ	2005/08/05 14:25
完了予定	radia/catalog

[先頭に戻る](#)

##### オブジェクトの情報

表示名	Refresh Catalog
共通名	catalog
X500 識別名	<u>cn=catalog, cn=notify, cn=task, cn=config, cn=radiadomain5, cn=radia</u>
オブジェクトのクラス	top nvdTaskOptions

[先頭に戻る](#)

[図 5.15](#) ~ 修正後の [オプションのプロパティ]

次回通知タスクを開始した際、ここで修正した通知タイプ ([カタログのリフレッシュ] など) を選択すると、新しいデフォルト設定が [通知のサブミット] の [通知オプション] ダイアログボックスに表示されます。たとえば、299 ページの「[図 5.15 ~ 修正後の \[オプションのプロパティ\]](#)」で指定されているプロパティはそのまま、下の「[図 5.16](#)」の各フィールドにデフォルト設定として表示されています。

---

図 5.16 ~ [通知のサブミット] の [通知オプション] ダイアログボックスの表示例

[オプション] ダイアログボックスの詳細については、290 ページの「[オーディエンスの選択](#)」を参照してください。

## カスタム通知コマンドを作成する

独自の通知コマンドを作成するには、[モデル管理] タスク グループの [タスク オプションの追加] タスクを使用します。

### 新しい通知コマンドを追加するには

1. ナビゲーション領域で、[Directory]、[Zone]、[Configuration] の順に移動します。
2. ワークスペースで [Tasks] をクリックします。
3. ワークスペースで、コマンドを指定する通知タスク オブジェクトをクリックします。たとえば、[ヘルプ デスク通知]、[通知]などをクリックします。

### ヒント

権限のツール バー上にある英数字のタブを使用すると、該当する文字を名前の頭文字とするオブジェクトに移動できます。たとえば、[K ~ O] をクリックすると、通知タスクのページにすばやく移動できます。

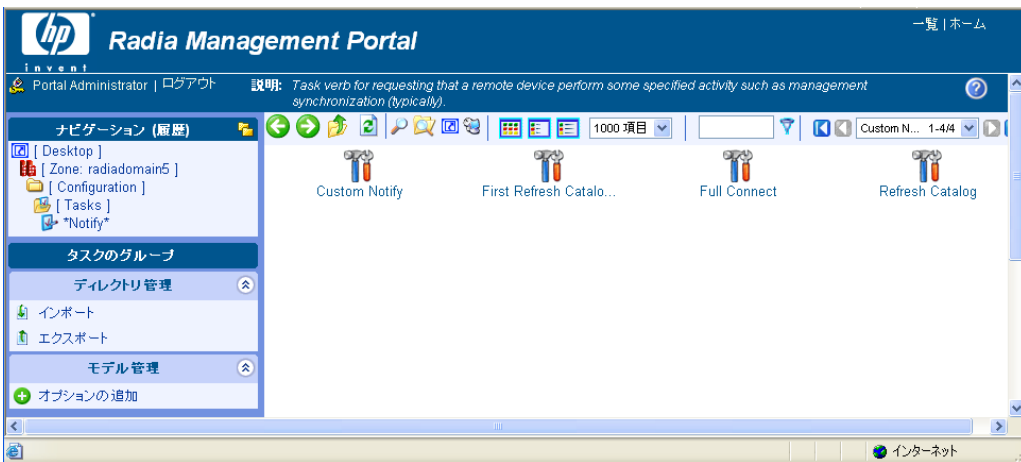
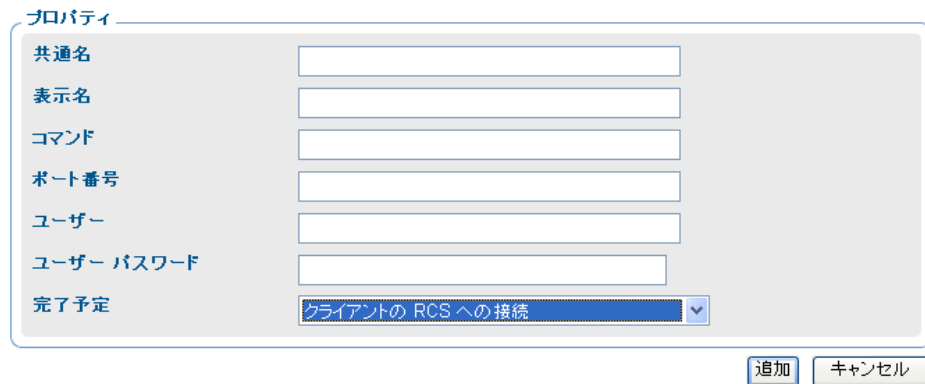


図 5.17 ~ 権限 - [通知]

4. [モデル管理] タスク グループの [オプションを追加] をクリックします。

## オプション を追加



プロパティ

共通名

表示名

コマンド

ポート番号

ユーザー

ユーザー パスワード

完了予定

追加 キャンセル

図 5.18 ~ [オプションを追加] ダイアログ ボックス

5. [共通名] ボックスに、カスタム通知タスクの名前を入力します。

### 警告

オブジェクトの共通名は、一意でなければなりません。既に使用されている名前でもオブジェクトを作成しようとすると、オブジェクトが既に存在することを示すエラー メッセージがワークスペースに表示されます。

6. [表示名] ボックスに、通知タスクの名前を入力します。この名前がインフラストラクチャの図で表示されます。
7. [コマンド] ボックスで、選択したターゲット デバイスに対して実行する **Radia** コマンドラインを入力します。
8. [ポート番号] ボックスに、通知デーモンがリスンするポートを入力します。
9. [ユーザー] ボックスに、ターゲット デバイスのドメインで管理者権限を取得するための管理者 ID を入力します。
10. [ユーザー パスワード] ボックスに、ターゲット デバイスのドメインで管理者権限を取得するための管理者パスワードを入力します。  
パスワードを入力しないと、管理者権限が必要な場合に、ジョブが正常に実行されないことがあります。具体的な情報については、ジョブ ステータスを確認してください。

11. [完了予定] ボックスの一覧で、この通知タスクが完了したことを示すクライアントのアクションを選択します。以下の表は、ここで選択した内容がどのように [タスクのプロパティ] ダイアログボックスまたは [ジョブのプロパティ] ダイアログボックスに表示されるかを示したものです。

表 5.1 ~ 通知ジョブ完了のオプション

[完了予定] の種類	[オプションのプロパティ] および [ジョブのプロパティ] での [完了予定] のエントリ
[クライアントへの接続]	Adhoc
[クライアントの RCS への接続]	Radia/catalog
[Client sends クライアントの APP イベントへの接続]	Radia/service

12. [追加] をクリックします。

[オプションのプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。



プロパティ | オブジェクトの情報

プロパティ

コマンド	c:\notepad.exe
ポート番号	3465
ユーザー	user1
作成日のタイムスタンプ	2005/08/05 14:40
変更のタイムスタンプ	2005/08/05 14:40
完了予定	adhoc

[先頭に戻る](#)

オブジェクトの情報

表示名	Open Notepad
共通名	Open Notepad
X500 識別名	<a href="#">cn=open notepad, cn=notify, cn=task, cn=config, cn=radiadomain5, cn=radia</a>
オブジェクトのクラス	top nwdTaskOptions

[先頭に戻る](#)

図 5.19 ~ [オプションのプロパティ] ダイアログボックス

次回通知タスクを開始すると、それに対応する [通知] ダイアログ ボックスの [タイプを通知] ボックスの一覧に新しいコマンドが表示されます。

- [通知のサブミット] の [通知オプション] ダイアログ ボックスに関する詳細については、290 ページの「オーディエンスの選択」を参照してください。
- [ヘルプ デスク通知のサブミット] ダイアログ ボックスに関する詳細については、294 ページの「[ヘルプ デスク通知] を使用する」を参照してください。

## Radia 管理インフラストラクチャ製品およびアプリケーション

Radia Management Portal では、Radia インフラストラクチャ製品およびアプリケーションをリモート デバイスにインストールすることが可能です。

### リモート インストールの要件

Radia インフラストラクチャ製品をインストールする際は、以下の要件に注意が必要です。

- Windows の場合、リモート コンピュータでは、Windows NT、Windows 2000、Windows XP、または Windows Server 2003 が稼働していること。

#### 注意

Windows XP については、リモート インストールがサポートできるよう設定を行うことが必要な場合もあります。詳細については HP OpenView の Web サイトを参照してください。

- HP-XU の場合、リモート コンピュータでは、HP-XU オペレーティング システムのバージョン 10.20 以上、および PA Risc CPU が稼働していること。
- Solaris の場合、リモート コンピュータでは、Solaris オペレーティング システムのバージョン 2.5.1 以上、および SPARC CPU が稼働していること。
- Radia 製品のインストール ファイルは、Radia Integration Server の **¥media** ディレクトリに格納すること。これらのファイルは、Radia Management Portal のインストール プログラムにより自動的にコピーされます。詳細については、31 ページの「インストールの手順」を参照してください。



インストールプログラムを使用しなかった場合は、これらのファイルを CD-ROM から Radia Integration Server の %media ディレクトリに手動でコピーする必要があります。また、%media ディレクトリの構成は、CD-ROM のディレクトリ構成と全く同一にする必要があります。



図 5.20 ~ %media ディレクトリの中にある extended\_infrastructure のディレクトリ構成

---

- ネットワーク全体に送信されるファイルの一覧が記載されているパッキング リストは、インストール ファイルと同じディレクトリに格納すること。パッキング リストは、リモート インストールを開始すると同時に、Radia Management Portal により作成されます。

次に、Radia Management Portal を使用してリモート インストールを実行する具体的な手順を、それぞれの場合について説明します。

## Radia 管理エージェントをインストールする

Radia Management Portal を使用すると、Radia インフラストラクチャに対して [オペレーション] タスクおよび [管理] タスクを実行することができます。ただし Radia Management Portal では、これらのタスクが常にリモートで実行できるとは限りません。そのため、リモート デバイスにインストールされた Radia 管理エージェントが、Radia Management Portal の代わりにこれらのタスクを実行します。Radia 管理エージェントは最低限の代理機能しか持たないため、単独でタスクを実行することはできません。

Radia Management Portal を使用して Radia 管理サービスまたはアプリケーションをインストールする場合は、同じデバイス上に Radia 管理エージェントが自動的にインストールされます。[管理エージェントのインストール] タスクを使用すると、Radia 管理エージェントをリモート デバイスにインストール (場合によっては再インストール) することが可能です。さらに Radia Management Portal に登録することで、リモート インストールなど、Radia Management Portal で開始されるタスクが Radia 管理エージェントにより実行されるようになります。

Radia 管理エージェントは、Windows NT、Windows 2000、Windows XP、Windows Server 2003 の各システムの Windows サービスとしてインストールされます。また、Radia Management Portal に定期的なアクセスを行うことで常に認識されるよう設定することができます。Radia 管理エージェントが Radia Management Portal への通知を行うのは、システムのシャットダウンや再起動など、通常のオペレーションが実行される場合です。

以下に示すのは、Radia 管理エージェントが Windows NT、Windows 2000、Windows XP、Windows Server 2003 の各システム上で Radia Management Portal に代わって処理できるタスクの一例です。

- サービスの開始または停止。
- リモート インストールの実行。
- 通知デーモン、Radia Client Scheduler、Radia Configuration Service、Radia Integration Service およびサブサービスなど、デバイス上で現在実行中の全 Radia サービスの探索。
- デバイス上の Radia 管理対象サービスの探索。
- サービス パック レベルなど、デバイスのハードウェアおよびオペレーティング システムに関する詳細情報の探索。

### Radia 管理エージェントで検出されたデバイス情報を表示する

Radia 管理エージェントにより収集される情報はさまざまですが、たとえば Radia Configuration Server をホストするコンピュータのデバイス プロパティはその 1 つです。また [Zone] の [Cross References] コンテナで自動的に生成され管理されるグループは、Radia 管理エージェントにより収集された情報を基に作成されます。

### Radia 管理エージェントへのポート割り当ての方法 (ダイナミックまたはスタティック) を選択する


Radia 管理エージェントをインストールするためのすべてのタスクにおいて、Radia Management Portal と Radia 管理エージェントの間の通信に、ダイナミックに割り当てられた IP アドレスおよびポートを使用するか、スタティックなポートを使用するかを指定することができます。

- Radia 管理エージェントに対してダイナミックなポート割り当てを使用すると、ウェルノウン ポートに対するセキュティ アタックの危険度が低減します。
- Radia 管理エージェントに対するスタティックなポート割り当ては、ファイアウォールの内側にあるエージェントと通信する場合に有効です

### Radia 管理エージェントの再インストール オプションを修正する

より新しいバージョンが配布できるよう、[管理エージェントのインストール] タスクには、Radia 管理エージェントの再インストールを強制的に行うようにするオプションが用意されています。デフォルトでは、このオプションはオンになっています。このオプションを確認する場合、またはオフにする場合は、[管理エージェント インストール オプションを修正] ダイアログ ボックスにアクセスします。

#### [Radia 管理エージェントのインストール] タスク オプションを設定するには

1. [Directory]、[Zone]、[Configuration]、[Tasks] の順に移動します。
2. ワークスペースから、次のページに進み 、[管理エージェントのインストール] をクリックします。
3. [管理エージェント オプションのインストール] をクリックします。

4. [モデル管理] タスク グループの [修正] をクリックします。  
[管理エージェント インストール オプションを修正] ダイアログ ボックスが表示されます。



図 5.21 ~ Radia 管理エージェントを強制的に再インストールするためのタスク オプションの修正

5. [RMA を強制的に再インストール] プロパティの目的のオプションをクリックします。[オン] に設定すると、RMA.TKD の新しいバージョンを、既存の RMA.TKD を持つマシンに配布することができます。[オフ] に設定すると、[管理エージェントのインストール] タスクを実行しても、既存の RMA.TKD を持つマシンの Radia 管理エージェントは更新されません。

## Radia 管理エージェントのインストール手順

### Radia 管理エージェントをインストールするには


#### 警告

この手順を実行する際は必ず、事前に 304 ページの「リモート インストールの要件」をお読みください。

1. ナビゲーション支援を使用して、Radia 管理エージェントをインストールするインフラストラクチャ内のロケーションを選択します。

#### 注意

[管理エージェントのインストール] タスクのオーディエンス (ターゲット) として、デバイス グループを選択することが可能です。デバイス グループを選択した場合、[クエリ] ダイアログ ボックスは表示されません。

2. [オペレーション] タスク グループの [管理エージェントのインストール] をクリックします。  
[クエリ] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. 条件を指定して、ジョブの実行対象を制限します。
4. [次へ] をクリックします。  
[選択] ダイアログ ボックスが表示されます。
5. [使用可能] の一覧からオーディエンスを選択し、 をクリックしてそれを [選択済み] の一覧に追加します。

6. [次へ] をクリックします。

[管理エージェントのインストール] の [インストール オプション] ダイアログ ボックスが表示されます。

## 管理エージェントのインストール



1 クエリ — 2 選択 — 3 インストールオプション — 4 スケジュール — 5 要約

**属性**

クライアントポートの選択  ダイナミック  スタティック

ユーザー Administrator

ユーザー パスワード

1項目が選択されています

次へ 戻る キャンセル

図 5.22 ~ [管理エージェントのインストール] の リモート オプション ダイアログ ボックス

Windows サービスをリモート デバイスにインストールする際は、ターゲット デバイスのドメインで管理者権限を取得することが必要になる場合があります。アクセスに必要なユーザー名とパスワードは、このダイアログ ボックスで入力します。

### 注意

Radia 管理エージェントを Radia Management Portal と同じコンピュータにインストールする場合は、[ユーザー] ボックスから [管理者] を削除してください。

7. [クライアント ポートの選択] のラジオ ボタンを使用して、**Radia Management Portal** と **Radia** 管理エージェントの間の通信に、ダイナミックに割り当てられたポート番号とスタティックなポート番号のどちらを使用するかを指定することができます。
  - ダイナミックなポート割り当てを使用すると、ウェルノウン ポートに対するセキュティアタックの危険度が低減します。
  - スタティックなポート割り当ては、ファイアウォールの内側にあるエージェントと通信する場合に有効です
8. [クライアント ポートの選択] で [スタティック] を選択した場合は、[ポート番号] ボックスにポート番号を入力します。
9. [ユーザー] ボックスに、ターゲット デバイスのドメインで管理者権限を取得するための管理者 ID を入力します。
10. [ユーザー パスワード] ボックスに、ターゲット デバイスのドメインで管理者権限を取得するための管理者パスワードを入力します。

パスワードを入力しないと、管理者権限が必要な場合に、ジョブが正常に実行されないことがあります。具体的な情報については、ジョブ ステータスを確認してください。
11. [次へ] をクリックします。

[スケジュール] ダイアログ ボックスが表示されます。
12. [スケジュール] ダイアログ ボックスで、このジョブをいつ実行するかを指定します。

13. [次へ] をクリックします。



[管理エージェントのインストール] の [要約] ダイアログ ボックスが表示されます。







図 5.23 ~ [管理エージェントのインストール] の [要約] ダイアログ ボックス

14. [サブミット] をクリックします。

[ジョブのステータス] ページが開き、そこにジョブの一覧が表示されます。このウィンドウは、60 秒間隔で自動的にリフレッシュされます。

-  をクリックすると、ジョブ ツリーまたはディレクトリ ツリーの中で 1 つ上のレベルに移動できます。たとえば、ジョブの詳細を表示した後でこのアイコンをクリックすると、ジョブ グループの概要を示す画面に戻ることができます。
-  をクリックすると、ウィンドウをリフレッシュして最新のステータスを表示することができます。

-  をクリックすると、ジョブまたはジョブ グループのプロパティの詳細を表示することができます。これにより、ジョブ ステータスの詳細情報を確認することができます。
-  をクリックすると、ジョブのショートカットをデスクトップに追加することができます。
-  をクリックすると、[ジョブのステータス] ページの印刷可能なビューを表示することができます。

15. ジョブ ステータスを確認したら、 をクリックして [ジョブのステータス] ページを閉じ、Radia Management Portal に戻ります。

以降では、リモート コンピュータにインストールされている Radia 管理エージェント (RMA) サービスの具体的な例について説明します。また、リモート コンピュータにインストールされている Radia Integration Server (RIS) のサブサービスが RMA により検出、登録されることについても説明します。

Radia Management Portal では、Radia 管理エージェントにより検出された情報を基に、[Zone] の [Cross References] コンテナに属する適切なグループにデバイスが追加されます。



図 5.24 ~ インストールされた Radia 管理エージェント

Radia 管理エージェント がリモート デバイスに追加され、サービスが開始されると、その RMA がインストールされたディレクトリにログ (rma.log) が作成されます。RMA は、*SystemDrive:* ¥Novadigm¥ManagementAgent にインストールされます。

## Radia 管理エージェントをリフレッシュする

リモート コンピュータにインストールされている Radia Integration Server (RIS) のサブサービスは、インストールされている Radia 管理エージェントにより検出、登録されます。最後に行われた Radia 管理エージェントによる検出の後で、新たな RIS のサブサービスがリモート コンピュータに追加された場合は、[オペレーション] タスク グループの [管理エージェントのリフレッシュ] タスクを使用すれば、Radia Management Portal に登録されたサブサービスを直ちに更新することができます。

また [管理エージェントのリフレッシュ] タスクを使って、登録後にアンインストールされたサービスの登録を削除することもできます。たとえば、登録済みの Radia Client がコンピュータから削除された場合、[管理エージェントのリフレッシュ] タスクを実行すれば、Radia 通知 デーモンや Radia 스케ジューラ デーモンなど、そのマシンのクライアントに関連するサービスが、Radia Management Portal のレジストリから削除されます。



## Radia 管理エージェントによるサブサービスの検出結果をリフレッシュするには

1. ナビゲーション支援で、Radia 管理エージェントによるサービスの検出結果をリフレッシュする必要があるデバイス オブジェクトに移動します。

### 注意

移動するのはデバイス オブジェクトまでで、Radia 管理エージェントに移動する必要はありません。

2. [オペレーション] タスク グループの [管理エージェントのリフレッシュ] をクリックします。



をクリックして、Radia Management Portal のワークスペース領域に表示されている情報をリフレッシュします。そのオブジェクトに対して、現時点で登録されている Radia サービスおよびサブサービスが表示されます。

## Radia Client をインストールする

[Radia Client のインストール] タスクを使用すると、Radia Client をリモート デバイスにインストールすることができます。Radia Client インストール プログラムでは、Windows インストーラの Microsoft MSI フォーマットを使用します。このプログラムは、5 つの機能セット (Radia Application Manager、Radia Software Manager、Radia Inventory Manager、Radia OS Manager、および Radia Patch Manager の各機能セット) を含む 1 つの MSI パッケージで構成されます。

### 注意

複数の Radia Client をまとめて配布する際、Radia Management Portal から直接配布せず、事前に割り当てられている Radia Proxy Server から配布する場合は、**[Radia Client のインストール]** タスクの前に **[Proxy Server の割り当て]** タスクを実行してください。このオプションにより、クライアントの配布作業の一部または全部を、インフラストラクチャ内の既存の Radia Proxy Server で処理することが可能になり、Radia Management Portal でそのすべてを処理する必要はなくなります。詳細については、322 ページの「*Proxy Server を割り当てる*」を参照してください。

Radia Management Portal では、複数のクライアント プロファイルを使用することができます。詳細については、317 ページの「*複数のプロファイルを使用したリモート インストールのサポート*」を参照してください。

## Radia Management Portal を使用して Radia 4.x クライアントをインストールするには

### 警告


この手順を実行する際は必ず、事前に 304 ページの「リモート インストールの要件」をお読みください。

インストールに関するシステム要件やカスタマイズ オプションなど、詳細な情報については、HP OpenView の Web サイトの『Radia Application Manager for Windows ガイド』または『Radia Software Manager for Windows ガイド』を参照してください。

1. ナビゲーション支援を使用して、Radia Client をインストールするデバイスまたはデバイス グループを選択します。

### 注意

**[Radia Client のインストール]** タスクのオーディエンス (ターゲット) として、デバイス グループを選択することが可能です。デバイス グループを選択した場合、**[クエリ]** ダイアログ ボックスは表示されません。

2. **[オペレーション]** タスク グループの **[Radia Client のインストール]** をクリックします。  
**[クエリ]** ダイアログ ボックスが表示されます。
3. 条件を指定して、ジョブの実行対象を制限します。詳細については、284 ページの「クエリを実行する」を参照してください。
4. **[次へ]** をクリックします。  
**[選択]** ダイアログ ボックスが表示されます。
5. **[使用可能]** の一覧からオーディエンスを選択し、 をクリックしてそれを **[選択済み]** の一覧に追加します。詳細については、286 ページの「オーディエンスの選択」を参照してください。

6. [次へ] をクリックします。  
[クライアントのインストール] の [クライアント オプション] ダイアログ ボックスが表示されます。

## クライアントのインストール

1 クエリ 2 選択 3 クライアントオプション 4 スケジュール 5 要約

プロファイルおよび初期化ファイル

プロファイル: Default Client Install

初期化ファイル: Install.ini

製品

Application Manager:

Software Manager:

Inventory Manager:

OS Manager:

Patch Manager:

サーバー 管理:

インストール オプション

RCS ホスト名:

RCS ポート番号:

サイレント インストールを実行しますか?:

インストール後に接続を実行しますか?:

リモート クライアントの資格

クライアント ポートの選択:  ダイナミック  スタティック

ユーザー: Administrator

ユーザー パスワード:

次へ 戻る キャンセル

図 5.25 ~ [クライアントのインストール] の [クライアント オプション] ダイアログ ボックス

7. **[プロファイル]** ボックスの一覧から、インストールに使用するクライアント プロファイルを選択します。クライアント プロファイルの作成に関する詳細については、317 ページの「インストール プロファイルの追加、修正、および削除を行う」を参照してください。
8. **[初期化ファイル]** の一覧から、適切なインストール INI ファイルを選択します。このファイルには、Radia Configuration Server の IP アドレスなど、Radia Client を実行する際に必要となるパラメータが格納されています。  
Radia Management Portal では、カスタマイズされた \*.INI ファイルに格納されている設定に基づいて、クライアントのインストールが行われます。
9. **[製品]** 領域で、ターゲット デバイスにインストールするクライアントを選択します。

**警告**

Radia Client は、ライセンスがあるもののみインストールしてください。ライセンスがない Radia Client は、インストールしても Radia Configuration Server で認証されません。

10. **[RCS ホスト名]** ボックスに、Radia Client が Radia Configuration Server へのアクセスに使用する IP アドレスまたはホスト名を入力します。
11. **[RCS ホスト名]** ボックスに、Radia Client が Radia Configuration Server へのアクセスに使用するポート番号を入力します。
12. ユーザー インターフェイスを介さずにクライアントをインストールする場合は、**[サイレントインストールを実行しますか?]** チェック ボックスをオンにします。
13. インストール後のクライアント コンピュータを Radia Configuration Server に接続する場合は、**[インストール後に接続を実行しますか?]** チェック ボックスをオンにします。これにより、クライアント コンピュータが Radia Configuration Server に登録されます。詳細については、『Radia Application Manager ガイド』を参照してください。  
クライアント コンピュータが Radia Configuration Server に接続されると、Radia Management Portal では、サブスクリイバに関する情報が収集され、Radia Management Portal ディレクトリに格納されます。詳細については、324 ページの「Radia サブスクリイバ情報を検出する」を参照してください。
14. **[クライアント ポートの選択]** のラジオ ボタンを使用して、クライアント上の Radia 管理エージェントとの通信に、ダイナミックなポート番号とスタティックなポート番号のどちらを使用するかを指定します。
  - ダイナミックなポート割り当てを使用すると、ウェルノウン ポートに対するセキュィ アタックの危険度が低減します。
  - スタティックなポート割り当ては、ファイアウォールの内側にあるエージェントと通信する場合に有効です
15. クライアント ポートのタイプで**[スタティック]** を選択した場合は、**[ポート番号]** ボックスにポート番号を入力します。

16. [ユーザー] ボックスに、ターゲット デバイスのドメインで管理者権限を取得するための管理者 ID を入力します。
17. [ユーザー パスワード] ボックスに、ターゲット デバイスのドメインで管理者権限を取得するための管理者パスワードを入力します。  
パスワードを入力しないと、管理者権限が必要な場合に、ジョブが正常に実行されないことがあります。具体的な情報については、ジョブ ステータスを確認してください。
18. [次へ] をクリックします。  
[スケジュール] ダイアログ ボックスが表示されます。
19. [スケジュール] ダイアログ ボックスで、このジョブをいつ実行するかを指定します。詳細については、287 ページの「ジョブをスケジュールする」を参照してください。
20. [次へ] をクリックします。  
[クライアントのインストール] の [要約] ダイアログ ボックスが表示されます。
21. [サブミット] をクリックします。  
[ジョブのステータス] ページが開き、そこにジョブの一覧が表示されます。このページは、60 秒間隔で自動的にリフレッシュされます。

## 複数のプロファイルを使用したリモート インストールのサポート

このバージョンでは、複数のバージョンの Radia Client を Radia Management Portal からリモートでインストールすることができます。たとえば、一部のコンピュータには Radia 4.x クライアントをインストールしながら、それとは異なる一部のコンピュータには Radia 3.x クライアントをインストールすることも可能です。また、インストールされているクライアント パッケージのサイズを最小化し、必須の Microsoft .NET コードの代わりとなるクライアント コードセットを作成することもできます (ただし、必須の .NET が既にインストールされているマシンの場合)。

## インストール プロファイルの追加、修正、および削除を行う

[モデル管理] タスク グループの [インストール プロファイルの追加] タスクを使用すると、クライアントのインストールに使用するプロファイルを新たに追加することができます。このプロファイルには、Radia Management Portal に用意されているデフォルトの送信元コードとは別の、製品用の送信元 コードが指定されます。

ここでは、クライアント インストール プロファイルに指定する送信元コードが格納されているロケーションと、クライアント インストール プロファイルの追加、修正、および削除の方法について説明します。

## クライアント インストール プロファイル - 送信元コードの格納ロケーション

送信元コードは、以下のロケーションに格納される必要があります。

- Client Installs: <RIS>%media%client%<profile>%<OS>

意味:

<RIS> は Radia Integration Server のロケーション。

<profile> はインストール プロファイルのフォルダ名。

<OS> はオペレーティング システムのフォルダ名。Windows の場合、<OS> は **Win32** です。

製品の送信元コードは、<OS> フォルダに格納される必要があります。<OS> フォルダには、\*.ini ファイルを複数格納することもできます。

### クライアント インストール プロファイルを追加するには

1. Radia Management Portal の以下のロケーションに移動します。




図 5.26 ~ クライアント インストール プロファイルの追加のロケーション

---

2. [モデル管理] タスク グループの [インストール プロファイルの追加] をクリックします。  
[インストール プロファイルを追加] ウィンドウが開きます。

## インストール プロファイル を追加



プロパティ

共通名

表示名

説明

製品のロケーション

追加 キャンセル

図 5.27 ~ クライアント インストール プロファイルのエントリのサンプル

3. 以下の説明に従って、[インストール プロファイルを追加] の [プロパティ] の各エントリに必要な情報を入力します。

**[共通名]** RMP のクライアント インストール プロファイル オブジェクトに対する一意の名前。

**[表示名]** RMP のクライアント インストール プロファイルに対する表示名。

**[説明]** このプロファイルに指定された送信元コードの詳細説明。

**[製品のロケーション]** ベース ディレクトリ (RMP /**media/client**) 内の、送信元コードが格納されているディレクトリ。ディレクトリの区切りにはスラッシュを使用します。  
たとえば、/client/**nodotnet** のように入力します。

Win32 など、サポートされている各オペレーティング システム用のディレクトリは、**[製品のロケーション]** で指定したフォルダの下位に表示されます。クライアントの送信元コードは、これらオペレーティング システム用のフォルダに格納されます。

4. [追加] をクリックします。

クライアント インストール プロファイルの [プロパティ] ページが表示されます。ナビゲーション領域に、このクライアント インストール プロファイルのエントリが新たに追加されます。

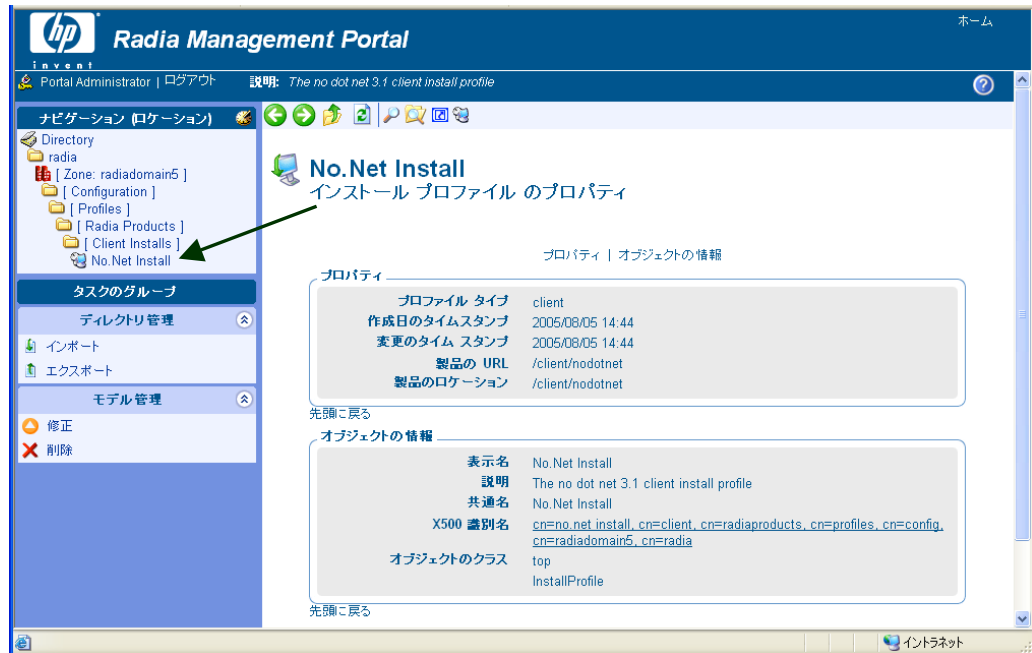


図 5.28 ~ クライアント インストール プロファイルのプロパティのサンプル

5. これで、Radia Management Portal から [クライアントのインストール] タスクを実行する際、[オプション] ページでこのプロファイルを選択することができます。



## クライアントインストール プロファイルを修正するには

1. クライアントのインストールに使用するプロファイルが格納されているロケーション (下図参照) に移動します。



図 5.29 ~ クライアント インストール プロファイルのロケーション

2. 修正するインストール プロファイル オブジェクトをクリックします。デフォルトのクライアントインストール オブジェクトは修正できません。
3. [モデル管理] タスク グループの [修正] をクリックします。[インストール プロファイルを修正] ページが表示されます。
4. 各フィールドの内容を適宜修正して、[修正] をクリックします。

## インストール プロファイルを修正

プロパティ	
表示名	<input type="text" value="No .Net Install"/>
説明	<input type="text"/>
製品のロケーション	<input type="text" value="/client/"/>

図 5.30 ~ [インストール プロファイルを修正] ダイアログ ボックス

5. [プロパティ] ページが開き、修正後の内容が表示されます。

## クライアントインストール プロファイルを削除するには

削除したインストール プロファイルは、RMP から **[Radia Client のインストール]** タスクを実行する際、**[オプション]** ページで選択できなくなります。ただしこれにより、**[製品のロケーション]** から送信元コードが削除されることはありません。

1. **[Radia Client のインストール]** コンテナに移動し、削除するプロファイルをクリックします。  
インストール プロファイルの **[プロパティ]** ページが表示されます。
2. **[モデル管理]** タスク グループの **[削除]** をクリックします。  
削除を確認するメッセージが表示されます。
3. 緑色のチェック マークをクリックして、削除を実行します。  
**[Radia Client のインストール]** コンテナから、プロファイル オブジェクトが削除されます。

## Proxy Server を割り当てる

**[Proxy Server の割り当て]** タスクを使用すると、指定したデバイスに使用するクライアント インストール スクリプトを配布する際、インフラストラクチャの中からその処理を行う Radia Proxy Server を指定することができます。

複数のデバイスをまとめて 1 つの Radia Proxy Server に割り当てるには、まずそれらのデバイスすべてからなるグループを **[Groups]** コンテナ内に作成します。ただし、それぞれの Radia Proxy Server で管理されているデバイスごとに、別々のグループを作成します。デバイスのグループを作成する方法の詳細については、317 ページの「新しいグループにデバイスを追加する」を参照してください。次に **[Proxy Server の割り当て]** タスクを使用して、グループのメンバーすべてに Radia Proxy Server を割り当てます。さらに、Radia Proxy Server ごとに **[Proxy Server の割り当て]** タスクを繰り返し実行して、ノードの割り当てを行います。

すべての Radia Proxy Server に対する割り当てが完了したら、**[Radia Client のインストール]** タスクを使用して、クライアントのインストールをスケジュールします。クライアントのインストールがスケジュールされたデバイスが既に Radia Proxy Server に割り当てられている場合は、まず Radia Management Portal がその Radia Proxy Server と同期し、その上で Radia Proxy Server が、デバイスに対するクライアントのインストールを最後まで実行します。

プロキシの割り当てを変更または解除する場合は、まずグループのメンバーを変更してから、Radia Proxy Server にノードを割り当てる場合と同じように **[Proxy Server の割り当て]** タスクを繰り返し実行します。

## プロキシの割り当てを管理するための要件

- 事前に Radia Proxy Server が少なくとも 1 つインストールされていること。
- 各 Radia Proxy Server に対して Radia 管理エージェントがインストールされ、かつその Radia 管理エージェントにより Radia Proxy Server サービスが正常に検出されていること。

これらの要件が満たされている場合は、RMA が検出した Radia Proxy Server が含まれるデバイスに移動すると、Radia Management Portal のワークスペースに Radia Proxy Server アイコンが表示されます。

下の「[図 5.31](#) ~ DOCTEST 上の Radia 管理エージェントにより検出された Radia Proxy Server」には具体例として、DOCTEST というコンピュータ上の Radia 管理エージェントによりインストールおよび検出された Radia Proxy Server が示されています。Radia Proxy Server が含まれる RMP ゾーンにデバイスが複数存在する場合は、そのすべてが **[Zone Cross References]** コンテナに表示されます。**[Infrastructure Services]** グループに移動し、**[Radia Proxy Server]** をクリックします。Radia 管理エージェントおよび Radia Proxy Server がインストールされているすべてのデバイスは、自動的にこの **[Cross References]** グループへ追加されます。



図 5.31 ~ DOCTEST 上の Radia 管理エージェントにより検出された Radia Proxy Server

## Radia Proxy Server にデバイスを割り当てるには

1. **[Groups]** コンテナに、デバイス グループを作成します。ある共通の **Radia Proxy Server** に割り当てられているデバイスをすべて新しいグループに移動します。詳細については、317 ページの「**新しいグループにデバイスを追加する**」を参照してください。
2. **ナビゲーション支援** を使用して、プロキシの割り当てに用いるその新しいグループを選択します。
3. **[オペレーション]** タスク グループの **[Proxy Server の割り当て]** をクリックします。  
**[Proxy Server の割り当て]** の **[プロキシの選択]** ダイアログ ボックスが表示されます。
4. 選択したグループのメンバーであるデバイスに対してクライアントの配布を行うプロキシ サーバーを一覧から選択します。
5. **[次へ]** をクリックします。  
**[Proxy Server の割り当て]** の **[要約]** ダイアログ ボックスが表示されます。
6. **[サブミット]** をクリックして、プロキシに関するノードの割り当てを、選択したサーバーに保存します。
7. プロキシの割り当てがすべて完了したら、**Radia Management Portal** の **[オペレーション]** タスクグループから **[Radia Client のインストール]** タスクを実行します。313 ページの「**Radia Client をインストールする**」を参照してください。プロキシに割り当てられたノードが **[Radia Client のインストール]** タスクで選択されると、**Radia Management Portal** ではなく、**Radia Proxy Server** によってクライアント スクリプトの配布が実行されます。

## Radia サブスクライバ情報を検出する

サブスクライバに関する情報は、**Radia Management Portal** によって収集され **Radia Management Portal** ディレクトリに格納されます。**[Cross References]** コンテナには、**[Managed Services]** というグループが存在します。このサブスクライバに関する情報を基にして、サブスクライバへの **Radia** 管理対象サービスごとに、グループが自動的に作成されます。

**Radia Client** コンピュータが **Radia Configuration Server** に接続すると、**Radia Management Portal** では、**ZCONFIG**、**ZMASTER**、**APPEVENT**、および **ZSTATUS** の各オブジェクトの **Radia** データベースから情報が収集されます。これらの各オブジェクトに関する詳細については **HP OpenView** の **Web** サイトを参照してください。

クライアント デバイスにアクセスする場合は、**ナビゲーション支援** を使用します。収集された情報は、オブジェクトの下位にあるコンテナに格納されます。

以下の例では、**Radia Client** がインストールされているのは、**DOCTEST** というリモートクライアント コンピュータです。またサンプル アプリケーションが、**Radia** を介してクライアント コンピュータにインストールされています。

### Radia サブスクリバ情報を表示するには

1. [Zone]、[Cross References] コンテナの順に移動します。
2. [Managed Services] をクリックします。

[Managed Services] コンテナには、Radia Configuration Server から Radia 管理対象アプリケーションがレポートされたデバイス グループが存在します。

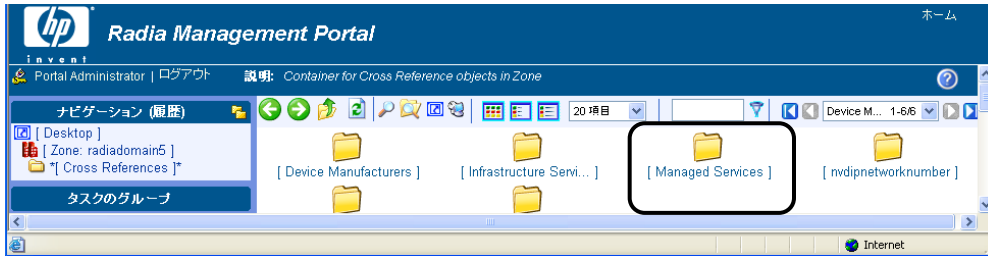


図 5.32 ~ [Zone] の [Cross References] コンテナに含まれる [Managed Services] コンテナ

3. ワークスペースで [Radia Subscribers] をクリックします。複数のコンテナが表示されます。各コンテナは、選択したコンピュータから Radia Configuration Server へ接続しているサブスクリバを表しています。

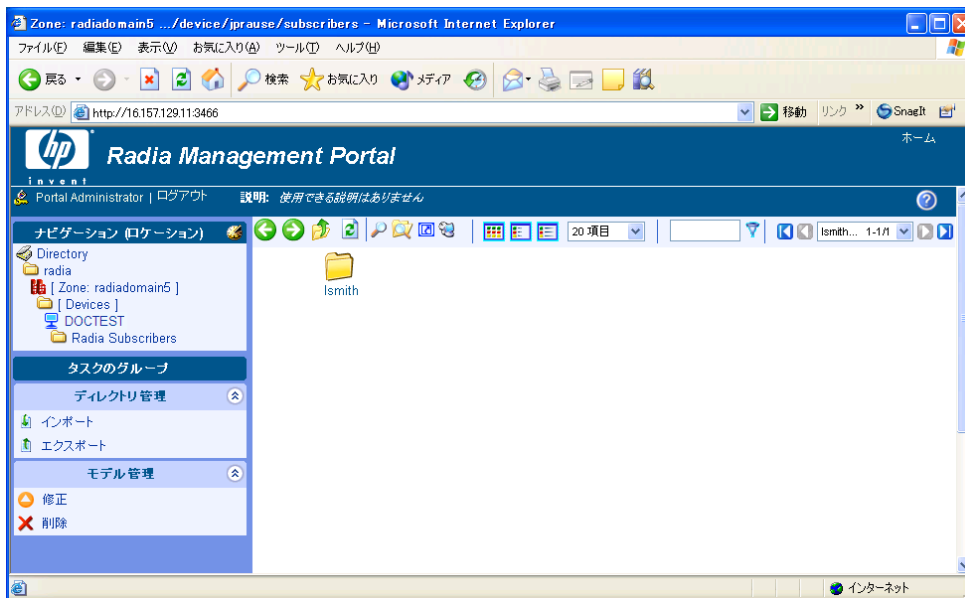


図 5.33 ~ Radia Configuration Server へ接続したサブスクリバの一覧

- ワークスペースで、情報を表示するサブスライバの名前 ([**管理者**] など) をクリックします。そのサブスライバによりインストールされたアプリケーションがまだ存在しない場合は、ワークスペースにウィンドウが開き、クライアントの **Radia Configuration Server** への接続に関する概要が表示されます。

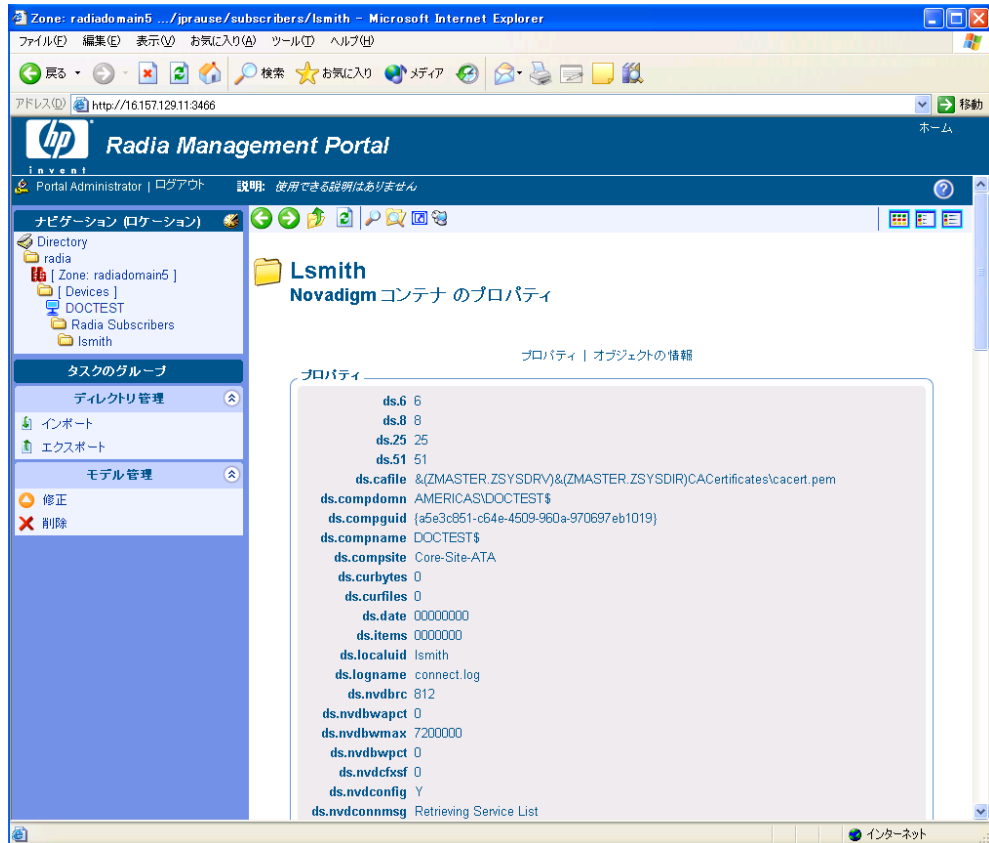


図 5.34 ~ [プロパティのコンテナの一覧] ウィンドウ

一方、サブスクライバ(ここでは **lsmith**) により **Radia** からインストールされたアプリケーションが少なくとも 1 つ存在する場合は、コンテナがワークスペースに表示されます。

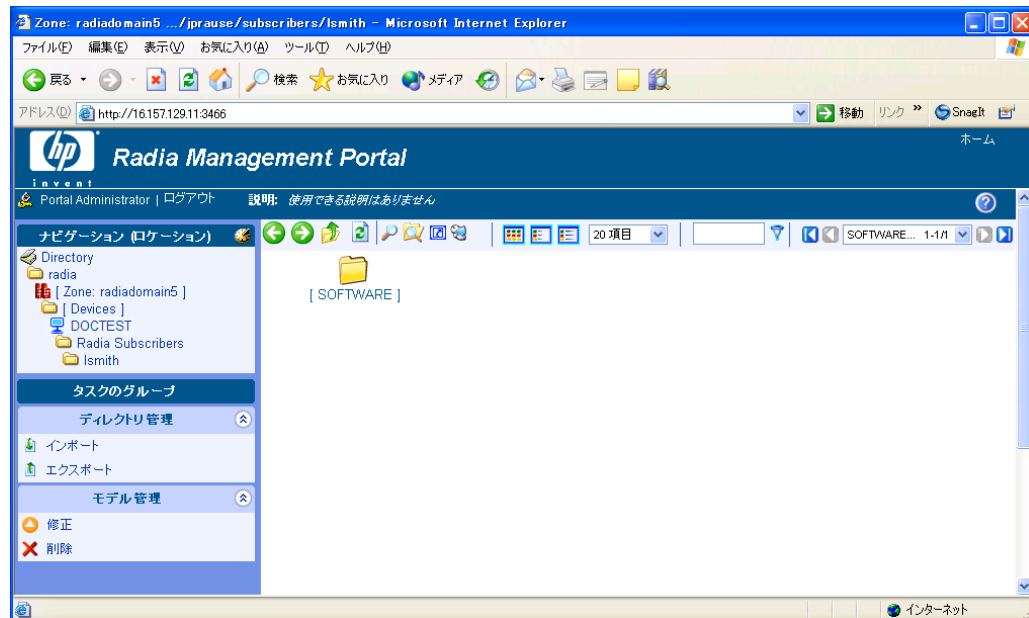


図 5.35 ~ [SOFTWARE] コンテナ

5. ワークスペースで **[SOFTWARE]** をクリックします。  
インストール済みサービスの一覧が表示されます。

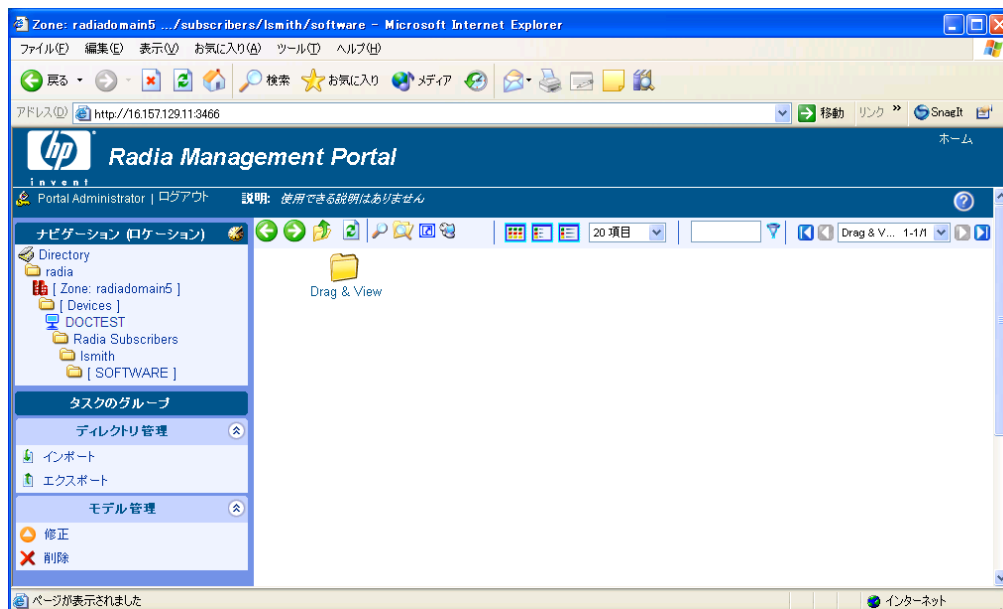


図 5.36 ~ Radia 管理対象サービスの一覧



6. ワークスペースでサービスをクリックして、詳細な情報を表示します。下の図は、サブスクライバ **lsmith** によって、コンピュータ **DOCTEST** に **Drag & View** というアプリケーションが正常にインストールされていることを示したものです。

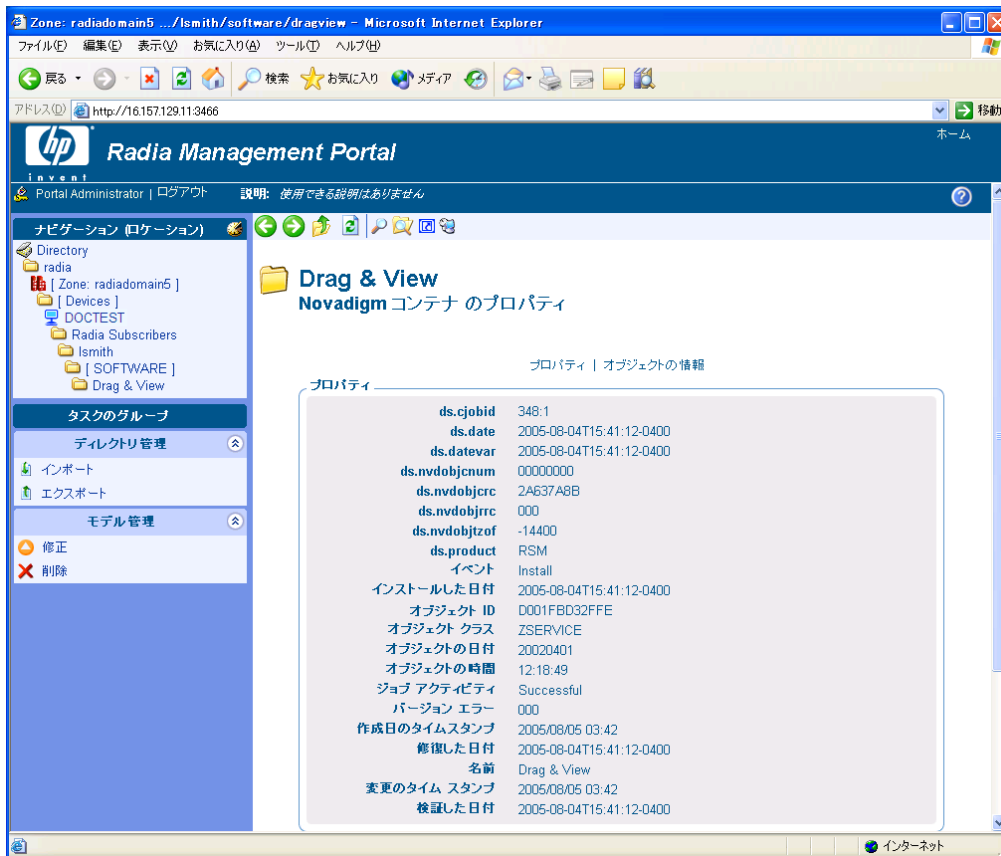


図 5.37 ~ [プロパティのサービスの一覧] ウィンドウ

## Radia Proxy Server をインストールする

[Proxy Server のインストール] タスクを使用すると、Radia Proxy Server をリモート デバイスにインストールすることができます。インストールを行う際はステータス情報が収集され、インストールが正常に行われなかった場合は、再スケジュールすることができます。[Proxy Server のインストール] タスクでは、CFG ファイルが複数存在する場合、いずれか 1 つを選択するように指示するメッセージが表示されます。

詳細については、『Radia Proxy Server Guide』を参照してください。

また、このタスク用にカスタマイズされた CFG ファイルの準備方法と格納場所に関する詳細については、334 ページの「Radia Proxy Server のインストールに使用する設定 ファイルを準備して格納する」を参照してください。

### Radia Proxy Server をインストールするには

#### 警告


この手順を実行する際は必ず、事前に 304 ページの「リモート インストールの要件」をお読みください。

このトピックに関する最新情報については、HP OpenView の Web サイトも合わせて参照してください。

1. ナビゲーション支援を使用して、Radia Proxy Server をインストールするインフラストラクチャ内のロケーションを選択します。

#### 注意

[Proxy Server のインストール] タスクのオーディエンス (ターゲット) として、デバイス グループを選択することが可能です。デバイス グループを選択した場合、[クエリ] ダイアログ ボックスは表示されません。

2. [オペレーション] タスク グループから [Proxy Server のインストール] をクリックします。  
[クエリ] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. 条件を指定して、ジョブの実行対象を制限します。詳細については、284 ページの「クエリを実行する」を参照してください。
4. [次へ] をクリックします。  
[選択] ダイアログ ボックスが表示されます。
5. [使用可能] の一覧からオーディエンスを選択し、 をクリックしてそれを [選択済み] の一覧に追加します。詳細については、286 ページの「オーディエンスの選択」を参照してください。

6. [次へ] をクリックします。  
 [Proxy Server のインストール] の [RPS オプション] ダイアログ ボックスが表示されます。

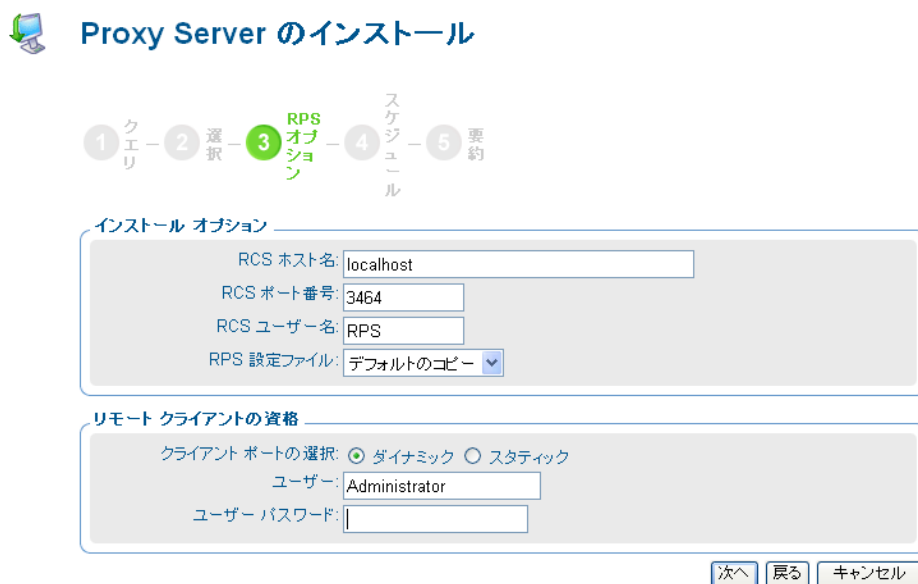


図 5.38 ~ [Proxy Server のインストール] の [インストール オプション] ダイアログ ボックス

7. [RCS ホスト名] ボックスに Radia Configuration Server の名前または IP アドレスを入力します。
8. [RCS ポート番号] ボックスに Radia Configuration Server のポート番号を入力します。
9. [インストール オプション] の [ユーザー] ボックスに、Radia Configuration Server への接続に使用するユーザー ID を入力します。
10. [RPS 設定ファイル] ボックスが有効な場合は、その一覧からインストール作業の中で使用する RPS 設定ファイルを選択します。このフィールドが表示されるのは、カスタマイズされた設定ファイルが Radia Management Portal に存在する場合のみです。

#### 注意

このタスクにおいて、カスタマイズされた Radia Configuration Server 設定ファイルが選択できるようにする方法については、334 ページの「Radia Proxy Server のインストールに使用する設定 ファイルを準備して格納する」を参照してください。

- 11.** [リモートクライアントの資格] の [ユーザー] ボックスに、ターゲット デバイスのドメインで管理者権限を取得するための管理者 ID を入力します。

#### ヒント

[Radia Proxy Server のインストール] タスクが持つ利点を生かすためにも、ネットワーク内の各ドメインに共通な標準管理者 ID を作成することをお勧めします。

- 12.** [ユーザー パスワード] ボックスに、ターゲット デバイスのドメインで管理者権限を取得するための管理者パスワードを入力します。
- パスワードを入力しないと、管理者権限が必要な場合に、ジョブが正常に実行されないことがあります。具体的な情報については、ジョブ ステータスを確認してください。
- 13.** [次へ] をクリックします。
- [スケジュール] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 14.** [スケジュール] ダイアログ ボックスで、このジョブをいつ実行するかを指定します。詳細については、287 ページの「ジョブをスケジュールする」を参照してください。

15. [次へ] をクリックします。

[Proxy Server のインストール] の [要約] ダイアログ ボックスが表示されます。








図 5.39 ~ [Proxy Server のインストール] の [要約] ダイアログ ボックス


16. [サブミット] をクリックします。

[ジョブのステータス] ページが開き、そこにジョブの一覧が表示されます。このページは、60 秒間隔で自動的にリフレッシュされます。手動でリフレッシュする場合は、**F5** キーを押します。



図 5.40 ~ [ジョブのステータス] ページ

-  をクリックすると、ジョブ ツリーまたはディレクトリ ツリーの中で 1 つ上のレベルに移動できます。たとえば、ジョブの詳細を表示した後でこのアイコンをクリックすると、ジョブ グループの概要を示す画面に戻ることができます。
-  をクリックすると、インストールのステータスをリフレッシュすることができます。
-  をクリックすると、ジョブまたはジョブ グループのプロパティの詳細を表示することができます。これにより、ジョブ ステータスの詳細情報を確認することができます。
-  をクリックすると、ジョブのショートカットをデスクトップに追加することができます。
-  をクリックすると、[ジョブのステータス] ページの印刷可能なビューを表示することができます。

17. ジョブ ステータスを確認したら、 をクリックして [Job Status] ページを閉じ、Radia Management Portal に戻ります。

## Radia Proxy Server のインストールに使用する設定 ファイルを準備して格納する

[Proxy Server のインストール] タスク用に設定された PRS.CFG ファイルを、以下に示す手順に従って準備します。CFG ファイルは、Radia Management Portal で使用できるように、特定のメディア ロケーションに格納する必要があります。Radia Management Portal から実行する [Proxy Server のインストール] タスクでは、CFG ファイルが複数存在する場合、いずれか 1 つを選択するように指示するメッセージが表示されます。ここで、あらかじめに設定されている CFG ファイルを選択すると、インストール済みの Radia Proxy Server が設定された形でインストールされ、稼働できる状態になります。

### [Proxy Server のインストール] タスク用にあらかじめ設定された RPS.CFG ファイルを準備するには

1. 必要な設定が行われた RPS.CFG ファイルを準備します。

目的の Radia Proxy Server と同じプラットフォームを持つテストマシンに対して、Radia Proxy Server のローカルインストールを実行します。『Radia Proxy Server Guide』の「*Configuring the Radia Proxy Server*」に記載されている手順に従って、生成された rps.cfg ファイルを編集します。

2. 設定された rps.cfg ファイルを、決められた Radia Management Portal メディア ディレクトリに格納します。

設定された rps.cfg ファイルを格納するロケーションは、win32、hpux、solaris など、Radia Proxy Server をインストールした先のプラットフォームにより異なります。たとえば、Windows 上に Radia Proxy Server をインストールした場合のロケーションは以下のようになります。

C:¥Novadigm¥IntegrationServer¥media¥extended\_infrastructure¥proxy\_server  
¥win32¥media¥etc

- a. Radia Management Portal がインストールされているディレクトリに移動します。

デフォルトのロケーションは、

**<SystemDrive>:¥Novadigm¥Radia Integration Server**

または

**<SystemDrive>:¥Novadigm¥IntegrationServer**

です。このどちらになるかは、インストールされた時期によって決まります。

- b. Radia Management Portal ディレクトリの以下のフォルダ ロケーションに移動します。  
**¥media¥extended\_infrastructure¥proxy\_server¥<platform>¥media** ただし  
<platform> の部分は、Radia Proxy Server がインストールされた先のプラットフォームに応じて、win32、hpux、solaris のいずれかになります。
  - c. **¥etc** フォルダを **¥media** ディレクトリに追加します。
  - d. rps.cfg ファイルを、プラットフォームごとに作成されるこの **¥media¥etc** フォルダにコピーします。たとえば、Radia Management Portal のインストール フォルダが  
**C:¥Novadigm¥IntegrationServer** の場合、Radia Proxy Server を Windows プラットフォーム上にインストールするのであれば、**C:¥Novadigm¥IntegrationServer¥media¥extended\_infrastructure¥proxy\_server¥win32¥media¥etc** に rps.cfg ファイルを格納します。
3. 通常どおり、Radia Management Portal から [Proxy Server のインストール] タスクを実行します。インストール タスクが実行されている間、設定された rps.cfg ファイルの転送も同時に行われます。

## Radia Proxy Server を同期させる

**[Proxy Server の同期]** タスクを使用すると、Radia Proxy Server を Radia Configuration Server へ強制的に接続し、ファイルを Radia Proxy Server 上のスタティック キャッシュへプレロードすることができます。このタスクは、プロパティに Radia Proxy Server (cn=rps) サービスが含まれるデバイスに対して使用することができます。

- Radia 管理エージェントがインストールされているデバイスでは、**rps** サービスの検出が自動的に行われます。
- Radia 管理エージェントがインストールされていないデバイスでは、Radia Proxy Server のサービスを手動で追加することで、このタスクを有効にすることができます。詳細については、200 ページの「サービスを追加する」および 203 ページの「[図 4.57 ~ Radia Proxy Server のサービスを追加](#)」を参照してください。

Radia Proxy Server に関する詳細については、『Radia Proxy Server Guide』を参照してください。

### 1 つ以上の Radia Proxy Server を同期させるには

1. ナビゲーション支援を使用して、同期させる Radia Proxy Server を選択します (複数可)。
  - 単独の Radia Proxy Server を同期させる場合は、**[Groups]** コンテナまたは **[Devices]** コンテナからデバイスの **[プロパティ]** ページに移動し、Radia Proxy Server のサービスを選択します。
  - 1 つのゾーンの中で Radia 管理エージェントに認識されているすべての Radia Proxy Server をまとめて同期させる場合は、**[Zone]**、**[Cross References]**、**[Infrastructure Services]** コンテナ、**[Radia Proxy Server]** グループの順に移動します。
2. **[オペレーション]** タスク グループの **[Proxy Server の同期]** をクリックします。  
[スケジュール] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. **[スケジュール]** ダイアログ ボックスで、このジョブをいつ実行するかを指定します。詳細については、287 ページの「ジョブをスケジュールする」を参照してください。




4. [次へ] をクリックします。  
[同期のサブミット] の [要約] ダイアログ ボックスが表示されます。



図 5.41 ~ [同期のサブミット] の [要約] ダイアログ ボックス

5. [サブミット] をクリックします。

ジョブの一覧が表示されます。ここで、[プロパティの表示] ツールバー アイコン  をクリックすると、ジョブのステータスなどの詳細な情報が表示されます。

プロキシを同期させるジョブのステータスは、以下のイベントを用いて表されます。

- Radia Proxy Server へのジョブ リクエストの送信。
- Radia Proxy Server と Radia Configuration Server の間でのセッション (Radia Proxy Server 上のスタティック キャッシュヘッファイルをプレロードするためのセッション) の開始。
- ジョブの正常終了。

詳細については、272 ページの「プロパティを表示する」を参照してください。

## Radia Proxy Server のダイナミック キャッシュをパージする

[ダイナミック キャッシュのパージ] タスクを使用すると、Radia Proxy Server のダイナミック キャッシュをパージすることができます。このタスクは、プロパティに Radia Proxy Server (cn=rps) サービスが含まれるデバイスに対して使用できます。

- Radia 管理エージェントがインストールされているデバイスでは、Radia Proxy Server サービスの検出が自動的に行われます。これらのデバイスは、[Zone] の [Cross References] コンテナにある Radia Proxy Server の [Infrastructure Services] グループに自動的に表示されます。
- Radia 管理エージェントがインストールされていないデバイスでは、Radia Proxy Server のサービスを手動で追加することで、このタスクを有効にすることができます。詳細については、200 ページの「サービスを追加する」および 203 ページの「[図 4.57 ~ Radia Proxy Server のサービスを追加](#)」を参照してください。

詳細については、『Radia Proxy Server Guide』を参照してください。

### Radia Proxy Server のダイナミック キャッシュをパージするには

1. ナビゲーション支援を使用して、キャッシュをパージするデバイス上の Radia Proxy Server サービスを選択します。
  - 単独の Radia Proxy Server のダイナミック キャッシュをパージする場合は、[Groups] コンテナまたは [Devices] コンテナからデバイスの [プロパティ] ページに移動し、Radia Proxy Server のサービスを選択します。
  - 1 つのゾーンの中で Radia 管理エージェントに認識されているすべての Radia Proxy Server のダイナミック キャッシュをまとめてパージする場合は、[Zone]、[Cross References]、[Infrastructure Services] コンテナ、[Radia Proxy Server] グループの順に移動します。



図 5.42 ~ デバイスの Radia Proxy Server のロケーションのサンプル

2. [オペレーション] タスク グループの [ダイナミック キャッシュのページ] をクリックします。  
[スケジュール] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. [スケジュール] ダイアログ ボックスで、このジョブをいつ実行するかを指定します。詳細については、287 ページの「ジョブをスケジュールする」を参照してください。
4. [次へ] をクリックします。  
[ページのサブミット] の [要約] ダイアログ ボックスが表示されます。

## ページのサブミット

スケジュール


1 2 要約

スケジュール情報

開始日時:	2005/08/05 16:30:00
継続時間:	0
一定間隔:	0
優先度:	0
タイプ:	なし

サブミット 戻る キャンセル

図 5.43 ~ [ページのサブミット] の [要約] ダイアログ ボックス

5. [サブミット] をクリックします。  
ジョブの一覧が表示されます。ジョブに関する詳細情報やジョブのステータスを表示する場合は、ツールバー上の  をクリックするか、[プロパティの表示] タスクをクリックします。詳細については、272 ページの「プロパティを表示する」を参照してください。

## サービスを管理する




サービスは、**Radia Management Portal** を使って管理することができます。たとえば、リモートデバイス上のサービスを開始/停止を行うことが可能です。

### サービスを管理するには

1. ナビゲーション領域で、管理の対象となるサービスを選択します。  
サービスには、**[Zone]** の **[Devices]** コンテナ、**[Groups]** コンテナ、または **[Cross References]** コンテナ の **[Infrastructure Services]** コンテナのそれぞれに含まれるデバイスのエントリからアクセスできます。デバイスを選択後、サービスを選択します。
2. **[オペレーション]** タスク グループから、目的に合ったアクションをクリックします。
  - **[一時停止]** をクリックすると、サービスの実行を一時停止することができます。サービスは起動状態が維持されますが、アクションは実行されません。
  - **[再開]** をクリックすると、サービスを停止した後、新たに開始できます。
  - **[リジューム]** をクリックすると、一時的に停止されていたサービスの実行をリジュームすることができます。
  - **[開始]** をクリックすると、サービスを実行することができます。
  - **[停止]** をクリックすると、サービスを停止することができます。

#### 注意

Radia 管理エージェント サービスを停止することはできません。

3. **[ページのサブミット]** ページが表示されます。このページは、60 秒間隔で自動的にリフレッシュされます。
  -  をクリックすると、ページをリフレッシュして最新のステータスを表示することができます。
  -  をクリックすると、インストールのステータスなど詳細な情報を表示することができます。
4. ジョブステータスを確認したら、 をクリックして **[ジョブのステータス]** ページを閉じ、**Radia Management Portal** に戻ります。

## タスク テンプレートを追加する

[オペレーション] タスク グループの [タスク テンプレートの追加] タスクを使用すると、ゾーン オペレーションをスケジュールする際に必要なオプションを、タスクのタイプごとに事前設定することができます。

### タスク テンプレートを追加する

[通知] タスク または [RPS のインストール] タスクで使用するタスク テンプレートを追加します。

#### タスク テンプレートを追加するには

1. ナビゲーション支援を使用して、[Zone] の [Configuration] にある [Task Templates] コンテナに移動します。

既存のタスク テンプレートが、(使用できるものがあれば) ワークスペースに表示されます。



図 5.44 ~ サンプル: [Zone Configuration] コンテナの [Task Templates]

---

2. [オペレーション] タスク グループの [タスク テンプレートを追加] をクリックします。  
[タスク テンプレートを追加] のオプション ページが表示されます。

---

## タスク テンプレートを追加

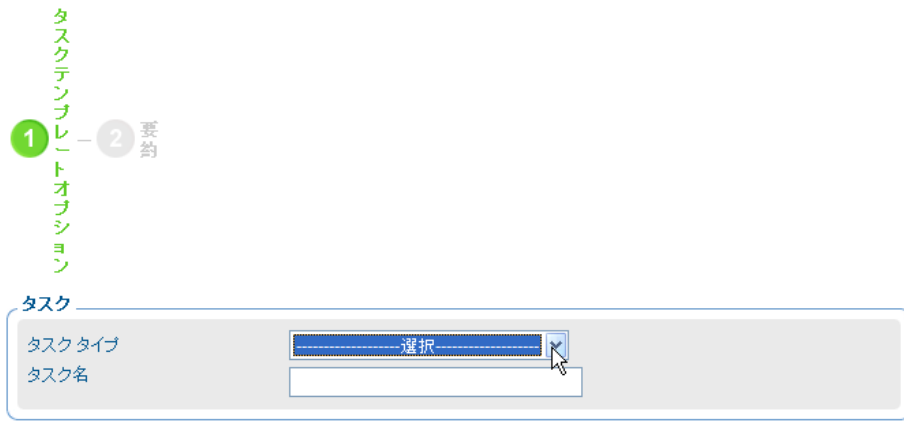


図 5.45 ~ [タスク テンプレートを追加] ページ

---

3. [タスク タイプ] ボックスの一覧から、テンプレートを追加するタスクのタイプを選択します。

### 注意

タスクのタイプを選択すると、そのタスクを定義するための追加フィールドが、ページ上に表示されます。

4. [タスク名] ボックスに、テンプレートに使用するタスク名を入力します。

実行するジョブの内容が容易に判別できるようなタスク名を入力してください。そうすることで、目的のテンプレートを [Task Templates] コンテナの中から、容易に選択することが可能になります。

### 注意

入力するタスク名の一部にタスクのタイプを使用する必要はありません。テンプレートの表示名には、その一部としてタスクのタイプが自動的に用いられます。たとえば、通知タスク オブジェクトの表示名は、「通知 <タスク名>」となります。

5. 選択したタスクに必要なオプションをすべて設定します。詳細については、それぞれの場合に該当するトピックを参照してください。
  - 通知タスクを実行する場合は、290 ページの「通知タスクを使用する」。
  - **[Proxy のインストール]** タスクを実行する場合は、330 ページの「*Radia Proxy Server* をインストールする」を参照してください。
6. [次へ] をクリックします。  
[タスク テンプレートを追加] の [要約] ページが表示されます。

## タスク テンプレートを追加

1 Task-template-opts — 2 要約

**タスク**

タスクタイプ:	通知
タスク名:	bb

**選択されたオプション**

表示名:	完全接続
コマンド:	radskman mname=[mgrname],dname=SOFTWARE,ip=[mgr_ip],port=[mgr_port]
ポート番号:	3465
ユーザー:	user1

図 5.46 ~ 通知タスク テンプレートに関する概要の表示例

7. 指定したオプションを確認します。変更する場合は、[前へ] をクリックしてオプションを修正します。[サブミット] をクリックして、オプションの内容を保存します。

8. タスク テンプレートが **[Task Templates]** コンテナに追加され、**[ゾーン オペレーションのスケジュール]** タスクを実行する際に選択できるようになります。  
なお、タスク テンプレートのオプションは、そのタスク テンプレート自身の子として存在します。

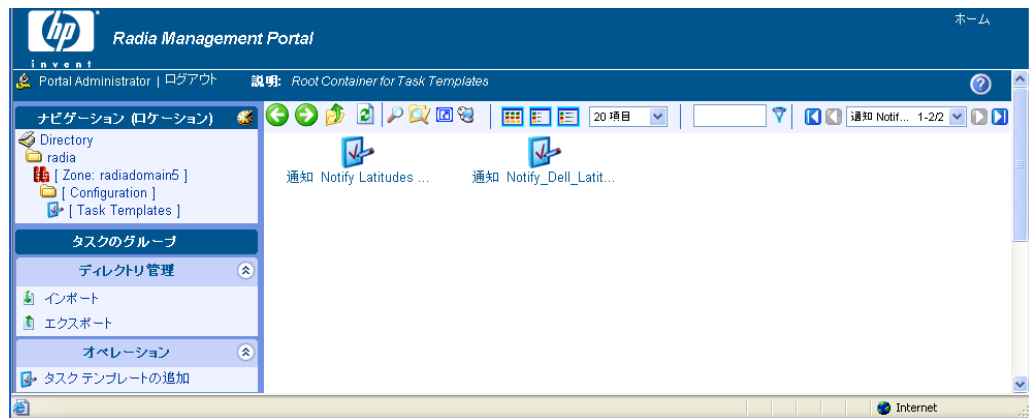



図 5.47 ~ 新たに追加された通知タスクが表示されている [Task Templates] コンテナ

## タスク テンプレートを削除する

タスク テンプレートを削除するには

1. **[Directory]** から、**[Zone]** の **[Configuration]** にある **[Task Templates]** コンテナに移動します。
2. 削除するタスク テンプレートをクリックします。  
選択したタスク テンプレートのオブジェクトがワークスペースに表示されます。
3. **[モデル管理]** タスク グループの **[削除]** をクリックします。  
削除を確認するメッセージが表示されます。



4. 緑色のチェック マーク  をクリックして、削除を実行します。



## タスク テンプレート の削除

通知 Notify\_Dell\_Latitudes には子があります

このオブジェクトおよびそのすべての子を削除してもよろしいですか?  

選択した子オブジェクトの削除

図 5.48 ~ タスク テンプレートの子を削除するかどうかの確認 (オプション)

タスクのオプションはタスク テンプレートの子として扱われているため、子オブジェクトの削除を確認するメッセージも表示されます。

5. 緑色のチェック マークをクリックして、タスク テンプレートおよび子の削除を実行します。  
タスク テンプレートおよびそのオプションが、Portal ディレクトリから削除されます。

## RMP ゾーン (下位ゾーン) を追加インストールする

最初の Radia Management Portal ゾーンがインストールされた後は、その Radia Management Portal を使用して、企業内に別の Radia Management Portal ゾーンをリモートでインストールすることができます。これらのゾーンのことを、下位ゾーンといいます。

### [Management Portal のインストール] タスクの実行に必要な準備

[Management Portal のインストール] タスクを実行する際に必要なメディアは、元の Radia Management Portal インストール用メディアをそのままコピーした形で、Radia Integration Server の **media** ディレクトリに格納されています。

Radia Management Portal のインストール プログラム (**setup.exe**) を実行する際に表示される以下のメッセージ ボックスで **[はい]** を選択すると、必要なファイルが適切なロケーションへ自動的にコピーされます。

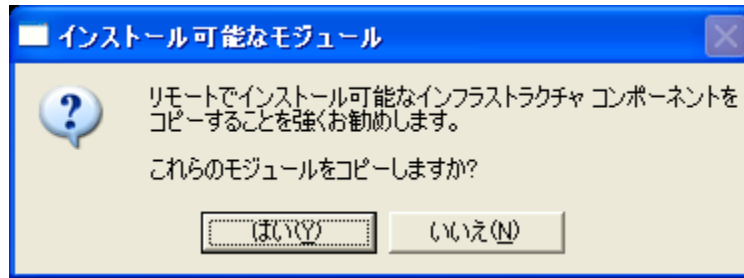


図 5.49 ~ インフラストラクチャ コンポーネント用のモジュールをコピーするかどうかをたずねるメッセージ

- 必要なインストール用メディアが Radia Management Portal にあるかどうかは、以下のディレクトリ構造が存在するかどうかで確認することができます。  
`<<RMP_install_directory>>¥media¥extended_infrastructure¥management_portal¥<platform>¥`
- 各 <platform> ディレクトリの下位には、¥media¥modules のサブディレクトリが存在します。**license.nvd** ファイルのコピーは、<platform>¥media¥modules ディレクトリの中に格納されています。

必要なディレクトリ構造やファイルが不足している場合は、**setup.exe** プログラムを再実行して、インストール可能なコンポーネントの更新を行います。リモートでインストール可能なインフラストラクチャ コンポーネントをコピーするかどうかをたずねるメッセージが表示されたら、**[はい]** を選択します。詳細については、31 ページの「インストールの手順」を参照してください。

## マスターゾーンからRMPゾーンをインストールするには

1. マスターゾーンの Radia Management Portal に **Admin** としてログインします。
2. RMPゾーンのインストール先となるデバイスは、マスターポータルゾーンの中にそのエントリが含まれている必要があります。
  - デバイスのエントリが存在する場合は、[Zone] の [Groups] コンテナまたは [Zone] の [Devices] コンテナから、そのデバイスのプロパティを表示します。
  - エントリが存在しないデバイスに対しては、エントリを追加します。詳細については、177ページの「単一デバイスを追加する」を参照してください。エントリを追加したら、そのデバイスのプロパティに移動して、その内容を表示します。



図 5.50 ~ 追加RMPゾーンをインストールするには、リモートコンピュータに関するデバイスのプロパティを表示して [Management Portal のインストール] を選択する

3. [オペレーション] タスク グループの [Management Portal のインストール] をクリックして、選択したデバイスに下位ゾーンをインストールします。

[Management Portal のインストール] ページの [オプション] パネルが表示されます (5 つあるパネルの中の 3 番目)。以下の表を参考にして、[ゾーン オプション] および [リモート クライアントの資格] に、必要な情報をすべて入力します。

表 5.2 ~ [Management Portal のインストール] の [ゾーン オプション]

フィールド	例	説明
[ゾーン名]	Chicago	ゾーン名は、この RMP ディレクトリに含まれるすべてのノードに対する高位修飾子となります。企業内の各ゾーン名は一意であることが必要です。
[ゾーンの表示名]	Chicago_RMP	ゾーンの表示名は、RMP のゾーンのラベルとして使用されます。
[RIS ポート]	3466	Radia Management Portal の RIS サービスのポート番号。デフォルトは 3466 です。
[RIS インストール ディレクトリ]	C:/Novadigm/IntegrationServer	リモート デバイス上の Radia Management Portal のベース ディレクトリ。 <b>重要:</b> Windows と UNIX いずれの場合も、パスの区切り記号にはスラッシュ (/) を使用してください。
[RIS サービス名のサフィックス]	ChicagoRMP	オプションのエントリ。ここで指定した文字列は、Radia Integration Service の名前 (httpd) にサフィックスとして挿入されます。これにより、同じサーバー上で稼働する他の RIS エントリと区別することができます。 サフィックスが入力されると、RMP のインストール時に RMP サービスがリフレッシュされる際、同じサフィックスを持つサービスが既に存在しないかどうかの確認が行われます。サフィックスを入力しない場合は、上記の RIS ディレクトリが空である場合にのみ RMP のインストールが続行されます。 <b>注意:</b> サフィックスを入力した場合は、Radia Management Portal をコマンド ラインから開始する際、このサフィックスを挿入した <httpd> エントリを使用してください。次に例を示します。 nvdkit start httpdChicagoRMP.tkd

表 5.3 ~ [Management Portal のインストール] の [リモートクライアントの資格]

フィールド	例	説明
[クライアントポートの選択]	[ダイナミック] または [スタティック]	デフォルトは [ダイナミック] です。スタティック ポート番号を使用する場合 (通常はファイアウォールが必要) は、[スタティック] を選択します。同時にスタティック ポート番号も入力します。
[ポート番号]		[クライアントのポート] を [スタティック] に設定した場合、使用するクライアント ポート番号を [ポート番号] フィールドに指定することができます。
[ユーザー]	Administrator	RMP のインストールを実行するには、リモート コンピュータに管理者権限でアクセスする必要があります。リモート コンピュータにおいて管理者権限を持つユーザー ID を入力してください。
[ユーザー パスワード]	●●●●●●●●●●	リモート コンピュータにアクセスする際のユーザー ログインに使用するパスワードを入力します。ただし入力情報は暗号化されます。
[パスワードの確認]	●●●●●●●●●●	[ユーザー パスワード] に入力した内容を再度入力します。[パスワードの確認] と [ユーザー パスワード] の入力内容が一致しない場合は、入力内容の修正を指示するメッセージが表示されます。

- すべての情報を入力したら、[次へ] をクリックします。

**RMP のインストール**

1 クエリ — 2 選択 — 3 RMP オプション — 4 スケジュール — 5 要約

**ゾーン オプション**

ゾーン名	Chicago
ゾーンの表示名	Chicago
RIS ポート	3466
RIS インストール ディレクトリ	C:/Novadigm/IntegrationSe
RIS サービス名のサフィックス	ChicagoRMP

1項目が選択されています

**リモート クライアントの資格**

クライアント ポートの選択:  ダイナミック  スタティック

ユーザー: Administrator

ユーザー パスワード: ●●●●

パスワードの確認: ●●●●

次へ 戻る キャンセル

図 5.51 ~RMP のインストール時に入力する項目の表示例

- [Management Portal のインストール] ページの [スケジュール] パネルが表示されます (5 つあるパネルの中の 4 番目)。デフォルトのスケジュールでは、[Management Portal のインストール] タスクが直ちに実行されます。
- 今すぐインストールを行う場合は、[次へ] をクリックします。時間を置いて (たとえば、システムの稼働率が低くなった時に) インストールが実行されるようにスケジュールするには、日時を変更してから [次へ] をクリックします。
- [Management Portal のインストール] ページの [要約] パネルが表示されます (下図参照)。

6. 入力内容がすべて正しいことを確認したら、[サブミット]をクリックします。

 RMP のインストール

1 クエリ — 2 選択 — 3 RMP オプション — 4 スケジューラ — 5 要約

選択されたオーディエンス

PHU1683

選択されたオプション

ゾーン名:	Chicago
ゾーンの表示名:	Chicago
RIS ポート:	3466
RIS インストール ディレクトリ:	c:/Novadigm/IntegrationServer
RIS サービス名のサフィックス:	ChicagoRMP

インストール オプション

クライアント ポート番号:	ダイナミック
ユーザー:	Administrator

スケジューラ情報


開始日時:	2005/08/03 14:20:00
継続時間:	0
一定間隔:	0
優先度:	0
タイプ:	なし


サブミット 戻る キャンセル

図 5.52 ~ [Management Portal のインストール] の [要約]

7. [Management Portal のインストール] ジョブに関する情報をまとめたウィンドウが表示されます。

ジョブのプロパティを確認する場合は、表示名のエントリをクリックします。

ジョブに関する情報をまとめたページに戻る場合は、 をクリックします。

ステータスをリフレッシュする場合は、 をクリックします。

8. インストールに関するジョブが完了すると、**Radia Management Portal** ゾーンがリモートデバイスにインストールされると同時に、以下のエントリが新たにマスターゾーンへ作成されます。これらのエントリは、新しいゾーンへのアクセスに使用するためのものです。
  - **[Zone]** の **[Configuration]** に含まれる **[Directory Services]** コンテナでは、**ds-dsml** が定義されています。起動モードが **[自動]** に設定されている場合、新しいゾーンは起動と同時に、マスターゾーンへ自動的に接続されます。起動モードが **[手動]** の場合は、**[ディレクトリ サービスを開始]** タスクを使用してセッション中に手動で接続を行います。
  - **[Zone Access Points]** コンテナには、新しいゾーンのエントリが表示されます。

## ゾーンオペレーションをスケジュールする

ゾーンオペレーションをスケジュールするには、以下のオブジェクトが **[Zone]** ディレクトリに存在する必要があります。

- **[Zone Access Points]** コンテナの **[Zone]**、**[Management Portal のインストール]** を使用して企業内に追加ゾーンをインストールする場合、これらのゾーンへのアクセスポイントが **[Zone Access Points]** コンテナ内に自動的に作成されます。詳細については、101 ページの「**Zone のコンテナについて**」を参照してください。
- スケジュールされているジョブの **[Task Templates]**。詳細については、341 ページの「**タスクテンプレートを追加する**」を参照してください。
- 各ゾーンのデバイスをメンバーとする **[Groups]**。各メンバーは、スケジュールされたゾーンオペレーションの実行対象となるデバイスを表したものです。デバイスの作成およびグループへの追加に関する詳細については、133 ページの「**第4章 管理機能**」の各トピックを参照してください。

グループは、**[Groups]** コンテナまたは **[Cross References]** コンテナから選択することができます。**[Groups]** コンテナのデバイスグループを使用する場合は、各ゾーンのグループ名をすべて同じにしてください。**[Cross References]** コンテナ内で自動生成されたグループを使用する場合は、ゾーン内のデバイスには必ず **Radia** 管理エージェントをインストールしてください。



## ゾーンオペレーションをスケジュールするには

1. **[Directory]** の **[Zone]** に含まれる **[Zone Access Points]** コンテナに移動して、1 つまたは複数のゾーンに対してゾーンオペレーションをスケジュールします。

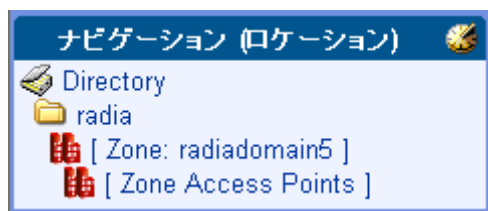


図 5.53 ~ [Zone Access Points] へのナビゲーションパスのサンプル

---

### ヒント

[Zone Access Points] コンテナをデスクトップに追加することも可能です。追加するには、[Zone Access Points] コンテナに移動し、ワークスペース上部のツールバーにある [デスクトップにショートカットを追加] アイコンをクリックします。

2. [オペレーション] タスク グループの [ゾーン オペレーションのスケジュール] タスクをクリックします。

[ゾーン オペレーションのスケジュール] の [クエリ] ウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、クエリを実行することにより、このスケジュールの対象にするゾーンを選択することができます。



図 5.54 ~ スケジュール オペレーションの対象とするゾーンを制限/選択するための [クエリ] ウィンドウ

3. 多数のゾーンが存在する場合は、この [クエリ] ウィンドウの各フィールドを使用して、一覧に表示されるゾーンに制限を加えた上で、その中からオペレーションの対象にするゾーンを選択します。たとえば [共通名] に「B\*」と入力すると、一覧に表示されるゾーンが B を頭文字とするゾーンに制限されます。フィルタまたはクエリ制約の条件を入力したら、[次へ] をクリックします。

または、

すべてのゾーンの中から選択する場合は、[次へ] をクリックします。

クエリ制約の条件を満たすゾーンが少なくとも 1 つ存在する場合は、[ゾーン オペレーションのスケジュールのサブミット] の [選択] ウィンドウが表示されます。クエリ制約の条件を満たすゾーンが [使用可能] カラムに表示されます

クエリ制約の条件を満たすゾーンが 1 つしか存在しない場合は、手順 6 に進みます。

- 矢印のアイコンをクリックするかエントリをダブルクリックして、ジョブをスケジュールするゾーンを [選択済み] カラムに移動します。



図 5.55 ~ ゾーン オペレーションをスケジュールするゾーンの選択

5. [次へ] をクリックすると、[選択済み] カラムに表示されているゾーンに対してジョブがスケジュールされます。
- [ゾーン オペレーションのスケジュールのサブミット] の [ゾーン ジョブ オプション] ウィンドウが表示されます。



図 5.56 ~ [ゾーン オペレーションのスケジュールのサブミット] (ゾーン ジョブ オプション)

6. [ゾーンジョブ名] グループフィールドを使用して、スケジュールされたゾーンジョブに用いるタスクテンプレートおよびデバイスグループを選択します。タスクテンプレートでは、スケジュールするジョブのタイプおよびオプション(どのようなジョブか)が定義されます。グループは、ジョブが適用されるデバイスのグループ(選択したゾーン内のどのオブジェクトに適用するか)を表すものです


- [Task Templates] ボックスの一覧からタスクテンプレートを選択します。この一覧には、Radia Management Portal の [Directory] レベルの [Task Templates] コンテナに含まれているタスクテンプレートが表示されます。
- [Groups] ボックスの一覧から、デバイスのグループを1つ選択します。この一覧には、[Zone] の [Groups] コンテナで作成されたグループおよび [Cross References] コンテナに含まれる自己管理型グループが表示されます。

[Cross References] グループは、ハードウェア、ソフトウェア、管理対象サービス、および任意のゾーンにあるデバイスにインストールされた既知のインフラストラクチャサービスから自動的に作成されます。

[Groups] コンテナ内のデバイスグループは、オペレーションの実行対象にするそれぞれのゾーンの中に存在する必要があります。

下の「図 5.57」は、[Latitude] グループに対して [Notify\_Dell\_Latitudes] タスクテンプレートが選択されたところを示したものです。[Latitude] グループは、[Cross References] グループの中で自動的に生成されます。

#### ゾーン オペレーションのスケジュール のサブミット



1 クエリ — 2 選択 — 3 ゾーンジョブオプション — 4 スケジュール — 5 要約

ゾーンジョブ名

タスクテンプレート

グループ

図 5.57 ~ スケジュールされたゾーン オペレーションに用いるタスクテンプレートとクエリ (ゾーンジョブオプション)

7. [次へ] をクリックすると、スケジュールがゾーン オペレーションに追加されます。  
 [ゾーン オペレーションのスケジュールのサブミット] の [スケジュール] ウィンドウが表示されます。

**ゾーン オペレーションのスケジュール のサブミット**

1 クエリ - 2 選択 - 3 ゾーンジョブオブション - 4 **スケジュール** - 5 要約

**スケジュール情報**

ジョブ名:

説明:

優先度:

**時間ウィンドウ**

実行:

開始日:    時間

継続時間:  時間ごと  分

**ジョブ スロットリング**

常に同時実行するジョブの最大数を  に設定,

1 分ごとにまとめて開始するジョブ数を  個のジョブを毎分まとめて開始.

図 5.58 ~ [ゾーン オペレーションのスケジュールのサブミット] の [要約] ウィンドウ

8. [スケジュール情報] 領域で、[ジョブ名] に「Notify Latitudes of Upgrade」などのジョブ名を入力します。必要に応じて、[説明] および [優先度] の内容を変更します。

9. [時間ウィンドウ] の [実行] ボックスの一覧から、ゾーンオペレーションジョブを実行する回数を選択します。その他のジョブと同じように、必要なスケジュールオプションの設定をすべて行います。

### 注意

[スケジュールしない] を選択すると、ジョブを保存したり [タスクのシーケンス設定] オペレーションに使用するジョブを選択したりすることができません。

10. [ジョブスロットリング] 領域で、同時に実行するジョブの最大数、および1分ごとに実行するジョブ数を入力します。このスロットリングオプションは、ジョブの実行元となる各ゾーンに対して適用されます。
11. [次へ] をクリックして内容を確認し、ジョブをサブミットします。  
[ゾーンオペレーションのスケジュールのサブミット] の [要約] ウィンドウが表示されます。
12. [サブミット] をクリックして、選択したゾーンのジョブをサブミットします。  
[ジョブ] ウィンドウが表示され、各ゾーンのグループジョブが表示されます。パナー領域の [説明] には、ゾーンオペレーションジョブの説明が表示されます。

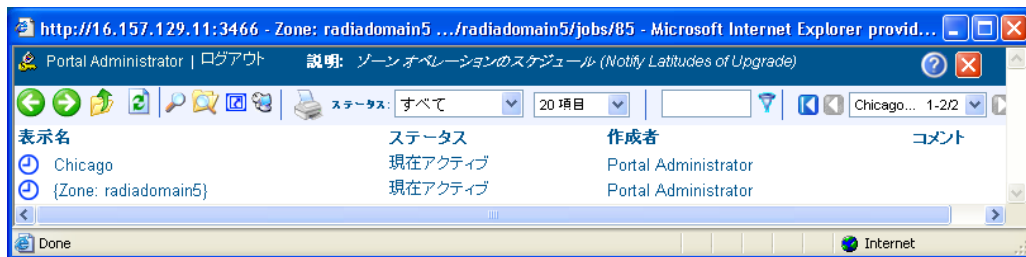


図 5.59 ~ [ゾーンオペレーションのスケジュール] で作成されたゾーンジョブ

13. これらのゾーンジョブのプロパティを表示するには、一覧に表示されているジョブをクリックしてから、[プロパティの表示] ツールバーアイコンをクリックします。

## リモートゾーンオペレーションによりスケジュールされたジョブの役割

ゾーンオペレーションを使用してスケジュールされたジョブにより、スケジュールに設定された日時に合わせてリモートゾーンジョブグループおよびジョブが開始されます。こうしたジョブは、リモートゾーンジョブのディレクトリで確認できます。

## 下位ゾーンを開く

[下位ゾーンを開く] を使用すると、任意のゾーンを、それとは異なるゾーンから開くことができます。このタスクは、ゾーンを [Zone Access Points] コンテナから選択した場合に使用することができます。このタスクを使用すると、[ゾーン オペレーションのスケジュール] タスクを使用して他のゾーンから開始されたジョブを表示することが可能です。

各ゾーンで開始されたジョブ グループおよびジョブを表示するには、[Zone Access Points] コンテナに含まれる管理対象ゾーン オブジェクトに移動し、[オペレーション] タスク グループの [下位ゾーンを開く] をクリックします。

The screenshot shows a web interface for the 'Chicago' zone. At the top, there is a navigation bar with icons for back, forward, home, search, and refresh. Below the navigation bar, the page title is 'Chicago' and the subtitle is 'ゾーンのプロパティ'. The main content area is titled 'プロパティ | オブジェクトの情報' and contains two sections: 'プロパティ' and 'オブジェクトの情報'. The 'プロパティ' section lists various attributes such as DNS host name, installation directory, service name, zone NC, zone URL, device, device RDN, port number, creation timestamp, and modification timestamp. The 'オブジェクトの情報' section lists the display name, common name, X500 identifier, and object class.

プロパティ	
DNS ホスト名	16.157.13.90
ds.installdir	c:/Novadigm/IntegrationServer
サービス名	httpdChicagoRMP
ゾーン NC	20050803t050357z0, cn=radia
ゾーンの URL	dsml://16.157.13.90:3466/proc/dsml
デバイス	PHU1683
デバイス RDN	20050803t050357z0
ポート番号	3466
作成日のタイムスタンプ	2005/08/03 14:28
変更のタイムスタンプ	2005/08/03 14:28

オブジェクトの情報	
表示名	Chicago
共通名	Chicago
X500 識別名	cn=chicago, cn=zone-sap, cn=radiadomain5, cn=radia
オブジェクトのクラス	top zone-sap

図 5.60 ~ 下位ゾーン (Chicago) を開く

[下位ゾーンを開く] タスクを実行すると、新しい [ブラウス] ウィンドウが表示され、リモート ポータルゾーンへのアクセスが行われて、現在のログインと同じ資格でログオンすることができます。そこで [Zone] の [Jobs] コンテナに移動すると、他の Radia Management Portal から開始されたジョブを表示することができます。



下の図では例として、スケジュールされたゾーン オペレーションのジョブである **Notify Dell Latitudes** を表示します。**Chicago** というゾーンは、ゾーン オーディエンスの 1 つです。

表示名	エイリアス	ステータス	作成者
[ Admins&Operators.Idifにエクスポート ]		成功	Portal Administrator
[ Admins.Idifにエクスポート ]		成功	Portal Administrator
[ Admins1.Idifにエクスポート ]		成功	Portal Administrator
[ Admins2.Idifにエクスポート ]		成功	Portal Administrator
[ Admins3.Idifにエクスポート ]		成功	Portal Administrator
[ Admins4.Idifにエクスポート ]		成功	Portal Administrator
[ AlarmContainer ]		現在アクティブ	
GateWay4	gateway	現在アクティブ	
[ History ]			
[ Network Discovery ]		失敗	Directory
[ Notify Latitudes of Upgrade Job Group ]	Notify Latitudes of Upgrade	現在アクティブ	Portal Administrator

図 5.61 ~ Chicago ゾーンで開始されたジョブ [Notify Dell Latitudes Job Group] の表示

[**Notify Dell Latitudes Job Group**] を選択して、そのジョブの詳細を確認します。

表示名	ステータス	作成者
Chicago	現在アクティブ	Portal Administrator
notify:Notify_Dell_Latitudes	成功	

図 5.62 ~ リモート ゾーン ポータルで個別に表示されたジョブ

ゾーンからログアウトするには、ナビゲーション支援上部のバナー領域にある [ログアウト] をクリックし、[ブラウス] ウィンドウを閉じます。

## ジョブ シーケンスを作成する (開発中の機能)

[オペレーション] タスク グループの [シーケンス ジョブ] を使用すると、1 つまたは複数のポータル サイトに対して、複数のタスクが連続的に実行されようスケジュールすることができます。このタスクを開始するには、[Jobs] コンテナに移動し、[オペレーション] タスク グループの [シーケンス ジョブ] をクリックします。

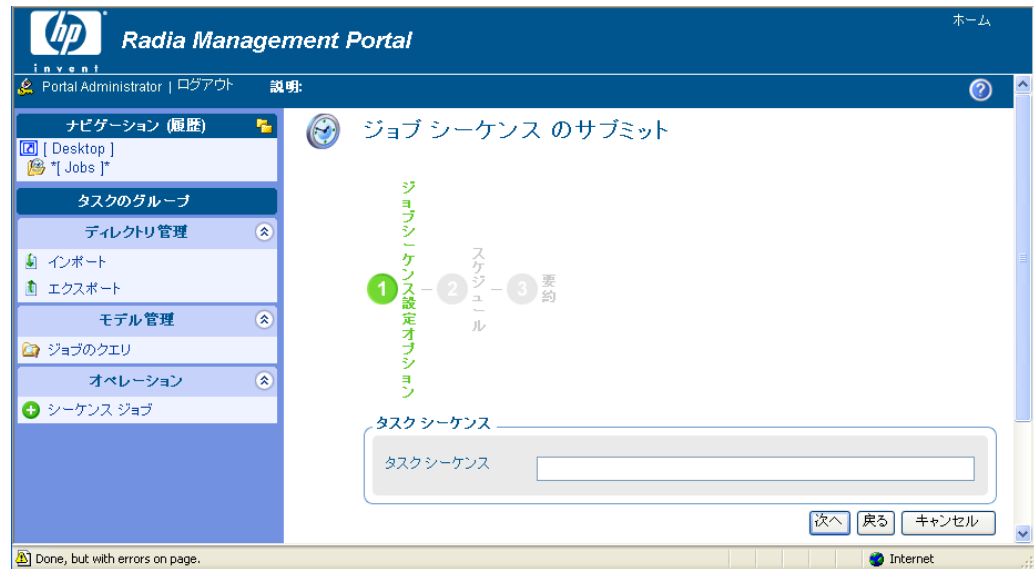


図 5.63 ~ 複数のタスクに関するジョブ シーケンス

この機能は現在、開発段階にあります。[タスクのシーケンス設定] では、タスク テンプレートや実行条件が選択できる機能がサポートされる予定です。たとえば以下のように、一連の選択メニューから複数のタスクと条件を設定した上でそれらを実行することが可能になります。

[実行]: [DMA] *[[if not fail]]* [Proxy Preload] *[[if not fail]]* [Client Notifies]

この機能の特徴は、ジョブ シーケンスをいったん作成してしまえば、それをマスター ポータルから実行するだけで、個々のサイト (サイトのグループから指定) において一連のジョブが開始できるという点にあります。

## リモート制御 (Windows クライアントのみ)

Radia のリモート制御機能を使用すると、TightVNC (拡張 VNC 配布) を備えた Windows プラットフォーム上で稼働する Radia Client を管理することができます。TightVNC (拡張 VNC 配布) は無料再配布可能なソリューションであり、これを使用することで Radia Client をリモート ロケーションから制御することができます。TightVNC の送信元コードは、<http://www.tightvnc.org> からダウンロードすることができます。

### 注意

HP では、TightVNC 製品のテクニカル サポートは行っていません。

## システム要件

- リモート コンピュータでは、Windows NT、Windows 2000、または Windows XP が稼働していること。
- リモート デバイス上に Radia 管理エージェントがインストールされていること。
- Java アプレットをサポートしている Web ブラウザ。

## 前提条件

- Radia System Explorer が使用できること。
- (Radia Client または通知オペレーションを使用して) アプリケーションが配布できること。
- Radia データベースの ZSERVICE クラスでは、インポート中に値が途切れないよう、サービスインストール用のメソッド (ZCREATE や ZDELETE など) が最低 57 文字の長さに設定されていること。
- リモート制御サービスを目的のユーザーに接続できること。詳細については、364 ページの「リモート制御サービスをユーザーに接続する」を参照してください。
- Radia で管理するデバイスに、リモート制御サービスを配布すること。それには、Radia Client または Radia Management Portal の通知タスクを使用することができます。

## リモート制御サービスをユーザーに接続する

Radia 管理者ワークステーションの Radia System Explorer を使用すると、Radia で管理するデバイスを表すユーザー、サーバー、またはグループに Remote Control サービスを接続することができます。ここでは、アプリケーション (ZSERVICE)、リモート制御サービスと PRIMARY.POLICY ドメインのクラス インスタンス (USER、DEPT、WORKGRP など) の間のサービス接続を作成します。

### リモート制御サービスをユーザーに接続するには

1. Radia System Explorer を使って、PRIMARY.POLICY ドメインに移動します。
2. Remote Control サービスを接続するクラス インスタンス (DEPT、USER、または WORKGRP) に移動します。下の「[図 5.64 ~ POLICY.DEPT.Sales インスタンスと SOFTWARE ドメインの \[接続の表示\] ダイアログ ボックス](#)」では例として、Sales 部門インスタンスに移動します。
3. ツリー ビューで選択したインスタンスを右クリックし、[接続の表示] をクリックします。**[POLICY.DEPT 接続]** ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスには、選択したインスタンスが接続できるクラスの一覧が表示されます。

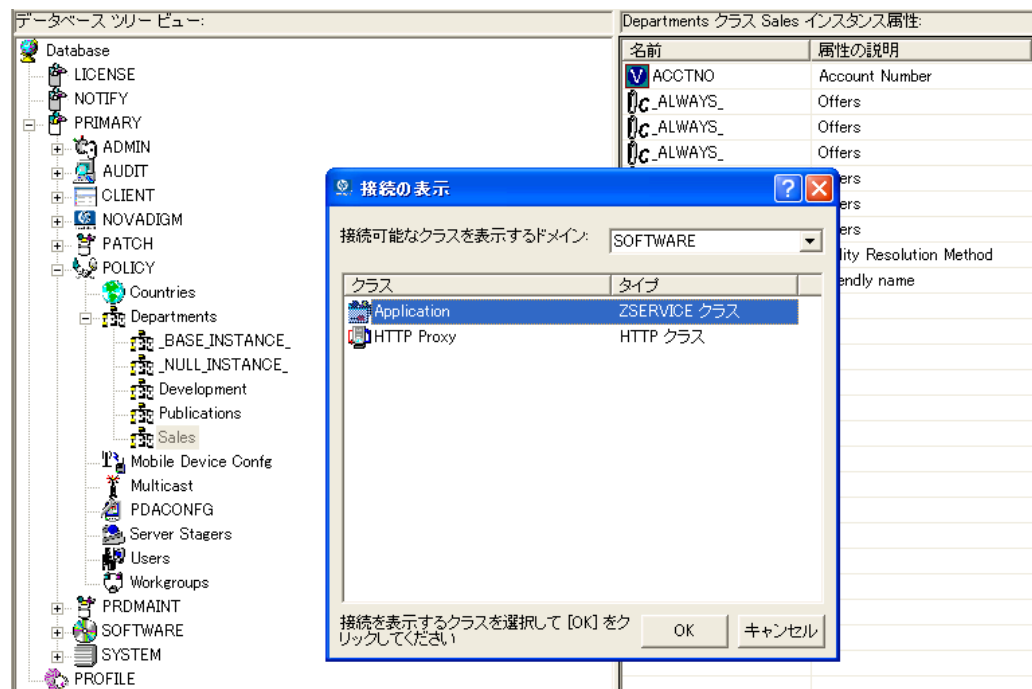


図 5.64 ~ POLICY.DEPT.Sales インスタンスと SOFTWARE ドメインの [接続の表示] ダイアログ ボックス

4. [接続可能なクラスを表示するドメイン] ボックスの一覧から [ソフトウェア] をクリックし、続けて **Application (ZSERVICE)** および **Remote Control** をクリックします。
5. **Remote Control** インスタンスを目的の **POLICY** インスタンス (ここでは **DEPT.Sales**) にドラッグします。カーソルがペーパー クリップの形になったらマウス ボタンを離します。

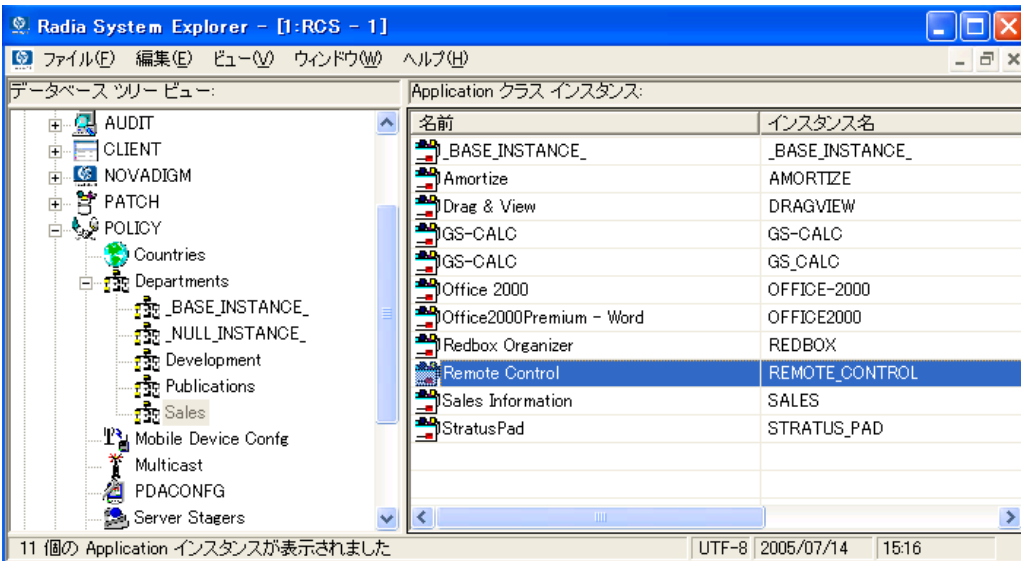


図 5.65 ~ リモート制御サービスを Sales インスタンスに接続 (ドラッグ) する

6. [コピー] をクリックして、Department Sales から Application.Remote Control への接続を作成します。
7. 接続を確定するには、[はい] をクリックします。
8. **[Remote Control は Sales に接続しました。]** という確認メッセージが表示されたら [OK] をクリックします。

9. Sales 部門インスタンスの下に Remote Control が表示されます。これで、Remote Control アプリケーションの受信を部門全体に認可することができました。

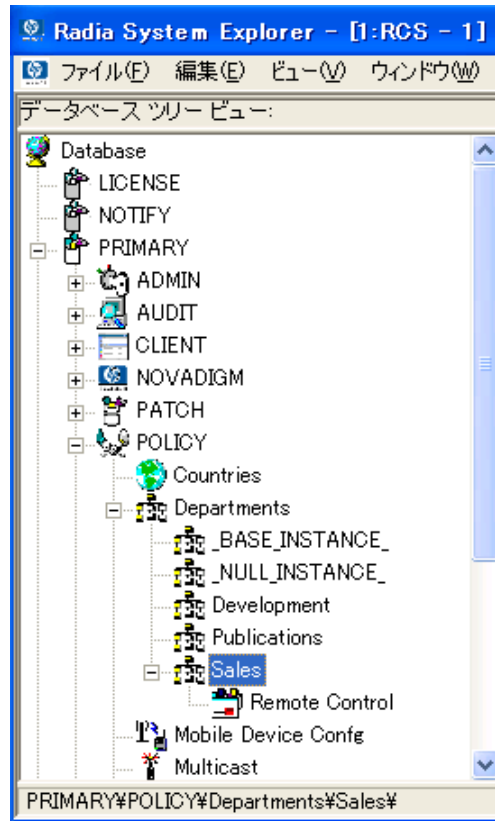


図 5.66~ Sales 部門に対して認可された Remote Control サービス

これで、Radia Client または通知タスクを使用して管理するデバイスに対して Remote Control サービスを配布することができます。

## リモート制御を使用する (Windows クライアントのみ)

Radia Client または通知タスクを使用してリモート制御サービスをリモート デバイ스에 配布すれば、TightVNC を用いた Radia Client の管理をリモート制御で行うことが可能になります。

### リモート管理機能を使用するには

1. ナビゲーション領域で、VNC サーバーがインストールされているデバイスを選択します。
2. [VNC Server] をクリックします。  
VNC サーバーの [サービスのプロパティ] ページが表示されます。



## VNC Server サービスのプロパティ

プロパティ | オブジェクトの情報

### プロパティ

サービス	winvnc
システムが生成されましたか?	1
ジョブ アクティビティ	started
パス	"C:\PROGRA~1\TightVNC\WinVNC.exe" -service
作成日のタイムスタンプ	2005/08/03 15:25
変更のタイムスタンプ	2005/08/03 15:29

[先頭に戻る](#)

### オブジェクトの情報

表示名	VNC Server
共通名	winvnc
X500 識別名	<a href="#">cn=winvnc, cn=20050803t062259z0, cn=device, cn=radiadomain5, cn=radia</a>
オブジェクトのクラス	top service nvdservice

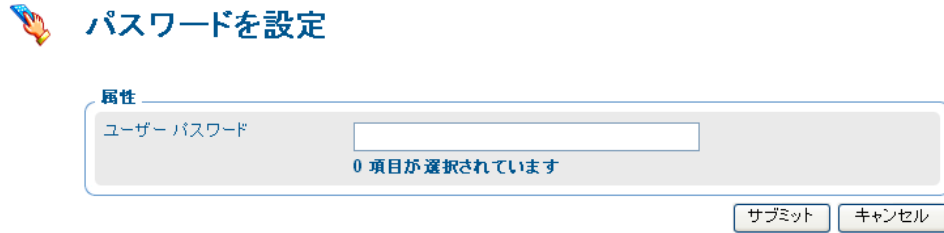
[先頭に戻る](#)

図 5.67 ~ VNC サーバーのプロパティ

3. この VNC サーバーを初めて使用する場合は、[オペレーション] タスクの一覧にある [パスワードの設定] をクリックします。(この VNC サーバーの使用が初めてでない場合は、手順 8 に進んでください。)

[パスワードを設定] ダイアログ ボックスが表示されます。

---



パスワードを設定

属性

ユーザー パスワード

0 項目が選択されています

サブミット キャンセル

図 5.68 ~ [パスワードを設定] ダイアログ ボックス

4. [ユーザー パスワード] ボックスに、VNC セッションに使用するパスワードを入力します。



5. [サブミット] をクリックします。  
 [サービスのプロパティの一覧] ダイアログ ボックスが表示されます。

プロパティ | オブジェクトの情報

**プロパティ**

サービス	winvnc
システムが生成されましたか?	1
ジョブ アクティビティ	stopped
パス	"C:\PROGRA~1\TightVNC\WinVNC.exe" -service
作成日のタイムスタンプ	2005/08/03 15:25
変更のタイムスタンプ	2005/08/03 15:29




先頭に戻る


**オブジェクトの情報**

表示名	VNC Server
共通名	winvnc
X500 識別名	cn=winvnc, cn=20050803t062259z0, cn=device, cn=radiadomain5, cn=radia
オブジェクトのクラス	top service nvdservice


先頭に戻る

図 5.69 ~ VNC サーバーのプロパティ

6. [オペレーション] タスクの一覧から [開始] をクリックして、VNC サーバーを起動します。  
 [ジョブのステータス] ページが開き、そこにジョブのリストが表示されます。このページは、60 秒間隔で自動的にリフレッシュされます。
-  をクリックすると、ページをリフレッシュして最新のステータスを表示することができます。
  -  をクリックすると、インストールのステータスなど詳細な情報を表示することができます。
- ジョブ ステータスを確認したら、 をクリックして [ジョブのステータス] ページを閉じ、Radia Management Portal に戻ります。

7. ワークスペースで  をクリックすると、ビューをリフレッシュし、開始されたサービスを確認することができます。

---

 **VNC Server**  
サービスのプロパティ

プロパティ | オブジェクトの情報

プロパティ

サービス	winvnc
システムが生成されましたか?	1
ジョブ アクティビティ	started
パス	"C:\PROGRA~1\TightVNC\WinVNC.exe" -service
作成日のタイムスタンプ	2005/08/03 15:25
変更のタイムスタンプ	2005/08/03 15:29

先頭に戻る

オブジェクトの情報

表示名	VNC Server
共通名	winvnc
X500 識別名	cn=winvnc, cn=200508031062259z0, cn=device, cn=radiadomain5, cn=radia
オブジェクトのクラス	top service nvdservice

先頭に戻る

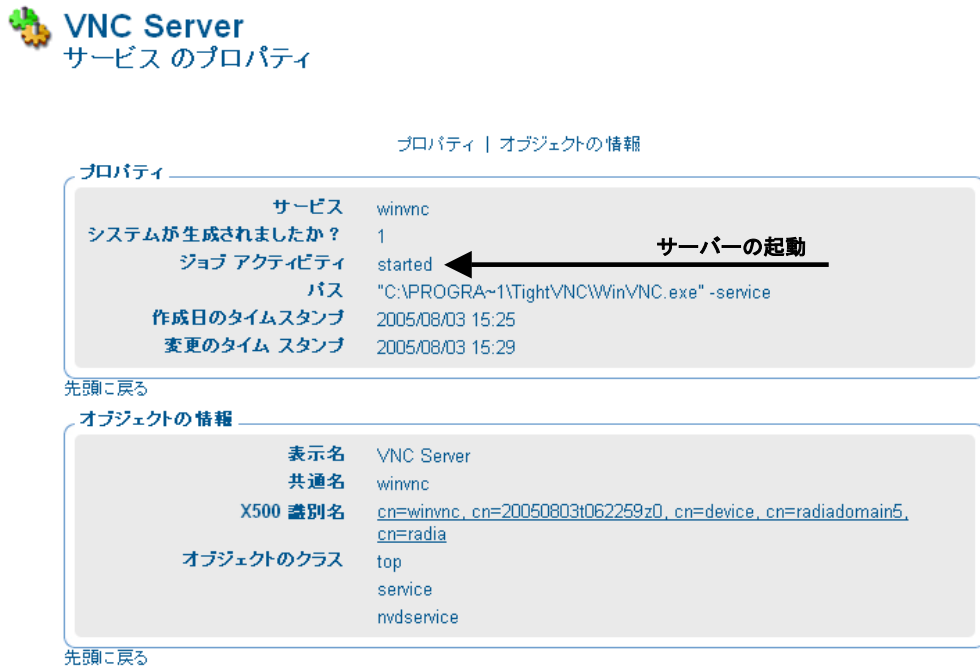


図 5.70 ~ VNC サーバーの起動

8. [オペレーション] タスクの一覧から [ビューアーの起動] をクリックして、VNC セッションを開始します。

VNC 認証を行うためのウィンドウが表示されます。

#### 注意

ご使用の Web ブラウザが Java アプレットをサポートしていない場合は、"Refresh this page for remote authentication" というメッセージが表示されることがあります。Java コンポーネントは必ずインストールしてください。

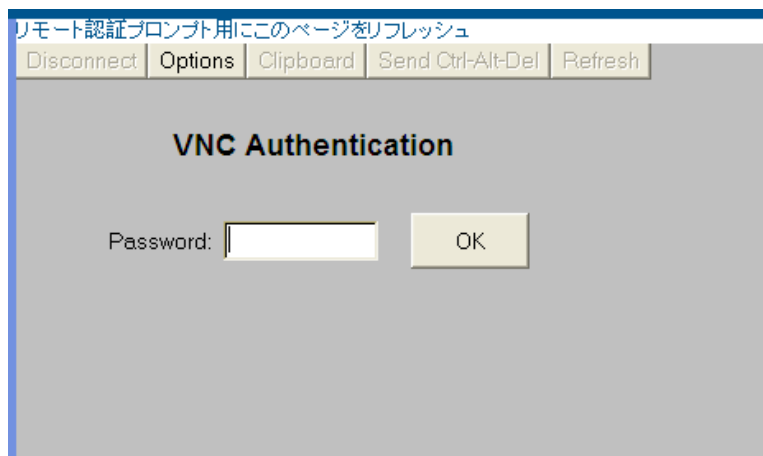


図 5.71 ~ [VNC Authentication] ページ

9. [パスワード] ボックスに、VNC セッションのパスワードを入力します。

10. **[OK]** をクリックします。

これで、**Radia Client** をリモート ロケーションから制御することができます。

**注意**

VNC セッションを新しいウィンドウに表示したり Radia Management Portal のワークスペース領域に表示したりすることができるように、**[ビューアーの起動]** タスクをカスタマイズすることが可能です。詳細については、373 ページの「**[ビューアーの起動]** タスクのプロパティをカスタマイズする」というトピックを参照してください。

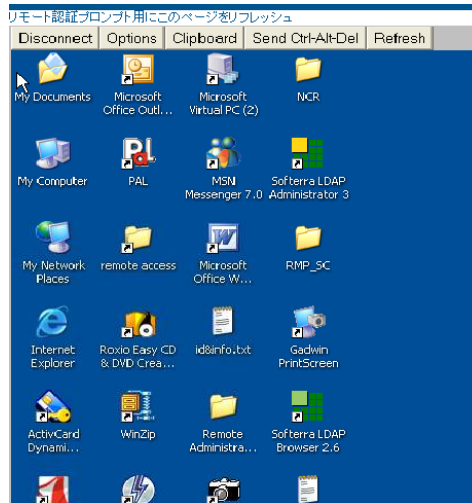



図 5.72 ~ リモートクライアントの制御

**注意**

初回リクエストだけは、ポート 5800 が使用されます。接続に使用されるポートは 5900 です。

**VNC セッションの接続を切断するには**

1. ワークスペース上部の **[Disconnect]** をクリックして、セッションの接続を切断します。RMP で別のページをブラウズすると、セッションの接続は自動的に切断されます。
2. **[オペレーション]** タスク グループの **[停止]** をクリックして、VNC サーバーを停止します。場合によっては、ワークスペースで  をクリックしてビューをリフレッシュし、開始されたサービスを確認することが必要になります。

## [ビューアーの起動] タスクのプロパティをカスタマイズする

Radia Management Portal のワークスペース領域にリモートセッションを表示する (デフォルト) 代わりに、リモートセッションが新しいウィンドウに表示できるように、Radia Management Portal の [ビューアーの起動] タスクをカスタマイズすることが可能です。その際は、VNC セッションを開始する前に、Radia Management Portal の [ビューアーの起動] タスクを修正します。

Radia Management Portal から [ビューアーの起動] タスクをカスタマイズするには

1. [Zone] の [Configuration] コンテナに移動します。
  2. ワークスペースで [Tasks] をクリックします。
  3. [ビューアーの起動] タスクをブラウザしてクリックします。
  4. [カスタム ビューアー] をクリックします。
- [オプションのプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。



図 5.73 ~ [カスタム ビューアー] の [オプションのプロパティ] ダイアログ ボックスとその設定内容

[新しいウィンドウを開く] プロパティは [Yes] に設定することもできます (デフォルトは [いいえ])。[No] を設定すると、VNC Remote Control セッションが、Radia Management Portal のワークスペースに表示されます。[Yes] を設定すると、リモートセッションが別途、新しいウィンドウに表示されます。

5. [新しいウィンドウを開く] プロパティを修正するには、[モデル管理] タスク グループの [修正] をクリックします。
6. [オプションを修正] ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスで [新しいウィンドウを開く] プロパティの値を変更します。

---

### オプション を修正

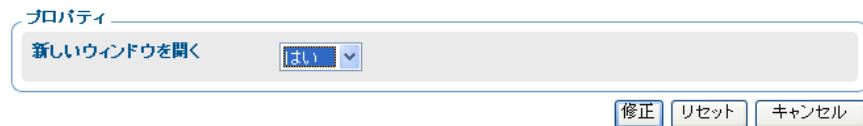


図 5.74 ~[新しいウィンドウを開く] プロパティの設定に使用する [オプションを修正] ダイアログボックス

7. [新しいウィンドウを開く] ボックスの一覧から [はい] または [いいえ] をクリックします。[いいえ] を設定すると、VNC Remote Control セッションが、Radia Management Portal のワークスペースに表示されます。[はい] を設定すると、リモートセッションが別途、新しいウィンドウに表示されます。
8. [修正] をクリックして、設定した内容を保存します。

## リモート制御を設定する

リモート制御サービスの各種パラメータを設定して、サーバーの動作を制御することができます。その際、Radia System Explorer の Registry Editor を使用します。

### リモート制御パラメータを設定するには

1. [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] をポイントします。次に、[Radia Administrator] をポイントし、[Radia System Explorer] をクリックします。
2. [Radia System Explorer のセキュリティ情報] ダイアログ ボックスの [ユーザー ID] にユーザー ID、[パスワード] にパスワードを入力し、[OK] をクリックします。
3. [PRIMARY]、[SOFTWARE]、[Application (ZSERVICE)]、[Remote Control] の順にクリックします。

4. [TightVNC] をダブルクリックし、さらに TightVNC のレジストリ リソース (最下位にあるアイテム) をダブルクリックします。

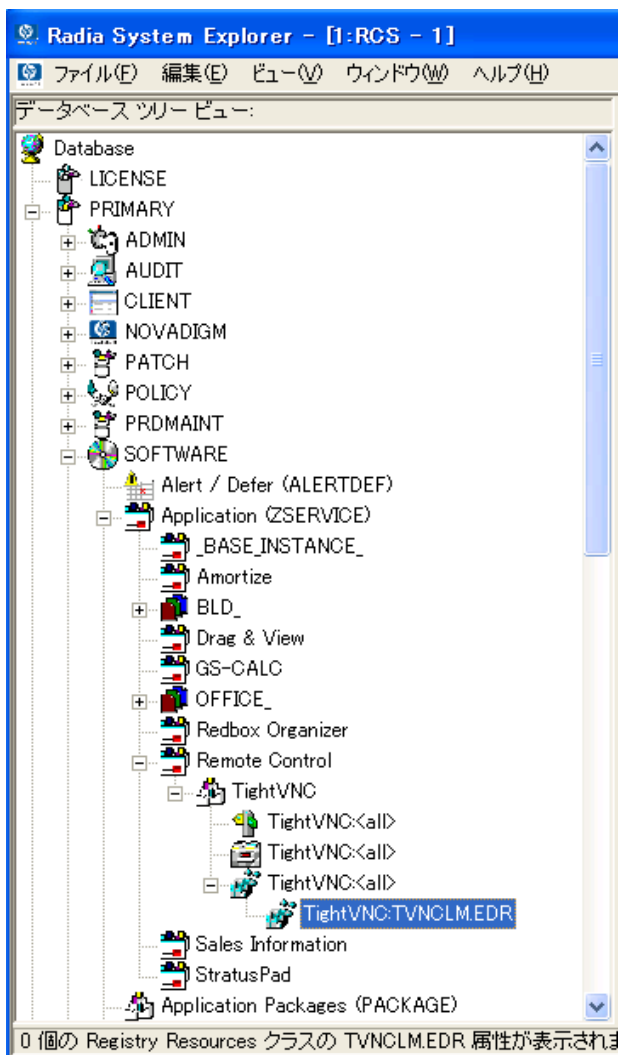


図 5.75 ~ Remote Control のレジストリ リソース

5. [TightVNC:TVNCLM.EDR] を右クリックし、[レジストリ リソースを編集] をクリックします。
6. [WinVNC3] に移動し、ローカル マシンに固有の設定内容を表示します。

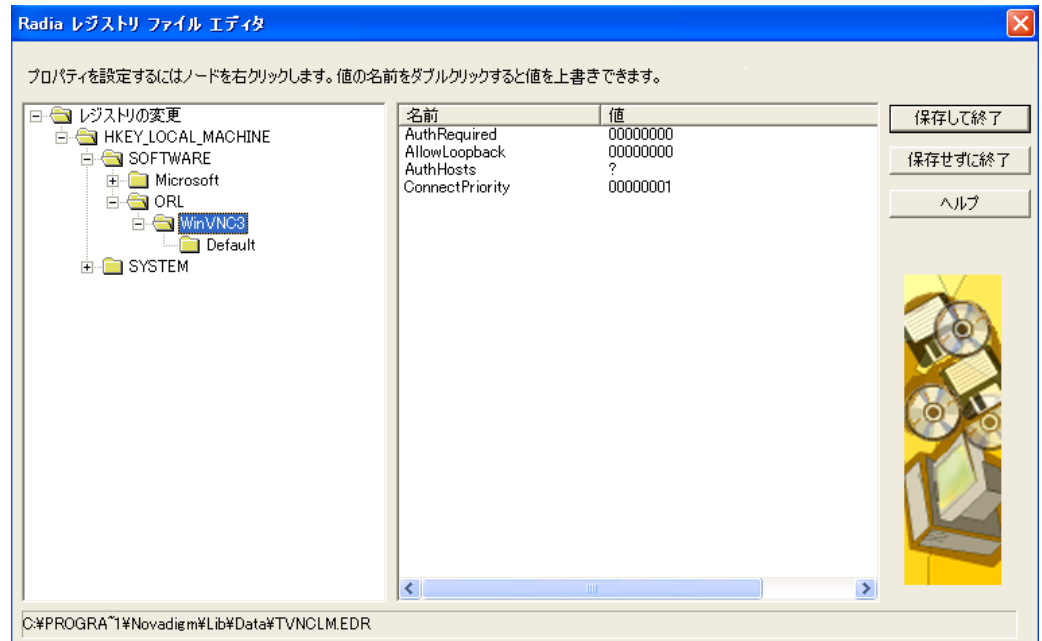


図 5.76 ~ レジストリ ファイル エディタ



表 5.4 ~ TightVNC サービスに関するローカル マシン固有の設定

プロパティ	説明
[AuthRequired]	1 (デフォルト) を設定すると、サービス開始時にパスワードの指定が必要になります。 0 を設定すると、WinVNC による null パスワードのチェックが無効になります。 DWORD 形式を使用します。
[AllowLoopback]	0 を設定すると、ローカル マシンのリモート制御が無効になります。 1 を設定すると、ローカル マシンのリモート制御が有効になります。 DWORD 形式を使用します。
[AuthHosts]	接続要求に対して接続が許可されるための条件となる IP アドレスのテンプレートを指定します。デフォルトでは、テンプレートは指定されておらず、すべてのホストからの接続が許可されます。以下の 3 つの指定方法があります - IP アドレス - 接続が許可されない IP アドレスの範囲を指定します。 ? IP アドレス - その都度入力を要求する IP アドレスの範囲を指定します。 + IP アドレス - 接続が許可される IP アドレスの範囲を指定します。 <b>例:</b> +192.10,-192.10.12 このパラメータは、QuerySettings パラメータと連動させて使用します。 STRING 形式を使用します。
[ConnectPriority]	デフォルトでは、非共有接続が認証された時点で、TightVNC サーバーにおける既存の接続は切断されます。 設定できる値と、その場合の動作は以下のとおりです。 0 - 既存の接続をすべて切断する 1 - 既存の接続をすべて維持する 2 - 新規の接続をすべて拒否する DWORD 形式を使用します。

7. **[Default]** をクリックして、設定可能なローカル ユーザーのデフォルト プロパティを表示します。

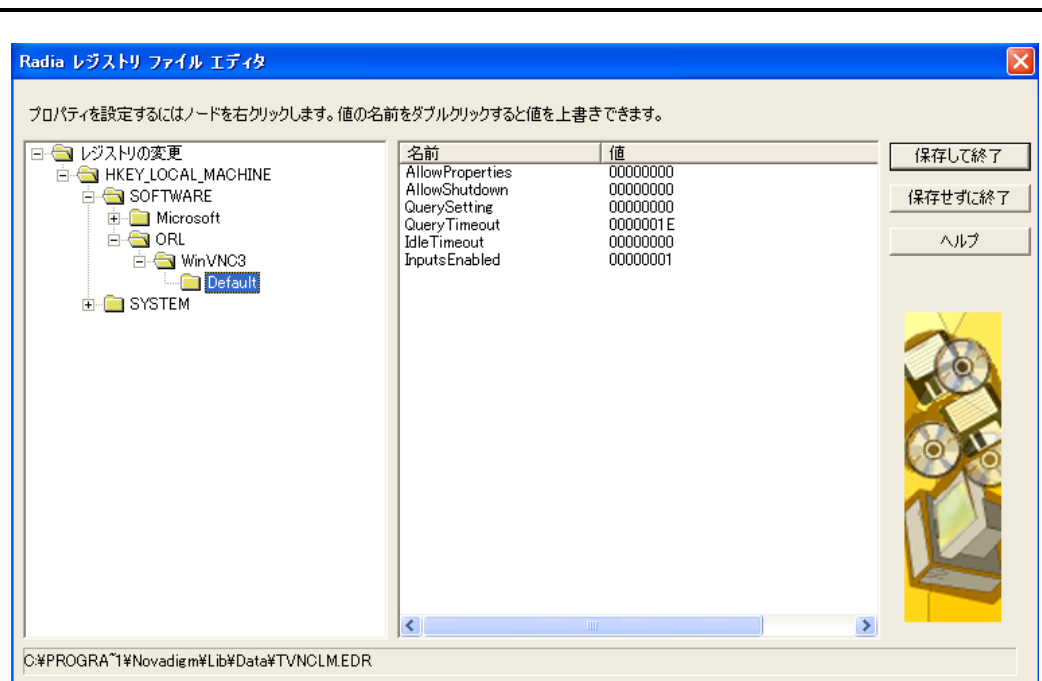


図 5.77 ~ レジストリ ファイル エディタ

表 5.5 ~ TightVNC サービスに関するローカル ユーザーのデフォルト プロパティ

プロパティ	説明
[AllowProperties]	<p>0 を設定すると、設定を変更するための [プロパティ] ダイアログ ボックスが使用できなくなります。</p> <p>1 を設定すると、[プロパティ] ダイアログ ボックスを使用して設定を変更することができます。</p> <p>DWORD 形式を使用します。</p>
[AllowShutdown]	<p>0 を設定すると、ユーザーが TightVNC サーバーをシャットダウンすることはできません。</p> <p>1 を設定すると、ユーザーが TightVNC サーバーをシャットダウンすることが可能になります。</p> <p>DWORD 形式を使用します。</p>
[QuerySetting]	<p>接続要求の際、ユーザーに対して入力ウィンドウを表示するかどうかを設定します。この設定は、[AuthHosts] と連動させて使用する必要があります。</p> <p>設定値は以下のとおりです。</p> <p>0 または 1 - 接続要求の際、入力ウィンドウは表示されません。</p> <p>2 - 接続要求の際、入力ウィンドウが表示されます (デフォルト)。</p> <p>DWORD 形式を使用します。</p>
[QueryTimeout]	<p>リモート制御セッションを開始する際、ユーザーに対してメッセージ パネルを表示しておく時間の長さを指定します (秒単位)。このパネルには、セッションを開始するかどうかのメッセージが表示されます。</p> <p>DWORD 形式を使用します。</p>
[IdleTimeout]	<p>VNC クライアントがアイドル状態になってから接続を切断されるまでの時間の長さを指定します (秒単位)。値を設定しないかまたは 0 を設定すると、接続が強制的に切断されることはありません。</p> <p>DWORD 形式を使用します。</p>
[InputsEnabled]	<p>接続要求において入力情報が送信できるようにすることが可能です。</p> <p>1 を設定すると、リモート コンピュータと対話形式で通信することが可能になります。</p> <p>0 を設定すると、リモート コンピュータを表示することはできませんが、対話形式で通信することはできなくなります。</p> <p>DWORD 形式を使用します。</p>

## まとめ

- ネットワーク上のコンピュータが Radia Management Portal で管理できる状態にするには、[**コンピュータの管理**] タスクを使用します。このオペレーションは、Radia Management Portal からその他すべてのオペレーションを実行するための前提となるものです。
- Radia Management Portal のタスクはいずれも、ほぼ同じライフサイクルで実行されます。
- タスクの開始ロケーションは、そのタスクのオーディエンスにより決まります。通常の開始ロケーションは、[**Groups**] コンテナまたは [**Cross References**] コンテナに含まれるグループです。
- ジョブの作成は、連続的に表示されるいくつかのダイアログ ボックスを使用して行います。これらのダイアログ ボックスでは、ジョブの実行対象の制限、オブジェクトの選択、ジョブ オプションの指定、スケジュール情報の指定、ジョブの内容の確認などを行います。
- ターゲット デバイスに対してアクションを実行する場合は、通知タスクを使用します。
- タスク テンプレートを追加することにより、通知、Proxy Server のインストール、複数のゾーンで実行するジョブのスケジュールといったタスクを効率的に実行することが可能です。
- リモート インストールを実行する際は、あらかじめ Radia Management Portal のメディア ディレクトリに必要なファイルをコピーしておく必要があります。
- [**管理エージェントのインストール**] タスクを使用すると、Radia 管理エージェントをリモート デバイスに配布することができます。
- [**Radia Client のインストール**] タスクを使用すると、Radia Client をリモート デバイスに配布することができます。
- [**Proxy Server のインストール**] タスクを使用すると、Radia Proxy Server をリモート デバイスに配布することができます。
- [**Proxy Server の同期**] タスクを使用すると、Radia Configuration Server のファイルを Radia Proxy Server 上のスタティック キャッシュへブロードすることができます。
- [**ダイナミック キャッシュのパージ**] タスクを使用すると、Radia Proxy Server のダイナミック キャッシュをパージすることができます。
- リモート インフラストラクチャ製品の管理には、[**開始**]、[**停止**]、[**一時停止**]、[**再開**]、および [**リジューム**] の各タスクを使用することができます。
- [**Management Portal のインストール**] タスクを使用すると、企業内に追加のゾーンを作成することができます。リモート インストールされたゾーンには、[**Zone Access Points**] コンテナから [**下位ゾーンを開く**] を使用してアクセスすることができます。
- 同じ名前を持つグループまたは [**Cross References**] グループを使用すると、ジョブが企業内の複数のゾーンに対して実行できるようにスケジュールできます。
- [**リモート制御**] を使用すると、TightVNC がインストールされている Radia Client をリモートロケーションから管理することができます。

# トラブルシューティング

この章は以下を目的としています。

- Radia Management Portal のログ ファイルに理解する。
- 共通のメッセージのタイプに理解する。
- HP テクニカル サポートに問い合わせる前に、収集しておく必要のある情報に理解する。
- Portal ゾーン ディレクトリ (ZONE.MK) ファイルの圧縮およびバックアップ ユーティリティに理解する。

## ログ ファイルについて

Radia Management Portal では、複数のログが書き込まれます。これらのログを使用すると、進行状況を追跡したり、問題を診断したりすることができます。Windows の場合、Radia Management Portal のログ ファイルは、デフォルトで **SystemDrive:\Novadigm\IntegrationServer\logs** に格納されます。

ログ ファイルには次のものがあります。

- **httpd-port.log**

Radia Management Portal のメインのログです。このログには、Radia Management Portal で実行したアクション、オペレーションの統計、および Radia Management Portal のバージョン番号とビルド番号に関する情報が記録されます。

*port* は、使用しているポート番号に置き換えます (たとえば、**httpd-3466.log**)。

Web サーバーを起動するたびに、新しいログが書き込まれます。古いログは、**httpd-port.nn.log** の形式で名前が変更されて保存されます。

- **httpd-port.YY.MM.DD.log**

このログには、日単位の Web サーバーのアクティビティが記録されます。このログが空の場合は、その日にアクティビティがなかったことを意味します。

- **httpd-3466.error.txt**

このログには、プレフィックス **ERROR** を含むログに書き込まれたメッセージが記録されます。これにより、1 つのロケーションですべてのエラーを表示することができます。

## トレース レベルを設定する

デフォルトでは、トレース レベルは **3** に設定されています。これは、情報のトレース レベルです。この場合、情報、警告、エラーのタイプのメッセージが表示されます。詳細については、**385** ページの「**共通のメッセージのタイプ**」を参照してください。

## ログのトレース レベルを変更するには

1. **httpd.rc** ファイルを開きます。このファイルは、Radia Management Portal が動作しているコンピュータの **SystemDrive:¥Novadigm¥IntegrationServer¥etc** ディレクトリにあります。次に、このファイルの抜粋を示します。

---

```
# Config Array
# Element      Default
# =====
# HOST         [info hostname]
# PORT         3466
# HTTPS_HOST   [info hostname]
# HTTPS_PORT   443
# DEBUG        0
# DOCROOT      [file join $home htdocs]
# IPADDR       {}
# HTTPS_IPADDR {}
# WEBMASTER    support@novadigm.com
# UID          50
# GID          100
# NAME         $tcl_service
# LOG_LEVEL    3
# LOG_LIMIT    7
#
Overrides Config {
    PORT3466
    HTTPS_PORT 443
    LOG_LEVEL 4
}
#
# (Re)Initialize Logging
#
Log_Init
```

図 6.1 ~ LOG\_LIMIT のレベルを 4 に設定する部分を示す httpd.rc の抜粋

---

2. **Overrides Config** の開始波かっこと左波かっこ ({} ) の間に、**LOG\_LEVEL** と適切なトレースレベルをスペースで区切って入力します。次の表を参考に適切なトレースレベルを選択してください。

**表 6.1 ~ トレース レベル**

トレース レベル	説明
0	ログへの記録は行われません。
1	エラーのみがログに記録されます。
2	警告およびエラーがログに記録されます。
3	情報メッセージ、警告、およびエラーがログに記録されます。 <i>一般のカスタマー向けのトレース レベルの推奨設定です。</i>
4	すべてのデバッグ情報がログに記録されます。 <i>経験のあるカスタマー向けの推奨設定です。</i>
5 - 9	完全なトレースが行われます。 <i>一般のカスタマーには非推奨の設定です。</i>

3. ファイルの変更を保存して、**Radia Integration Server** のサービスを再起動します。



## 共通のメッセージのタイプ

Radia Management Portal のメインのログ (`httpd-port.log`) では、次のメッセージのタイプが使用されます。

**表 6.2 ~ 共通のメッセージのタイプ**

メッセージのタイプ	説明/例
情報	<p>一般的な情報を提供します。次に例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>20010913 12:37:55 Info: LdifImport/4: BEGIN LDIF をインポートするジョブが開始されたことを示します。</li> <li>20010913 12:37:55 Info: RMP: Starting Scheduler... RMP Scheduler サービスが開始されたことを示します。</li> <li>20010913 12:37:55 Info: RMP: Radia Management Portal ready Radia Management Portal が起動し、実行中であることを示します。</li> </ul>
監査/成功	<p>Radia Management Portal ディレクトリのオブジェクトが正常に変更されたことを示します。</p> <p>次に例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>20010913 12:46:43 Audit/success: RMP: (who/admin) add: uid=jbanks, cn=opsys,ou=who 新しいユーザーが追加されたことを示します。</li> </ul>
監査/失敗	<p>Radia Management Portal ディレクトリのオブジェクトが正常に変更されなかったことを示します。</p> <p>次に例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>20010913 16:26:31 Audit/failure: RMP: (who/admin) add: uid=Guest, ou=who, object "uid=guest,ou=who" already exists ID が Guest のユーザーは、既に存在するため、組織単位 "who" に追加できなかったことを示します。</li> </ul>
エラー	<p>クリティカルな問題を示します。</p>
警告	<p>クリティカルではない問題を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>20010913 16:20:42 Warning: to: output to 1 job-create-reply 2 resume: no gate</li> </ul>

## HP テクニカル サポートで必要な情報を収集する

HP テクニカル サポートへの問い合わせが必要な場合は、次の情報を事前に収集してください。

1. **log** ディレクトリ。デフォルトでは、次のロケーションに格納されています。

Windows の場合、*SystemDrive*: %Novadigm%\IntegrationServer\logs

2. **nvdkit.exe** のバージョン情報。「バージョン情報のウィンドウを表示する」を参照してください。

3. **zone.mk** ファイルおよび **zone.ldif** ファイル。デフォルトでは、これらのファイルは次のロケーションに格納されています。

Windows の場合、*SystemDrive*: %Novadigm%\IntegrationServer\etc

これらのファイルの詳細については、240 ページの「*Portal* ゾーン ディレクトリのバックアップを作成する」を参照してください。


4. **etc** ディレクトリのファイルおよび **etc/zone** サブディレクトリの完全な内容。デフォルトでは、これらは次のロケーションに格納されています。

/opt/Novadigm/IntegrationServer/etc

**etc/zone** サブディレクトリには、次に示す情報に関する **\*.mk** ファイル、**\*.ldif** ファイル、および **\*.chkp** ファイルが格納されています。これらは、**Radia Management Portal** ゾーンのすべてのオブジェクトをロードするためのファイルです。

- デバイス (**device.mk**)
- (デバイスの) グループ (**group.mk**)
- ジョブ (**job.chkpt**)
- ユーザー (**user.mk**)
- クロス リファレンス デバイス グループ (**xref.mk**)
- **config** フォルダには、エンタイトルメント、メッセージ、タスクに関するファイル (**entitlement.mk**、**msg.mk**、および **task.mk**) が格納されています。
- **jobs** フォルダには、履歴に関するファイル (**history.mk**) が格納されています。
- **network** フォルダには、ネットワークに関するファイル (**dns.mk** および **lanmanredirector.mk**) が格納されています。

## バージョン情報のウィンドウを表示する

Radia Management Portal にログインした後、バナー領域の [情報] ボタン  をクリックすると、下の図に示すようなバージョン情報のウィンドウが表示されます。

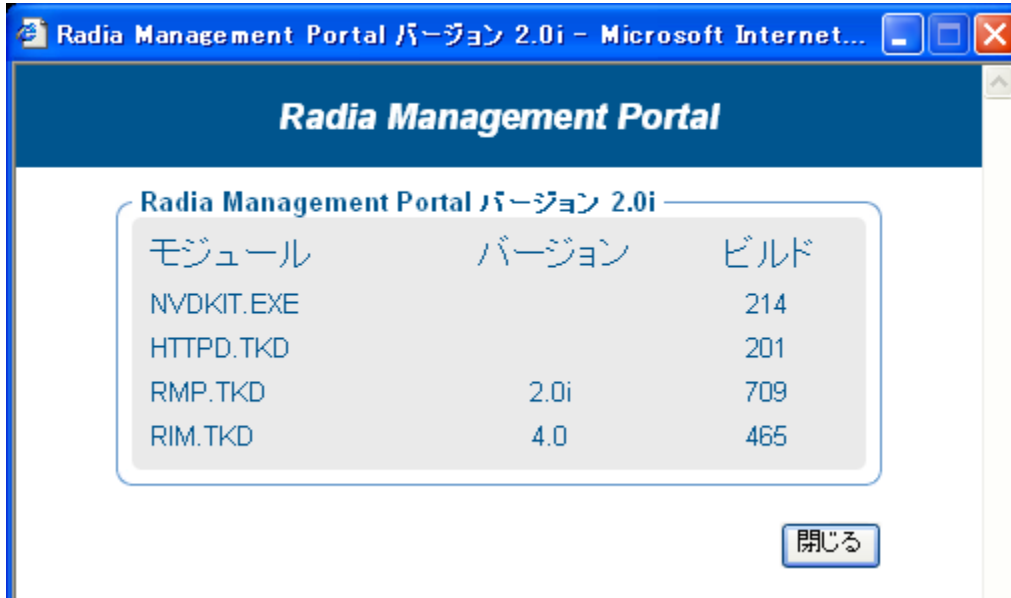


図 6.2 ~ Radia Management Portal のバージョン情報のウィンドウ

このウィンドウには、Radia Management Portal について、インストールされているモジュール (NVDKIT.EXE、HTTPD.TKD、および RMP.TKD 含め)、バージョン、およびビルドレベルが表示されます。

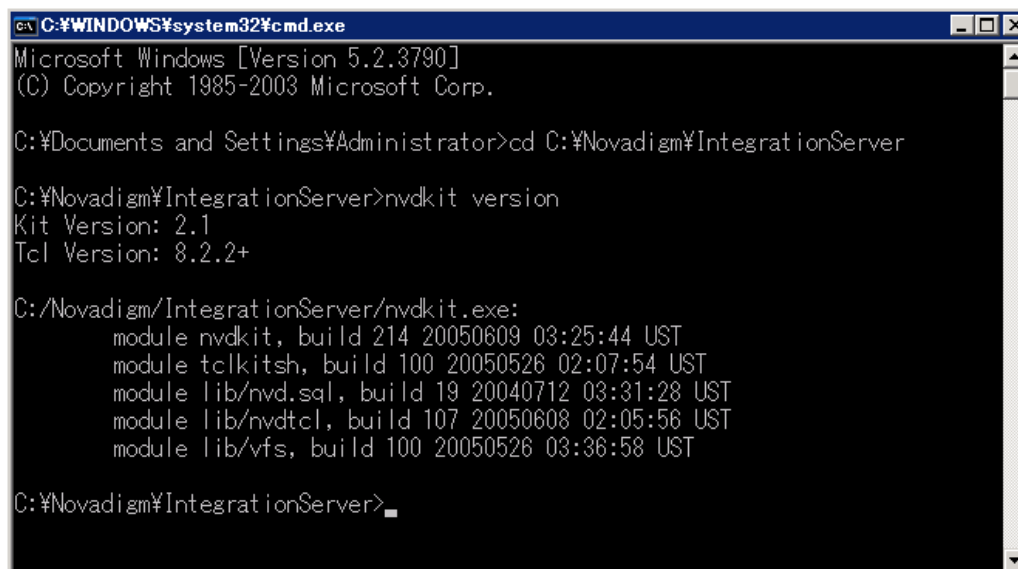
## NVDKIT.EXE のバージョン情報を収集する

NVDKIT.EXE のバージョン情報は、アクティブな Radia Management Portal セッションのバージョン情報のウィンドウのほかに、コマンドラインを使用しても確認することができます。

### NVDKIT.EXE のバージョン情報を収集するには

1. コマンドプロンプトを開きます。
2. `nvdkit.exe` が格納されているロケーションに移動します (デフォルトでは、`SystemDrive:\Novadigm\IntegrationServer`)。
3. 「`nvdkit version`」 と入力し、**Enter** キーを押します。

下の図に、バージョン情報の表示例を示します。



```
C:\WINDOWS\system32\cmd.exe
Microsoft Windows [Version 5.2.3790]
(C) Copyright 1985-2003 Microsoft Corp.

C:\Documents and Settings\Administrator>cd C:\Novadigm\IntegrationServer

C:\Novadigm\IntegrationServer>nvdkit version
Kit Version: 2.1
Tcl Version: 8.2.2+

C:/Novadigm/IntegrationServer/nvdkit.exe:
  module nvdkit, build 214 20050609 03:25:44 UST
  module tclkitsh, build 100 20050526 02:07:54 UST
  module lib/nvd.sql, build 19 20040712 03:31:28 UST
  module lib/nvdtcl, build 107 20050608 02:05:56 UST
  module lib/vfs, build 100 20050526 03:36:58 UST

C:\Novadigm\IntegrationServer>
```

図 6.3 ~ `nvdkit.exe` のバージョン情報のサンプル

### 注意

バージョン情報とビルド情報は、`httpd-port.log` でも確認することができます。

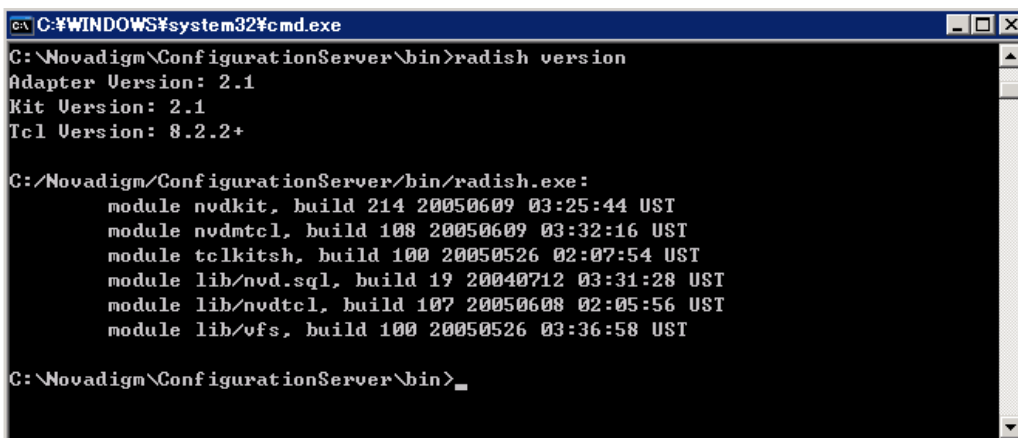
## RADISH.EXE のバージョン情報を収集する

radish.exe は、Radia Configuration Server で実行されます。このビルド (バージョン) 情報は、次に示す方法で確認することができます。

### RADISH.EXE のバージョン情報を収集するには

1. Radia Configuration Server が動作しているマシンで radish.exe が格納されているディレクトリを確認します。Windows の場合、デフォルトのロケーションは *SystemDrive:\Novadigm\ ConfigurationServer\bin* です。
2. コマンドプロンプトを開いて、radish が格納されているディレクトリに移動します。
3. 「radish version」と入力し、**Enter** キーを押します。

下の図に、バージョン情報の表示例を示します。



```

C:\WINDOWS\system32\cmd.exe
C:\Novadigm\ConfigurationServer\bin>radish version
Adapter Version: 2.1
Kit Version: 2.1
Tcl Version: 8.2.2+

C:/Novadigm/ConfigurationServer/bin/radish.exe:
  module nvdkit, build 214 20050609 03:25:44 UST
  module nvdmtcl, build 108 20050609 03:32:16 UST
  module tclkitsh, build 100 20050526 02:07:54 UST
  module lib/nvd.sql, build 19 20040712 03:31:28 UST
  module lib/nvdmtcl, build 107 20050608 02:05:56 UST
  module lib/vfs, build 100 20050526 03:36:58 UST

C:\Novadigm\ConfigurationServer\bin>
  
```

図 6.4 ~ radish.exe のバージョン情報 (nvdmtcl モジュールのビルド番号) のサンプル

4. radish.exe のビルド番号は、次の行に示す nvdmtcl モジュール (radish.exe の旧名) のビルド番号から分かります。

```
module nvdmtcl, build xx <日付> <時刻>
```

たとえば、「図 6.4 ~ radish.exe のバージョン情報 (nvdmtcl モジュールのビルド番号) のサンプル」の場合、Radia Configuration Server ではビルド 44 の radish が実行されていることが分かります (出力画面で「module nvdmtcl, build 44」と表示されています)。

#### 注意

旧バージョンの nvdmtcl というプログラムが改称され、現行の radish.exe となっています。

## Portal ゾーン ディレクトリ (ZONE.MK) ファイルを管理する


**Portal** ディレクトリ (Radia Integration Server の **¥etc** ディレクトリに格納されている zone.mk) には、デバイス、グループ、管理対象インフラストラクチャ、ジョブ ステータス、ネットワーク、マウント対象サービスに関する情報のほか、**Radia Management Portal** についての設定情報およびエンタイトルメント情報がすべてロードされます。個々のゾーンに含まれるデバイスの数は **10,000** が上限です。

実際に個々のゾーンで管理するデバイスの数は、次の数字を上限の目安としてください。

- 推奨: 1,000 から 2,000
- 最大: 5,000

企業内に新たなゾーンを作成する方法については、345 ページの「**RMP** ゾーン (下位ゾーン) を追加インストールする」を参照してください。

## まとめ

- `httpd-port.log` は、**Radia Management Portal** のメインのログです。
- デフォルトのトレース レベルは **3** に設定されています。このトレース レベルでは、情報メッセージ、警告、およびエラーを追跡します。
- **HP** テクニカル サポートへの問い合わせが必要な場合は、事前に各種ログおよびバージョン情報を収集してください。
- バージョン情報およびビルド情報は、ログオン後に **Radia Management Portal** のバナー領域の  をクリックして確認することができます。また、コマンドプロンプトを使用して、クライアント側で "`nvdkit version`"、マネージャ (**Radia Configuration Server**) 側で "`radish version`" を実行しても確認することができます。





# リスト



図 1.1 ~ あるゾーンの Radia Management Portal ディレクトリ .....	24
図 1.2 ~ Radia Management Portal の複数のゾーン .....	25
図 2.1 ~ Radia Management Portal の [ようこそ] ウィンドウ .....	32
図 2.2 ~ [エンドユーザー ライセンス契約] ウィンドウ .....	33
図 2.3 ~ [Radia Management Portal のロケーション] ウィンドウ .....	34
図 2.4 ~ [ライセンス ファイル] ウィンドウ .....	35
図 2.5 ~ [ネットワーク探索の有効化] ウィンドウ .....	36
図 2.6 ~ [ネットワーク探索の間隔] ウィンドウ .....	37
図 2.7 ~ [探索の開始遅延] ウィンドウ .....	38
図 2.8 ~ [Radia Management Portal のゾーン名を入力する] ウィンドウ .....	39
図 2.9 ~ [ゾーンの簡略名を入力する] ウィンドウ .....	40
図 2.10 ~ [インストールの設定] ウィンドウ .....	41
図 2.11 ~ インフラストラクチャ コンポーネント用のモジュールをコピーするかどうかを尋ねる メッセージ .....	42
図 2.12 ~ [リモートでインストール可能なコンポーネントのロケーション] ウィンドウ .....	43
図 2.13 ~ リモート インストール用の Radia クライアント モジュールをコピーするかどうかを尋ねる メッセージ .....	44
図 2.14 ~ [クライアント モジュールのロケーション] ウィンドウ .....	45
図 2.15 ~ Radia マニュアル ライブラリをインストールするかどうかを尋ねるメッセージ .....	46
図 2.16 ~ [パブリッシュのロケーション] ウィンドウ .....	47
図 2.17 ~ [更新タスクの選択] を実行して RMP 2.x のタスクを更新する .....	49
図 2.18 ~ Radia Configuration Server の ¥rexx¥Novadigm フォルダにある ZTASKEND .....	51
図 2.19 ~ マネージャにより Radia Management Portal がインストールされる場合に ZTASKEND へ 追加される行 .....	52

図 2.20 ~ edmprof.dat ファイルの [MGR_RMP] セクション .....	53
図 2.21 ~ [MGR_RMP] セクションの HTTP_Host に Radia Management Portal の IP アドレスまたはホスト名を指定する .....	53
図 2.22 ~ Radia Management Portal のログイン ページ .....	55
図 2.23 ~ Radia Management Portal のログイン ページ .....	57
図 2.24 ~ [人を修正] ダイアログ ボックス.....	59
図 2.25 ~ Portal 管理者のパスワードを変更後の ナビゲーション支援.....	60
図 3.1 ~ Radia Management Portal でのタスクの実行 .....	64
図 3.2 ~ Radia Management Portal 2.x のユーザー インターフェイス .....	65
図 3.3 ~ [Radia Management Portal のバージョン情報が表示される] ウィンドウのサンプル .....	67
図 3.4 ~ ナビゲーション (履歴) モードでの最初のデスクトップ ロケーション.....	68
図 3.5 ~ ナビゲーション (履歴) に記録されている以前アクセスしたロケーションのサンプル。 アスタリスク (*) は現在のロケーションを示す。 .....	69
図 3.6 ~ ナビゲーション (ロケーション) モードでのデスクトップ ロケーションのサンプル.....	70
図 3.7 ~ 権限 - デスクトップからアクセスした [Zone] コンテナ .....	70
図 3.8 ~ 権限 - [Zone] の [Network] コンテナ .....	71
図 3.9 ~ Microsoft Windows Network に含まれるオブジェクトの選択肢の表示 .....	72
図 3.10 ~ [ホーム] を使用してディレクトリまたはデスクトップに戻る .....	73
図 3.11 ~ ショートカットとしてデスクトップに追加するオブジェクト .....	74
図 3.12 ~ [Default Group へのショートカットを追加] ウィンドウ (確認用ウィンドウ) .....	74
図 3.13 ~ [Default Group] へのショートカットが追加されたデスクトップ .....	75
図 3.14 ~ [モデル管理] グループから [デスクトップからショートカットを削除] タスクを選択 .....	76
図 3.15 ~ デスクトップから削除するショートカットを選択するための [オブジェクトを削除] ウィンドウ .....	77
図 3.16 ~ デスクトップから削除するショートカットについての [要約] ページ .....	78
図 3.17 ~ 権限 - デスクトップからアクセスした [Zone] コンテナ .....	79
図 3.18 ~ 権限 - [Zone] の [Devices] コンテナ .....	80
図 3.19 ~ [Devices] コンテナへのアクセスが反映されたナビゲーション履歴のサンプル .....	81
図 3.20 ~ 3 つのデバイス グループを持つ [Zone] の [Groups] コンテナのサンプル .....	81
図 3.21 ~ 各メンバーへのリンクを持つ [Default Group] の [グループのプロパティ] ページ .....	82
図 3.22 ~ 各メンバーへのリンクを持つ [Default Group] の [デバイスのプロパティ] ページ .....	83
図 3.23 ~ [ディレクトリ管理] タスク グループの表示例 .....	84
図 3.24 ~ [モデル管理] タスク グループの表示例 (デバイス グループ用) .....	86
図 3.25 ~ [オペレーション] タスク グループの表示例 .....	89

図 3.26 ~ [ポリシー] タスク グループ .....	93
図 3.27 ~ [RCS 管理] タスク グループ .....	95
図 3.28 ~ Radia Management Portal のツール バーの表示例 .....	96
図 3.29 ~ Zone のコンテナ .....	101
図 3.30 ~ [Cross References] コンテナの [Windows XP] グループに属する [Service Pack 1] の ローケーションのサンプル .....	103
図 3.31 ~ 説明が表示された *Directory* の詳細ビュー .....	105
図 3.32 ~ [RCS 管理] タスク グループ .....	106
図 3.33 ~ [作成] ウィンドウ .....	108
図 3.34 ~ [プロパティ] ウィンドウ .....	109
図 3.35 ~ [接続を追加] ウィンドウ .....	110
図 3.36 ~ [接続を追加] ウィンドウの [クラス] 領域 .....	111
図 3.37 ~ [接続を追加] ウィンドウの [接続] 領域 .....	112
図 3.38 ~ [コピー] ウィンドウ .....	113
図 3.39 ~ [削除] ウィンドウ .....	114
図 3.40 ~ [修正] ウィンドウ .....	115
図 3.41 ~ [接続を削除] ウィンドウ .....	116
図 3.42 ~ [ポリシー] タスク グループ .....	118
図 3.43 ~ ポリシー オブジェクトの指定 .....	119
図 3.44 ~ [ポリシー オブジェクトの追加] ウィンドウ .....	120
図 3.45 ~ [グループを追加] ウィンドウ .....	120
図 3.46 ~ [グループの削除] ウィンドウ .....	121
図 3.47 ~ [ポリシーを修正] ウィンドウ .....	122
図 3.48 ~ [ポリシーのターゲットを修正] ウィンドウ .....	123
図 3.49 ~ [ポリシーの依存関係を修正] ウィンドウ .....	126
図 3.50 ~ [ポリシーの依存関係を修正] ウィンドウ .....	127
図 3.51 ~ [ポリシー フラグを修正] ウィンドウ .....	128
図 3.52 ~ [ポリシーのデフォルトを修正] ウィンドウ .....	129
図 3.53 ~ [ポリシーの上書きを修正] ウィンドウ .....	131
図 4.1 ~ 探索されたネットワークが配置された [Network] コンテナのサンプル .....	135
図 4.2 ~ Microsoft Windows Network のドメインで検出されたオブジェクト .....	136
図 4.3 ~ デフォルトの rmp.cfg ファイルのサンプル .....	137
図 4.4 ~ Microsoft Windows Network のオブジェクト クラスの階層のサンプル .....	139

図 4.5 ~ [Directory Services] コンテナのロケーションのサンプル .....	140
図 4.6 ~ [ディレクトリ サービスの追加]のロケーション .....	142
図 4.7 ~ LDAP ディレクトリ サービスに追加するディレクトリ サービスのプロパティのサンプル .....	145
図 4.8 ~ RCS のディレクトリ サービスのプロパティのサンプル .....	147
図 4.9 ~ [LDAP を修正] ページのサンプル .....	150
図 4.10 ~ RMP ゾーンから RCS データベース の Primary ファイルへのアクセス .....	152
図 4.11 ~ ディレクトリ サービスとして RCS を追加する画面 .....	153
図 4.12 ~ 外部 LDAP 認証を定義する rmp.cfg ファイルのサンプル .....	155
図 4.13 ~ ユーザーの LDAP 認証を無効にするには、[外部認証] を 0 (ゼロ) に設定 .....	157
図 4.14 ~ edm 以外の LDAP ポリシー プレフィックスを定義する rmp.cfg ファイルのサンプル .....	158
図 4.15 ~ [Zone Access Points] コンテナから Chicago ゾーンへのアクセス .....	159
図 4.16 ~ アイテムのグループを変更するタスクの概要 .....	161
図 4.17 ~ [デバイスの移動] タスクの [ブラウズおよび変更] ウィンドウのサンプル .....	162
図 4.18 ~ リストから削除するアイテムのチェック ボックスをオンにする .....	164
図 4.19 ~ 変更の準備が整った状態のリストのアイテム .....	164
図 4.20 ~ グループにアイテムを追加するテキスト ボックス .....	165
図 4.21 ~ グループにアイテムを追加するテキスト ボックス .....	166
図 4.22 ~ [ポリシーのデフォルトを修正] ウィンドウ - Amortize サービスのチェック ボックスをオンにする .....	167
図 4.23 ~ 属性エディタ .....	168
図 4.24 ~ 属性の追加 .....	169
図 4.25 ~ 追加した属性 .....	170
図 4.26 ~ 式エディタ .....	171
図 4.27 ~ 新しい式の追加 .....	172
図 4.28 ~ 式 .....	174
図 4.29 ~ ブラウズ領域のラベルで把握できる現在のナビゲーション ロケーション .....	175
図 4.30 ~ ナビゲーションのロケーション モードと履歴モードを切り替えるには、タイトルバーのアイコンをクリック .....	177
図 4.31 ~ [Zone] の [Groups] コンテナのサンプル .....	178
図 4.32 ~ [デバイスの追加] ダイアログ ボックス .....	178
図 4.33 ~ [Default Group] コンテナに正常に追加された "A Test 900" デバイス .....	179
図 4.34 ~ デバイスに対して生成された共通名のサンプル .....	180
図 4.35 ~ 新たに追加したデバイスのプロパティの表示 (RMA をインストールしていない状態).....	181

図 4.36 ~ Radia 管理エージェントをインストールした後のデバイスのプロパティ .....	182
図 4.37 ~ ナビゲーションのロケーション モードと履歴モードを切り替えるには、タイトルバーの アイコンをクリック .....	183
図 4.38 ~ [Zone] の [Groups] コンテナのサンプル .....	184
図 4.39 ~ デバイスの [Test Group] の最初の [グループを修正] ウィンドウ .....	185
図 4.40 ~ ナビゲーションのロケーション モードと履歴モードを切り替えるには、タイトルバーの アイコンをクリック .....	186
図 4.41 ~ [Zone] の [Groups] コンテナのサンプル .....	186
図 4.42 ~ デバイスの [Test Group] の最初の [グループを修正] ウィンドウ .....	188
図 4.43 ~ 2 つのデバイスのチェック ボックスをオンにしたブラウザ領域 .....	189
図 4.44 ~ ブラウズ領域でチェック ボックスをオンにしたアイテムをデバイス リストに追加 .....	189
図 4.45 ~ 追加した [Test Group] のロケーションとそのコンテンツの表示 .....	190
図 4.46 ~ [デバイスの移動] タスクの最初のページ .....	191
図 4.47 ~ [デバイスの移動] タスクの要約画面の確認 .....	193
図 4.48 ~ 削除するデバイスのチェック ボックスをオンにする .....	194
図 4.49 ~ グループから削除するデバイスを確認し、[修正] をクリック .....	195
図 4.50 ~ [グループを削除] メッセージ .....	196
図 4.51 ~ 複数の子を持つグループの削除を確認するメッセージ .....	196
図 4.52 ~ [デバイスのインポート] ダイアログ ボックスで入力メソッドのオプションを選択 .....	198
図 4.53 ~ [デバイスのインポート] ウィンドウ .....	198
図 4.54 ~ [デバイスのインポート] ウィンドウ .....	199
図 4.55 ~ 権限 - [Zone] のデバイス インスタンス .....	201
図 4.56 ~ [サービスを追加] ダイアログ ボックス .....	202
図 4.57 ~ Radia Proxy Server のサービスを追加 .....	203
図 4.58 ~ [デバイスを修正] ダイアログ ボックス .....	204
図 4.59 ~ [グループの削除] メッセージ .....	205
図 4.60 ~ 複数の子を持つドメインの削除を確認するメッセージ .....	206
図 4.61 ~ 権限 - [Zone] の [Configuration] コンテナのタスク .....	207
図 4.62 ~ [タスク グループを追加] ダイアログ ボックス .....	208
図 4.63 ~ [タスク グループを修正] ダイアログ ボックス .....	209
図 4.64 ~ [タスク グループのプロパティ] ダイアログ ボックスの表示 .....	210
図 4.65 ~ 新しいタスク グループの通知オペレーション .....	211
図 4.66 ~ [タスク グループを修正] ダイアログ ボックス .....	212

図 4.67 ~ [タスク グループの削除] ダイアログ ボックス .....	213
図 4.68 ~ [代理管理を追加] ダイアログ ボックス .....	215
図 4.69 ~ [代理管理を修正] ダイアログ ボックス - [Administrations & Operators] .....	216
図 4.70 ~ [代理管理を修正] ダイアログ ボックス - 管理者およびオペレータの選択 .....	217
図 4.71 ~ [代理管理を修正] ダイアログ ボックス - タスクの選択 .....	218
図 4.72 ~ [代理管理を修正] ダイアログ ボックス - タスク グループの選択 .....	219
図 4.73 ~ [代理管理を修正] ダイアログ ボックス - 権限の選択 .....	220
図 4.74 ~ [代理管理を修正] ダイアログ ボックス - コンテナ内の権限のブラウズ .....	221
図 4.75 ~ [代理管理を修正] ダイアログ ボックス - ドメイン内の権限のブラウズ .....	222
図 4.76 ~ [代理管理を修正] ダイアログ ボックス - 権限の選択 .....	223
図 4.77 ~ [代理管理のプロパティ] ダイアログ ボックス .....	224
図 4.78 ~ [代理管理を修正] ダイアログ ボックス .....	225
図 4.79 ~ [代理管理の削除] メッセージ .....	226
図 4.80 ~ ユーザーの [代理管理のプロパティ] ダイアログ ボックス .....	227
図 4.81 ~ [Zone] の [Administrations & Operators] の権限 .....	228
図 4.82 ~ [人を追加] ダイアログ ボックス .....	229
図 4.83 ~ [人を修正] ダイアログ ボックス .....	231
図 4.84 ~ [人のプロパティ] ダイアログ ボックス .....	232
図 4.85 ~ [人を修正] ダイアログ ボックス .....	233
図 4.86 ~ [人の削除] メッセージ .....	234
図 4.87 ~ [Zone] の [Administrations & Operators] の権限 .....	235
図 4.88 ~ [グループを追加] ダイアログ ボックス .....	235
図 4.89 ~ [管理者およびオペレータのグループを修正] ダイアログ ボックス .....	236
図 4.90 ~ グループの追加の [管理者およびオペレータのグループのプロパティ] ダイアログ ボックス .....	237
図 4.91 ~ [グループを修正] ダイアログ ボックス .....	238
図 4.92 ~ [管理者およびオペレータのグループの削除] メッセージ .....	239
図 4.93 ~ backup サブディレクトリとその内容 .....	241
図 4.94 ~ [バックアップのサブメット] の [バックアップ オプション] ダイアログ ボックス .....	243
図 4.95 ~ [バックアップのサブミット] の [要約] ダイアログ ボックス .....	244
図 4.96 ~ [復元のサブミット] の [ファイル] ダイアログ ボックス .....	245
図 4.97 ~ [復元のサブミット] の [確認] ダイアログ ボックス .....	246
図 4.98 ~ [復元のサブミット] の [完了] ダイアログ ボックス .....	246

図 4.99 ~ [ディレクトリのクエリ] ダイアログ ボックス.....	247
図 4.100 ~ クエリの結果.....	249
図 4.101 ~ [エクスポートのサブミット] の [エクスポート オプション] ダイアログ ボックス.....	250
図 4.102 ~ [エクスポートのサブミット] の [要約] ダイアログ ボックス.....	251
図 4.103 ~ エクスポートが正常に完了したことを示すジョブのステータス ウィンドウ.....	252
図 4.104 ~ [インポートのサブミット] の [ファイルの選択] ダイアログ ボックス.....	253
図 4.105 ~ [インポートのサブミット] の [ルートの選択] ダイアログ ボックス.....	254
図 4.106 ~ [インポートのサブミット] の [選択内容のインポート] ダイアログ ボックス.....	255
図 4.107 ~ [インポートのサブミット] の [選択内容のインポート] ダイアログ ボックス.....	256
図 4.108 ~ Portal ディレクトリへのインポートの結果.....	257
図 4.109 ~ [Zone] の [Configuration] の [Tasks] コンテナに表示される [ポータル タスクを更新] ..	258
図 4.110 ~ [更新タスクの選択] ダイアログ ボックス.....	259
図 4.111 ~ [更新のサブミット] の [更新タスクの選択] ダイアログ ボックス.....	260
図 4.112 ~ クリックしたステータスのジョブの表示.....	262
図 4.113 ~ [ジョブグループを修正] ダイアログ ボックス.....	263
図 4.114 ~ [ジョブのクエリ] ダイアログ ボックス.....	265
図 4.115 ~ 失敗したジョブ グループのクエリの結果.....	266
図 4.116 ~ 失敗した [管理エージェントのインストールのジョブ] を再開すると、ステータスが アクティブとして表示される.....	267
図 4.117 ~ [ジョブ グループを停止] メッセージ.....	268
図 4.118 ~ [ジョブ グループを無効化] メッセージ.....	269
図 4.119 ~ [ジョブ グループを有効化] メッセージ.....	269
図 4.120 ~ [ジョブ グループの削除] メッセージ.....	270
図 4.121 ~ 2004 年 4 月 30 日のジョブの履歴ファイル.....	271
図 4.122 ~ [グループのプロパティ] ダイアログ ボックス.....	272
図 5.1 ~ Microsoft Windows Network のドメインから選択されたコンピュータ.....	279
図 5.2 ~ [コンピュータの管理] タスクを選択後の Radia Management Portal.....	280
図 5.3 ~ タスクのライフサイクル.....	282
図 5.4 ~ 通常の開始ロケーション ([Zone] の [Groups] コンテナに含まれるグループ)のサンプル.....	283
図 5.5 ~ [ディレクトリのクエリ] ダイアログ ボックス.....	284
図 5.6 ~ [選択] ダイアログ ボックス.....	286
図 5.7 ~ 通知のサブミット - [スケジュール] ダイアログ ボックス (Windows).....	288
図 5.8 ~ [通知のサブミット] の [通知-オプション] ダイアログ ボックス.....	292

図 5.9 ~ [ジョブ ステータス] ウィンドウ .....	293
図 5.10 ~ [ヘルプ デスク] タスク グループから通知を行う .....	295
図 5.11 ~ [ヘルプ デスク通知] の [ジョブ ステータス] ウィンドウの表示例 .....	295
図 5.12 ~ 通知タスクのロケーション .....	296
図 5.13 ~ [オプションのプロパティ] ダイアログ ボックス .....	297
図 5.14 ~ [オプションを修正] ダイアログ ボックス .....	298
図 5.15 ~ 修正後の [オプションのプロパティ] .....	299
図 5.16 ~ [通知のサブミット] の [通知オプション] ダイアログ ボックスの表示例 .....	300
図 5.17 ~ 権限 - [通知] .....	301
図 5.18 ~ [オプションを追加] ダイアログ ボックス .....	302
図 5.19 ~ [オプションのプロパティ] ダイアログ ボックス .....	303
図 5.20 ~ ¥media ディレクトリの中にある <code>extended_infrastructure</code> のディレクトリ構成 .....	305
図 5.21 ~ Radia 管理エージェントを強制的に再インストールするためのタスク オプションの 修正 .....	307
図 5.22 ~ [管理エージェントのインストール] の リモート オプション ダイアログ ボックス .....	309
図 5.23 ~ [管理エージェントのインストール] の [要約] ダイアログ ボックス .....	311
図 5.24 ~ インストールされた Radia 管理エージェント .....	312
図 5.25 ~ [クライアントのインストール] の [クライアント オプション] ダイアログ ボックス .....	315
図 5.26 ~ クライアント インストール プロファイルの追加のロケーション .....	318
図 5.27 ~ クライアント インストール プロファイルのエントリのサンプル .....	319
図 5.28 ~ クライアント インストール プロファイルのプロパティのサンプル .....	320
図 5.29 ~ クライアント インストール プロファイルのロケーション .....	321
図 5.30 ~ [インストール プロファイルを修正] ダイアログ ボックス .....	321
図 5.31 ~ DOCTEST 上の Radia 管理エージェントにより検出された Radia Proxy Server .....	323
図 5.32 ~ [Zone] の [Cross References] コンテナに含まれる [Managed Services] コンテナ .....	325
図 5.33 ~ Radia Configuration Server へ接続したサブスクライバの一覧 .....	325
図 5.34 ~ [プロパティのコンテナの一覧] ウィンドウ .....	326
図 5.35 ~ [SOFTWARE] コンテナ .....	327
図 5.36 ~ Radia 管理対象サービスの一覧 .....	328
図 5.37 ~ [プロパティのサービスの一覧] ウィンドウ .....	329
図 5.38 ~ [Proxy Server のインストール] の [インストール オプション] ダイアログ ボックス .....	331
図 5.39 ~ [Proxy Server のインストール] の [要約] ダイアログ ボックス .....	333
図 5.40 ~ [ジョブのステータス] ページ .....	334



図 5.41 ~ [同期のサブミット] の [要約] ダイアログ ボックス.....	337
図 5.42 ~ デバイスの Radia Proxy Server のロケーションのサンプル.....	338
図 5.43 ~ [ページのサブミット] の [要約] ダイアログ ボックス.....	339
図 5.44 ~ サンプル: [Zone Configuration] コンテナの [Task Templates] .....	341
図 5.45 ~ [タスク テンプレートを追加] ページ.....	342
図 5.46 ~ 通知タスク テンプレートに関する概要の表示例.....	343
図 5.47 ~ 新たに追加された通知タスクが表示されている [Task Templates] コンテナ .....	344
図 5.48 ~ タスク テンプレートの子を削除するかどうかの確認 (オプション) .....	345
図 5.49 ~ インフラストラクチャ コンポーネント用のモジュールをコピーするかどうかをたずねる メッセージ .....	346
図 5.50 ~ 追加 RMP ゾーンをインストールするには、リモート コンピュータに関するデバイスの プロパティを表示して [Management Portal のインストール] を選択する .....	347
図 5.51 ~ RMP のインストール時に入力する項目の表示例.....	350
図 5.52 ~ [Management Portal のインストール] の [要約] .....	351
図 5.53 ~ [Zone Access Points] へのナビゲーションパスのサンプル.....	353
図 5.54 ~ スケジュール オペレーションの対象とするゾーンを制限/選択するための [クエリ] ウィンドウ .....	354
図 5.55 ~ ゾーン オペレーションをスケジュールするゾーンの選択 .....	355
図 5.56 ~ [ゾーン オペレーションのスケジュールのサブミット] (ゾーン ジョブ オプション) .....	356
図 5.57 ~ スケジュールされたゾーン オペレーションに用いるタスク テンプレートとクエリ (ゾーン ジョブ オプション) .....	357
図 5.58 ~ [ゾーン オペレーションのスケジュールのサブミット] の [要約] ウィンドウ .....	358
図 5.59 ~ [ゾーン オペレーションのスケジュール] で作成されたゾーン ジョブ.....	359
図 5.60 ~ 下位ゾーン (Chicago) を開く .....	360
図 5.61 ~ Chicago ゾーンで開始されたジョブ [Notify Dell Latitudes Job Group] の表示 .....	361
図 5.62 ~ リモート ゾーン ポータルで個別に表示されたジョブ.....	361
図 5.63 ~ 複数のタスクに関するジョブ シーケンス.....	362
図 5.64 ~ POLICY.DEPT.Sales インスタンスと SOFTWARE ドメインの [接続の表示] ダイアログ ボックス .....	364
図 5.65 ~ リモート制御サービスを Sales インスタンスに接続 (ドラッグ) する .....	365
図 5.66 ~ Sales 部門に対して認可された Remote Control サービス .....	366
図 5.67 ~ VNC サーバーのプロパティ .....	367
図 5.68 ~ [パスワードを設定] ダイアログ ボックス.....	368
図 5.69 ~ VNC サーバーのプロパティ .....	369

図 5.70 ~ VNC サーバーの起動.....	370
図 5.71 ~ [VNC Authentication] ページ.....	371
図 5.72 ~ リモートクライアントの制御.....	372
図 5.73 ~ [カスタム ビューアー] の [オプションのプロパティ] ダイアログ ボックスとその 設定内容.....	373
図 5.74 ~ [新しいウィンドウを開く] プロパティの設定に使用する [オプションを修正] ダイアログ ボックス.....	374
図 5.75 ~ Remote Control のレジストリ リソース.....	375
図 5.76 ~ レジストリ ファイル エディタ.....	376
図 5.77 ~ レジストリ ファイル エディタ.....	378
図 6.1 ~ LOG_LIMIT のレベルを 4 に設定する部分を示す httpd.rc の抜粋.....	383
図 6.2 ~ Radia Management Portal のバージョン情報のウィンドウ.....	387
図 6.3 ~ nvdkit.exe のバージョン情報のサンプル.....	388
図 6.4 ~ radish.exe のバージョン情報 (nvdmtcl モジュールのビルド番号) のサンプル.....	389

## 表

表 P.1 ~ RMP 2.0 の新規トピック .....	7
表 P.1 ~ スタイル .....	9
表 P.2 ~ 用法.....	9
表 P.3 ~ 用語 .....	10
表 4.1 ~ ネットワーク探索の設定パラメータ .....	138
表 4.2 ~ タイプによるディレクトリ サービスの追加.....	142
表 4.3 ~ [タイプ] = [ds-ldap] の場合のディレクトリ サービスのプロパティ .....	143
表 4.4 ~ [タイプ] = [ds-rcs] の場合のディレクトリ サービスのプロパティ .....	146
表 4.5 ~ [タイプ] = [ds-mk] の場合のディレクトリ サービスのプロパティ .....	148
表 4.6 ~ アクセスするディレクトリおよびマウント ポイントのロケーション .....	152
表 4.7 ~ 外部 LDAP 認証の rmp.cfg のパラメータ .....	156
表 4.8 ~ カスタム ポリシー プレフィックスを設定するパラメータ .....	159
表 4.9 ~ [Zone] コンテナの [Devices] コンテナへのコンピュータの追加方法.....	160
表 4.10 ~ 演算子 .....	173
表 4.11 ~ backup サブディレクトリの内容の例 .....	241
表 5.1 ~ 通知ジョブ完了のオプション .....	303
表 5.2 ~ [Management Portal のインストール] の [ゾーン オプション].....	348
表 5.3 ~ [Management Portal のインストール] の [リモート クライアントの資格].....	349
表 5.4 ~ TightVNC サービスに関するローカル マシン固有の設定 .....	377
表 5.5 ~ TightVNC サービスに関するローカル ユーザーのデフォルト プロパティ .....	379
表 6.1 ~ トレース レベル .....	384
表 6.2 ~ 共通のメッセージのタイプ .....	385

## 手順

Radia Management Portal 2.x をインストールするには .....	32
Radia Management Portal からログオフするには .....	49
Radia Management Portal に必要な行が、ZTASKEND に含まれていることを確認するには .....	50
EDMPROF.DAT ファイルを編集するには .....	53
Radia Management Portal を起動するには .....	54
Radia Management Portal を停止するには .....	54
Radia Management Portal にアクセスするには .....	55
Radia Management Portal にログオンするには .....	56
Radia Management Portal からログオフするには .....	57
パスワードを変更するには .....	58
Radia Management Portal でタスクを実行するには .....	64
Portal ディレクトリおよび Microsoft Windows Network にアクセスするには .....	70
デスクトップにショートカットを追加するには .....	73
デスクトップからショートカットを削除するには .....	76
Zone 内のコンテナ間を移動するには .....	79
インスタンスを追加するには .....	108
コンポーネントをインスタンスに追加するには .....	110
インスタンスをコピーするには .....	113
インスタンスを削除するには .....	114
インスタンスを修正するには .....	115
接続を削除するには .....	116
ポリシー オブジェクトを追加するには .....	119
ポリシー オブジェクトを削除するには .....	121
ポリシーを修正するには .....	122
ターゲットを修正するには .....	123
管理対象サービスのキャッシュをリフレッシュするには .....	124
例 .....	125
依存関係を修正するには .....	126
例 .....	128
フラグを修正するには .....	128
例 .....	129

デフォルト値を修正するには .....	129
例 .....	130
上書きを修正するには .....	130
ネットワーク探索を設定するには .....	137
ディレクトリ サービスを追加するには .....	142
ディレクトリ サービスのプロパティを変更するには .....	149
ディレクトリ サービス オブジェクトを削除するには .....	151
事前定義されたディレクトリ サービスを起動するには .....	152
デバイスに対して定義されたサービスを開始するには .....	153
ディレクトリ サービスを停止するには .....	154
デバイスに対して定義されたサービスを停止するには .....	154
<b>Radia Management Portal</b> で外部 LDAP 認証を有効にするには .....	155
<b>Radia Management Portal</b> で (edm 以外の) カスタム LDAP ポリシー プレフィックスを 設定するには .....	158
リスト内の 1 つまたは複数のアイテムを削除するには .....	164
リストの 1 つまたは複数のアイテムを変更するには .....	164
手動でリストにアイテムを追加するには .....	165
属性エディタを使用するには .....	167
式エディタを使用するには .....	171
単一デバイスを追加するには .....	177
デバイスのグループを追加するには .....	183
新しいグループにデバイスを追加するには .....	186
グループにデバイスを移動するには .....	191
グループからデバイスを削除する .....	194
デバイスのグループを削除するには .....	196
テキスト ファイルまたはリストからデバイスをインポートするには .....	197
サービスを追加するには .....	201
オブジェクトを変更するには .....	204
オブジェクトおよびその子オブジェクトを削除するには .....	205
タスク グループを追加するには .....	207
タスク グループを変更するには .....	211
タスク グループを削除するには .....	213
代理管理ロールを追加するには .....	215

代理管理ロールを変更するには .....	224
代理管理ロールを削除するには .....	226
ユーザーの代理管理のクエリを行うには .....	226
ユーザーを追加するには .....	228
ユーザーを変更するには .....	233
ユーザーを削除するには .....	234
グループを追加するには .....	235
グループを修正するには .....	238
グループを削除するには .....	239
<b>Radia Management Portal</b> ディレクトリをバックアップするには.....	242
<b>Radia Management Portal</b> ディレクトリを復元するには.....	245
クエリを実行するには.....	247
<b>Radia Management Portal</b> ディレクトリをエクスポートするには.....	249
<b>Radia Management Portal</b> ディレクトリをインポートするには .....	253
ポリシー タスクを更新するには .....	257
ステータスを基準にジョブをフィルタするには .....	262
ジョブ グループを修正するには .....	262
ジョブまたはジョブ グループのクエリを実行するには .....	264
ジョブ グループを停止するには .....	268
ジョブまたはジョブ グループを無効にするには .....	268
ジョブまたはジョブ グループを有効にするには .....	269
ジョブまたはジョブ グループを削除するには.....	270
ジョブ履歴を表示するには.....	271
ネットワーク上に存在するコンピュータを管理するには.....	278
ネットワーク上に存在するコンピュータのグループを管理するには.....	281
<b>Active Directory</b> に存在する 1 つまたは複数のコンピュータを管理するには.....	281
クエリを実行するには.....	285
オーディエンスを選択するには .....	287
<b>Windows</b> でジョブをスケジュールするには.....	288
オーディエンスに通知を行うには.....	291
<b>[Help Desk Tasks]</b> グループから特定のコンピュータに通知を行うには .....	294
通知コマンドのデフォルト オプションを設定するには .....	296
新しい通知コマンドを追加するには .....	301

[Radia 管理エージェントのインストール] タスク オプションを設定するには	306
Radia 管理エージェントをインストールするには	308
Radia 管理エージェントによるサブサービスの検出結果をリフレッシュするには	313
Radia Management Portal を使用して Radia 4.x クライアントをインストールするには	314
クライアント インストール プロファイルを追加するには	318
クライアント インストール プロファイルを修正するには	321
クライアント インストール プロファイルを削除するには	322
Radia Proxy Server にデバイスを割り当てるには	324
Radia サブスクライバ情報を表示するには	325
Radia Proxy Server をインストールするには	330
[Proxy Server のインストール] タスク用にあらかじめ設定された RPS.CFG ファイルを準備するには	335
1 つ以上の Radia Proxy Server を同期させるには	336
Radia Proxy Server のダイナミック キャッシュをページするには	338
サービスを管理するには	340
タスク テンプレートを追加するには	341
タスク テンプレートを削除するには	344
[Management Portal のインストール] タスクの実行に必要な準備	345
マスター ゾーンから RMP ゾーンをインストールするには	347
ゾーン オペレーションをスケジュールするには	353
リモート制御サービスをユーザーに接続するには	364
リモート管理機能を使用するには	367
VNC セッションの接続を切断するには	372
Radia Management Portal から [ビューアーの起動] タスクをカスタマイズするには	373
リモート制御パラメータを設定するには	374
ログのトレース レベルを変更するには	383
NVDKIT.EXE のバージョン情報を収集するには	388
RADISH.EXE のバージョン情報を収集するには	389





# 索引

## A

Active Directory のコンピュータ、管理.....	281
[Administrators and Operators] コンテナ.....	102
AD 認証..... 「LDAP 認証」を参照	
[AllowLoopback].....	377
[AllowProperties].....	379
[AllowShutdown].....	379
[AuthHosts].....	377
[AuthRequired].....	377

## B

backup サブディレクトリ、内容の例.....	241
---------------------------	-----

## C

CFG ファイル.....	334
[Configuration] コンテナ.....	102
[ConnectPriority].....	377
[Cross References].....	103
[Cross References] コンテナ.....	324

## D

[Devices] コンテナ.....	104
[Directory Services] コンテナ.....	102

## E

EDMPROF.DAT.....	50
------------------	----

## G

global default policy.....	214
[Groups] コンテナ.....	104

## H

history.mk	
格納先.....	386
httpd-3466.error.txt.....	382
httpd-port.log.....	382, 385, 388
httpd-port.YY.MM.DD.log.....	382

## I

[IdleTimeout].....	379
[InputsEnabled].....	379

## J

[Jobs] コンテナ.....	104
------------------	-----

## L

LDAP_AUTH_DN パラメータ.....	156
LDAP_AUTH_HOST パラメータ.....	156
LDAP_AUTH パラメータ.....	156
LDAP データ、転送.....	249
LDAP 認証	
設定 パラメータ.....	155
有効化.....	155
ユーザーおよびオブジェクトの無効化.....	155, 157
LDAP ポリシー拡張	
カスタム値.....	158
LDIF、定義.....	249

## M

[Management Portal ゾーンの簡略名].....	40
[Management Portal ゾーンの名前].....	39
[Management Portal のインストール].....	348

[Management Portal のインストール] ダイアログ ボックス .....	350
[RMP のインストール] タスク	
説明 .....	90
<b>N</b>	
NETSCAN .....	138
NETSCAN_INCLUDE_LIST.....	138, 159
NETSCAN_POLL.....	138
NETSCAN_START_DELAY.....	138
[Network] コンテナ .....	104
[Network] コンテナ .....	104
nvdkit.exe	
バージョン情報 .....	388
例 67, 387, 388	
<b>O</b>	
operations policy.....	214
<b>P</b>	
Portal Run-time.....	22
Portal 管理者ユーザー オブジェクト.....	60
Portal ディレクトリ	
アクセス .....	70
移動 .....	78
PREFIX	
rmp.cfg への追加.....	158
[Proxy Server の同期] タスク	
説明 .....	92
[Proxy Server の割り当て] タスク .....	313
[Proxy Server のインストール]	
[インストール オプション] ダイアログ ボックス .....	331
[要約] ダイアログ ボックス .....	333
[Proxy Server のインストール] タスク .....	330, 334
説明 .....	276
[Proxy Server の同期] タスク	
説明 .....	277
[Proxy Server の同期] タスク	
定期スケジュール.....	336

**Q**

[QuerySetting] .....	379
[QueryTimeout].....	379

**R**

Radia Client、インストール.....	313
[Radia Client のインストール] タスク .....	313
Radia Information Base .....	148
Radia Management Portal	
アクセス.....	55
インストール.....	31, 32
インフラストラクチャ .....	100
起動.....	54
ゾーンの簡略名.....	40
ゾーン名.....	39
停止 .....	54
バージョンとビルド..... 「httpd-port.log」を参照	
リモート インストール .....	50
ログイン ページ.....	55
ログオフ.....	49, 57
ログオン.....	56
ログ ファイル.....	382
Radia Management Portal ディレクトリのバックアップ .....	242
Radia Management Portal ゾーンディレクトリ ....	239
Radia Management Portal ディレクトリ	
インポート .....	252
エクスポート.....	249
クエリ .....	247, 284
修正.....	252
説明.....	22
トラブルシューティング .....	31, 390
認証.....	227
バックアップ.....	240, 242, 249
復元.....	245
Radia Management Portal ディレクトリのインポート .....	252
Radia Management Portal ディレクトリの	
エクスポート .....	249

Radia Management Portal ディレクトリの バックアップ .....	240	REXX スクリプト .....	51
Radia Management Portal ディレクトリの復元....	245	RIB、接続.....	148
Radia Management Portal のインストール.....	31, 32	RIS 「Radia Integration Server」を参照	
[Radia Management Portal のインストール] タスク ...	277	[RIS インストール ディレクトリ] フィールド.....	348
Radia Management Portal の起動 .....	54	[RIS サービス名のサフィックス] フィールド.....	348
Radia Management Portal の停止 .....	54	[RIS ポート] フィールド .....	348
Radia OS Manager クライアント、インストール... 313		RMA .....	「Radia 管理エージェント」を参照
Radia Patch Manager クライアント、インストール....	313	[RMA を強制的に再インストール].....	307
Radia Proxy Server		rma.log .....	312
インストール .....	330	rmp.cfg .....	137, 155, 158
[ダイナミック キャッシュのページ] タスク. 91, 277,	338	LDAP 認証パラメータ .....	155
同期.....	336	PREFIX パラメータ.....	158
[Radia Proxy Server のインストール] タスク		rmp.mk.....	22
説明.....	90	格納先.....	386
Radia REXX スクリプト .....	51	rmp.tkd .....	257
Radia サービス、リモートでの停止と開始.....	340	RMP ゾーン	
Radia インフラストラクチャの配布.....	304	インストール .....	347
Radia 管理エージェント		rps.cfg ファイル .....	331, 335
Radia Integration サブサービスの探索.....	312, 313	RPS.CFG ファイル	
インストール .....	305	事前設定 .....	335
再インストール オプション .....	306	<b>S</b>	
説明.....	22	[Proxy Server の同期] タスク .....	336
タスク オプション.....	306	system-wide access.....	214
リフレッシュ .....	313	<b>T</b>	
ログ .....	「rma.log」を参照	test global policy .....	214
Radia 管理エージェントのインストール		TightVNC クライアント、リモート制御.....	363
説明.....	90, 276	TightVNC サービス	
Radia 管理エージェントのリフレッシュ .....	313	ローカル マシンの設定.....	377
Radia サブスクライバ情報		ローカル ユーザーのプロパティ .....	379
検出.....	324	<b>V</b>	
radish.exe		[VNC server を開始] タスク .....	369
バージョン情報.....	389	VNC セッションの接続の切断.....	372
ビルド番号 .....	389	VNC サーバー .....	367
例 389		VNC セッション	
[RCS - Primary] コンテナ.....	104	接続の切断.....	372
[RCS 管理] タスク グループ .....	95		
README ファイル .....	30		

## W

[WinVNC3] ..... 376

## Z

[Zone Access Points] コンテナ ..... 360

Zone のコンテナ

移動 ..... 79

zone.mk ファイル ..... 31, 239, 241, 390

Zone の Configuration の Tasks コンテナ ..... 257

Zone のコンテナ ..... 101

ZTASKEND ..... 50

## あ

アーキテクチャ ..... 22

アイコン

進む ..... 97

戻る ..... 97

アクセス、Radia Management Portal ..... 55

## い

[依存関係の修正] タスク ..... 94

[一時停止] タスク ..... 340

移動 ..... 68

[インスタンスからコンポーネントを削除] タスク ..... 96

説明 ..... 107

[インスタンスのコピー] タスク

説明 ..... 107

[インスタンスのコピー] タスク ..... 95

[インスタンスの削除] タスク ..... 95

説明 ..... 107

[インスタンスの修正] タスク

説明 ..... 107

インストール

Radia Client ..... 313

Radia Management Portal

ウィンドウ ..... 32

準備 ..... 30

使用する CD-ROM ..... 30

Radia Proxy Server ..... 330

Radia 管理エージェント ..... 305

RMP ゾーン ..... 347

[インストール後に接続を実行しますか?] ..... 316

[インストール プロファイルを修正] ダイアログ ボックス ..... 321

インストール プロファイル ..... 317

[インストール プロファイルの追加] ..... 319

[インストール プロファイルの追加] タスク ..... 87, 317

インストール プロファイルのプロパティのサンプル ..... 320

インターフェイス

ツール バー ..... 96

バナー ..... 66

ワークスペース ..... 99

インターフェイス ナビゲーション支援 ..... 68

インフラストラクチャ

移動 ..... 100

管理 ..... 134

設定 ..... 134

[インポート] タスク ..... 85, 252

[インポートのサブミット]

[選択内容のインポート] ダイアログ ボックス ..... 255

[インポートのサブミット t]

[ファイルの選択] ダイアログ ボックス ..... 253

## う

[上書きの修正] タスク ..... 94

## え

[エクスポート] タスク ..... 85, 249

[エクスポートのサブミット]

[オプション] ダイアログ ボックス ..... 250

[要約] ダイアログ ボックス ..... 251

エンタイトルメントの変更 ..... 「設定:代理管理」を参照

[エンドユーザー ライセンス契約] ウィンドウ ..... 33

## お

オーディエンス

選択 ..... 286

通知 ..... 290

オーディエンスの選択 .....	286
オブジェクト	
削除 .....	205
変更 .....	204
オブジェクトのグループ .....	100
[オプションのプロパティ] ダイアログ ボックス .....	299
[オプションのプロパティ] ダイアログ ボックス .....	297, 303, 373
[オプションを修正] ダイアログ ボックス .....	298
[オプションを追加] ダイアログ ボックス .....	302
[オペレーション] タスク グループ	
表示例 .....	89
表示例 .....	105
<b>か</b>	
[開始] タスク .....	92
開始の遅延 .....	138
下位ゾーン .....	23
下位ゾーン、定義 .....	345
[下位ゾーンを開く] タスク .....	91, 277, 360
外部 LDAP 認証 .....	156
カスタマ サポート .....	4
管理	
Active Directory のコンピュータ .....	281
コンピュータ .....	278
コンピュータ グループ .....	281
サービス .....	340
[管理エージェントのインストール]	
リモート オプション ダイアログ ボックス .....	309
[管理エージェントのインストール] ダイアログ ボックス .....	311
[管理エージェントのインストール] タスク .....	305, 306
[管理エージェントのリフレッシュ] タスク .....	91, 312
[管理者およびオペレータのグループの削除]	
メッセージ .....	239
[管理者およびオペレータのグループのプロパティ] ダイアログ ボックス .....	237
[管理者およびオペレータのグループを修正] ダイアログ ボックス .....	236
管理対象サイト グループ .....	134

## き

[共通名] 構文オプション .....	248, 285
---------------------	----------

## く

クエリ .....	285
Radia Management Portal ディレクトリ .....	284
Radia Management Portal ディレクトリ .....	247
[共通名] 構文オプション .....	248, 285
構文のオプション .....	248, 285
代理管理 .....	226
[クエリ制約] .....	285
[クエリ] タスク	
説明 .....	88
[クエリのフィルタ] .....	285
クエリ用のダイアログ ボックス .....	284
[クライアント ポートの選択] .....	310
[クライアント ポートの選択] フィールド .....	349
クライアント インストール プロファイル .....	317
削除 .....	322
修正 .....	321
追加 .....	318
ロケーション .....	318
ロケーション .....	321
[Radia Client のインストール]	
[クライアント オプション] ダイアログ ボックス .....	315
[Radia Client のインストール] タスク .....	90, 276
[クライアント ポートの選択] .....	316
グループ	
削除 .....	239
変更 .....	238
設定 .....	227
ユーザー グループの追加 .....	235
[グループの追加] タスク .....	87
[グループのプロパティ] ダイアログ ボックス .....	272
[グループの削除] メッセージ .....	205
グループ メンバーシップ .....	236
[グループを削除] メッセージ .....	196
[グループを修正] ダイアログ ボックス .....	238
[グループを追加] ダイアログ ボックス .....	235

## け

検索パターン ..... 248, 285

## こ

[修正] タスク

説明 ..... 88

[更新のサブミット]の[更新タスクの選択]ダイアログ  
ボックス ..... 260

個人..... 「ユーザー」を参照

コンテナ

削除 ..... 205

説明 ..... 100

変更 ..... 204

コンピュータ、管理 ..... 278

コンピュータグループ、管理 ..... 281

[コンピュータの管理] タスク ..... 276, 278

[コンポーネントをインスタンスに追加] タスク ..... 95

説明 ..... 107

## さ

サーバー

削除 ..... 205

説明 ..... 100

変更 ..... 204

サービス

削除 ..... 205

説明 ..... 101

追加 ..... 200, 202

変更 ..... 204

サービス

管理 ..... 340

[サービスのプロパティ]ダイアログボックス ..... 369

サービスを開始するタスク ..... 340

[サービスを追加]ダイアログボックス ..... 202

サービスを停止するタスク ..... 340

[再開] タスク ..... 91, 340

最小化 ..... 84

最大化 ..... 84

[サイレントインストールを実行しますか?] ..... 316

削除

オブジェクト ..... 205

クライアントインストールプロファイル ..... 322

グループ ..... 239

ジョブ ..... 270

ジョブグループ ..... 270

代理管理ロール ..... 226

タスクグループ ..... 213

タスクテンプレート ..... 344

ユーザー ..... 234

[削除] タスク ..... 88, 151, 196, 205

## し

[シーケンスジョブ] タスク ..... 362

[シーケンス] タスク ..... 277

[時間ウィンドウ] ..... 288, 359

システム要件 ..... 31

リモート制御 ..... 363

事前に必要な Radia 関連の作業 ..... 30

[失敗したジョブの再開] タスク ..... 89

失敗したジョブ、再開 ..... 267

失敗したジョブの再開 ..... 267

[失敗したジョブの再開] タスク ..... 266

修正

Radia Management Portal ディレクトリ ..... 252

クライアントインストールプロファイル ..... 321

グループ ..... 238

ジョブグループ ..... 262

[通知] タスク ..... 296

パスワード ..... 58

[修正] タスク ..... 262, 263

説明 ..... 95

[修正] タスク ..... 204

主要機能

エンタイトルメント ..... 21

監査 ..... 22

クエリ ..... 22

スケジュール ..... 21

通知 ..... 21

認証 ..... 21

ネットワーク探索 .....	21	[ジョブ ステータス] ウィンドウ .....	293
リモート インストール .....	21	[ジョブ スロットリング] .....	288
リモート管理 .....	21	ジョブ スロットリング .....	359
ロギング .....	22	1 分ごとにまとめて実行する数 .....	289
詳細ビュー .....	105	修正 .....	264
ショートカット		制限 .....	289
削除 .....	76	まとめてジョブを開始 .....	264
追加 .....	73	まとめてジョブを開始する頻度、秒単位 .....	264
[常時実行するジョブ] (最大数) .....	264	[ジョブのクエリ]、説明 .....	88
[初期化ファイル] .....	316	[ジョブのクエリ] タスク .....	264
ジョブ		ジョブの [削除] タスク .....	270
管理 .....	261	ジョブの停止タスク .....	267
クエリ .....	264	ジョブのトレースを有効化 .....	264
削除 .....	270	ジョブのフィルタ .....	262
スケジュール .....	287	ジョブの優先度 .....	288
<b>Windows</b> .....	288	ジョブ履歴	
ステータスを基準にしたフィルタ .....	262	表示 .....	271
ソート .....	288	ジョブ履歴の表示 .....	271
定義 .....	276	ジョブを無効化タスク .....	268
無効化 .....	268	ジョブを有効化タスク .....	269
有効化 .....	269		
優先度 .....	288	<b>す</b>	
[ジョブ グループ] .....	287	[スケジューラ情報] .....	288, 358
ジョブ グループ		スケジューラ	
クエリ .....	264	ジョブ .....	287
削除 .....	270	<b>Windows</b> .....	288
修正 .....	262	ゾーン オペレーション .....	352
停止 .....	267	[スケジューラ] ダイアログ ボックス .....	288
無効化 .....	268		
有効化 .....	269	<b>せ</b>	
[ジョingroupのクエリ] .....	265	設定	
[ジョブ グループの削除] メッセージ .....	270	グループ .....	227
ジョブ グループの停止 .....	267	代理管理 .....	213
ジョブ グループの無効化 .....	268	ユーザー .....	227
ジョブ グループの有効化 .....	269	全体削除 .....	205
[ジョブグループを修正] ダイアログ ボックス .....	263	[選択] ダイアログ ボックス .....	286
[ジョブ グループを停止] メッセージ .....	268	前提条件、リモート制御 .....	363
[ジョブ グループを無効化] メッセージ .....	269		
[ジョブ グループを有効化] メッセージ .....	269		
[ジョブ シーケンスの追加] タスク .....	90		

## そ

ゾーン オペレーション、スケジュール.....	352
[ゾーン オペレーションのスケジュール] タスク .....	91, 277, 344, 354
[ゾーン オペレーションのスケジュールのサブミット]	
[スケジュール] ダイアログ ボックス .....	358
[ゾーン オペレーションのスケジュールのサブミット]	
[ゾーン ジョブ オプション] ダイアログ ボックス .....	356
[ゾーン情報] ウィンドウ	
ゾーンの簡略名 .....	40
ゾーン名 .....	39
[ゾーン ジョブ名] グループ フィールド.....	357
[ゾーンの表示名] フィールド .....	348
[ゾーン名] フィールド .....	348
<b>た</b>	
[ターゲットの修正] タスク .....	93
ダイナミック キャッシュのページ.....	338
[ダイナミック キャッシュのページ] タスク .....	91, 338
説明 .....	277
説明 .....	91
定期スケジュール.....	339
代理管理	
クエリ .....	226
設定 .....	213
[代理管理の削除] メッセージ .....	226
[代理管理のプロパティ] ダイアログ ボックス .....	224, 227
代理管理ロール	
削除 .....	226
追加 .....	215
変更 .....	224
[代理管理を修正] ダイアログ ボックス ..	216, 217, 218, 219, 220, 221, 222, 223, 225
[代理管理を追加] ダイアログ ボックス.....	215
タスク	
[Proxy Server の同期].....	336
アクティブなジョブの停止 .....	267
オペレーションに対するライフサイクル.....	281
クエリ .....	247

更新 .....	257
削除 .....	205
実行 .....	64
しゅうせい .....	204
ジョブのクエリ .....	264
ジョブの削除.....	270
ジョブを無効化.....	268
ジョブを有効化.....	269
説明 .....	84, 206
定義 .....	213, 276
デバイスのグループの削除.....	196
[タスク グループを修正] ダイアログ ボックス .....	209
タスク グループ	
最小化 .....	84
最大化 .....	84
削除 .....	213
説明 .....	84, 206
追加 .....	207
変更 .....	211
[タスク グループの削除] ダイアログ ボックス .....	213
[タスク グループの追加] ダイアログ ボックス .....	208
[タスク グループのプロパティ] ダイアログ ボックスの表示.....	210
[タスク グループを修正] ダイアログ ボックス .....	212
タスク テンプレート .....	135
削除 .....	344
追加 .....	341
[タスク テンプレートの追加] タスク .....	90, 276, 341
タスクの更新.....	257
タスクのライフサイクル.....	281
[タスクを更新]	
説明 .....	85
手順.....	48
タスクを更新.....	257

## つ

追加	
クライアント インストール プロファイル .....	318
サービス .....	200
代理管理ロール .....	215



通知コマンド .....	301
ユーザー .....	227
ユーザー グループ .....	235
[追加] タスク .....	87
通知	
オーディエンス .....	290
カスタム コマンド .....	301
デフォルト オプション .....	296
[通知]、[ヘルプ デスク通知] タスク .....	294
通知オペレーションのカスタム コマンド .....	301
通知コマンド、追加 .....	301
[通知] タスク .....	290
修正 .....	296
説明 .....	91, 277
[ヘルプ デスク] タスク グループ .....	96
[通知のサブミット]	
[通知-オプション] ダイアログ ボックス .....	292
[通知のサブミット]	
[通知-オプション] ダイアログ ボックス .....	300
通知のサブミット	
[スケジュール] ダイアログ ボックス .....	288
ツール バー	
新しいアイコン .....	66
説明 .....	96
ツール バーの [クエリ] アイコン .....	247

## て

[停止] タスク .....	89, 92
[ディレクトリ サービスを停止] タスク .....	86
ディレクトリ、移動 .....	68
ディレクトリ オブジェクト .....	70
[ディレクトリ管理] タスク グループ .....	253
[ディレクトリ管理] タスク グループ、表示例 .....	84
ディレクトリサービス、削除 .....	151
[ディレクトリ サービスの追加] タスク .....	87
[ディレクトリ サービスを開始] タスク .....	86
ディレクトリサービスを削除 .....	151
[ディレクトリのクエリ] ダイアログ ボックス .....	247
テキスト ファイル .....	252
テクニカル サポート .....	4

情報の収集 .....	386
デスクトップ	
戻る .....	73
[デスクトップからショートカットを削除] タスク ... ..	77, 89
[デスクトップにショートカットを追加する] タスク ..	96
デバイスの移動 .....	191
[デバイスの移動] タスク .....	88
[デバイスのインポート] タスク .....	88
[デバイスの追加] タスク .....	87
[デバイスを修正] ダイアログ ボックス .....	204
[デフォルトの修正] タスク .....	94

## と

[同期のサブミット]、[要約] ダイアログ ボックス ..	337
トレース レベル .....	384
設定 .....	382

## な

ナビゲーション	
履歴 .....	69
ロケーション .....	69
ナビゲーション支援 .....	78
ナビゲーション支援の説明 .....	68

## に

認証 .....	227
----------	-----

## ね

ネットワーク探索 .....	135
設定 .....	137, 158
探索開始の遅延 .....	38
探索ジョブの間隔 .....	37

## は

パスワード	
変更 .....	58
変更 .....	233
[パスワードの確認] フィールド .....	349
パスワードの修正 .....	58

[パスワードの設定] タスク .....	91
[パスワードを設定] ダイアログ ボックス .....	368
バックアップ ディレクトリ、メンテナンス .....	242
[バックアップ ディレクトリ] タスク .....	85, 240
バックアップ ディレクトリのメンテナンス .....	242
[バックアップのサブミット]	
[要約] ダイアログ ボックス .....	244
[バックアップのサブメット]	
[バックアップ オプション] ダイアログ ボックス .....	243
バナー .....	66

## ひ

日単位のジョブ .....	「[履歴] コンテナ」を参照
[人の削除] メッセージ .....	234
[人のプロパティ] ダイアログ ボックス .....	232
[人を修正] ダイアログ ボックス .....	231, 233
[人を追加] ダイアログ ボックス .....	229
[ビューアーの起動] タスク .....	92, 371
カスタマイズ .....	373
表示	
個別のジョブ .....	361
サブスクライバ情報 .....	325
ジョブ履歴 .....	271
プロパティ .....	272

## ふ

[復元] タスク .....	85, 245
[復元のサブミット]	
[確認] ダイアログ ボックス .....	246
[完了] ダイアログ ボックス .....	246
[ファイル] ダイアログ ボックス .....	245
複数のプロファイル .....	317
[フラグの修正] タスク .....	94
プロパティ、表示 .....	272
[プロパティのサービスの一覧] ウィンドウ .....	329
[プロパティの表示] タスク	
説明 .....	89, 96

## へ

[ヘルプ デスク通知] タスク .....	294
[ヘルプ デスク通知] タスク .....	90, 96, 277
[ヘルプ デスク通知のサブミット] ウィンドウ .....	294
[ヘルプ デスク通知] タスク .....	290
変更	
オブジェクト .....	204
代理管理ロール .....	224
パスワード .....	233
ユーザー .....	233

## ほ

[ポート番号] フィールド .....	349
ホームリンク .....	73
[ポリシー (詳細)] タスク グループ .....	94
[ポリシー オブジェクトの削除] タスク .....	93
[ポリシー オブジェクトの追加] タスク .....	93
[ポリシー] タスク	
カスタム LDAP プレフィックスの設定 .....	158
[ポリシー] タスク グループ .....	93
[ポリシーの修正] タスク .....	93
[ポリシーを使用] .....	150

## む

[無効] タスク、説明 .....	87
-------------------	----

## め

メタキット ファイル .....	239
メッセージのタイプ .....	385
メンバー .....	「ユーザー」を参照

## も

[モデル管理] タスク グループ	
説明 .....	86
[モデル管理] タスク グループ、表示例 .....	86

## ゆ

[有効] タスク、説明 .....	88
ユーザー	
グループへの割り当て .....	236
削除 .....	234
設定 .....	227
追加 .....	227
変更 .....	233
ユーザー インターフェイス .....	65
ユーザー グループ、追加 .....	235
[ユーザーの代理管理のクエリ]、説明 .....	88
[ユーザー パスワード] フィールド .....	349
[ユーザー] フィールド .....	349
ユーザー名、入力可能なユーザー名 .....	56

## ら

ライセンス ファイル、必須 .....	30
---------------------	----

## り

[リジューム] タスク .....	91, 340
リモート インストール .....	317
リモート インストール、要件 .....	304
リモート管理機能 .....	367
リモート サービスの一時停止 .....	340
リモート制御 .....	363
[disconnect] タスク .....	372
サーバー動作の設定 .....	374

サービスのデバイスへの配布 .....	367
サービスのユーザーへの接続 .....	364
システム要件 .....	363
前提条件 .....	363
手順 .....	367
パラメータの設定 .....	374
[ビューアーの起動] タスク .....	371
リモート制御サービス、ユーザーへの接続 .....	364
リモート ゾーン オペレーション .....	359
[履歴] コンテナ、表示 .....	271

## れ

レジストリ ファイル エディタ .....	376
-----------------------	-----

## ろ

ロール、定義 .....	213
ログ	
httpd-3466.error.txt .....	382
httpd-port.log .....	382, 388
httpd-port.YY.MM.DD.log .....	382
メッセージのタイプ .....	385
ログオフ .....	49, 57
ログオン .....	56

## わ

ワークスペース、説明 .....	99
割り当て、グループへのユーザー .....	236

